平成 28 年度

「市民による個別事業評価」
結果報告書

平成 29 年５月

秋 田 県 大 仙 市

目　次

1 調査概要 ･･ 1
1.1 調査の目的について ･･ 2
1.2 調査の対象、手法、期間について ･･････････････････････････････････････ 2
1.3 調査の内容について ･･ 2
1.4 回収結果について ･･ 3
1.5 集計・分析上の注意事項について ･･････････････････････････････････････ 3
1.6 回答者の属性について ･･ 3
2 調査結果【基本分析－全体・性別・年代別】 ･･････････････････････････････ 7
2.1 「雇用や就労のための支援事業」について ･････････････････････････････ 8
2.2 「農業の担い手支援事業」について ･･････････････････････････････････ 23
2.3 「大仙市花火産業構想」について ････････････････････････････････････ 32
2.4 「むすび・サポート事業」について ･･････････････････････････････････ 42
2.5 「地域子育て支援拠点施設」について ････････････････････････････････ 53
2.6 「高齢者生活支援サービス事業」について ････････････････････････････ 70
2.7 「地域交通対策事業」について ･･････････････････････････････････････ 82
2.8 「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」について ･･････････････････ 90
2.9 「住宅リフォーム支援事業」について ････････････････････････････････ 99
2.10「コミュニティＦＭ関連事業」について ･･････････････････････････ 113
2.11「学校生活支援事業」について ･･････････････････････････････････ 134
2.12「移住・定住への支援事業」について ･･････････････････････････････ 143
3 自由意見（分野別） ･･ 163
4 分析結果・今後の取組（テーマ別） ･･････････････････････････････････ 169
5 資料【平成 28 年度「市民による個別事業評価」調査票】 ･･････････････ 201

１．調査概要

1.1 調査の目的について

市が実施している事業等に関する市民の「評価、要望」を調査・分析し、その結果を施策に反映させていくことで、効果的かつ効率的な市政運営に結びつけるとともに、調査報告を通して多くの市民に市の施策を周知し、市政運営に対する理解と市民との協働のまちづくりに向けた意識醸成を図ることを目的とする。

1.2 調査の対象、手法、期間について

(1) 対象

18 歳以上の市民の中から無作為に抽出した 1,000 人（性別、年齢、地域については考慮）

(2) 手法

郵送アンケート（無記名回答）方式

(3) 期間

平成 28 年 12 月 15 日（木）～平成 29 年 1 月 6 日（金）

1.3 調査の内容について

本調査では、市が実施している事業をテーマとして設定した設問項目について、「認知度」、「評価」、「要望」等を調査した。

◆対象事業一覧

①「雇用や就労のための支援事業」	②「農業の担い手支援事業」
③「大仙市花火産業構想」	④「むすび・サポート事業」
⑤「地域子育て支援拠点施設」	⑥「高齢者生活支援サービス事業」
⑦「地域交通対策事業」	⑧「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」
⑨「住宅リフォーム支援事業」	⑩「コミュニティＦＭ関連事業」
⑪「学校生活支援事業」	⑫「移住・定住への支援事業」

1.4 回収結果について

回収数‥‥‥‥ 609 人

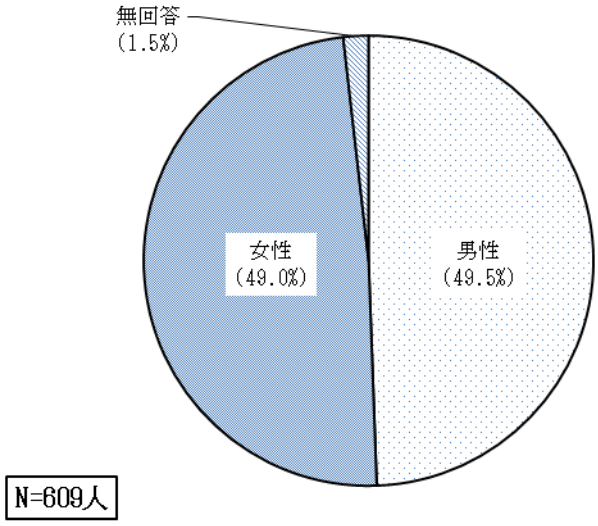
回収率‥‥‥‥ 60.9％

1.5 集計・分析上の注意事項について

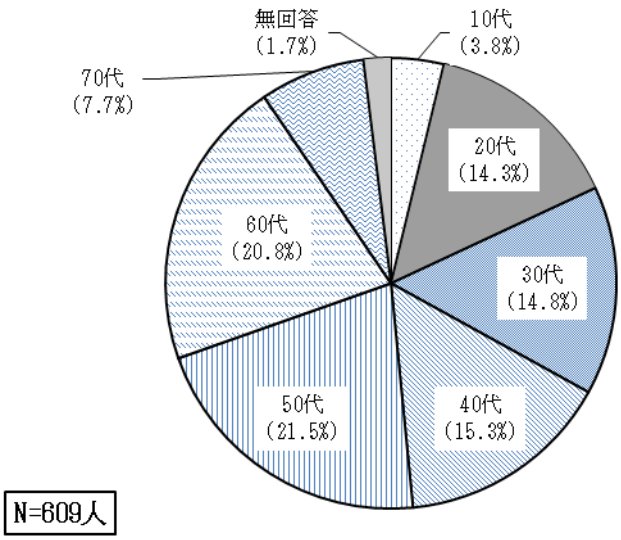
報告書内の図表において、各設問の有効回答数は、無回答を含め「N」で表記している。ただし、複数回答型の設問については、無回答を「N」に含めない。また、図表中の構成比（％）は、小数点第２位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100.0％になっていない場合がある。

1.6 回答者の属性について

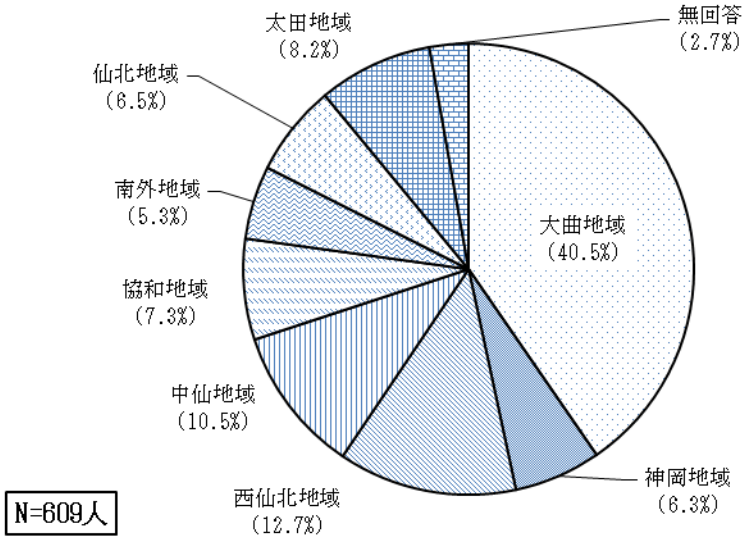
■回答者の性別の内訳



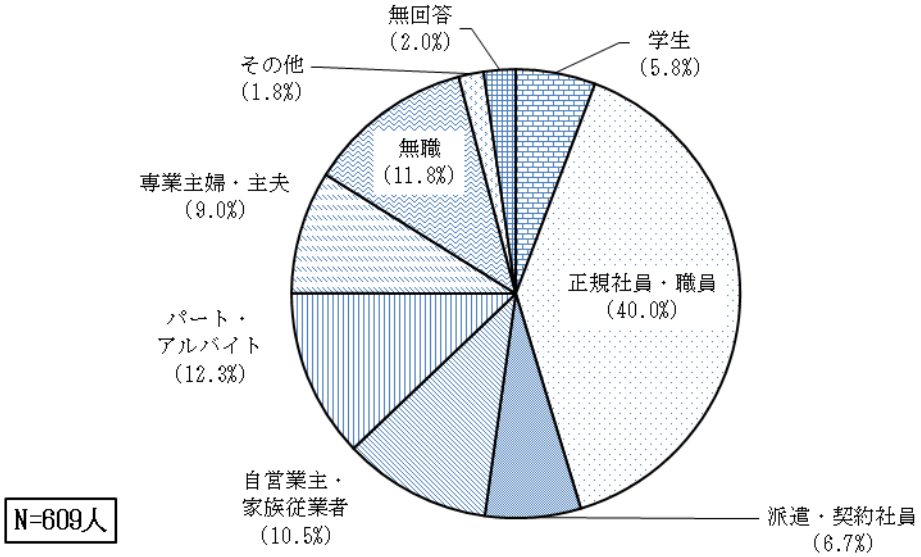
■回答者の年齢の内訳



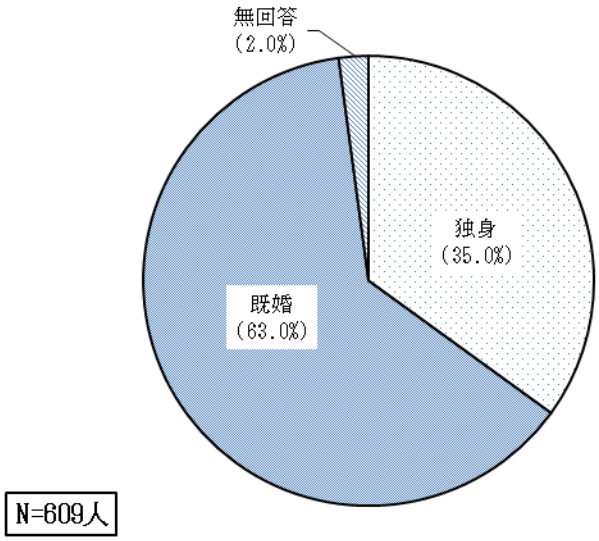
■回答者の居住地域の内訳



■回答者の職業の内訳



■回答者の独身・結婚の内訳



２．調査結果【基本分析－全体・性別・年代別】

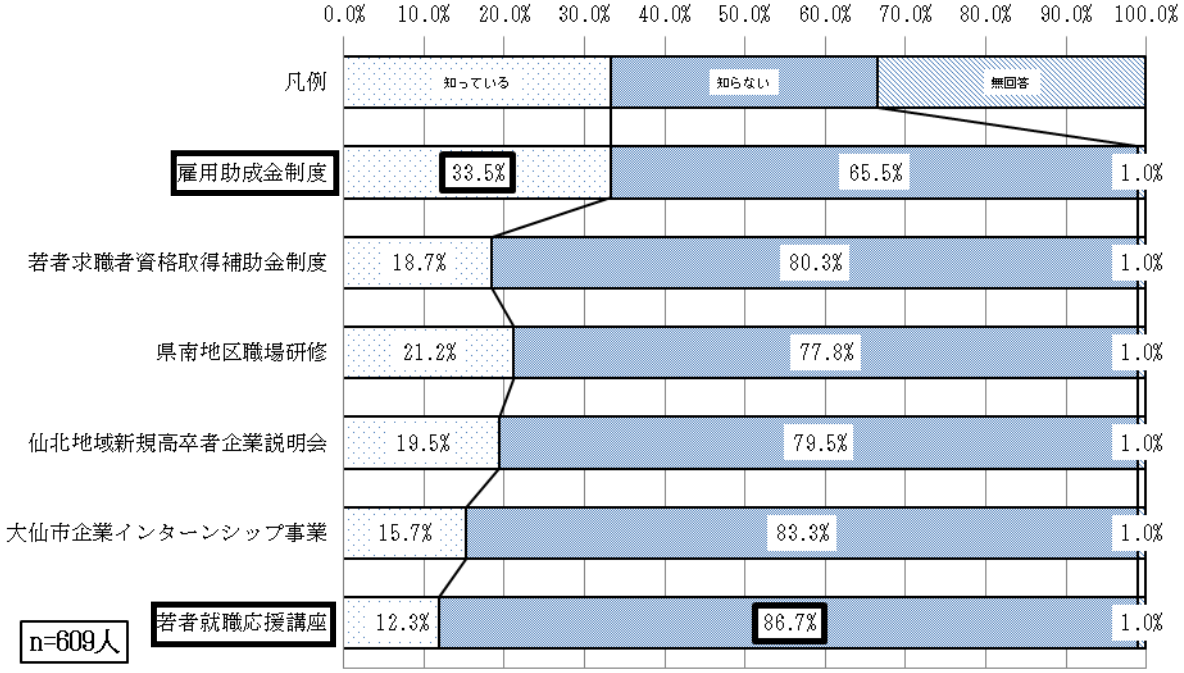
2.1 「雇用や就労のための支援事業」について

【問１】市が実施している雇用・就労施策について、知っているものの番号に○印をつけてください。

【全体】

○認知度が高い雇用・就労施策については、「雇用助成金制度」を「知っている」の割合が33.5%と最も高く、次いで「県南地区職場研修」が21.2%となっている。

○一方、認知度が低い雇用・就労施策については、「若者就職応援講座」を「知っている」の割合が12.3%と最も低く、次いで「大仙市企業インターンシップ事業」が15.7%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「雇用助成金制度」を「知っている」の回答割合が、男性37.5%、女性29.6%と最も高くなっている。

○男女どちらにおいても「若者就職応援講座」を「知らない」の回答割合が男性87.0%、女性87.2%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

《性別》		有効回答数（N）	知っている	知らない	無回答
雇用助成金制度	全体	609	33.3%	65.7%	1.0%
	男性	301	37.5%	61.8%	0.7%
	女性	297	29.6%	69.4%	1.0%
若者求職者資格取得補助金制度	全体	609	18.6%	80.5%	1.0%
	男性	301	20.3%	79.1%	0.7%
	女性	297	17.2%	81.8%	1.0%
県南地区職場研修	全体	609	21.2%	77.8%	1.0%
	男性	301	24.9%	74.4%	0.7%
	女性	297	18.2%	80.8%	1.0%
仙北地域新規高卒者企業説明会	全体	609	19.5%	79.5%	1.0%
	男性	301	21.6%	77.7%	0.7%
	女性	297	17.8%	81.1%	1.0%
大仙市企業インターンシップ事業	全体	609	15.3%	83.7%	1.0%
	男性	301	15.0%	84.4%	0.7%
	女性	297	16.2%	82.8%	1.0%
若者就職応援講座	全体	609	12.0%	87.0%	1.0%
	男性	301	12.3%	87.0%	0.7%
	女性	297	11.8%	87.2%	1.0%

着色部：各性別それぞれで「知っている」割合が最も高い施策
下線部：各性別それぞれで「知らない」割合が最も高い施策

【年代別】

○10 代、20 代を除く全年代において、「雇用助成金制度」を「知っている」の回答割合が高くなっている。

○10 代において、「県南地区職場研修」を「知っている」の回答割合が 34.8％と最も高くなっている。

○20 代において、「大仙市企業インターンシップ事業」を「知っている」の回答割合が 25.3％と最も高くなっている。

《年代別》		有効回答数（N）	知っている	知らない	無回答
雇用助成金制度	全体	609	33.3%	65.7%	1.0%
	10代	23	17.4%	82.6%	0.0%
	20代	87	18.4%	81.6%	0.0%
	30代	91	34.1%	65.9%	0.0%
	40代	94	30.9%	68.1%	1.1%
	50代	129	39.5%	60.5%	0.0%
	60代	127	40.9%	57.5%	1.6%
	70代	46	39.1%	56.5%	4.3%
若者求職者資格取得補助金制度	全体	609	18.6%	80.5%	1.0%
	10代	23	8.7%	91.3%	0.0%
	20代	87	5.7%	94.3%	0.0%
	30代	91	16.5%	83.5%	0.0%
	40代	94	10.6%	88.3%	1.1%
	50代	129	27.1%	72.9%	0.0%
	60代	127	24.4%	74.0%	1.6%
	70代	46	30.4%	65.2%	4.3%
県南地区職場研修	全体	609	21.2%	77.8%	1.0%
	10代	23	34.8%	65.2%	0.0%
	20代	87	23.0%	77.0%	0.0%
	30代	91	19.8%	80.2%	0.0%
	40代	94	21.3%	77.7%	1.1%
	50代	129	27.9%	72.1%	0.0%
	60代	127	16.5%	81.9%	1.6%
	70代	46	13.0%	82.6%	4.3%
仙北地域新規高卒者企業説明会	全体	609	19.5%	79.5%	1.0%
	10代	23	21.7%	78.3%	0.0%
	20代	87	18.4%	81.6%	0.0%
	30代	91	14.3%	85.7%	0.0%
	40代	94	17.0%	81.9%	1.1%
	50代	129	25.6%	74.4%	0.0%
	60代	127	21.3%	77.2%	1.6%
	70代	46	15.2%	80.4%	4.3%
大仙市企業インターンシップ事業	全体	609	15.3%	83.7%	1.0%
	10代	23	21.7%	78.3%	0.0%
	20代	87	25.3%	74.7%	0.0%
	30代	91	12.1%	87.9%	0.0%
	40代	94	10.6%	88.3%	1.1%
	50代	129	24.0%	76.0%	0.0%
	60代	127	8.7%	89.8%	1.6%
	70代	46	6.5%	89.1%	4.3%
若者就職応援講座	全体	609	12.0%	87.0%	1.0%
	10代	23	13.0%	87.0%	0.0%
	20代	87	17.2%	82.8%	0.0%
	30代	91	6.6%	93.4%	0.0%
	40代	94	6.4%	92.6%	1.1%
	50代	129	14.7%	85.3%	0.0%
	60代	127	11.0%	87.4%	1.6%
	70代	46	19.6%	76.1%	4.3%

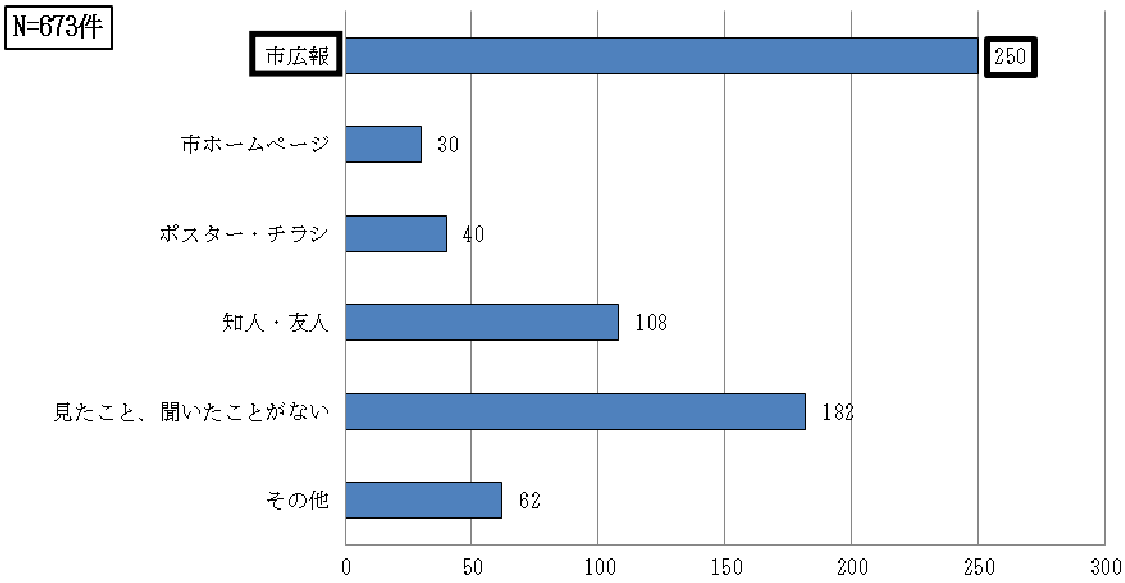
着色部：各年代それぞれで「知っている」割合が最も高い
下線部：各年代それぞれで「知らない」割合が最も高い

問２　市が実施する雇用・就労施策に関する情報をどこで知りましたか。該当する番号すべてに〇印をつけてください。

【全体】

〇市が実施する雇用・就労施策に関する情報を知る手段については、「市広報」が 250 件と最も多くなっている。

〇一方、「見たこと、聞いたことがない」が 182 件と、全体で２番目に多くなっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・学校。（男性／10 代／西仙北／正規社員・職員／独身）

・会社。（男性／20 代／太田／正規社員・職員／独身）

・テレビ。（男性／40 代／西仙北／その他／独身）

・SNS。（男性／50 代／大曲／正規社員／職員／既婚）

・直接問い合わせ。（女性／50 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・雇用開発協会。（男性／60 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

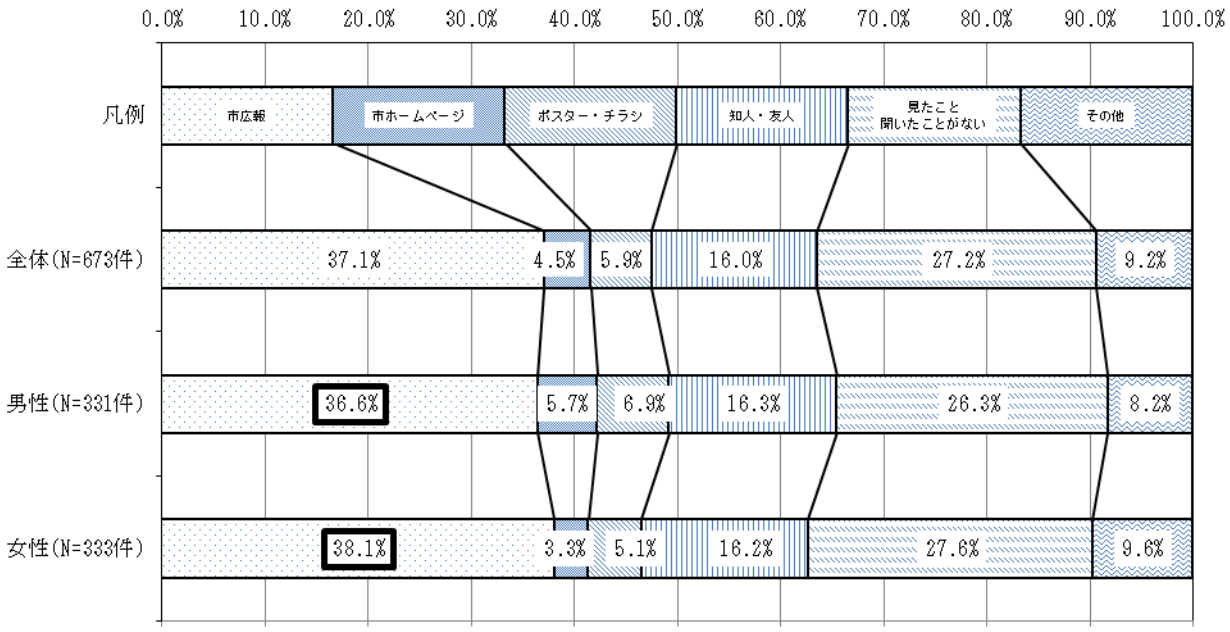
・職業安定所。（女性／60 代／中仙／自営業主・家族従業者／既婚）

・家族。（女性／60 代／太田／無職／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「市広報」の回答割合が、男性 36.6%、女性 38.1%と最も高くなっている。

○全体的に、男女に大きな差は見られない。

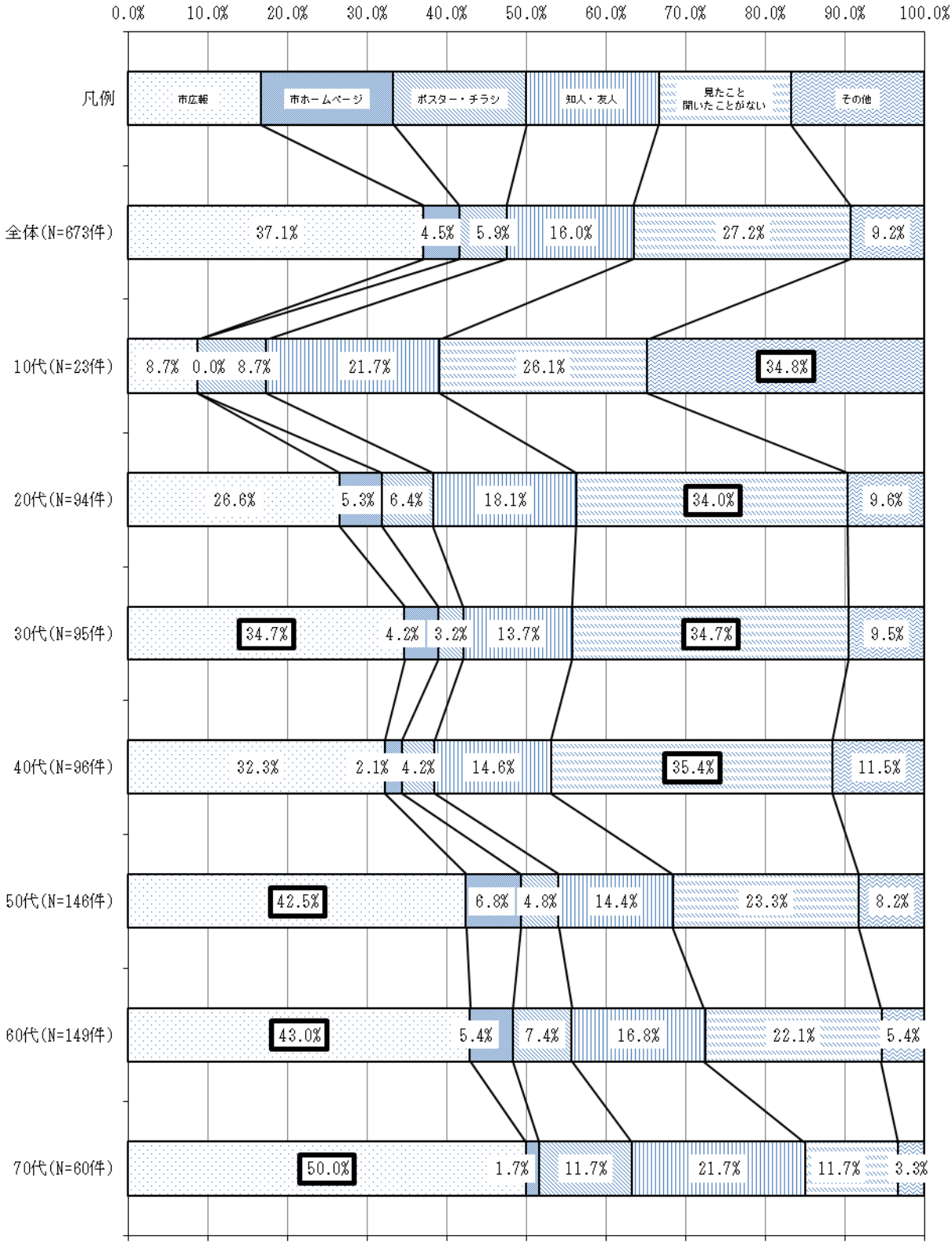


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○20 代から 40 代において、「見たこと、聞いたことがない」の回答割合が最も高くなっている。

○50 代から 70 代においては、「市広報」の回答割合が最も高くなっている。

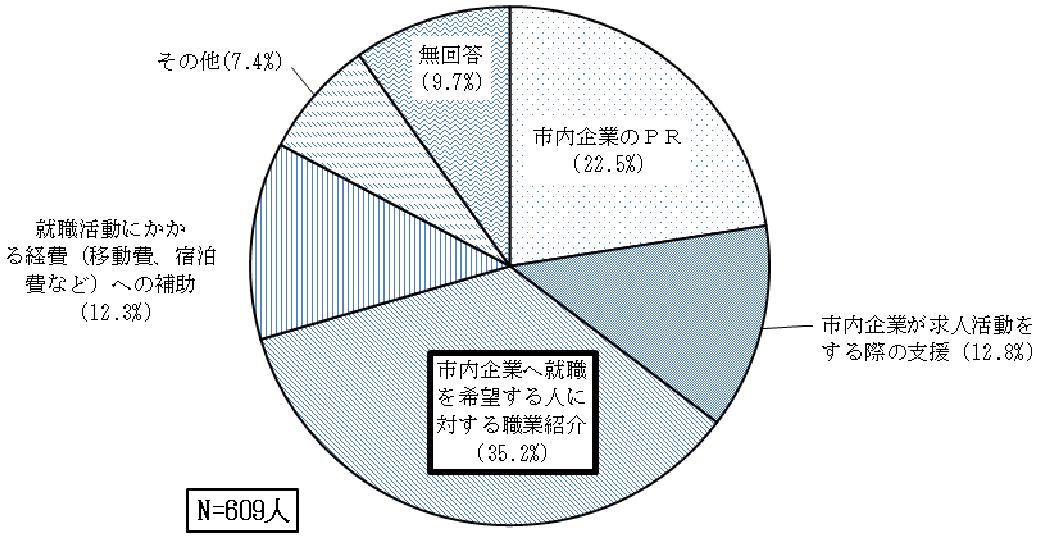


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問３　現在、地元の高校を卒業する人の約 30%が就職、約 70%が進学等となっています。また、就職者のうち約 30%が県外へ就職しています。市では、進学等により県外へ転出した人の市内企業への就職を促進したいと考えていますが、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

○進学等により県外へ転出した人の市内就職を促進するための取り組みに対する要望については、「市内企業へ就職を希望する人に対する職業紹介」が 35.2％と最も高く、次いで「市内企業のＰＲ」が 22.5％となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・若者に魅力ある企業の誘致。（男性／20 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・雇用の拡大。（男性／20 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・市内企業へ就職した人への就職準備金の補助。（男性／30 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・若者の意識改善。（男性／30 代／仙北／自営業主・家族従業者／既婚）

・地元へ定着してもらえるように、町の活性化を重視する。（男性／40 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・若者が居たいと思う市にする。（女性／50 代／大曲／専業主婦・主夫／既婚）

・進路指導の先生の協力。（男性／60 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

・安心して働ける企業の誘致。（男性／60 代／太田／自営業主・家族従業者／既婚）

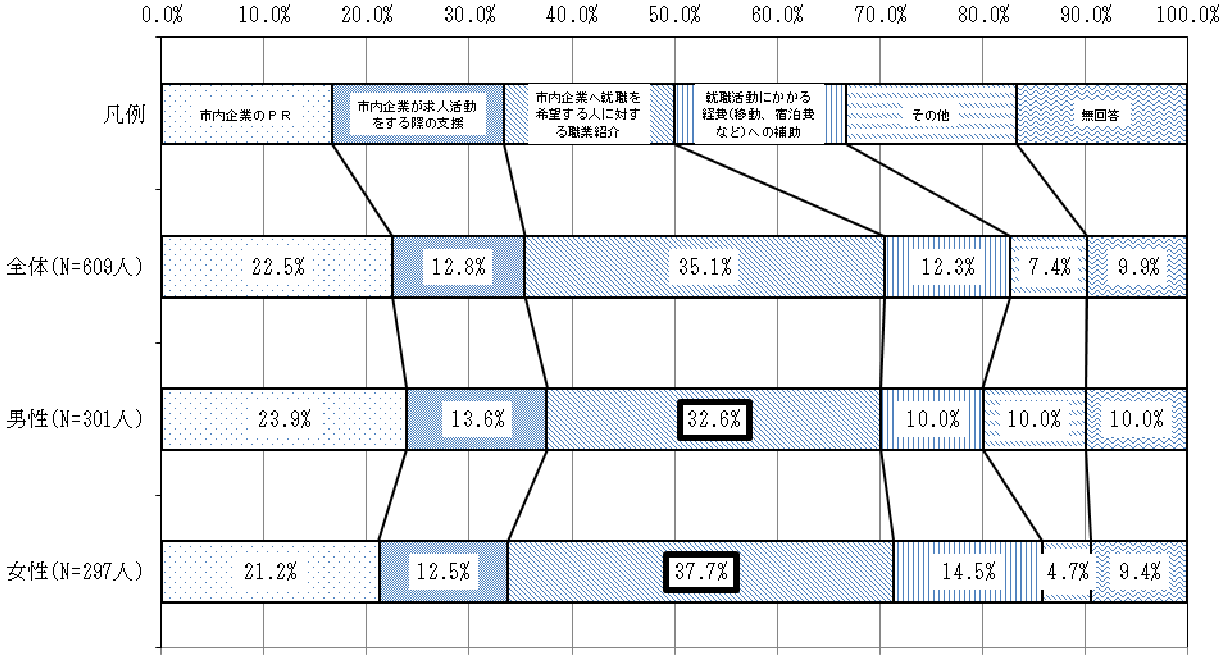
・労働条件の改善。（男性／70 代／協和／無職／既婚）

・賃金の上昇。（男性／70 代／協和／無職／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「市内企業へ就職を希望する人に対する職業紹介」の回答割合が、男性 32.6%、女性 37.7%と最も高くなっている。

○全体的に、男女に大きな差は見られない。

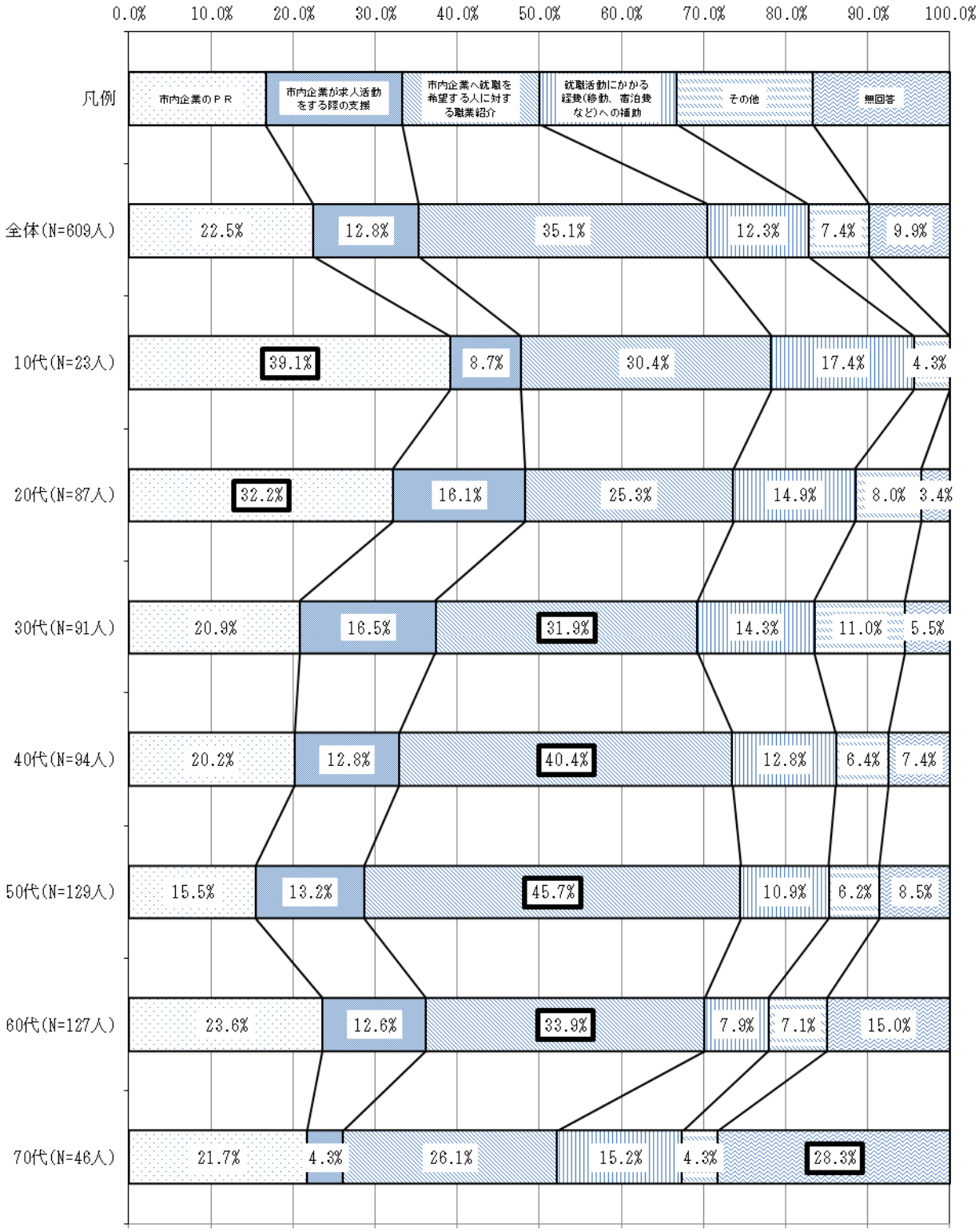


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○10 代、20 代において、「市内企業のＰＲ」の回答割合が、10 代 39.1％、20 代 32.2％と最も高くなっている。

○30 代から 60 代においては、「市内企業へ就職を希望する人に対する職業紹介」の回答割合が、30 代 31.9％、40 代 40.4％、50 代 45.7％、60 代 33.9％と最も高くなっている。

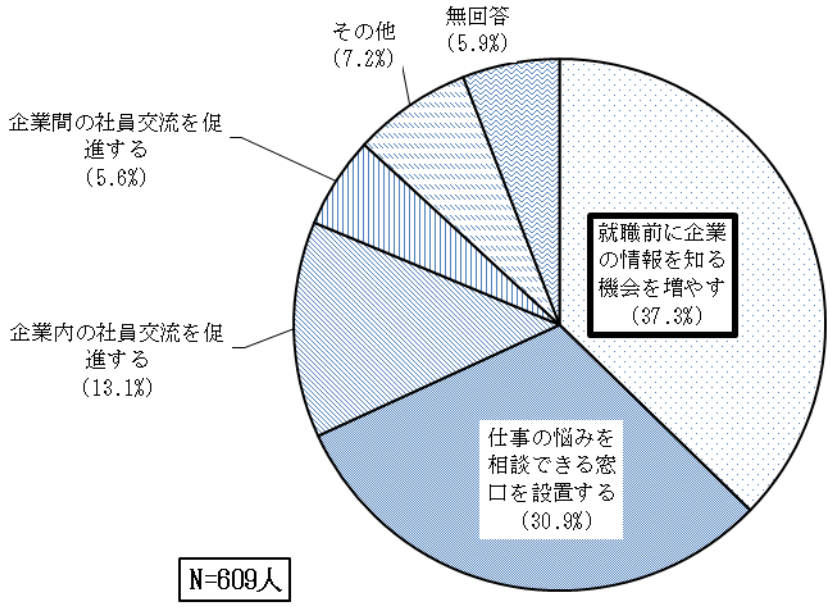


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問４　現在、秋田県の新規学卒者の就職後３年以内の離職率は、高校、短大等で約40%、大学で約35%となっています。早期離職を予防するために、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

○若者の早期離職を予防するための取り組みに対する要望については、「就職前に企業の情報を知る機会を増やす」が37.3%と最も高く、次いで「仕事の悩みを相談できる窓口を設置する」が30.9%となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・積極的に休暇を取らせる。（男性／20代／大曲／学生／独身）

・上司の資質の向上。（男性／20代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・正社員の雇用増加。（女性／20代／仙北／派遣・契約社員／独身）

・福利厚生の充実。（男性／30代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

・明確な評価のフィードバック。（女性／30代／大曲／派遣・契約社員／既婚）

・企業側の勉強、改革。（男性／50代／協和／正規社員・職員／既婚）

・本人次第。（男性／50代／協和／正規社員・職員／既婚）

・仕事内容を正確に把握できるようにする。（男性／60代／大曲／派遣・契約社員／既婚）

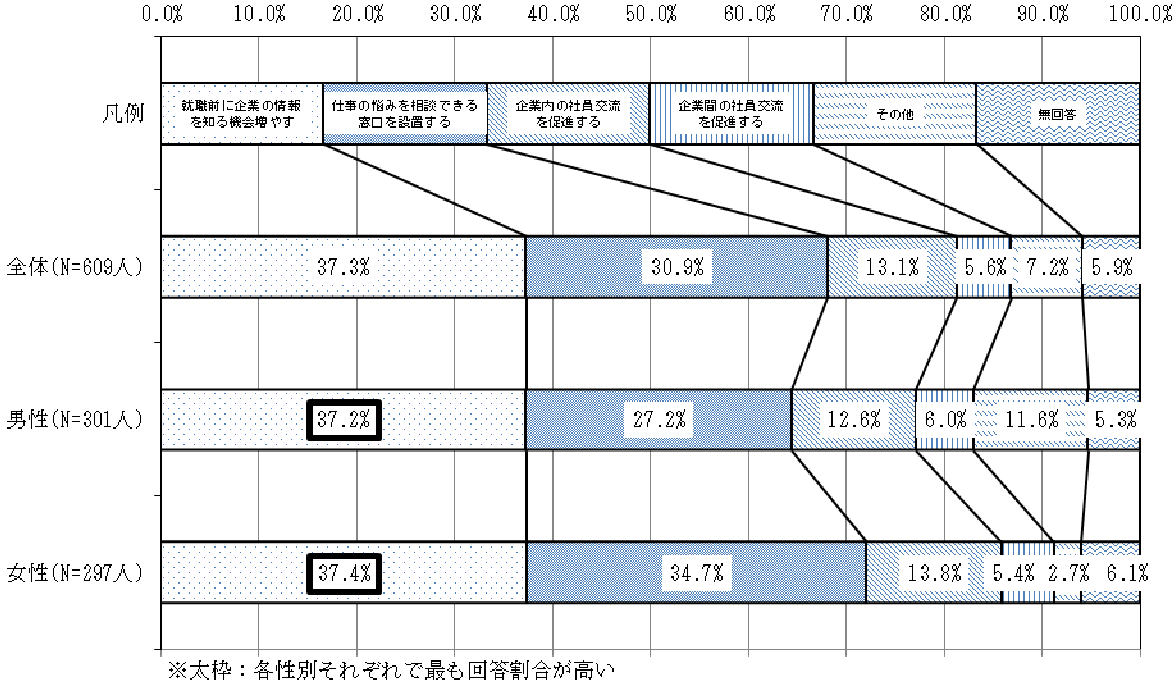
・賃金の上昇。（男性／60代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

・能力、意識、人生設計等といった職場教育の充実。（男性／60代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「就職前に企業の情報を知る機会を増やす」の回答割合が、男性 37.2%、女性 37.4%と最も高くなっている。

○女性が男性より「仕事の悩みを相談できる窓口を設置する」の回答割合が高く、女性が 34.7%で男性よりも 7.5%高くなっている。

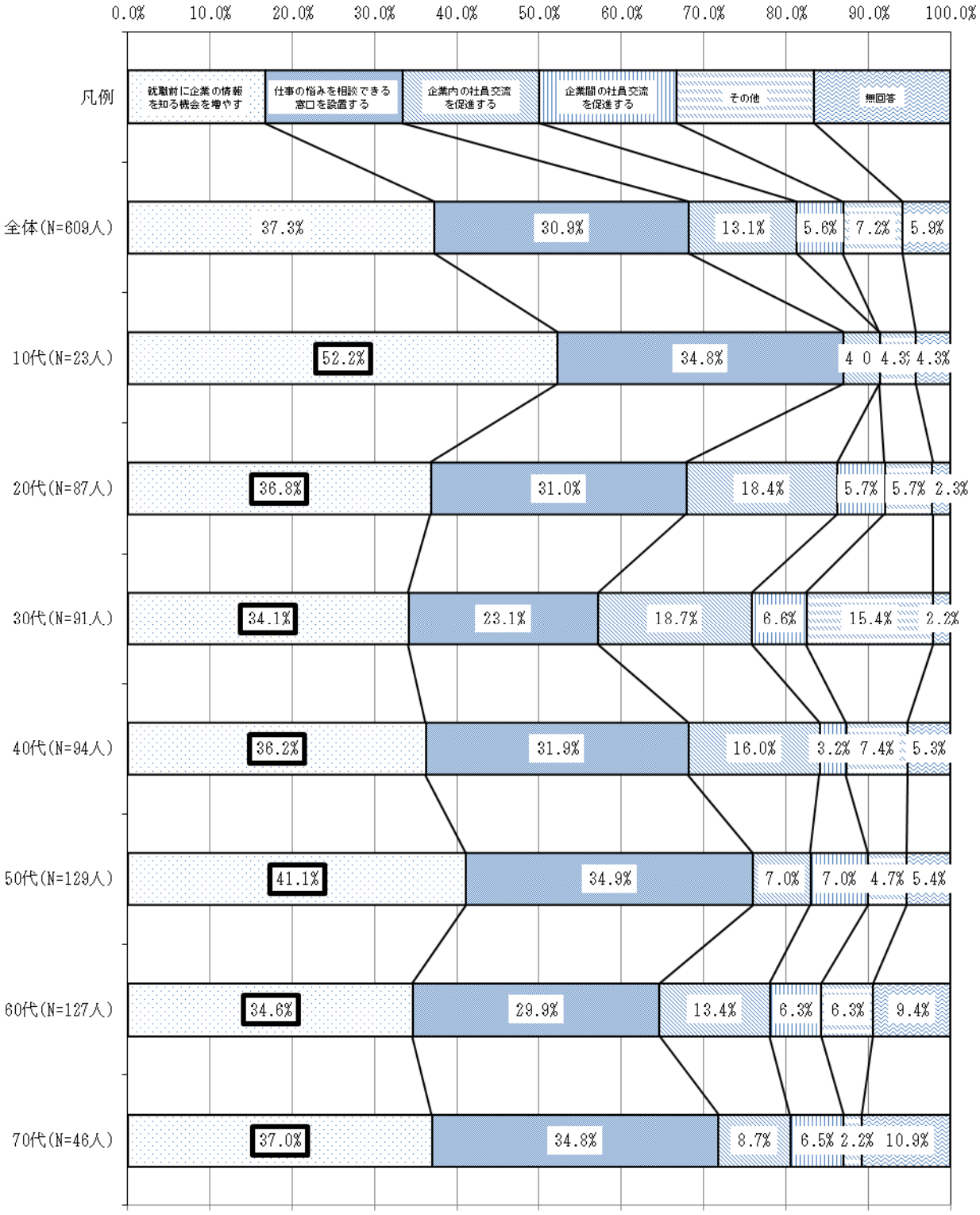


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「就職前に企業の情報を知る機会を増やす」の回答割合が最も高くなっている。

○また、全年代において、「仕事の悩みを相談できる窓口を設置する」の回答割合が上位２位となっている。

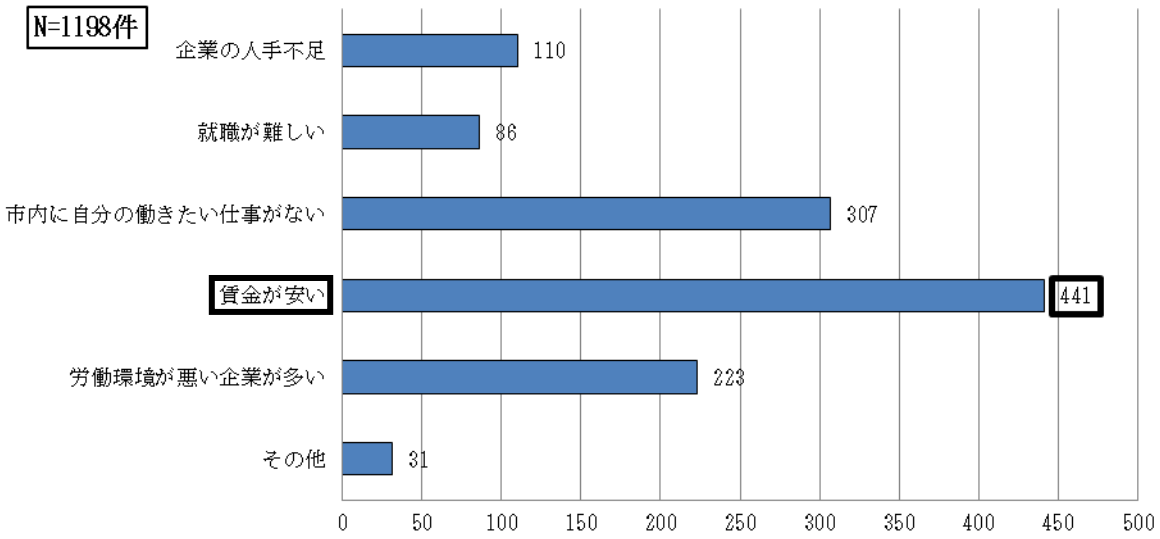


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問５　現在、市内の有効求人倍率は１倍を超えており、一部の業種によっては２倍以上（求職者１人に対して仕事が２つある状態）となっています。あなたは、現在市内の雇用・就労に関してどのような問題があると思いますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○市内の雇用・就労に関する問題については、「賃金が安い」が 441 件で最も回答数が多く、次いで「市内に自分の働きたい仕事がない」が 307 件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・県内での生活に魅力を感じている人が少ない。（女性／20 代／西仙北／正規社員・職員／独身）

・企業内の教育が不十分。（女性／40 代／大曲／正規社員・職員／独身）

・企業側と就労側の考えの食い違い。（女性／40 代／南外／パート・アルバイト／独身）

・職種の偏り。（女性／50 代／大曲／その他／既婚）

・雇用する側の意識の低さ。（女性／50 代／西仙北／派遣・契約社員／既婚）

・就労者のやる気や根気が足りない。（男性／60 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

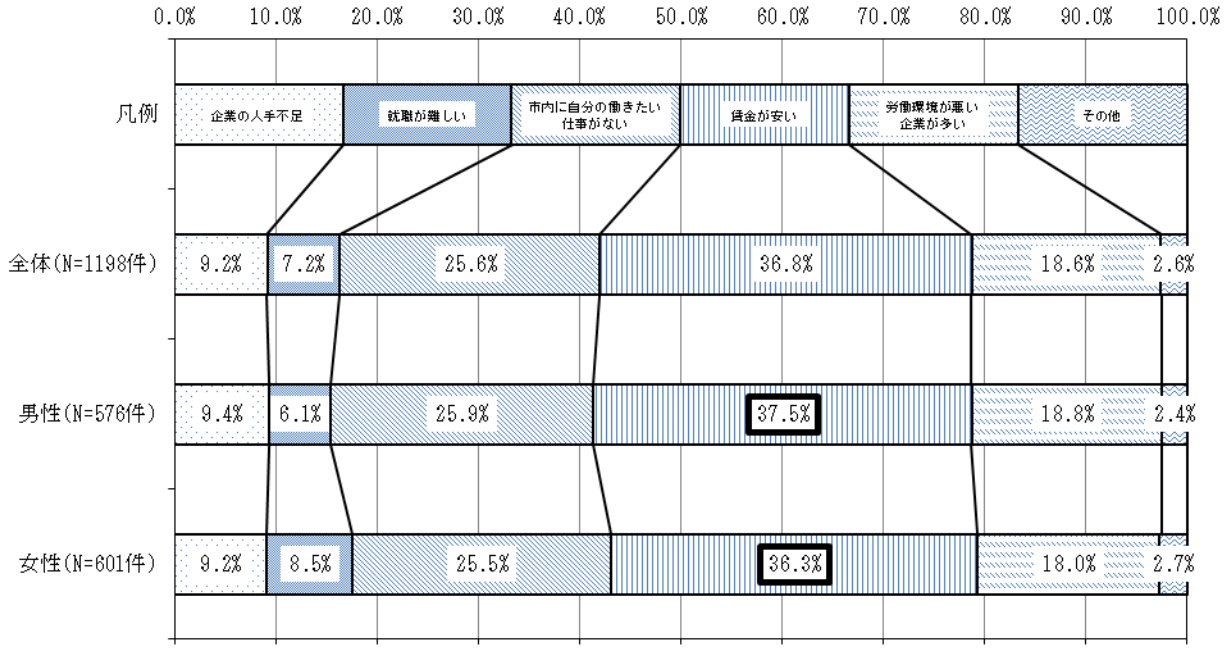
・高齢化。（男性／60 代／太田／自営業主・家族従業者／既婚）

・人間関係が悪い。（女性／60 代／中仙／パート・アルバイト／独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「賃金が安い」の回答割合が、男性 37.5%、女性 36.3%と最も高くなっている。

○男女で大きな差は見られない。

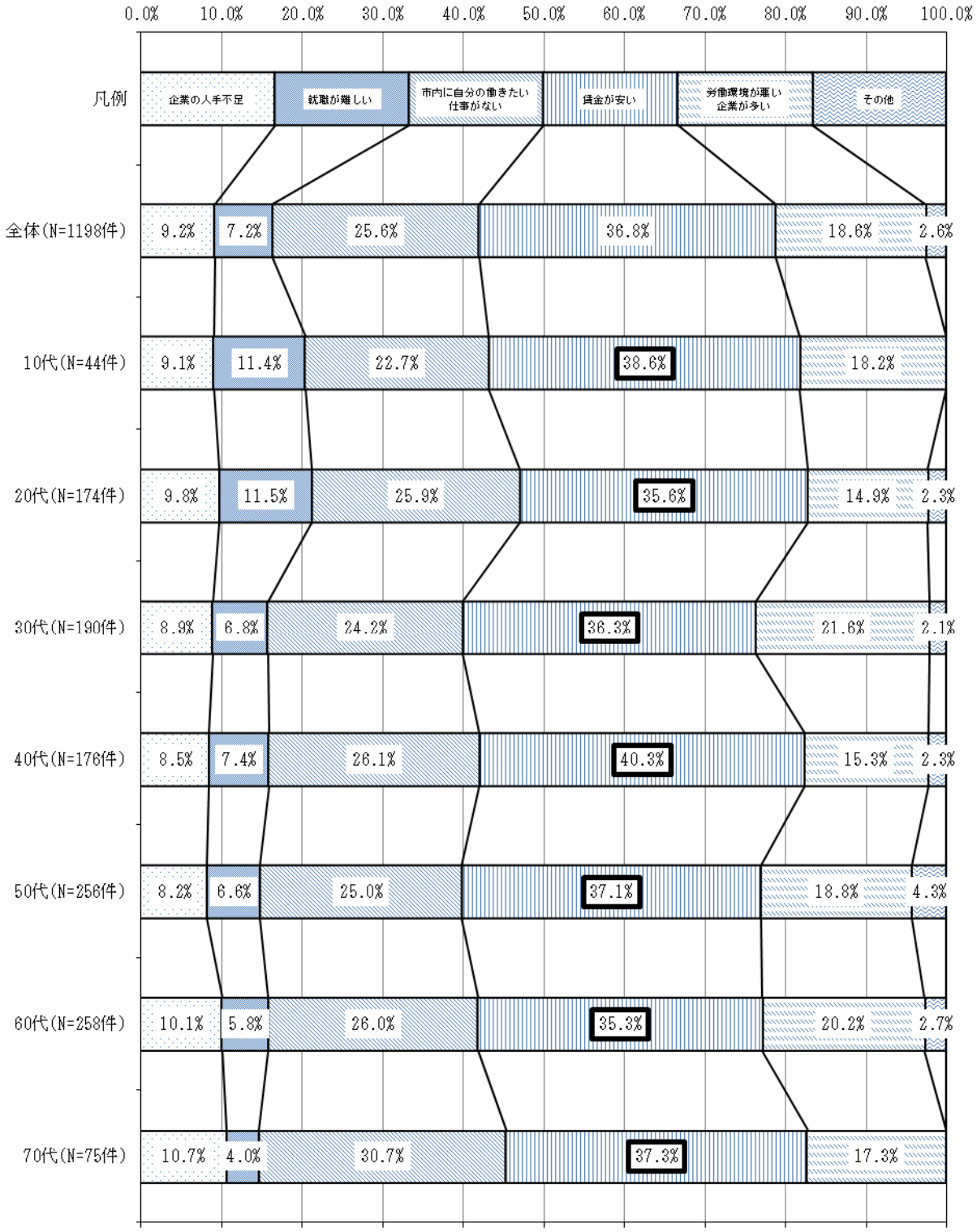


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「賃金が安い」の回答割合が最も高くなっている。

○10 代、20 代において、「就職が厳しい」の回答割合が、10 代 11.4%、20 代 11.5%と他の年代に比べて高くなっている。



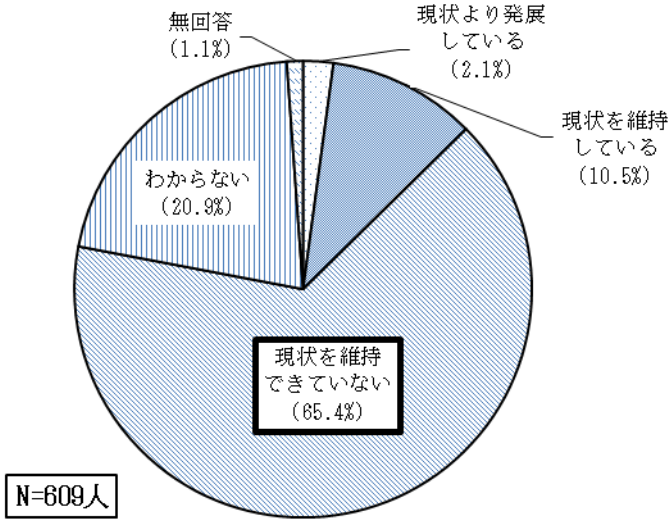
※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.2 「農業の担い手支援事業」について

問１　あなたの地域の農業は、10 年後どのようになっていると思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

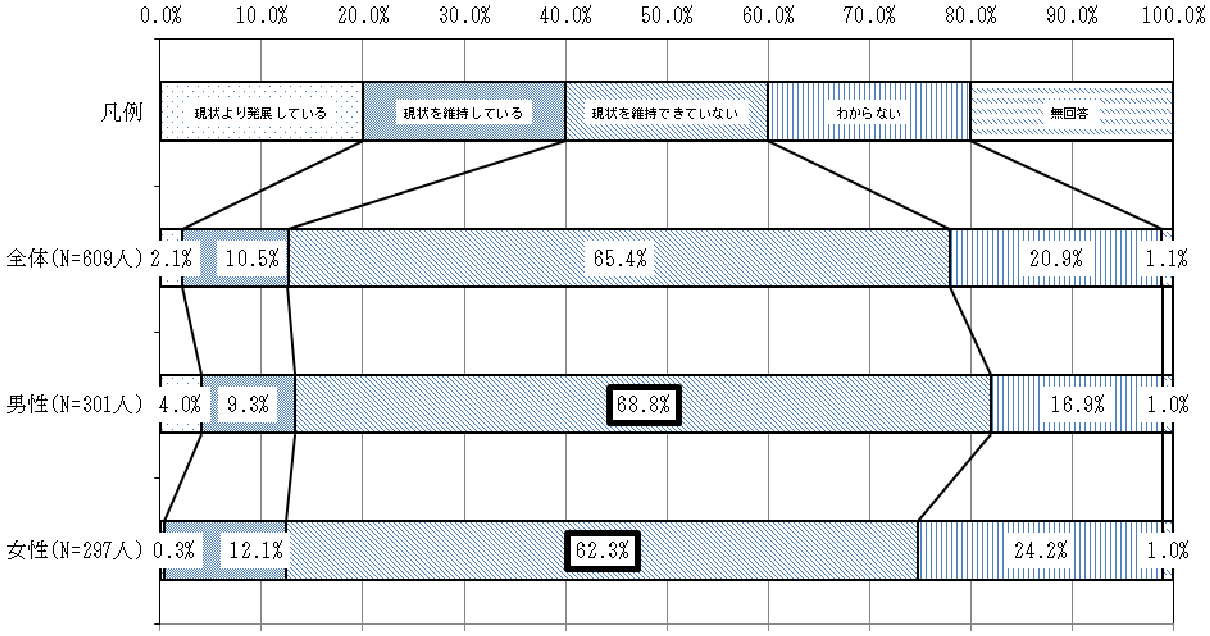
○回答者の地域の農業の 10 年後については、「現状を維持できていない」が 65.4％で最も高く、次いで「わからない」が 20.9％となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「現状を維持できていない」の回答割合が、男性68.8%、女性62.3%と最も回答割合が高くなっている。

○男女で大きな差は見られない。

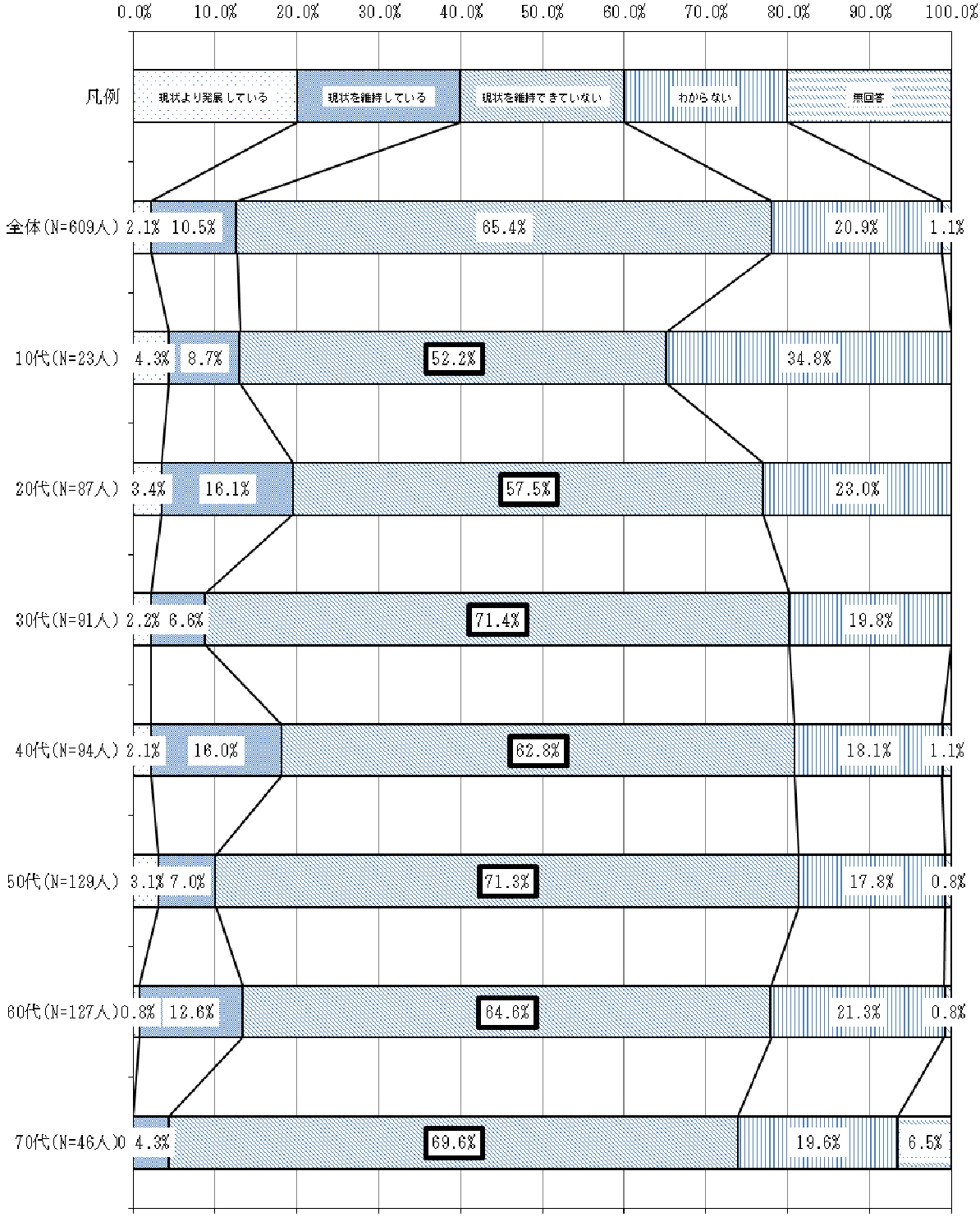


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「現状を維持できていない」の回答割合が最も高くなっている。

○10 代、20 代の「現状を維持できていない」の回答割合が、10 代 52.2%、20 代 57.5%と他の年代と比べて低くなっている。

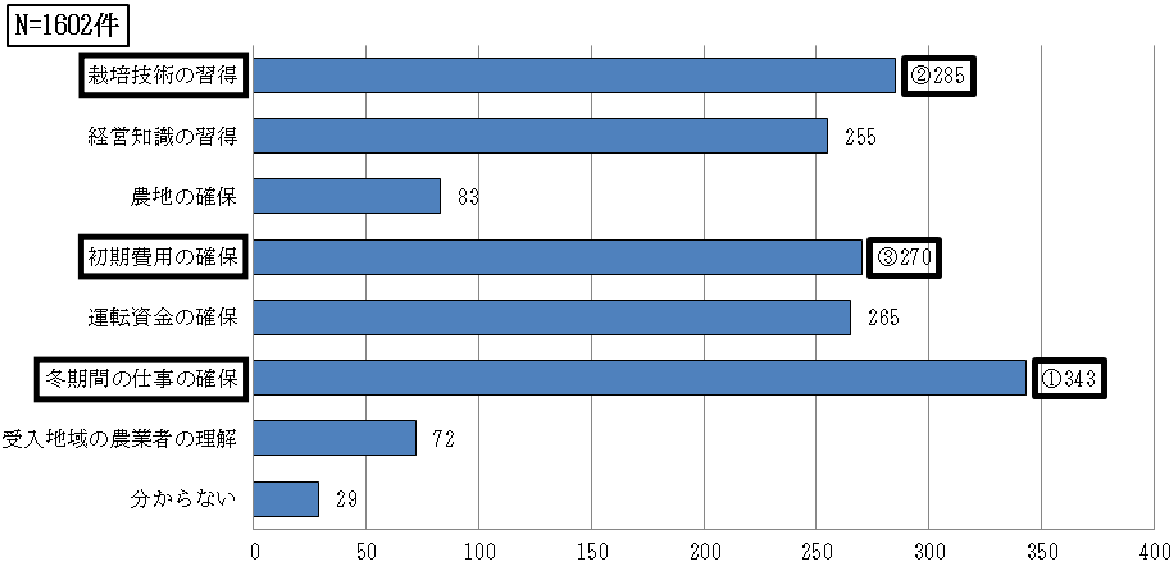


※太枠：各年代それぞれで回答割合が最も高い

問２　もしあなたがこれから農業を始めるとした場合、特に課題と思われることは何だと思いますか。該当する番号に最大３つまで○印をつけてください。

【全体】

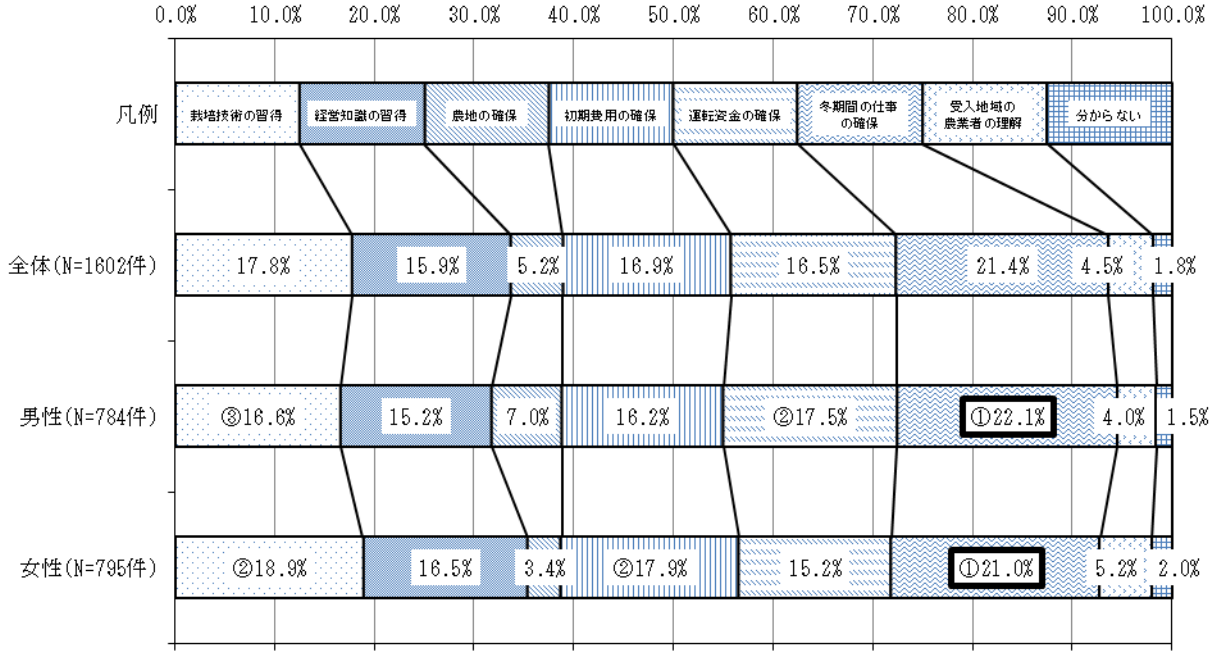
○今後農業を始める場合の課題については、「冬期間の仕事の確保」が 343 件と最も多く、次いで「栽培技術の習得」が 285 件、「初期費用の確保」が 270 件となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「冬期間の仕事の確保」の回答割合が、男性22.1%、女性21.0%と最も高くなっている。

○男女で大きな差は見られない。

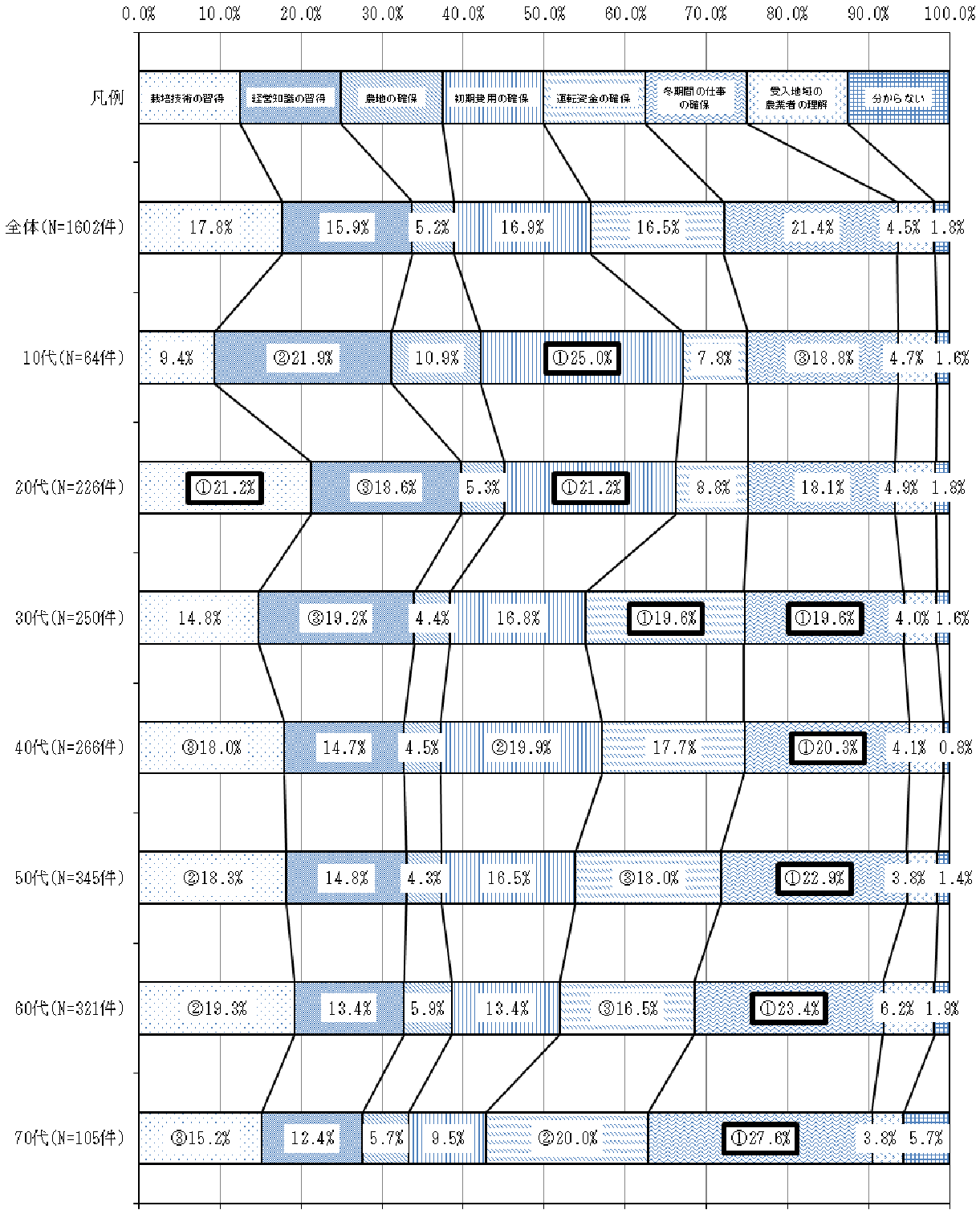


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○10 代、20 代では「初期費用の確保」の回答割合が最も高くなっており、30 代から 70 代までは「冬期間の仕事の確保」の回答割合が最も高くなっている。

○年代が高くなるにつれて、「冬期間の仕事の確保」の回答割合が高くなっている。

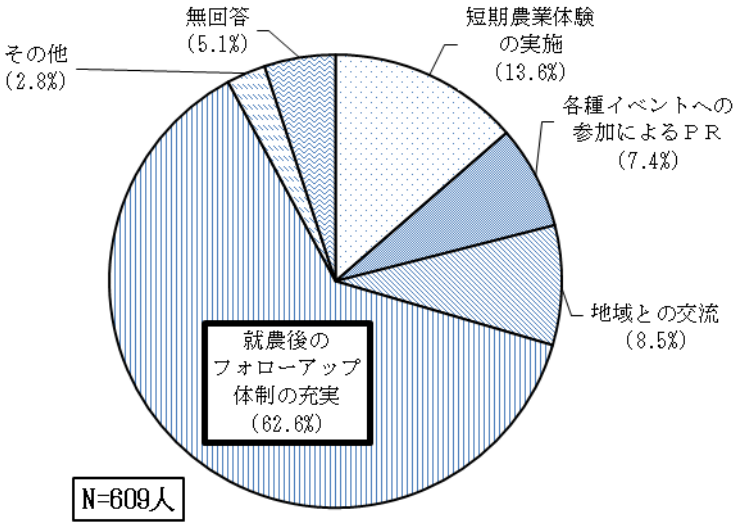


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問３　今後さらに新規就農者を確保するために、新規就農者研修施設で取り組むべきことは何だと思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

○新規就農研修施設で今後さらに新規就農者を確保するための取り組みについては、「就農後のフォローアップ体制の充実」が 62.6％と最も高く、次いで「短期農業体験の実施」が 13.6％となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・地元で栽培可能な農産物の紹介や、栽培指導。（男性／20 代／神岡／正規社員・職員／独身）

・現在農業をしている人の地域すべてに、新規就農者研修施設の建設や、農地の確保、差別の解消、大仙市内のすべての農地を市有にして、１つの大きな会社のようにする等の取り組み。
（男性／20 代／南外／自営業主・家族従業者／独身）

・軌道に乗るまでの資金援助。（男性／20 代／仙北／正規社員・職員／独身）

・より技術的な指導。（男性／30 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・賃金の安定。（男性／30 代／大曲／自営業主／家族従業者／既婚）

・国内外における成功事例を学ぶ。（男性／30 代／神岡／自営業主・家族従業者／既婚）

・加工・販売・デザインといったアイディアの深化。（男性／30 代／仙北／自営業主・家族従業者／既婚）

・農業に従事する誇りを伝えていくこと。（男性／40 代／神岡／正規社員・職員／既婚）

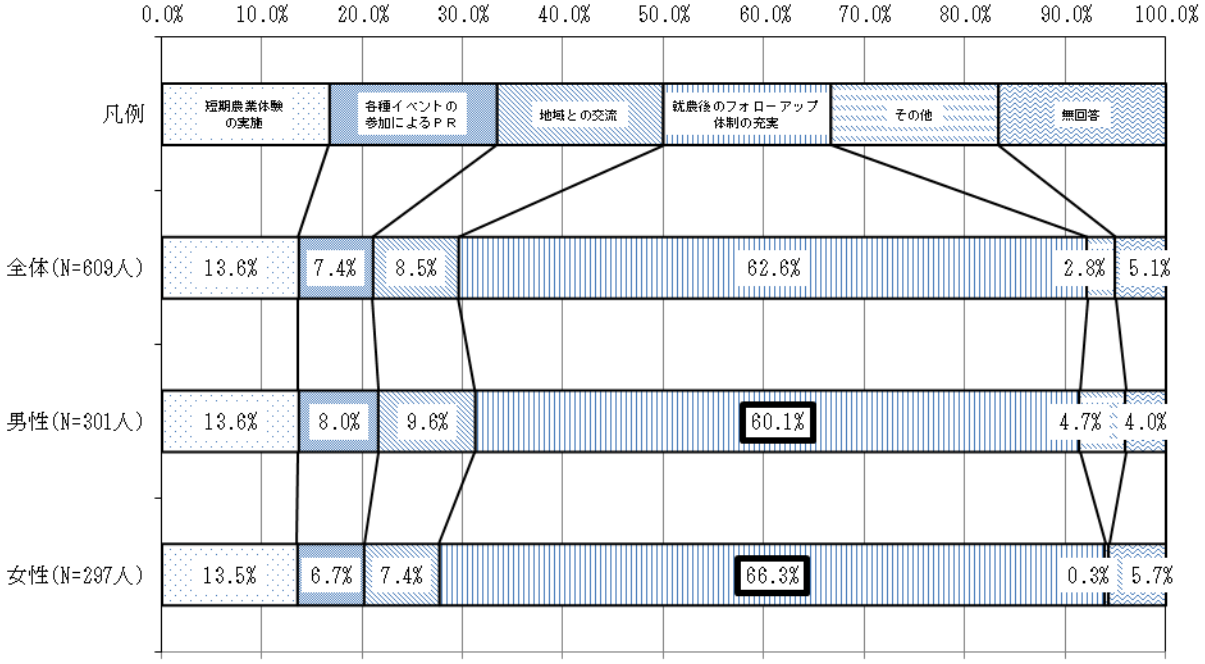
・受け入れ人数の増加。（男性／50 代／仙北／正規社員・職員／既婚）

・大仙市にしかないものや、全国的に有名な作物の栽培。（男性／50 代／太田／正規社員・職員／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「就農後のフォローアップ体制の充実」の回答割合が、男性60.1%、女性66.3%と最も高くなっている。

○男女で大きな差は見られない。

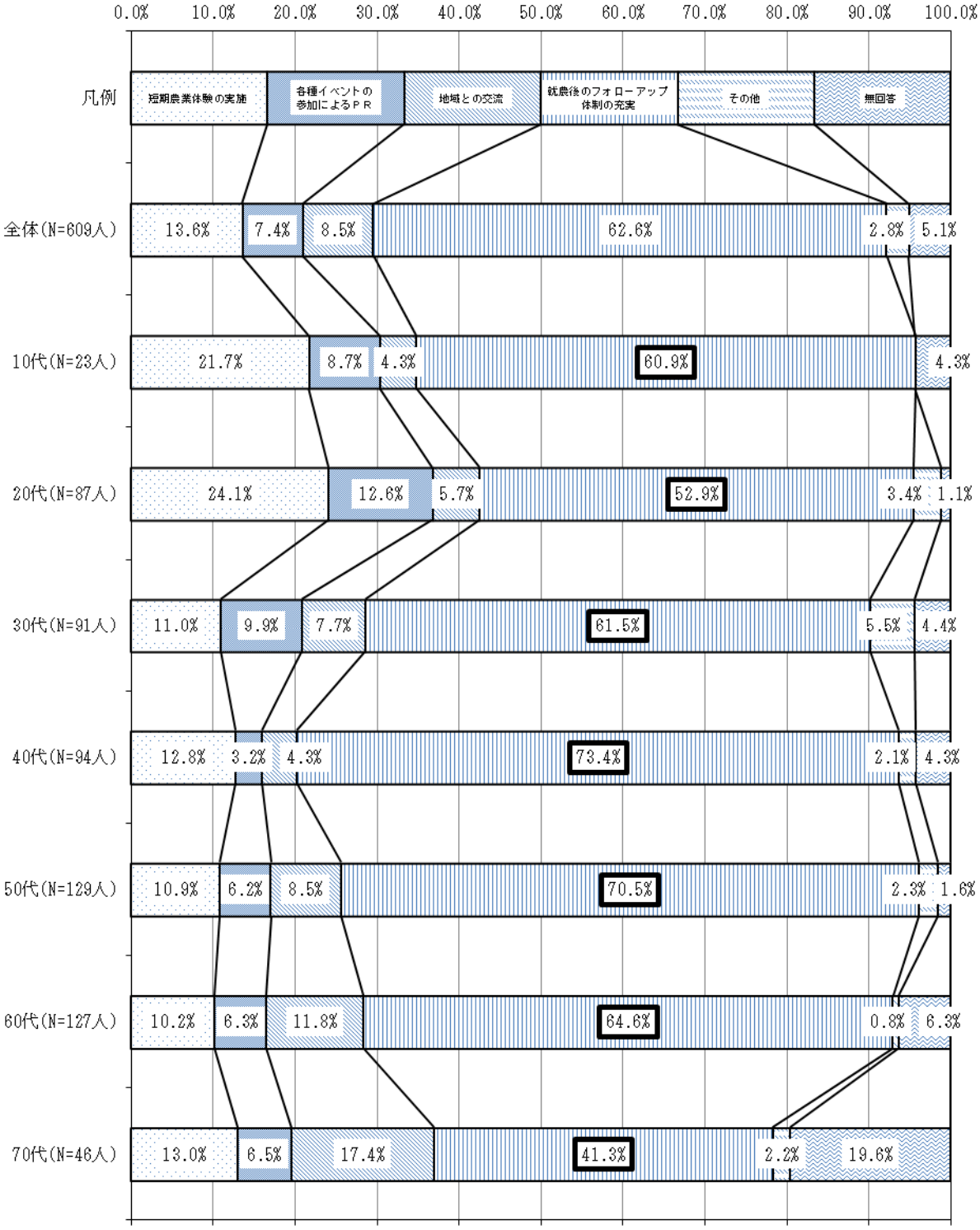


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「就農後のフォローアップ体制の充実」の回答割合が最も高くなっている。

○10 代、20 代において、「短期農業体験の実施」の回答割合が、10 代 21.7%、20 代 24.1%と他の年代と比べて高くなっている。



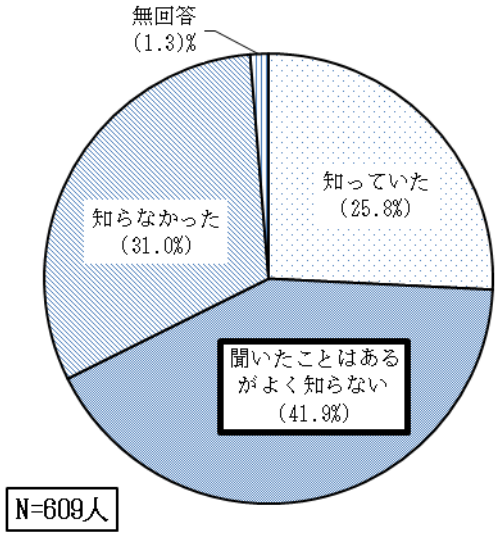
※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.3 「大仙市花火産業構想」について

問１　市の「花火産業構想」を知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

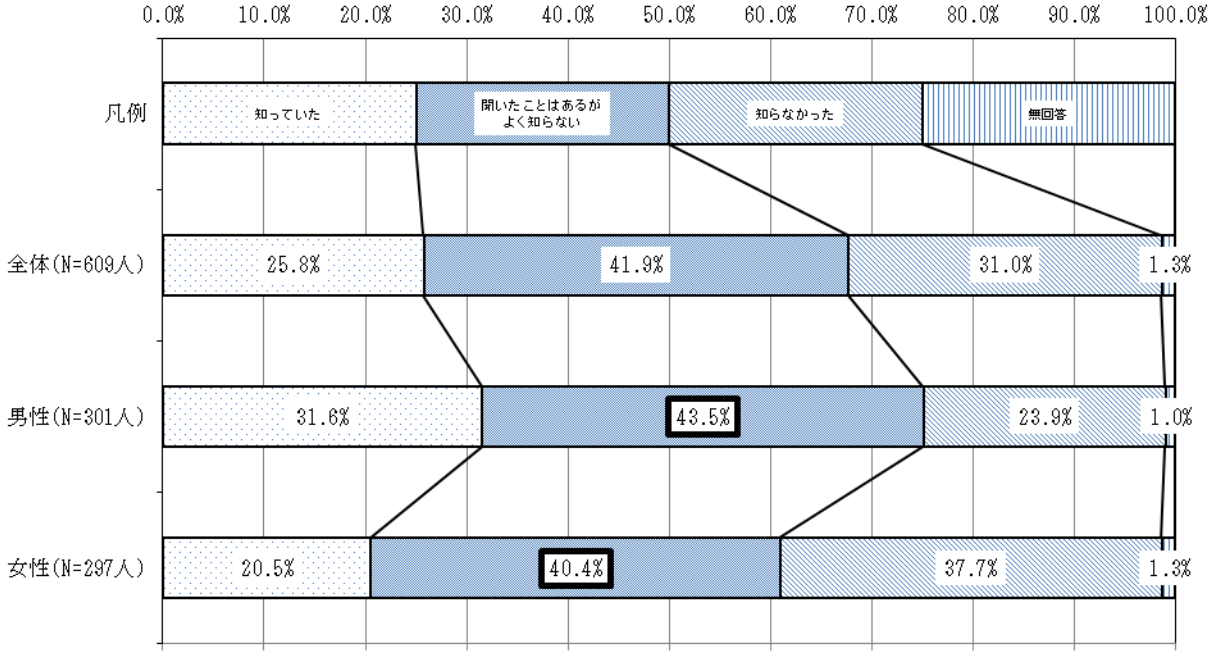
○花火産業構想の認知度については、「聞いたことはあるがよく知らない」が 41.9%と最も高く、次いで「知らなかった」が 31.0%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「聞いたことはあるがよく知らない」の回答割合が、男性 43.5%、女性 40.4%と最も高くなっている。

○女性が男性より「知らなかった」の回答割合が高く、女性が 37.7%で男性よりも 13.8 ポイント高くなっている。

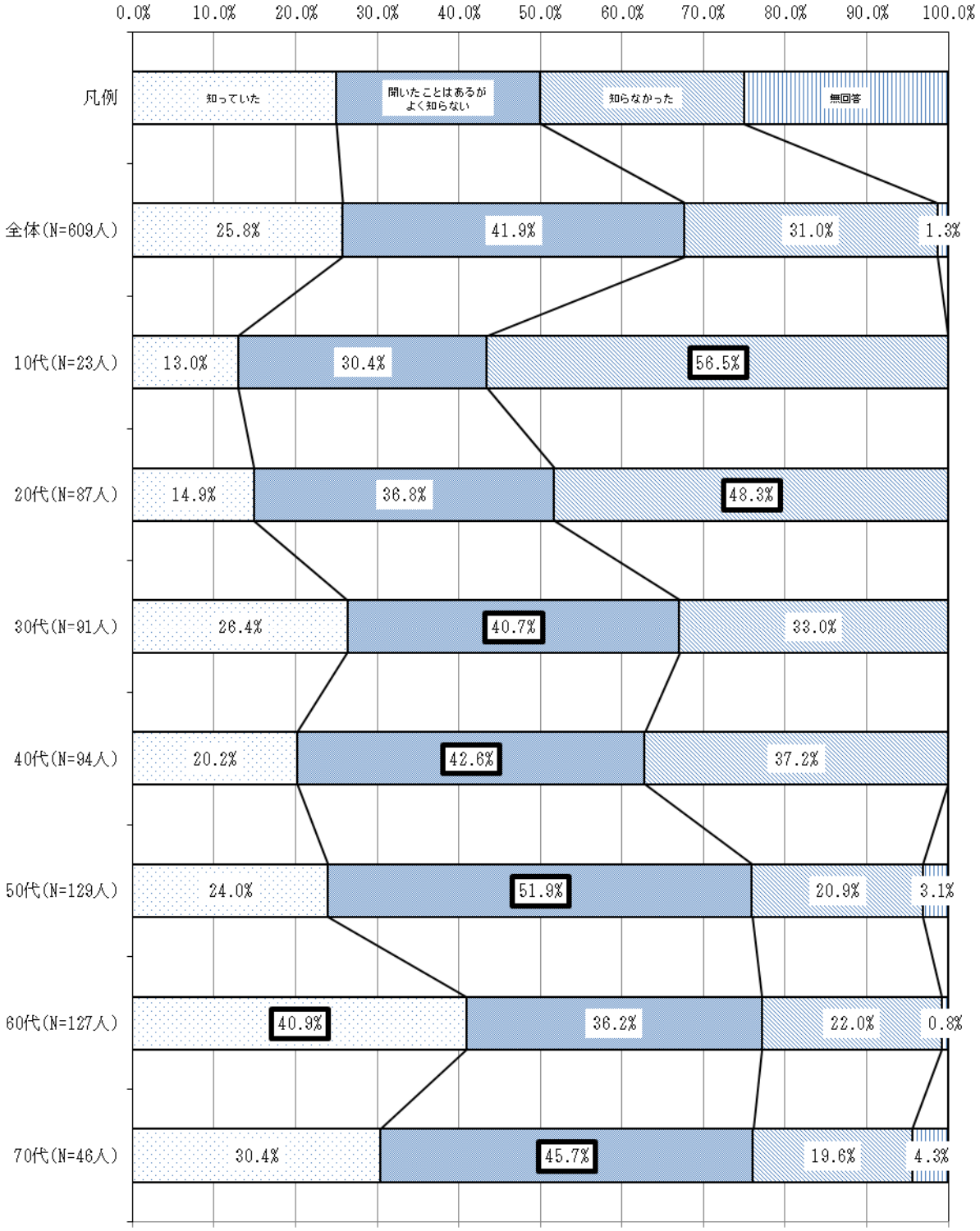


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○10 代、20 代においては、「知らなかった」の回答割合が高くなっており、60 代を除く 30 代から 70 代までの年代においては、「聞いたことはあるがよく知らない」の回答割合が高くなっている。

○60 代のみ「知っていた」の回答割合が 40.9％と最も高くなっており、最も低い 10 代の回答割合 13.0％と比べると、27.9 ポイントの差がある。

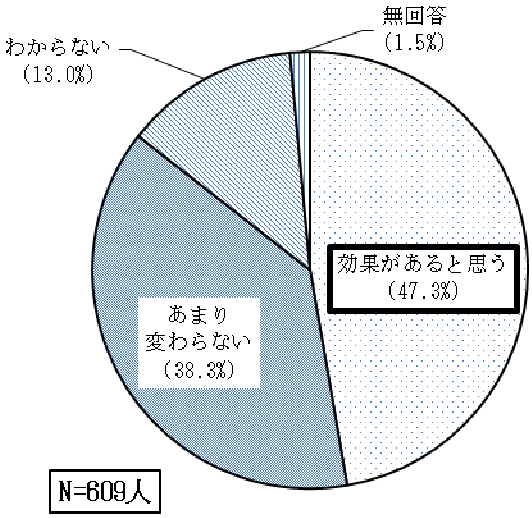


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問２　市を「花火のまち」として発信し、花火で地域活性化を図っていくことについて、効果があると思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

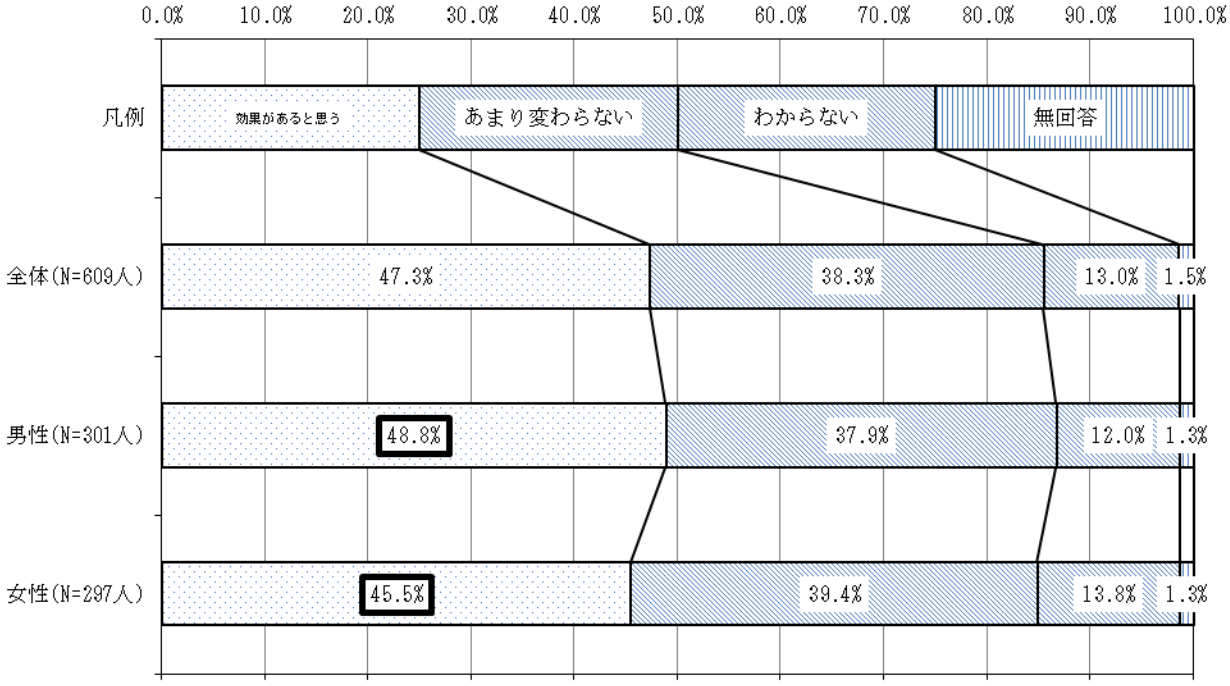
○市が花火で地域活性化を図っていくことについては、「効果があると思う」が 47.3%と最も回答割合が高く、次いで「あまり変わらない」が 38.2%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「効果があると思う」の回答割合が、男性 48.8%、女性 45.5%と最も高くなっている。

○男女で大きな差は見られない。

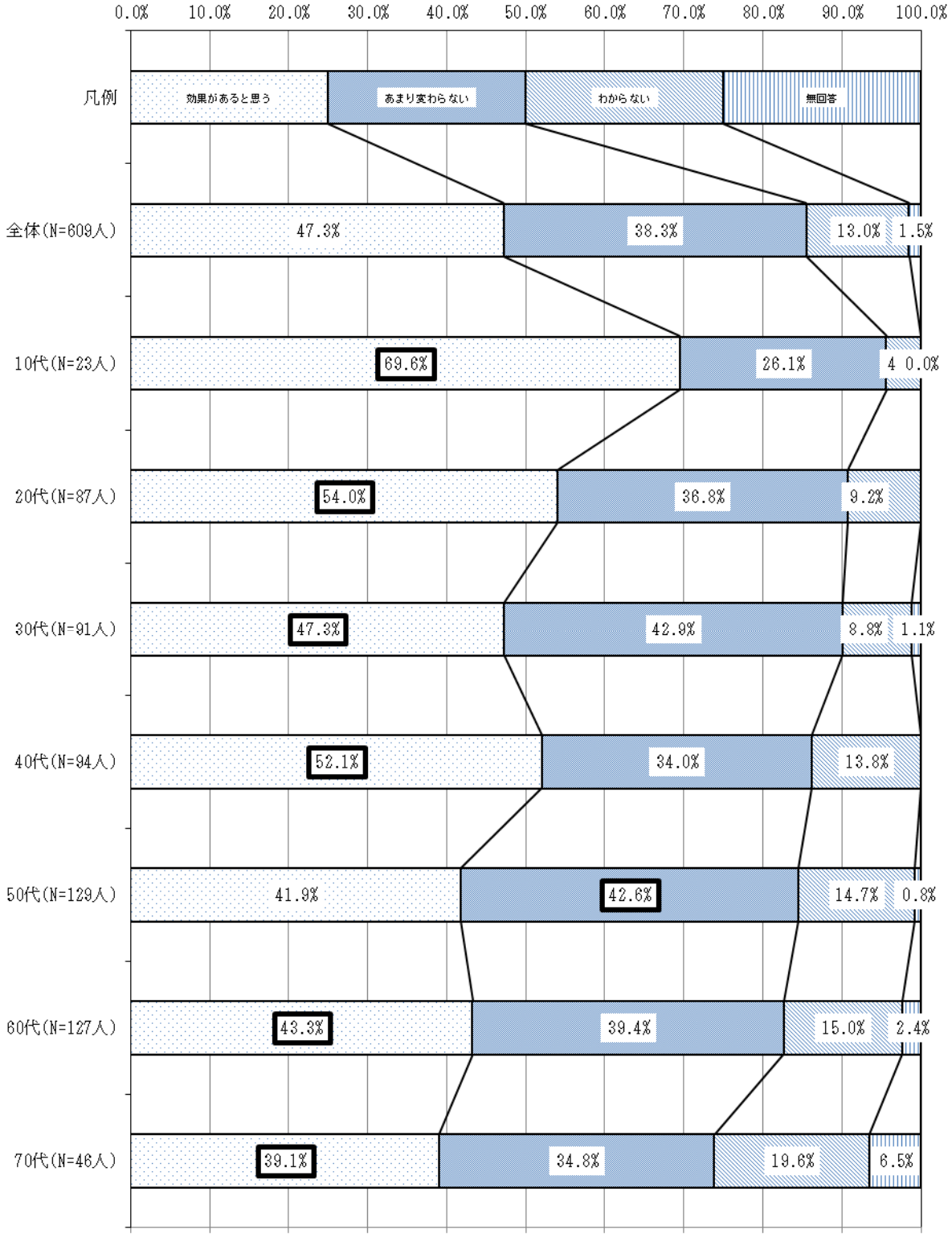


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○50 代を除く全年代において、「効果があると思う」の回答割合が最も高くなっている。

○50 代のみ「あまり変わらない」の回答割合が 42.6%と最も高くなっている。

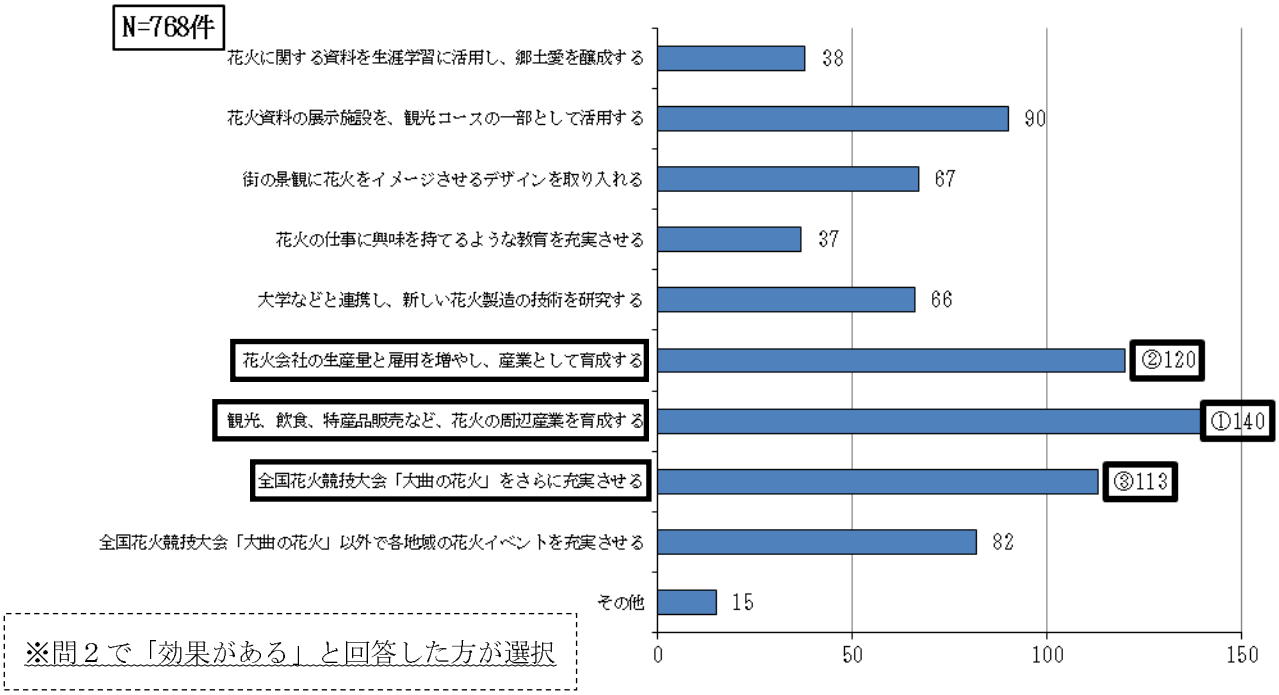


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問３　問２で「１」に〇印をつけた方にお聞きします。花火で地域活性化を図るとした場合、必要だと思う取り組みはどれですか。該当する番号に最大３つまで〇印をつけてください。

【全体】

〇花火で地域活性化を図るとした場合、必要だと思う取り組みについては、「観光、飲食、特産品販売など、花火の周辺産業を育成する」が 140 件と最も多く、次いで「花火会社の生産量と雇用を増やし、産業として育成する」が 120 件、「全国花火競技大会「大曲の花火」をさらに充実させる」が 113 件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・他県へ花火をアピールし、郷土愛を育てる。（女性／20 代／西仙北／正規社員・職員／独身）

・大仙市のみならず、秋田県内の素晴らしい観光地等とタイアップし、ツアーを組んだり、桟敷券とセットプランを作ったりして、大仙市にフィードバックされる仕組みを作る。
（女性／30 代／大曲／派遣・契約社員／既婚）

・空き家やアパートの空室等を宿泊施設として活用する。（男性／60 代／大曲／派遣・契約社員／既婚）

・前夜祭等といった、花火大会前後の工夫。（男性／60 代／大曲／無職／既婚）

・高校において花火産業課を作る。（女性／60 代／大曲／自営業主・家族従業者／無回答）

【性別】

○男女どちらにおいても、「観光、飲食、特産品販売など、花火の周辺産業を育成する」、「花火会社の生産量と雇用を増やし、産業として育成する」、「全国花火競技大会「大曲の花火」をさらに充実させる」の３項目が上位となっている。

○男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「観光、飲食、特産品販売など、花火の周辺産業を育成する」が上位に入っている。

○10 代、40 代、60 代、70 代において、「花火資料の展示施設を、観光コースの一部として活用する」が上位に入っている。

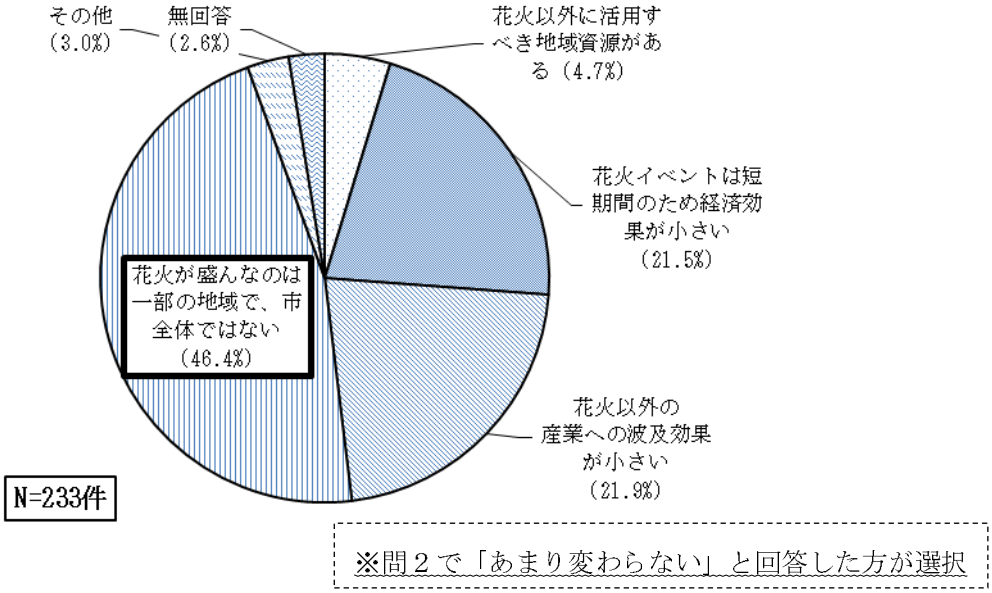
	有効回答数（N）	花火に関する資料を生涯学習に活用し、郷土愛を醸成する	花火資料の展示施設を、観光コースの一部として活用する	街の景観に花火をイメージさせるデザインを取り入れる	花火の仕事に興味を持てるような教育を充実させる	大学などと連携し、新しい花火製造の技術を研究する	花火会社の生産量と雇用を増やし、産業として育成する	観光、飲食、特産品販売など、花火の周辺産業を育成する	全国花火競技大会「大曲の花火」をさらに充実させる	全国花火競技大会「大曲の花火」以外で各地域の花火イベントを充実させる	その他
全体	768件	4.9%	11.7%	8.7%	4.8%	8.6%	15.6%	18.2%	14.7%	10.7%	2.0%
《性別》											
男性	386件	4.7%	11.9%	7.0%	4.1%	10.4%	①18.4%	②18.1%	③14.0%	9.3%	2.1%
女性	383件	5.0%	11.2%	9.9%	5.5%	10.4%	③12.3%	①17.5%	②14.6%	11.7%	1.8%
《年代別》											
10代	45件	6.7%	①15.6%	6.7%	4.4%	6.7%	①15.6%	①15.6%	①15.6%	13.3%	0.0%
20代	124件	3.2%	9.7%	12.9%	5.6%	8.1%	①16.9%	①16.9%	③16.1%	7.3%	3.2%
30代	117件	5.1%	9.4%	11.1%	3.4%	10.3%	①15.4%	②14.5%	②14.5%	13.7%	2.6%
40代	128件	9.4%	③11.7%	5.5%	3.9%	7.8%	14.8%	①21.9%	10.9%	②14.1%	0.0%
50代	140件	2.1%	9.3%	11.4%	5.7%	6.4%	③13.6%	①21.4%	②16.4%	10.0%	3.6%
60代	150件	4.0%	③14.7%	5.3%	3.3%	12.0%	①18.7%	①18.7%	12.7%	8.7%	2.0%
70代	50件	6.0%	①18.0%	4.0%	②12.0%	6.0%	②12.0%	②12.0%	②12.0%	10.0%	0.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで回答割合が高い３項目

問４　問２で「２」に〇印をつけた方にお聞きします。あまり変わらないと思う理由は何ですか。該当する番号１つに〇印をつけてください。

【全体】

〇花火で地域活性化を図ることに関してあまり変わらないと思う理由については、「花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない」が46.4％と最も回答割合が高く、次いで、「花火以外の産業への波及効果が小さい」が21.9％となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・花火関連のイベントが多すぎるから。（女性・20代・大曲・正規社員(職員)・独身）

・関心のない人が多いと思うから。（男性・30代・大曲・派遣(契約)社員・既婚）

・花火は既に全国的に知られているから。（女性・60代・中仙・パート(アルバイト)・独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない」の回答割合が最も高くなっている。

○男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない」の回答割合が最も高くなっている。

	有効回答数（N）	花火以外に活用すべき地域資源がある	花火イベントは短期間のため経済効果が小さい	花火以外の産業への波及効果が小さい	花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない	その他	無回答
全体	233人	4.7%	21.5%	21.9%	46.4%	3.0%	2.6%
《性別》							
男性	115人	6.1%	20.0%	21.7%	45.2%	3.5%	3.5%
女性	117人	3.4%	22.2%	22.2%	47.0%	2.6%	2.6%
《年代別》							
10代	6人	0.0%	16.7%	0.0%	83.3%	0.0%	0.0%
20代	32人	6.3%	28.1%	18.8%	37.5%	6.3%	3.1%
30代	39人	0.0%	17.9%	28.2%	41.0%	7.7%	5.1%
40代	32人	6.3%	15.6%	21.9%	46.9%	3.1%	6.3%
50代	55人	3.6%	20.0%	20.0%	52.7%	1.8%	1.8%
60代	51人	7.8%	15.7%	25.5%	49.0%	0.0%	2.0%
70代	16人	6.3%	50.0%	18.8%	25.0%	0.0%	0.0%

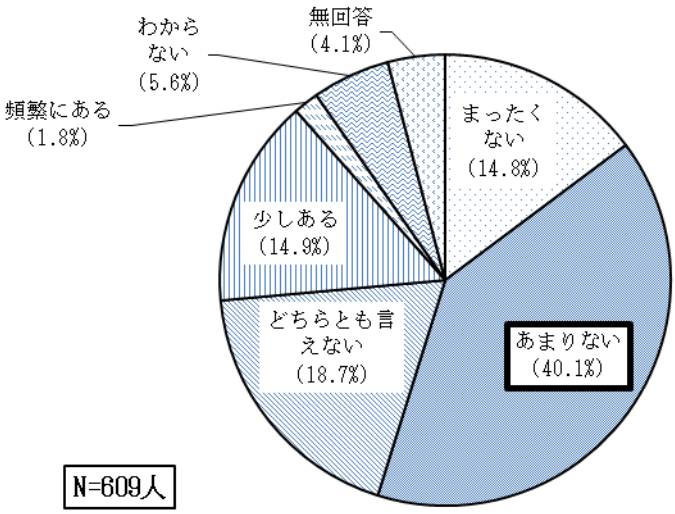
※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.4 「むすび・サポート事業」について

問１　普段の生活の中で、将来の結婚相手となるような方と出会う機会はありますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

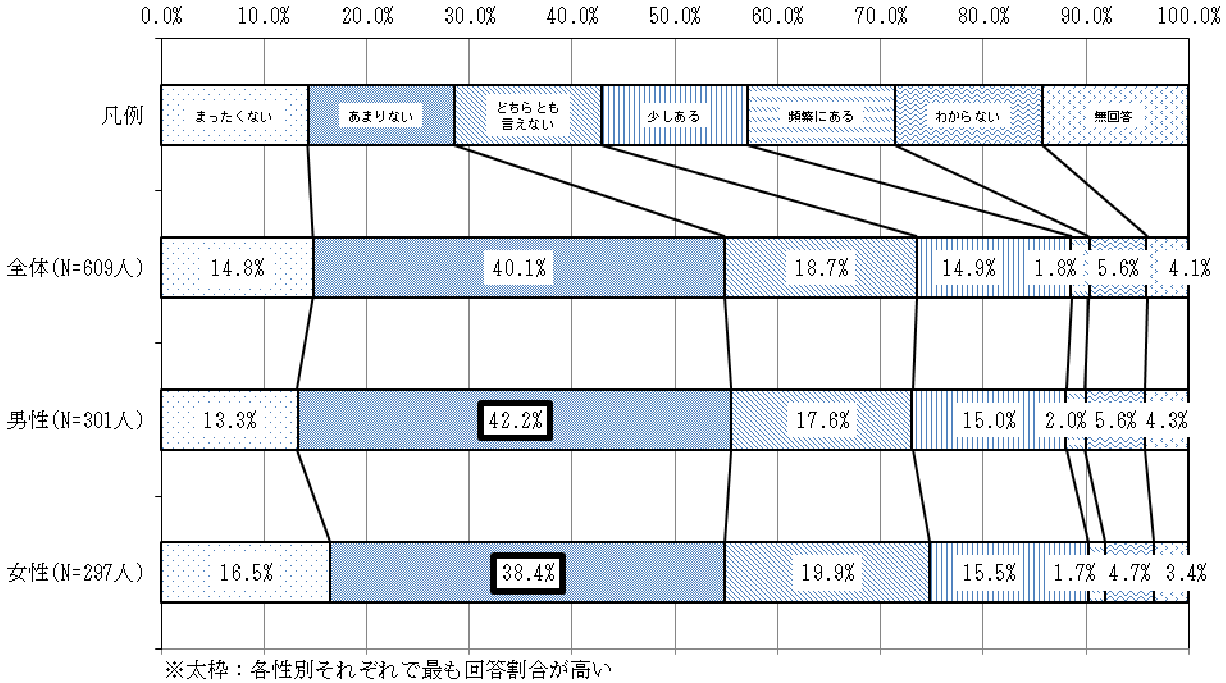
○将来の結婚相手となるような方と出会う機会の有無については、「あまりない」が 40.1%と最も回答割合が高く、次いで「どちらとも言えない」が 18.7%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「あまりない」の回答割合が、男性 42.2%、女性 38.4%と最も高くなっている

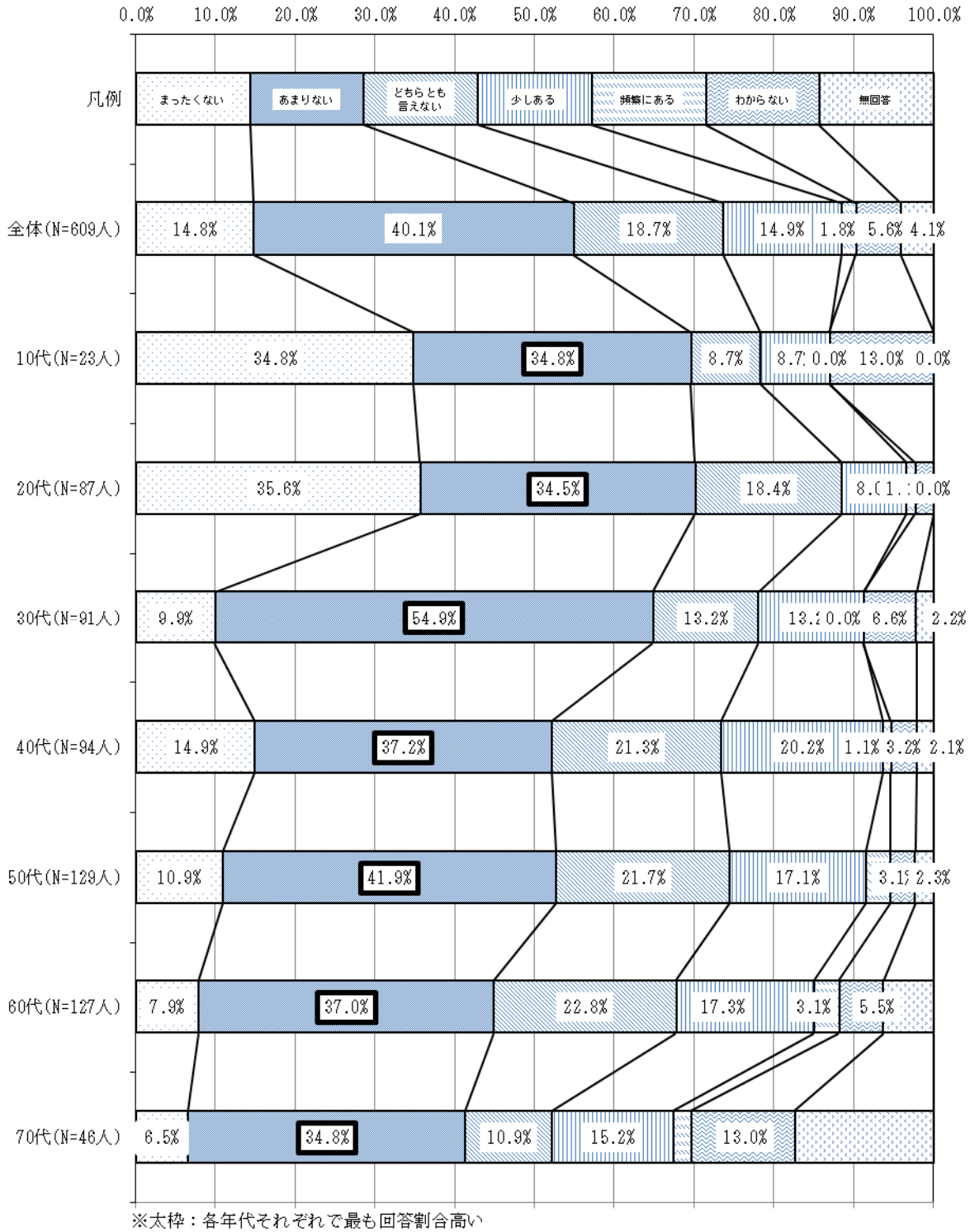
○全体的に、男女で大きな差は見られない。



※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「あまりない」の回答割合が最も高くなっている。

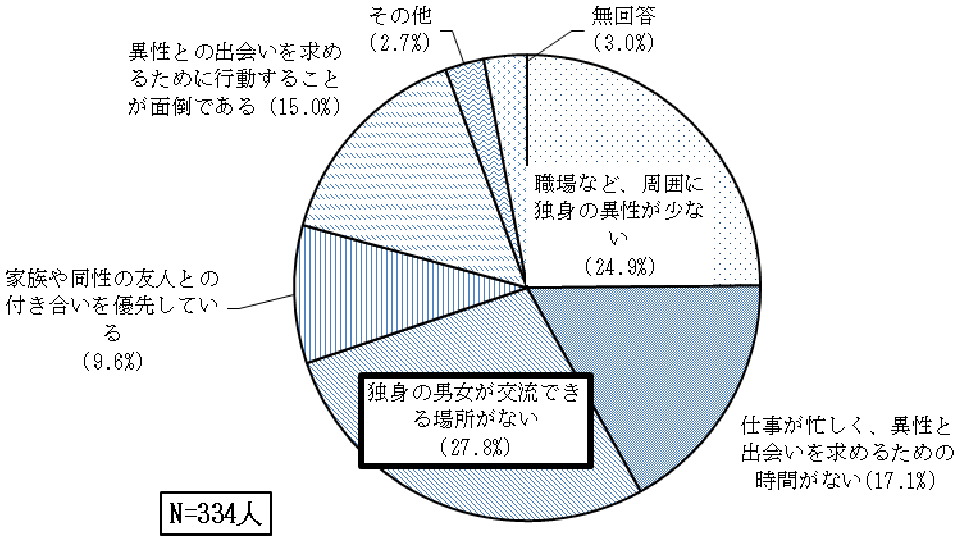


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合高い

問２　問１で「１」または「２」に○印をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

○将来の結婚相手となるような方との出会いが「まったくない」、「あまりない」と思う理由については、「独身の男女が交流できる場所がない」が 27.8%と最も回答割合が高く、次いで「職場など、周囲に独身の異性が少ない」が 24.9%となっている。



※問１で「まったくない」、「あまりない」と回答した方が選択

◆「その他」意見（抜粋）

・所得が低く、相手を探したり出歩いたりする余裕がないから。
（女性／20 代／仙北／派遣・契約社員／独身）

・そのうち何とかなるだろうと思っているから。（男性／40 代／神岡／正規社員・職員／既婚）

【性別】

○男性においては、「独身の男女が交流できる場所がない」が 33.5%と回答割合が最も高く、女性においては、「職場など周囲に独身の異性が少ない」が 27.0%と回答割合が最も高くなっている。

○男性が女性より「独身の男女が交流できる場所がない」の回答割合が高く、男性が 33.5%で女性よりも 11.4 ポイント高くなっている。

【年代別】

○10 代、40 代から 70 代においては、「独身の男女が交流できる場所が少ない」の回答割合が最も高く、20 代、30 代においては、「職場など、周囲に独身の異性が少ない」の回答割合が、20 代 24.6%、30 代 28.8%と最も高くなっている。

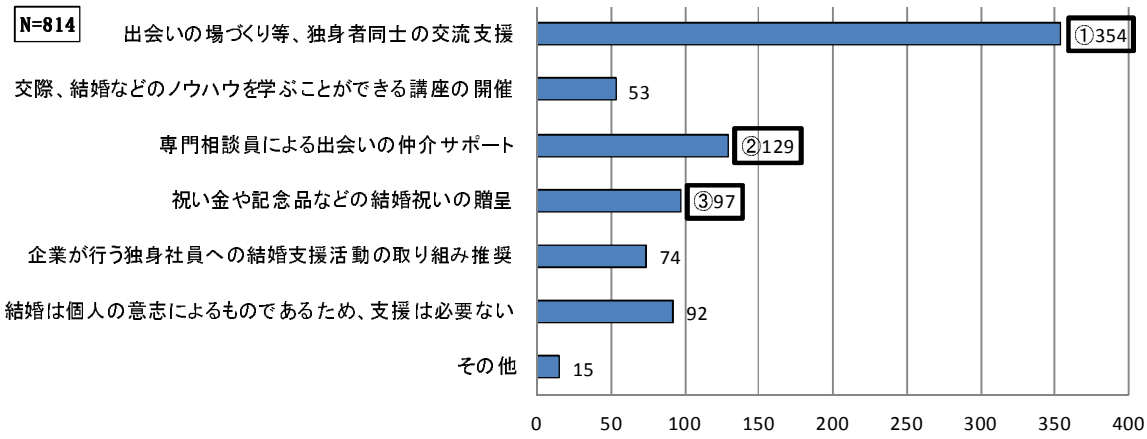
	有効回答数（N）	職場など、周囲に独身の異性が少ない	仕事が忙しく、異性と出会いを求めるための時間がない	独身の男女が交流できる場所がない	家族や同性の友人との付き合いを優先している	異性との出会いを求めるために行動することが面倒である	その他	無回答
全体	334人	24.9%	17.1%	27.8%	9.6%	15.0%	2.7%	3.0%
《性別》								
男性	167人	22.2%	20.4%	33.5%	6.6%	10.2%	4.2%	3.0%
女性	163人	27.0%	14.1%	22.1%	12.3%	20.2%	1.2%	3.1%
《年代別》								
10代	16人	12.5%	18.8%	31.3%	18.8%	12.5%	6.3%	0.0%
20代	61人	24.6%	19.7%	18.0%	14.8%	16.4%	4.9%	1.6%
30代	59人	28.8%	16.9%	22.0%	6.8%	20.3%	3.4%	1.7%
40代	49人	22.4%	18.4%	26.5%	2.0%	14.3%	4.1%	12.2%
50代	68人	30.9%	10.3%	39.7%	5.9%	11.8%	0.0%	1.5%
60代	57人	21.1%	21.1%	31.6%	10.5%	12.3%	1.8%	1.8%
70代	19人	15.8%	15.8%	26.3%	21.1%	21.1%	0.0%	0.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

問３　市が行う結婚支援について、具体的にどのような支援が良いと思いますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○市が行う結婚支援に対する要望について、「出会いの場づくり等、独身者同士の交流支援」が 354 件と最も回答数が多く、次いで「専門相談員による出会いの仲介サポート」が 129 件、「祝い金や記念品などの結婚祝いの贈呈」が 97 件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・給料の底上げ。（男性／30 代／西仙北／正規社員・職員／既婚）

・個人の希望に沿う結婚支援。（女性／50 代／南外／専業主婦／既婚）

・結婚を希望するすべての人が登録するシステム。（女性／60 代／協和／無職／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「出会いの場づくり等、独身者同士の交流支援」の回答割合が、男性 43.5%、女性 43.4%と最も高くなっている。

○全体的に、男女に大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「出会いの場づくり等、独身者同士の交流支援」の回答割合が最も高くなっている。

○10 代から 30 代において、「祝い金や記念品などの結婚祝いの贈呈」の回答割合が、10 代 16.7%、20 代 20.5%、30 代 17.7%と他の年代と比べて高くなっている。

○40 代から 70 代において、「専門相談員による出会いの仲介サポート」の回答割合が、40 代 15.0%、50 代 18.5%、60 代 20.6%、70 代 16.7%と他の年代と比べて高くなっている。

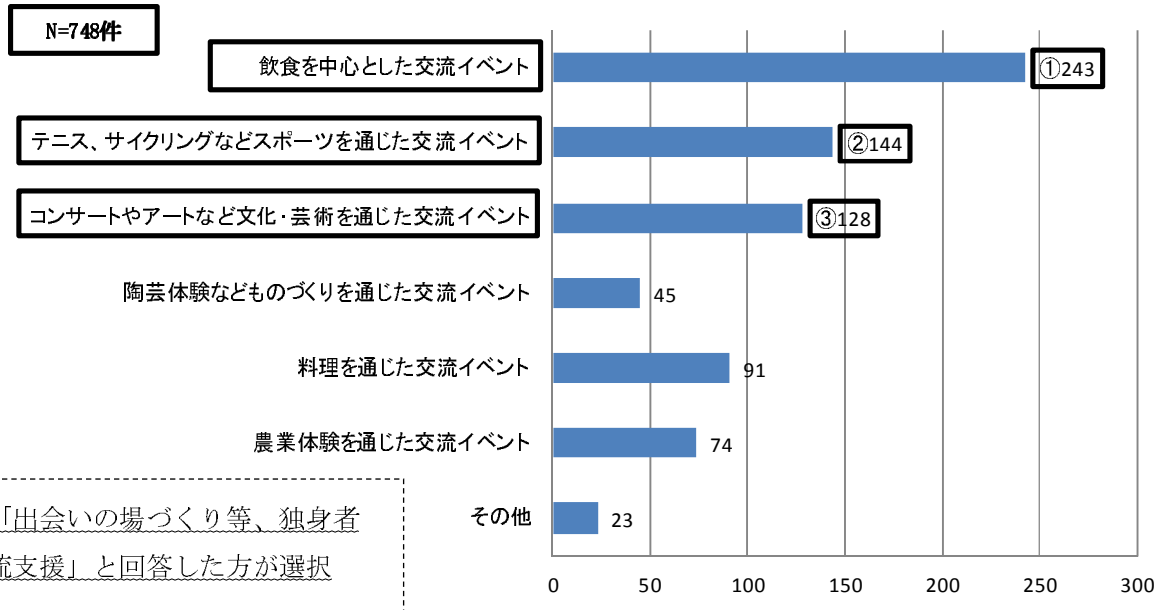
	有効回答数（N）	出会いの場づくり等、独身者同士の交流支援	交際、結婚などのノウハウを学ぶことができる講座の開催	専門相談員による出会いの仲介サポート	祝い金や記念品などの結婚祝いの贈呈	企業が行う独身社員への結婚支援活動の取り組み推奨	結婚は個人の意志によるものであるため、支援は必要ない	その他
全体	814件	43.5%	6.5%	15.8%	11.9%	9.1%	11.3%	1.8%
《性別》								
男性	405件	43.5%	6.9%	16.3%	11.6%	8.6%	10.4%	2.7%
女性	399件	43.4%	6.0%	15.5%	12.3%	9.5%	12.3%	1.0%
《年代別》								
10代	30件	50.0%	6.7%	6.7%	16.7%	6.7%	10.0%	3.3%
20代	117件	43.6%	8.5%	11.1%	20.5%	5.1%	10.3%	0.9%
30代	130件	40.0%	5.4%	13.1%	17.7%	11.5%	8.5%	3.8%
40代	113件	46.9%	3.5%	15.0%	11.5%	3.5%	16.8%	2.7%
50代	173件	42.8%	6.9%	18.5%	9.8%	10.4%	10.4%	1.2%
60代	180件	43.3%	6.7%	20.6%	6.1%	11.1%	10.6%	1.7%
70代	60件	43.3%	8.3%	16.7%	5.0%	13.3%	13.3%	0.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

問４　問３で「１」に〇印をつけた方にお聞きします。具体的にどのような出会いの場なら参加したいと思いますか。該当する番号すべてに〇印をつけてください。

【全体】

〇望まれている具体的な出会いの場について、「飲食を中心とした交流イベント」が 243 件と回答数が最も多く、次いで「テニス、サイクリングなどスポーツを通じた交流イベント」が 144 件、「コンサートやアートなど文化・芸術を通じた交流イベント」が 128 件となっている。



※問３で「出会いの場づくり等、独身者同士の交流支援」と回答した方が選択

◆「その他」意見（抜粋）

・食事と運動の両方が充実しているイベント。（男性／10 代／西仙北／学生／独身）

・１対１の交流イベント。（男性／20 代／南外／自営業主・家族従業者／独身）

・婚活や交流が題目についていないイベント。（男性／30 代／大曲／派遣・契約社員／既婚）

・他では仲間が見つかりにくいジャンルに的を絞ったイベント。（男性／30 代／大曲／派遣・契約社員／既婚）

・古民家を利用してのクイズラリー。（男性／40 代／神岡／正規社員・職員／既婚）

・民泊体験イベント。（男性／40 代／神岡／正規社員・職員／既婚）

・季節ごとのバスツアー旅行。（男性／40 代／南外／正規社員・職員／既婚）

・外国のように、中学校や高校でパーティがあればよい。（女性／50 代／大曲／正規社員・職員／独身）

・地域の特性を利用したイベント。（男性／60 代／無回答／無職／既婚）

・企業間交流イベント。（女性／60 代／大曲／パート・アルバイト／既婚）

・年齢別による交流イベント。（女性／60 代／協和／無職／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「飲食を中心とした交流イベント」の回答割合が男性33.6%、女性31.4%と最も高くなっている。

○全体的に、男女に大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「飲食を中心とした交流イベント」の回答割合が最も高くなっている。

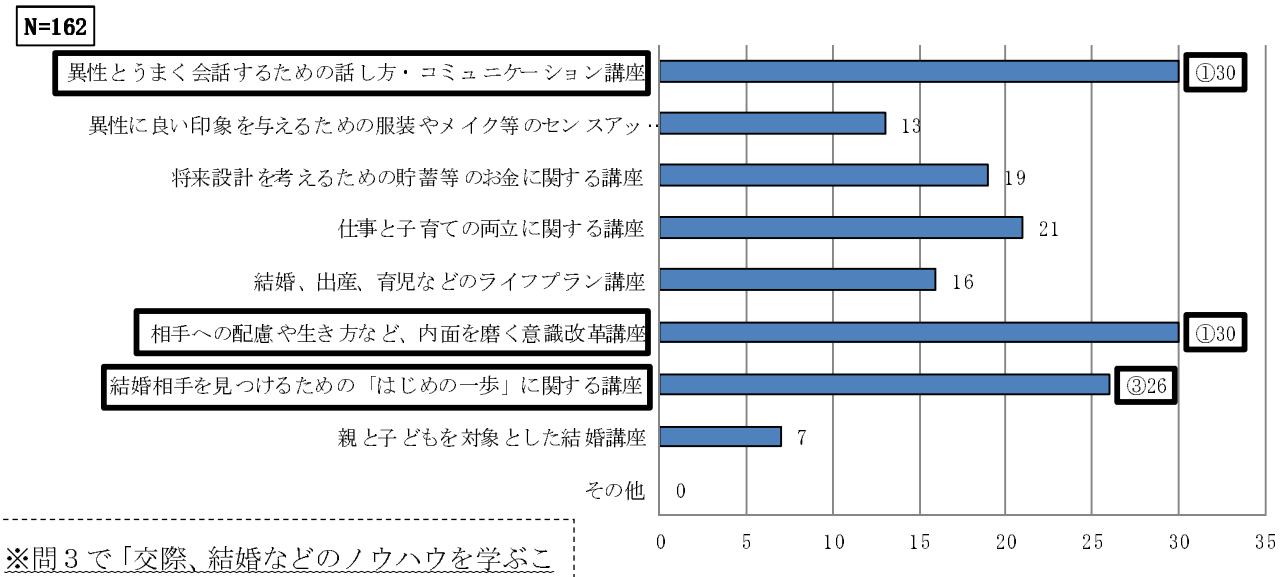
	有効回答数（N）	飲食を中心とした交流イベント	テニス、サイクリングなどスポーツを通じた交流イベント	コンサートやアートなど文化・芸術を通じた交流イベント	陶芸体験などものづくりを通じた交流イベント	料理を通じた交流イベント	農業体験を通じた交流イベント	その他
全体	748件	32.5%	19.3%	17.1%	6.0%	12.2%	9.9%	3.1%
《性別》								
男性	378件	33.6%	19.8%	16.4%	6.3%	10.6%	10.3%	2.9%
女性	360件	31.4%	18.6%	18.1%	5.6%	13.9%	9.2%	3.3%
《年代別》								
10代	28件	39.3%	21.4%	10.7%	7.1%	10.7%	7.1%	3.6%
20代	102件	35.3%	20.6%	15.7%	4.9%	11.8%	7.8%	3.9%
30代	117件	28.2%	17.9%	15.4%	7.7%	17.9%	7.7%	5.1%
40代	118件	33.1%	21.2%	18.6%	5.9%	11.9%	6.8%	2.5%
50代	165件	33.9%	17.0%	13.9%	7.3%	13.9%	11.5%	2.4%
60代	163件	29.4%	20.2%	19.6%	4.9%	8.6%	14.1%	3.1%
70代	46件	37.0%	17.4%	28.3%	4.3%	6.5%	6.5%	0.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

問５　問３で「２」に〇印をつけた方にお聞きします。具体的にどのような講座に参加したいと思いますか。該当する番号すべてに〇印をつけてください。

【全体】

〇望まれている具体的な講座について、「異性とうまく会話するための話し方・コミュニケーション講座」と「相手への配慮や生き方など、内面を磨く意識改革講座」が 30 件と回答数が最も多く、次いで「相手への配慮や生き方など、内面を磨く意識改革講座」が 26 件となっている。



※問３で「交際、結婚などのノウハウを学ぶことができる講座の開催」と回答した方が選択

【性別】

○男女どちらにおいても、「相手への配慮や生き方など、内面を磨く意識改革講座」の回答割合が最も高くなっている。

○全体的に、男女に大きな差は見られない。

【年代別】

○20 代から 40 代においては、「異性とうまく会話するための話し方・コミュニケーション講座」の回答割合が、20 代 18.4%、30 代 26.7%、40 代 21.4%と最も高くなっている。

○40 代、50 代、70 代においては、「相手への配慮や生き方など、内面を磨く意識改革講座」の回答割合が、40 代 21.4%、50 代 22.5%、70 代 26.7%と最も高くなっている。

	有効回答数（N）	異性とうまく会話するための話し方・コミュニケーション講座	異性に良い印象を与えるための服装やメイク等のセンスアップ講座	将来設計を考えるための貯蓄等のお金に関する講座	仕事と子育ての両立に関する講座	結婚、出産、育児などのライフプラン講座	相手への配慮や生き方など、内面を磨く意識改革講座	結婚相手を見つけるための「はじめの一歩」に関する講座	親と子どもを対象とした結婚講座	その他
全体	162件	18.5%	8.0%	11.7%	13.0%	9.9%	18.5%	16.0%	4.3%	0.0%
《性別》										
男性	88件	19.3%	8.0%	11.4%	12.5%	8.0%	19.3%	19.3%	2.3%	0.0%
女性	73件	16.4%	8.2%	12.3%	13.7%	12.3%	17.8%	12.3%	6.8%	0.0%
《年代別》										
10代	4件	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
20代	38件	18.4%	7.9%	18.4%	13.2%	10.5%	13.2%	13.2%	5.3%	0.0%
30代	15件	26.7%	0.0%	13.3%	20.0%	6.7%	20.0%	13.3%	0.0%	0.0%
40代	14件	21.4%	14.3%	7.1%	7.1%	0.0%	21.4%	14.3%	14.3%	0.0%
50代	40件	15.0%	10.0%	7.5%	15.0%	12.5%	22.5%	15.0%	2.5%	0.0%
60代	35件	20.0%	5.7%	8.6%	11.4%	8.6%	17.1%	25.7%	2.9%	0.0%
70代	15件	13.3%	6.7%	13.3%	13.3%	13.3%	26.7%	6.7%	6.7%	0.0%

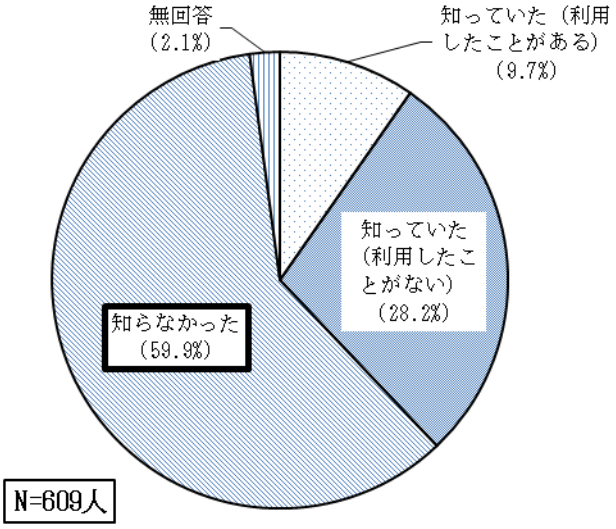
※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.5 「地域子育て支援拠点施設」について

問１　あなた（またはあなたのご家族）は地域子育て支援拠点施設を開所していることを知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

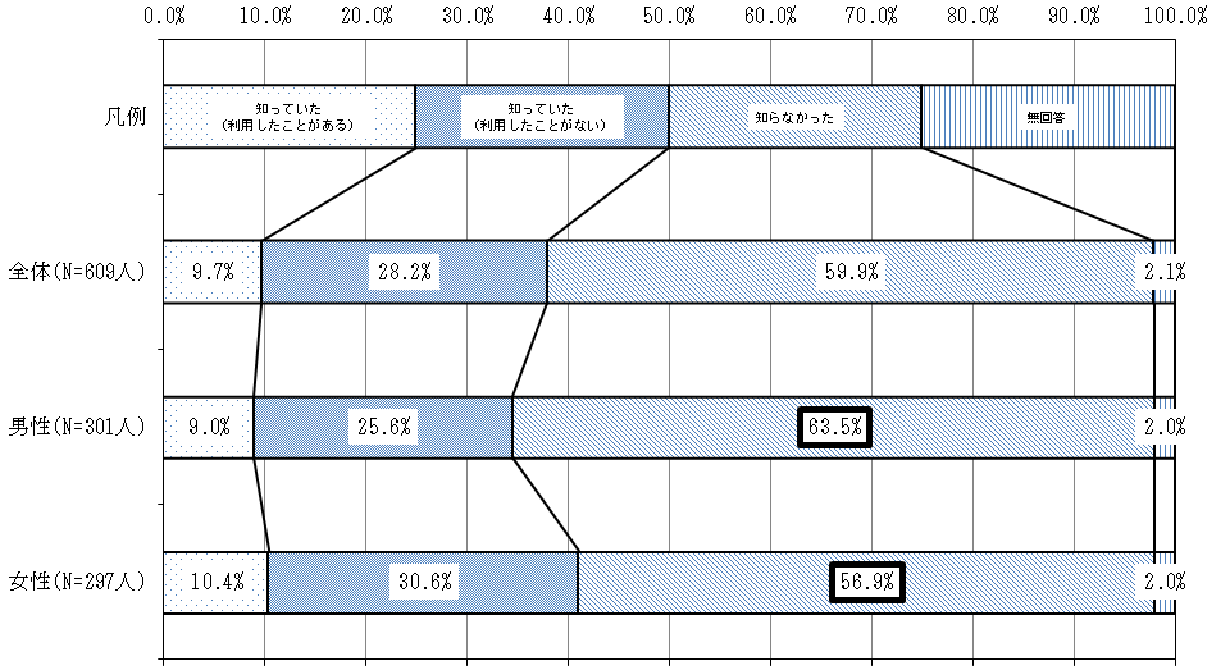
○地域子育て拠点施設の認知度について、「知らなかった」が 59.9％と最も回答割合が高く、次いで「知っていた（利用したことがない）」が 28.2％となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「知らなかった」の回答割合が、男性63.5%、女性56.9%と最も高くなっている。

○女性が男性より「知っていた（利用したことがある）」と「知っていた（利用したことがない）」を合算した回答割合が高く、女性が41.0%で男性よりも6.4ポイント高くなっている。

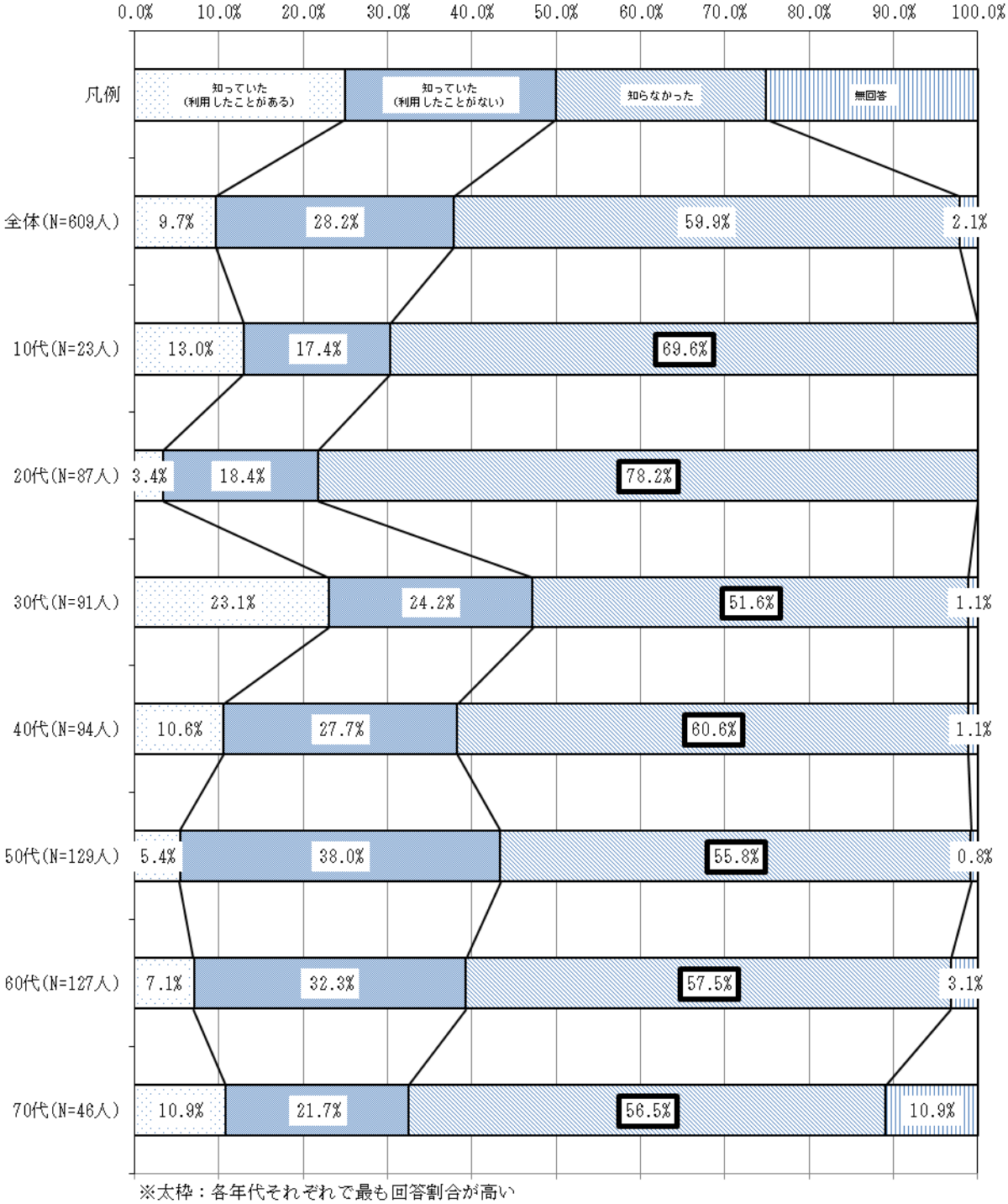


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「知らなかった」の回答割合が最も高くなっている。

○10 代、20 代において、「知っていた（利用したことがある）」と「知っていた（利用したことがない）」を合算した回答割合が、10 代 30.4％、20 代 21.8％と他の年代に比べて低くなっている。



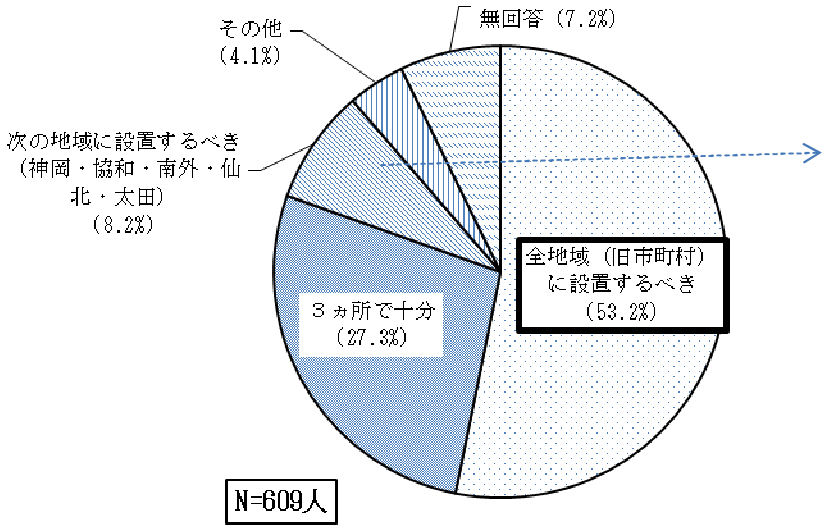
※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

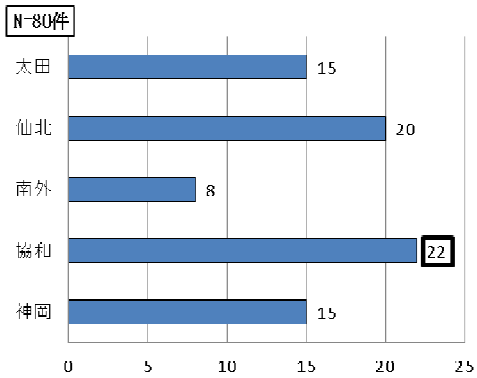
問２　地域子育て支援拠点施設は市内３ヵ所（大曲、中仙、西仙北）に開所していますが、同様の施設はさらに必要ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。また、「３」を選ばれた方は、希望する地域に○印をつけてください。

【全体】

○地域子育て拠点施設の開所状況について、「全地域（旧市町村）に設置するべき」が 53.2%と最も高く、次いで「３ヵ所で十分」が 27.3%となっている。

○「次の地域に設置するべき（神岡・協和・南外・仙北・太田）」と回答した方が選択した地域の中で、最も選択数が多かった地域は 22 件で「協和」となっている。





※「次の地域に設置するべき」と回答した方が選択した地域

◆「その他」意見（抜粋）

・療育センターが必要。（女性／30 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・横手のワイワイプラザのような施設が欲しい。（男性／50 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・少しでも多い方が良い。（男性／40 代／西仙北／その他／独身）

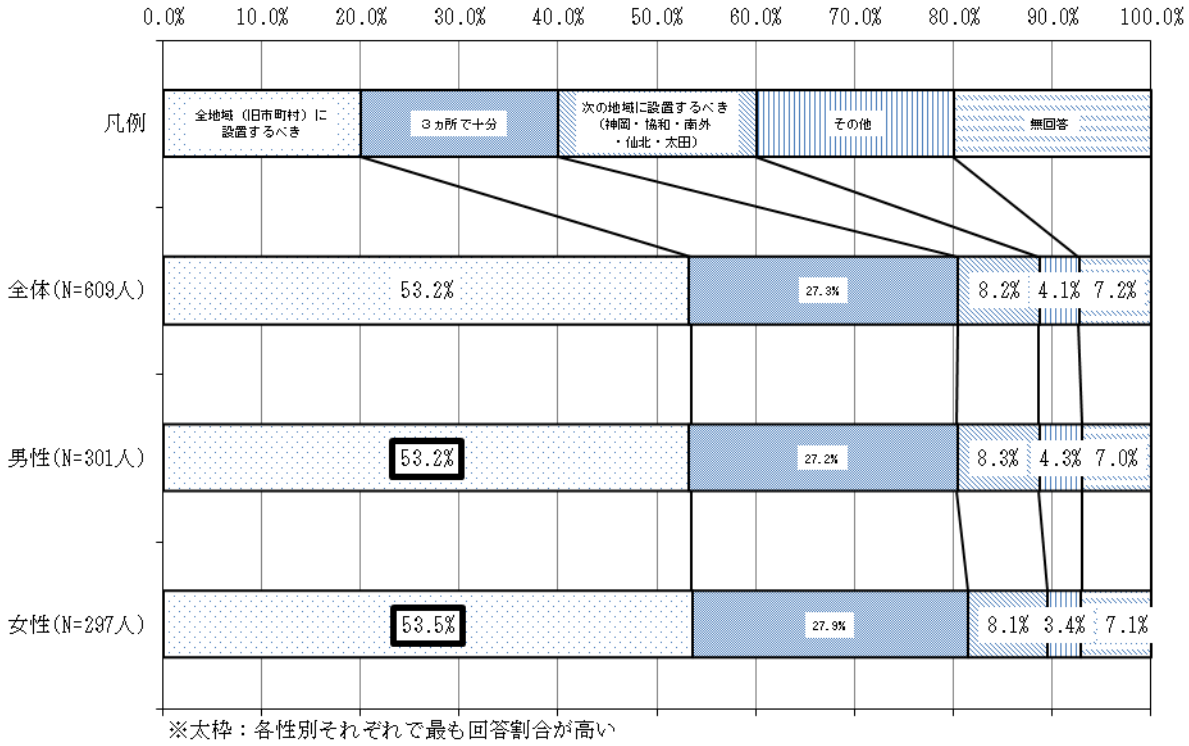
・大曲に複数あってもよい。（女性／50 代／大曲／専業主婦／既婚）

・地域住民の要望があれば設置する。（男性／60 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「全地域（旧市町村）に設置するべき」の回答割合が、男性53.2％、女性53.5％と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

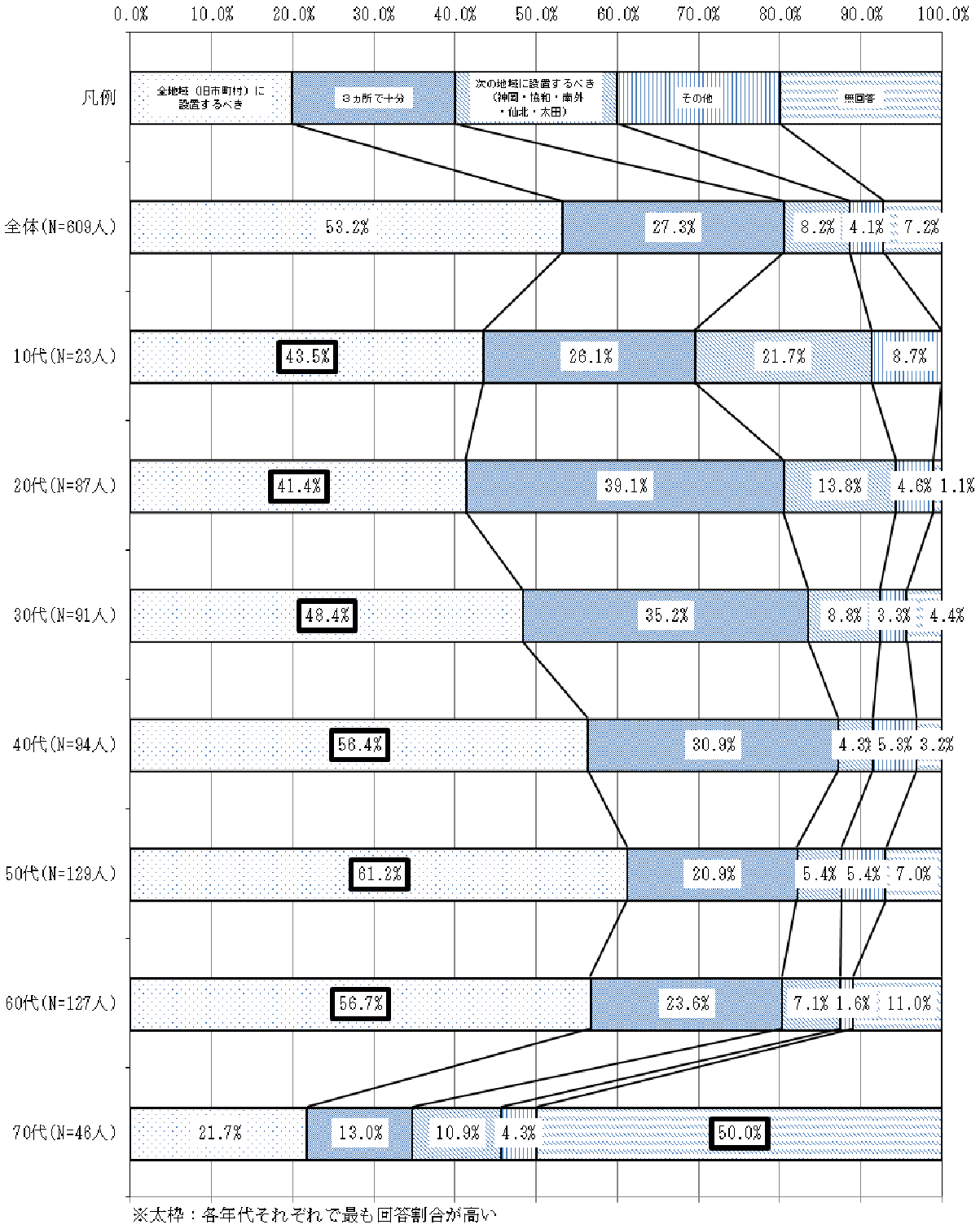


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○70 代を除く全年代において、「全地域（旧市町村）に設置するべき」の回答割合が最も高くなっている。

○20 代、30 代において、「３ヵ所で十分」の回答割合が、20 代 39.1％、30 代 35.2％と他の年代に比べて高くなっている。

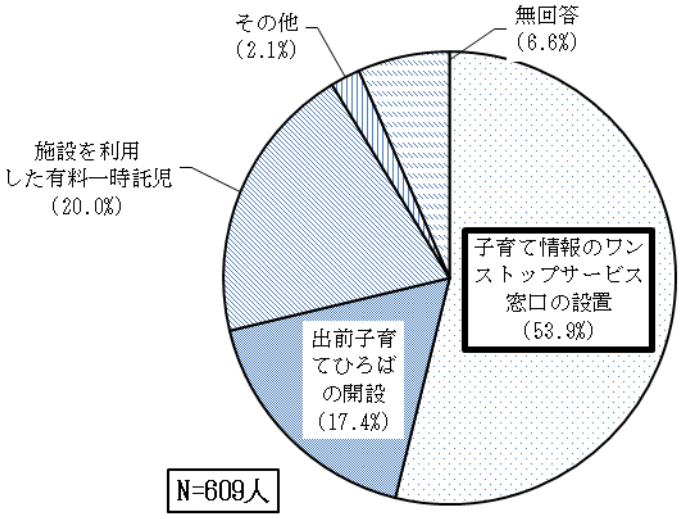


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問３　地域子育て支援拠点施設でサービスを拡充する場合、必要だと思うものはどれですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

○地域子育て支援拠点施設でサービスを拡充する場合に必要だと思う取り組みについて、「子育て情報のワンストップサービス窓口の設置」が 53.9%と最も回答割合が高く、次いで「施設を利用した有料一時託児」が 20.0%となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・未就学児が遊べるスペースの拡大。（男性／20 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・支援員の教育。（男性／50 代／南外／正規社員・職員／既婚）

・日曜日に施設を開く。（男性／50 代／太田／正規社員・職員／既婚）

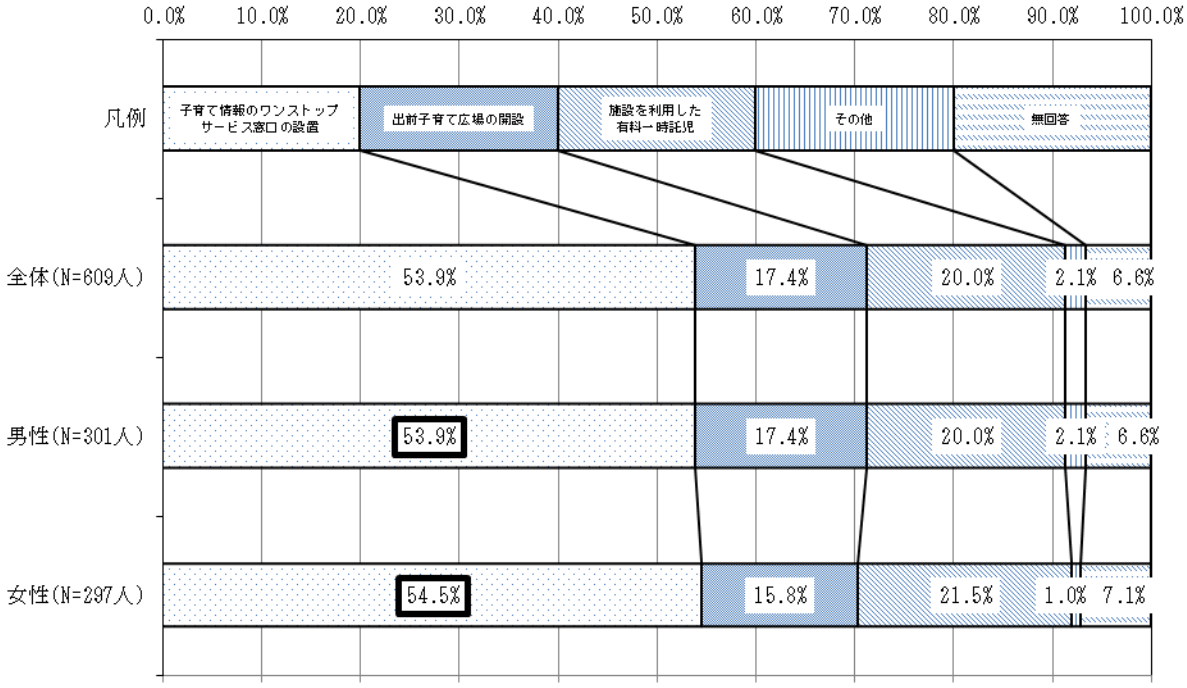
・必要なし。（男性／60 代／中仙／正規社員・職員／独身）

・各家の訪問等による周知。（無回答）

【性別】

○男女どちらにおいても、「子育て情報のワンストップサービス窓口の設置」の回答割合が、男性 53.9%、女性 54.5%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

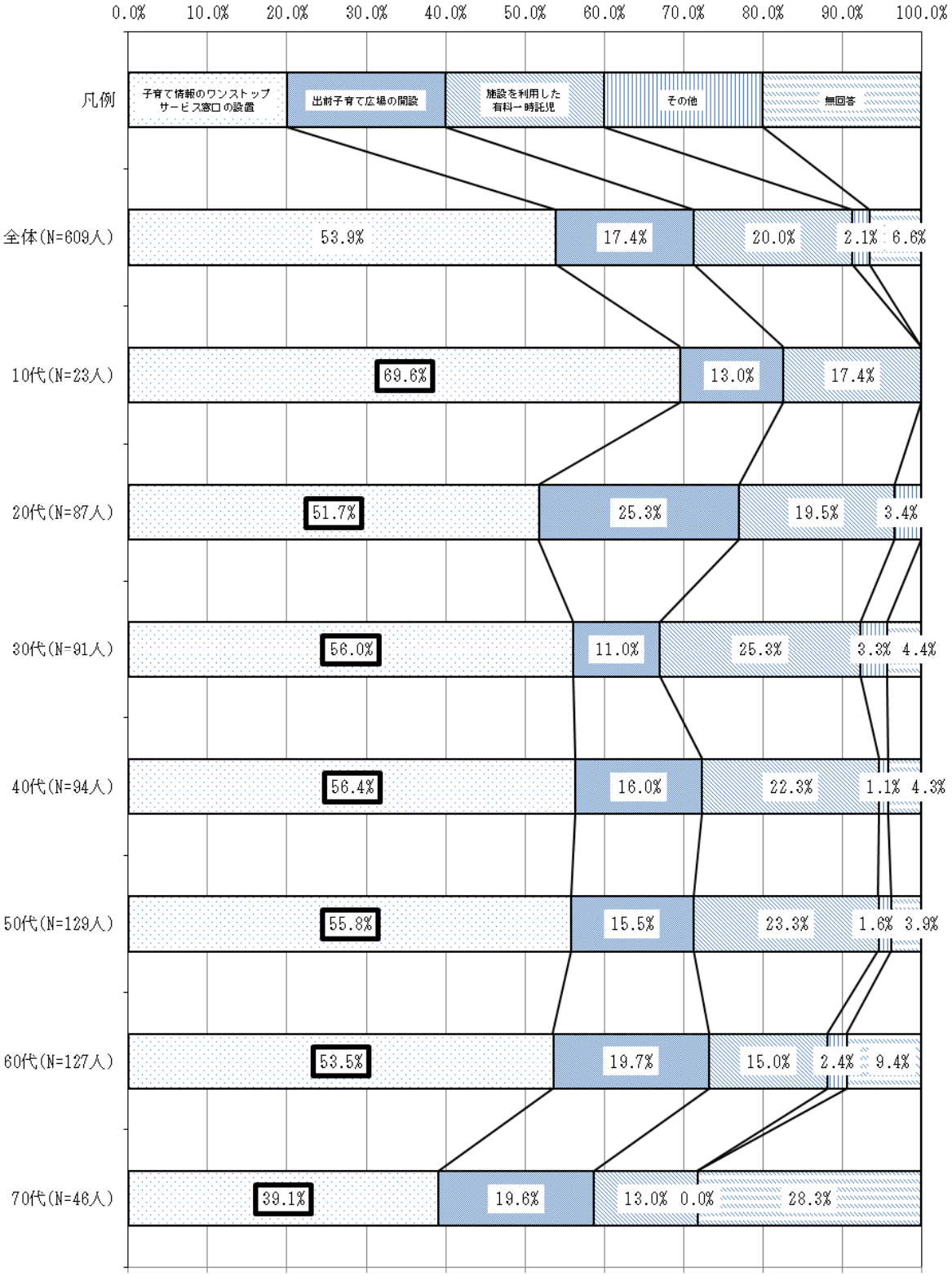


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「子育て情報のワンストップサービス窓口の設置」の回答割合が最も高くなっている。

○20 代において、「出前子育て広場の開所」の回答割合が 25.3%と他の年代に比べて高くなっている。

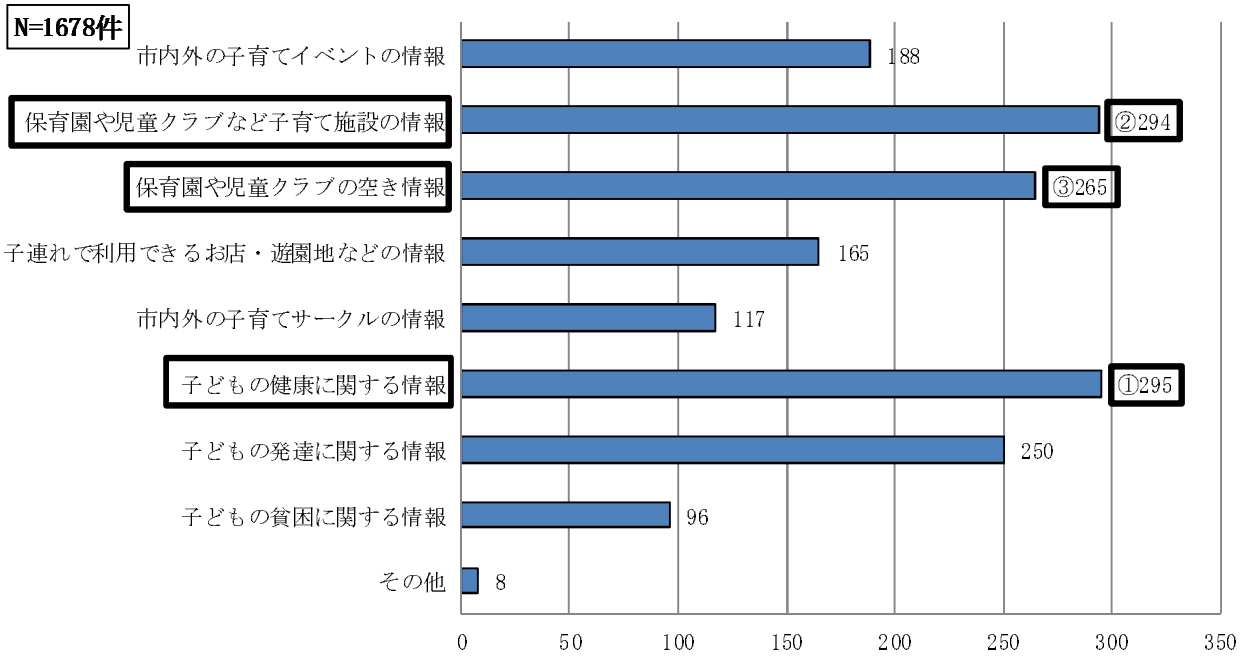


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問４　地域子育て支援拠点施設でどのような情報が欲しいですか。該当する番号すべてに〇印をつけてください。

【全体】

〇地域子育て支援拠点施設が提供する情報に対する要望について、「子どもの健康に関する情報」が 295 件と最も回答数が多く、次いで「保育園や児童クラブのなど子育て施設情報」が 294 件、「保育園や児童クラブの空き情報」が 265 件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・転居等の情報。（男性／10 代／西仙北／正規社員・職員／独身）

・必要なし。（男性／60 代／中仙／正規社員・職員／独身）

・夜間の受診、入院できる病院の情報。（無回答）

【性別】

○男女どちらにおいても、「保育園や児童クラブのなど子育て施設情報」、「保育園や児童クラブの空き情報」、「子どもの健康に関する情報」の３項目が上位となっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「保育園や児童クラブのなど子育て施設情報」、「子どもの健康に関する情報」の２項目が上位となっている。

○20 代、30 代、40 代、60 代において、「保育園や児童クラブの空き情報」が上位となっている。

○10 代、50 代、70 代において、「子どもの発達に関する情報」が上位となっている。

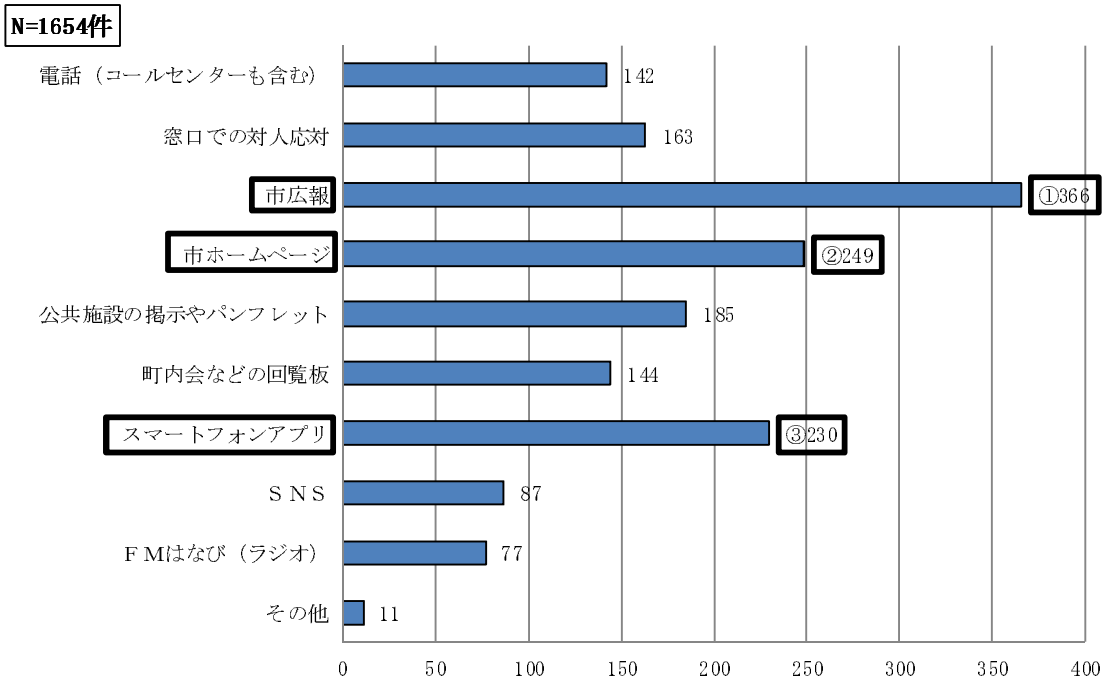
	有効回答数（N）	市内外の子育てイベントの情報	保育園や児童クラブなど子育て施設の情報	保育園や児童クラブの空き情報	子連れで利用できるお店・遊園地などの情報	市内外の子育てサークルの情報	子どもの健康に関する情報	子どもの発達に関する情報	子どもの貧困に関する情報	その他
全体	1678	11.2%	17.5%	15.8%	9.8%	7.0%	17.6%	14.9%	5.7%	0.5%
《性別》										
男性	801	11.0%	②17.9%	③15.1%	8.7%	7.9%	①18.4%	14.1%	6.4%	0.6%
女性	855	11.5%	①17.3%	③16.6%	10.8%	6.3%	②16.8%	15.6%	4.9%	0.2%
《年代別》										
10代	70	11.4%	①18.6%	12.9%	10.0%	5.7%	③17.1%	①18.6%	4.3%	1.4%
20代	237	8.9%	①18.1%	②17.7%	13.5%	3.0%	②17.7%	16.0%	3.8%	1.3%
30代	265	11.7%	②19.6%	①20.4%	9.1%	4.9%	③16.2%	13.6%	4.2%	0.4%
40代	250	10.4%	②16.8%	③16.0%	10.8%	5.6%	①20.4%	③16.0%	4.0%	0.0%
50代	366	13.1%	②17.2%	12.8%	7.9%	8.7%	①18.3%	③15.3%	6.3%	0.3%
60代	365	11.0%	①16.7%	②16.4%	9.0%	9.0%	②16.4%	13.2%	7.9%	0.3%
70代	96	11.5%	①16.7%	10.4%	9.4%	13.5%	②15.6%	③14.6%	8.3%	0.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

問５　地域子育て支援拠点施設やその他、子育てに関する情報について、どのような手段を用いると情報を得やすいですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○地域子育て支援拠点施設やその他、子育てに関する情報を得る手段について、「市広報」が 366 件と最も回答数が多く、次いで「市ホームページ」が 249 件、「スマートフォンアプリ」が 230 件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

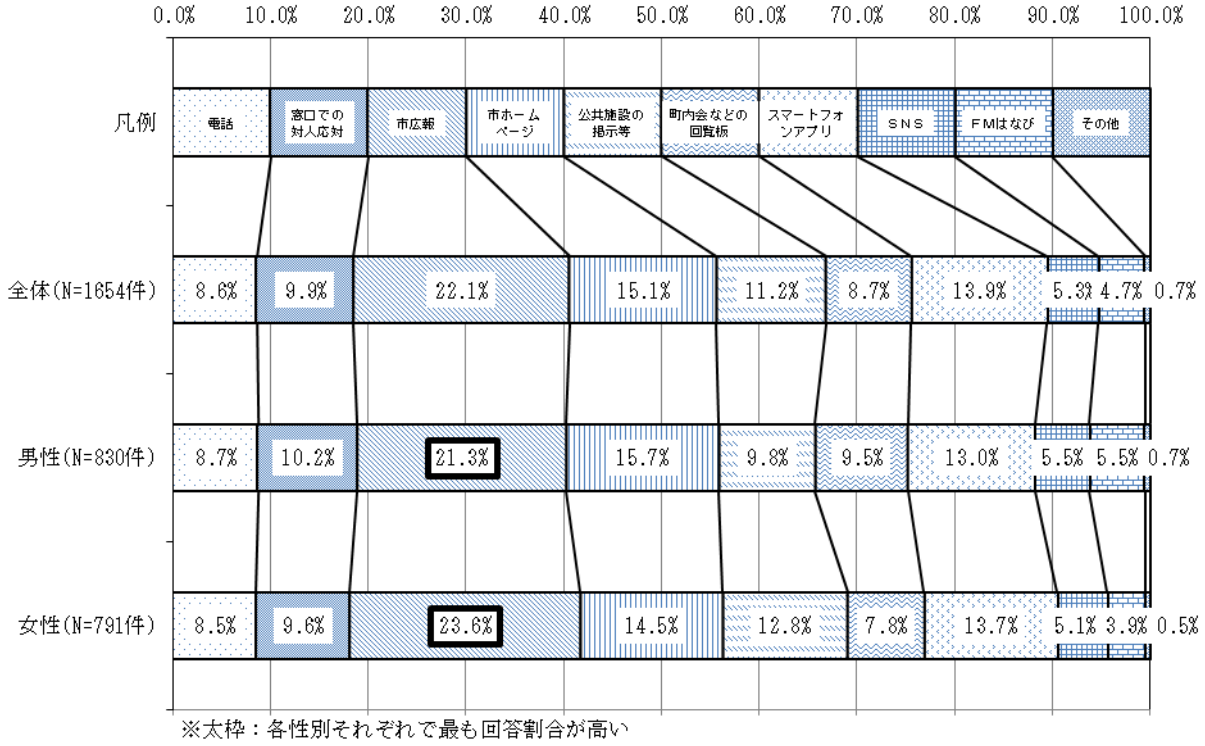
・テレビ CM。（男性／30 代／太田／派遣・契約社員／既婚）

・個人個人に書面で通知する。（女性／30 代／西仙北／正規社員・職員／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「市広報」の回答割合が、男性21.3%、女性23.6%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

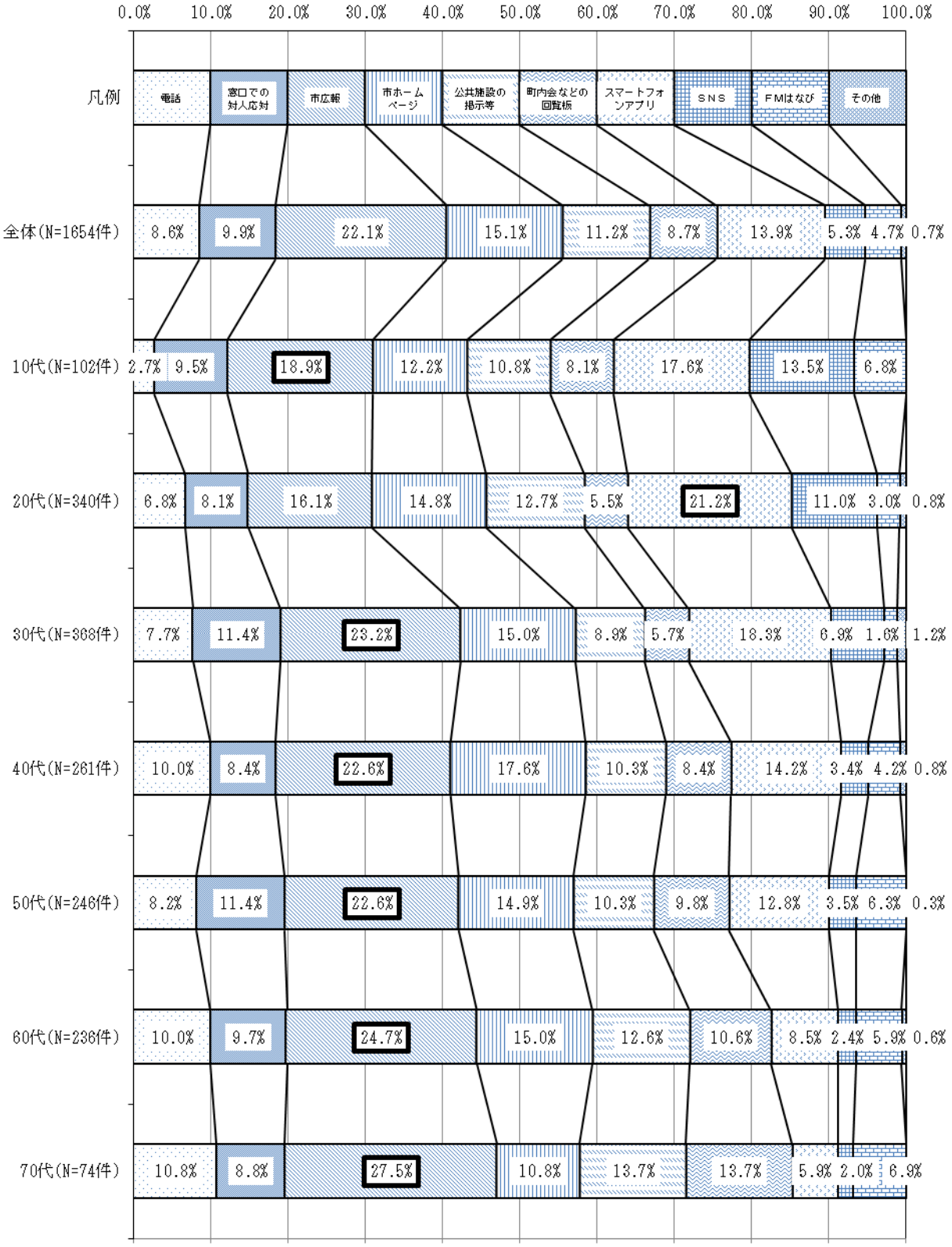


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○20 代を除く全年代において、「市広報」の回答割合が最も高くなっている。

○20 代においては、「スマートフォンアプリ」の回答割合が、21.2%最も高くなっている。

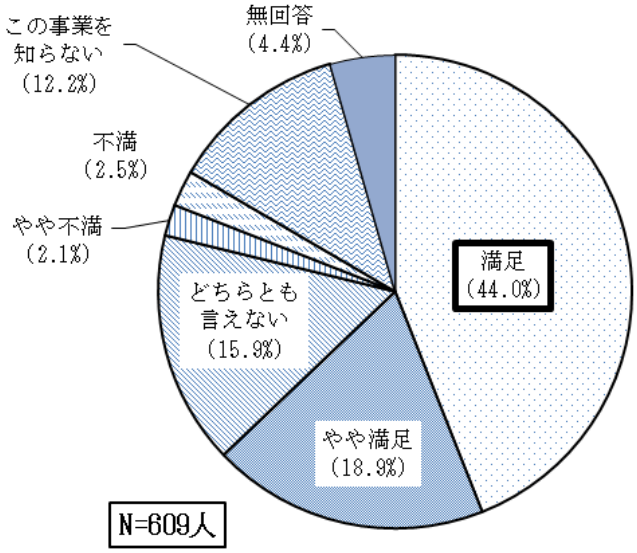


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問６　市では、子育て世帯への経済的支援として、福祉医療費助成事業（マル福）を行っています。市が行っている福祉医療費助成事業（マル福）では、秋田県の基準を拡大し、中学校修了までの子どもの医療費自己負担分全額を助成しています。あなたはこの福祉医療費助成事業に満足していますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

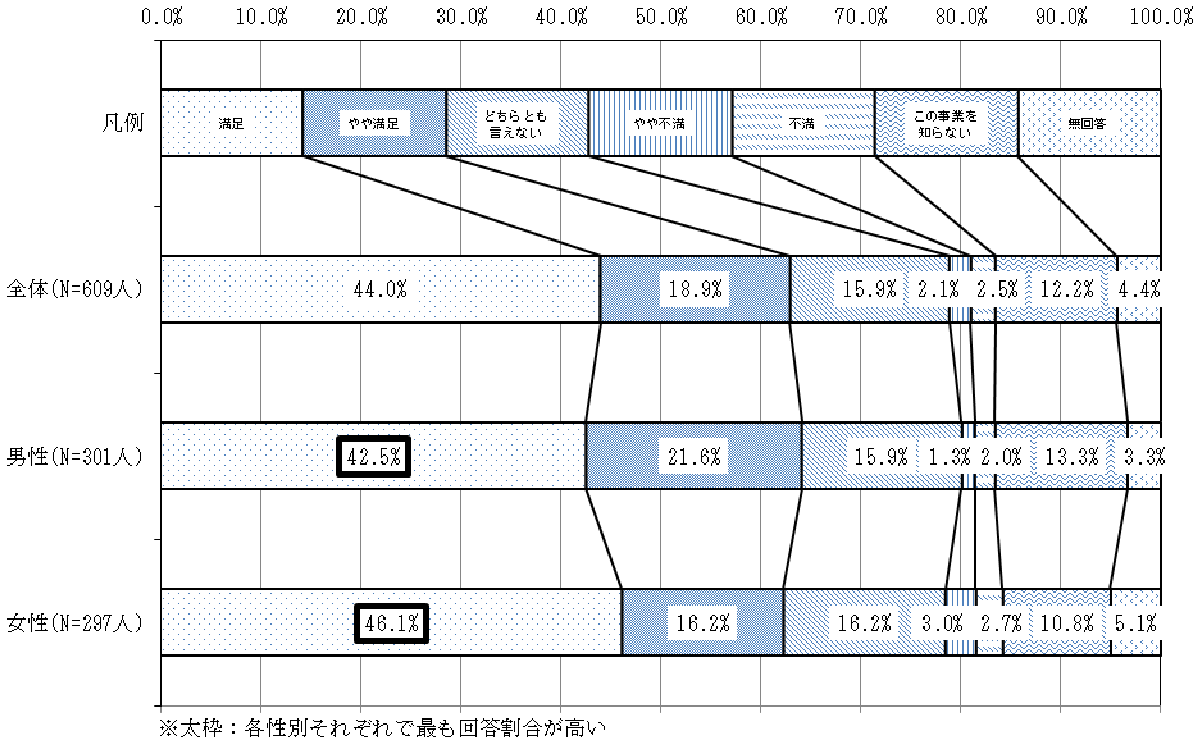
○福祉医療費助成事業（マル福）の満足度について、「満足」が 44.0％と最も回答割合が高く、次いで「やや満足」が 18.9％となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「満足」の回答割合が、男性 42.5%、女性 46.1%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

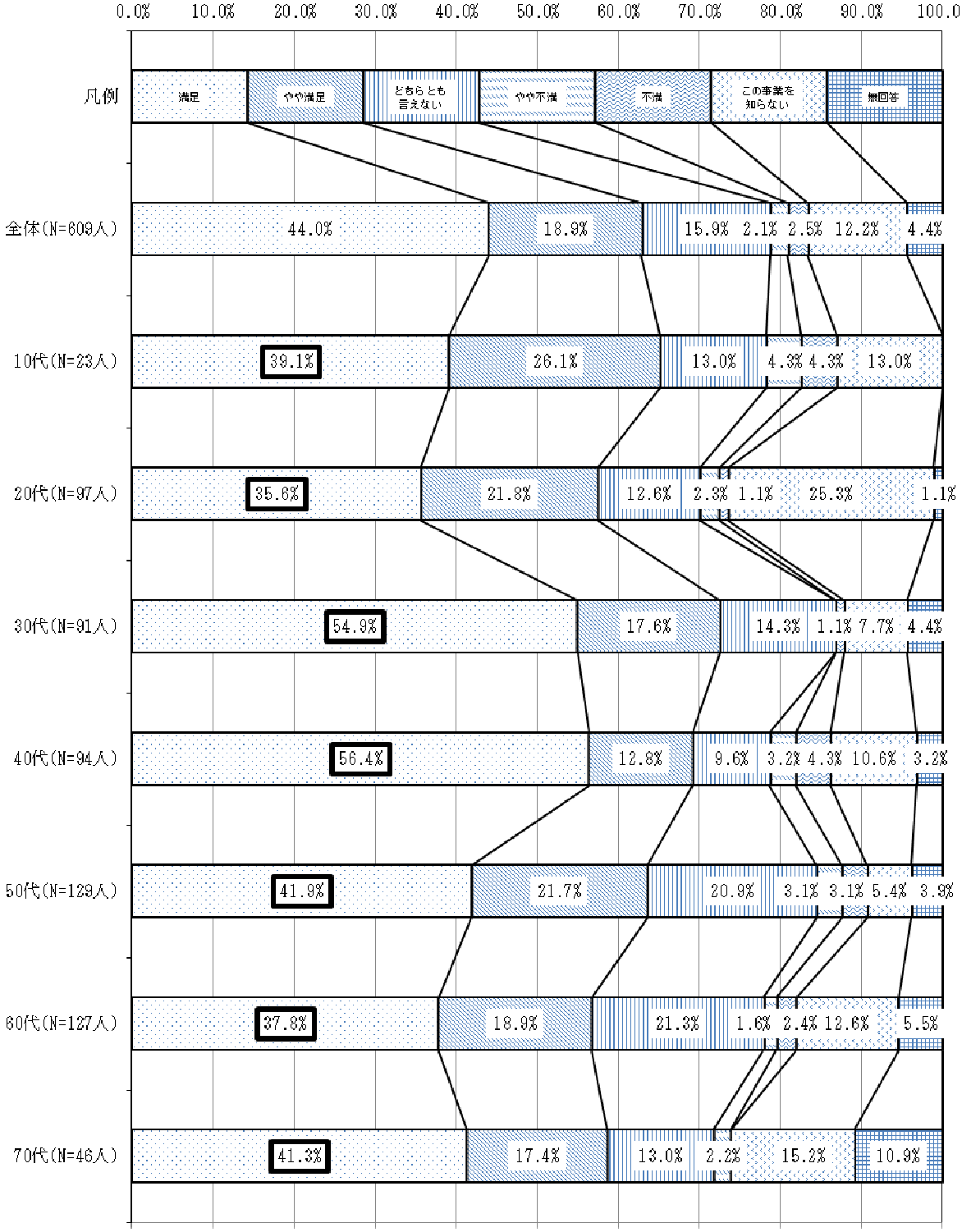


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「満足」の回答割合が最も高くなっている。

○30 代、40 代において、「満足」の回答割合が、30 代 54.9%、40 代 56.4%と他の年代に比べて高い割合となっている。



※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

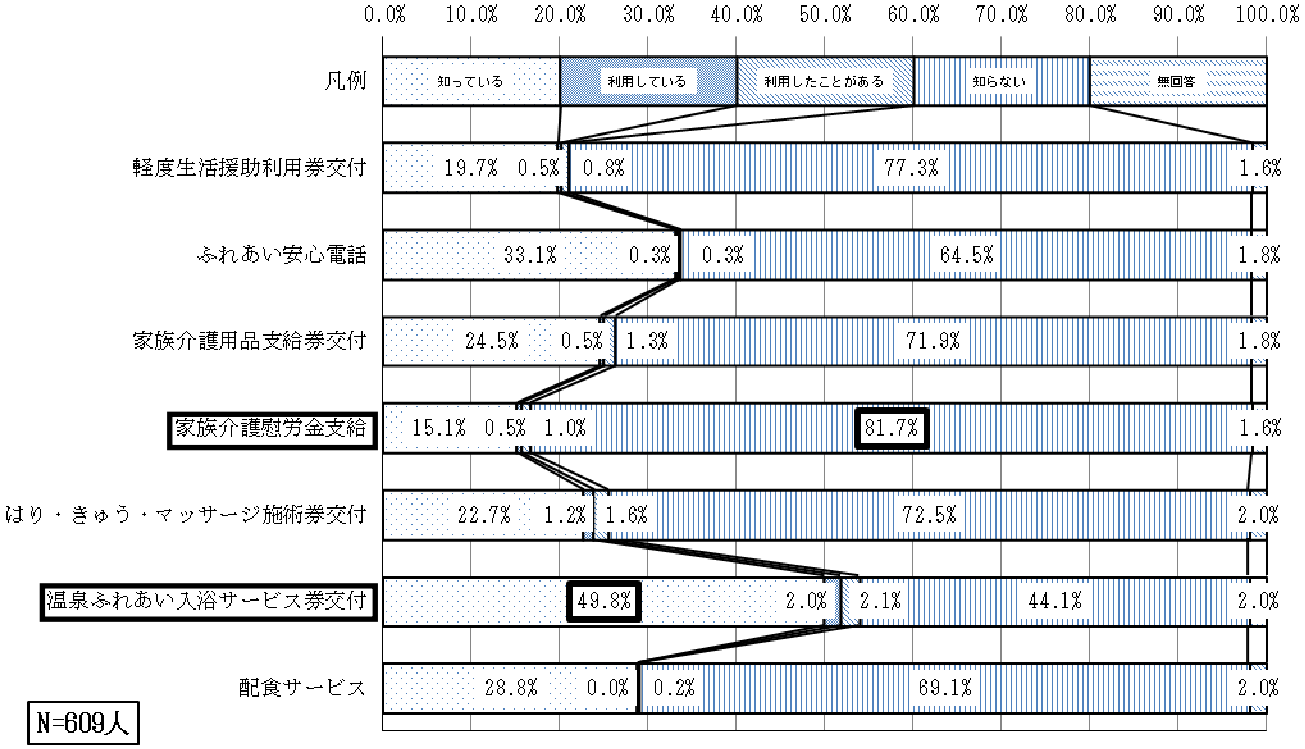
2.6 「高齢者生活支援サービス事業」について

問１　市で実施している次の生活支援サービス、家族介護支援サービスの中で、内容を知っているものには「１」、利用しているものには「２」、利用したことがあるものには「３」、知らないものには「４」に○印をつけてください。

【全体】

○市が実施している生活支援サービス、家族支援サービスの認知度等について、「温泉ふれあい入浴サービス券交付」を「知っている」の回答割合が 49.8%と最も高くなっている。

○「家族介護慰労金支給」を「知らない」の回答割合が 81.7%と最も高くなっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「温泉ふれあい入浴サービス券交付」を「知っている」の回答割合が、男性46.5%、女性53.9%と最も高く、「家族介護慰労金支給」を「知らない」の回答割合が、男性83.7%、女性79.5%と高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

《性別》		有効回答数（N）	知っている	利用している	利用したことがある	知らない	無回答
軽度生活援助利用券交付	全体	609人	19.7%	0.5%	0.8%	77.3%	1.6%
	男性	301人	17.6%	0.0%	0.0%	80.4%	2.0%
	女性	297人	21.9%	0.7%	1.7%	74.4%	1.3%
ふれあい安心電話	全体	609人	33.1%	0.3%	0.3%	64.5%	1.8%
	男性	301人	29.6%	0.7%	0.0%	67.8%	2.0%
	女性	297人	37.0%	0.0%	0.7%	60.9%	1.3%
家族介護用品支給券交付	全体	609人	24.5%	0.5%	1.3%	71.9%	1.8%
	男性	301人	19.3%	0.3%	2.0%	76.7%	1.7%
	女性	297人	30.0%	0.7%	0.7%	67.0%	1.7%
家族介護慰労金支給	全体	609人	15.1%	0.5%	1.0%	81.7%	1.6%
	男性	301人	13.3%	0.3%	1.0%	83.7%	1.7%
	女性	297人	17.5%	0.7%	1.0%	79.5%	1.3%
はり・きゅう・マッサージ施術券交付	全体	609人	22.7%	1.2%	1.6%	72.5%	2.0%
	男性	301人	16.6%	1.0%	1.0%	78.7%	2.7%
	女性	297人	29.3%	1.3%	2.0%	66.3%	1.0%
温泉ふれあい入浴サービス券交付	全体	609人	49.8%	2.0%	2.1%	44.1%	2.0%
	男性	301人	46.5%	1.0%	1.7%	48.2%	2.7%
	女性	297人	53.9%	3.0%	2.4%	39.7%	1.0%
配食サービス	全体	609人	28.8%	0.0%	0.2%	69.1%	2.0%
	男性	301人	22.9%	0.0%	0.3%	74.8%	2.0%
	女性	297人	34.7%	0.0%	0.0%	63.6%	1.7%

着色部：各性別それぞれで「知っている」割合が最も高い

下線部：各性別それぞれで「知らない」割合が最も高い

【年代別】

○全年代において、「温泉ふれあい入浴サービス券交付」を「知っている」の回答割合が最も高くなっている。70代においては、「ふれあい安心電話」を「知っている」の回答割合が45.7%と最も高くなっている。

○10代、20代において、「はり・きゅう・マッサージ施術券交付」を「知らない」の回答割合が、10代95.7%、20代90.8%と最も高くなっている。30代から70代においては、「家族介護慰労金支給」を「知らない」の回答割合が、年代を通して高くなっている。

《年代別》		有効回答数（N）	知っている	利用している	利用したことがある	知らない	無回答
軽度生活援助利用券交付	全体	609人	19.7%	0.5%	0.8%	77.3%	1.6%
	10代	23人	8.7%	0.0%	0.0%	91.3%	0.0%
	20代	87人	9.2%	0.0%	1.1%	89.7%	0.0%
	30代	91人	17.6%	0.0%	0.0%	80.2%	2.2%
	40代	94人	9.6%	0.0%	1.1%	89.4%	0.0%
	50代	129人	27.1%	0.0%	0.8%	72.1%	0.0%
	60代	127人	27.6%	0.0%	0.8%	69.3%	2.4%
	70代	46人	28.3%	4.3%	2.2%	54.3%	10.9%
ふれあい安心電話	全体	609人	33.1%	0.3%	0.3%	64.5%	1.8%
	10代	23人	26.1%	0.0%	0.0%	73.9%	0.0%
	20代	87人	20.7%	0.0%	0.0%	79.3%	0.0%
	30代	91人	22.0%	0.0%	0.0%	74.7%	3.3%
	40代	94人	20.2%	0.0%	0.0%	79.8%	0.0%
	50代	129人	38.8%	0.0%	0.8%	60.5%	0.0%
	60代	127人	51.2%	0.8%	0.0%	46.5%	1.6%
	70代	46人	45.7%	2.2%	2.2%	39.1%	10.9%
家族介護用品支給券交付	全体	609人	24.5%	0.5%	1.3%	71.9%	1.8%
	10代	23人	26.1%	0.0%	0.0%	73.9%	0.0%
	20代	87人	12.6%	1.1%	1.1%	85.1%	0.0%
	30代	91人	23.1%	0.0%	1.1%	73.6%	2.2%
	40代	94人	18.1%	0.0%	1.1%	80.9%	0.0%
	50代	129人	31.8%	0.0%	3.1%	64.3%	0.8%
	60代	127人	31.5%	0.0%	0.8%	65.4%	2.4%
	70代	46人	23.9%	4.3%	0.0%	63.0%	8.7%
家族介護慰労金支給	全体	609人	15.1%	0.5%	1.0%	81.7%	1.6%
	10代	23人	13.0%	0.0%	0.0%	87.0%	0.0%
	20代	87人	10.3%	0.0%	1.1%	88.5%	0.0%
	30代	91人	11.0%	0.0%	1.1%	85.7%	2.2%
	40代	94人	6.4%	0.0%	0.0%	93.6%	0.0%
	50代	129人	20.2%	0.8%	1.6%	77.5%	0.0%
	60代	127人	22.8%	0.0%	0.8%	74.0%	2.4%
	70代	46人	19.6%	4.3%	2.2%	65.2%	8.7%

着色部：各年代それぞれで「知っている」割合が最も高い

下線部：各年代それぞれで「知らない」割合が最も高い

※次のページに続く

《年代別》		有効回答数（N）	知っている	利用している	利用したことがある	知らない	無回答
はり・きゅう・マッサージ施術券交付	全体	609人	22.7%	1.2%	1.6%	72.5%	2.0%
	10代	23人	4.3%	0.0%	0.0%	95.7%	0.0%
	20代	87人	9.2%	0.0%	0.0%	90.8%	0.0%
	30代	91人	12.1%	1.1%	1.1%	82.4%	3.3%
	40代	94人	14.9%	0.0%	1.1%	84.0%	0.0%
	50代	129人	33.3%	2.3%	0.8%	63.6%	0.0%
	60代	127人	31.5%	0.8%	2.4%	63.0%	2.4%
	70代	46人	43.5%	4.3%	6.5%	34.8%	10.9%
温泉ふれあい入浴サービス券交付	全体	609人	49.8%	2.0%	2.1%	44.1%	2.0%
	10代	23人	43.5%	0.0%	0.0%	56.5%	0.0%
	20代	87人	29.9%	1.1%	0.0%	69.0%	0.0%
	30代	91人	40.7%	0.0%	3.3%	52.7%	3.3%
	40代	94人	45.7%	0.0%	2.1%	52.1%	0.0%
	50代	129人	62.8%	3.1%	1.6%	32.6%	0.0%
	60代	127人	64.6%	0.0%	2.4%	30.7%	2.4%
	70代	46人	45.7%	15.2%	4.3%	23.9%	10.9%
配食サービス	全体	609人	28.8%	0.0%	0.2%	69.1%	2.0%
	10代	23人	30.4%	0.0%	0.0%	69.6%	0.0%
	20代	87人	16.1%	0.0%	0.0%	83.9%	0.0%
	30代	91人	23.1%	0.0%	0.0%	74.7%	2.2%
	40代	94人	18.1%	0.0%	0.0%	81.9%	0.0%
	50代	129人	32.6%	0.0%	0.8%	65.9%	0.8%
	60代	127人	40.9%	0.0%	0.0%	56.7%	2.4%
	70代	46人	41.3%	0.0%	0.0%	47.8%	10.9%

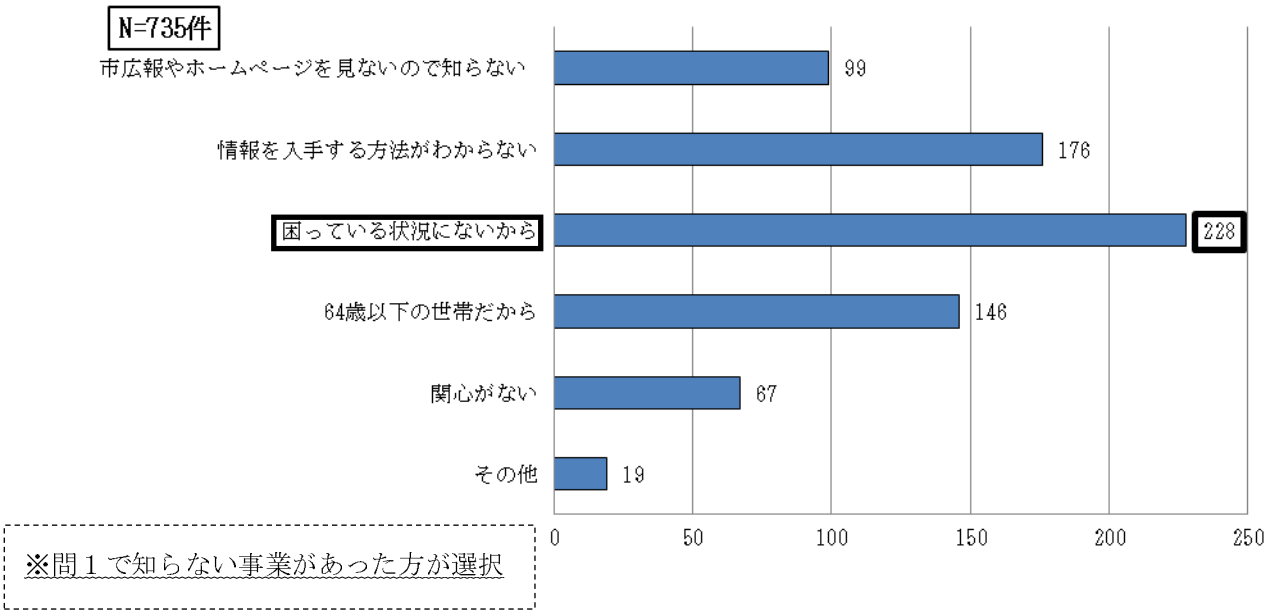
着色部：各年代それぞれで「知っている」割合が最も高い

下線部：各年代それぞれで「知らない」割合が最も高い

問２　問１で「４」というお答えがあった方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

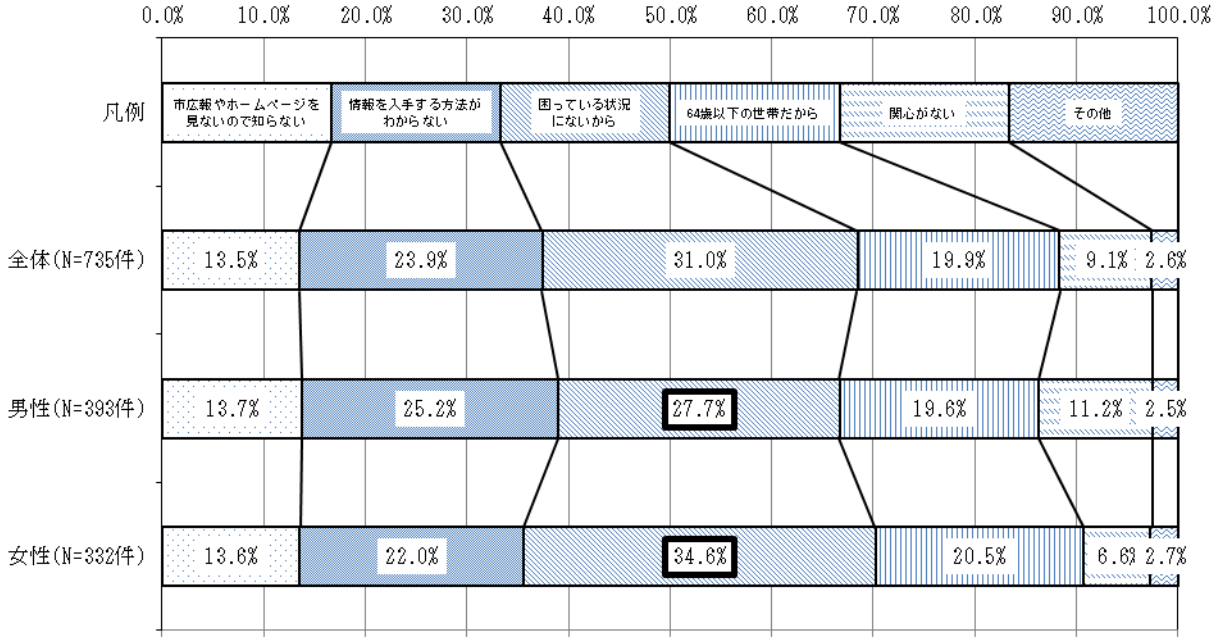
○市が実施している生活支援サービス、家族支援サービスを知らない理由について、「困っている状況にないから」が 228 件と最も回答数が多く、次いで「情報を入手する方法がわからない」が 176 件となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「困っている状況にないから」の回答割合が、男性 27.7%、女性 34.6%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

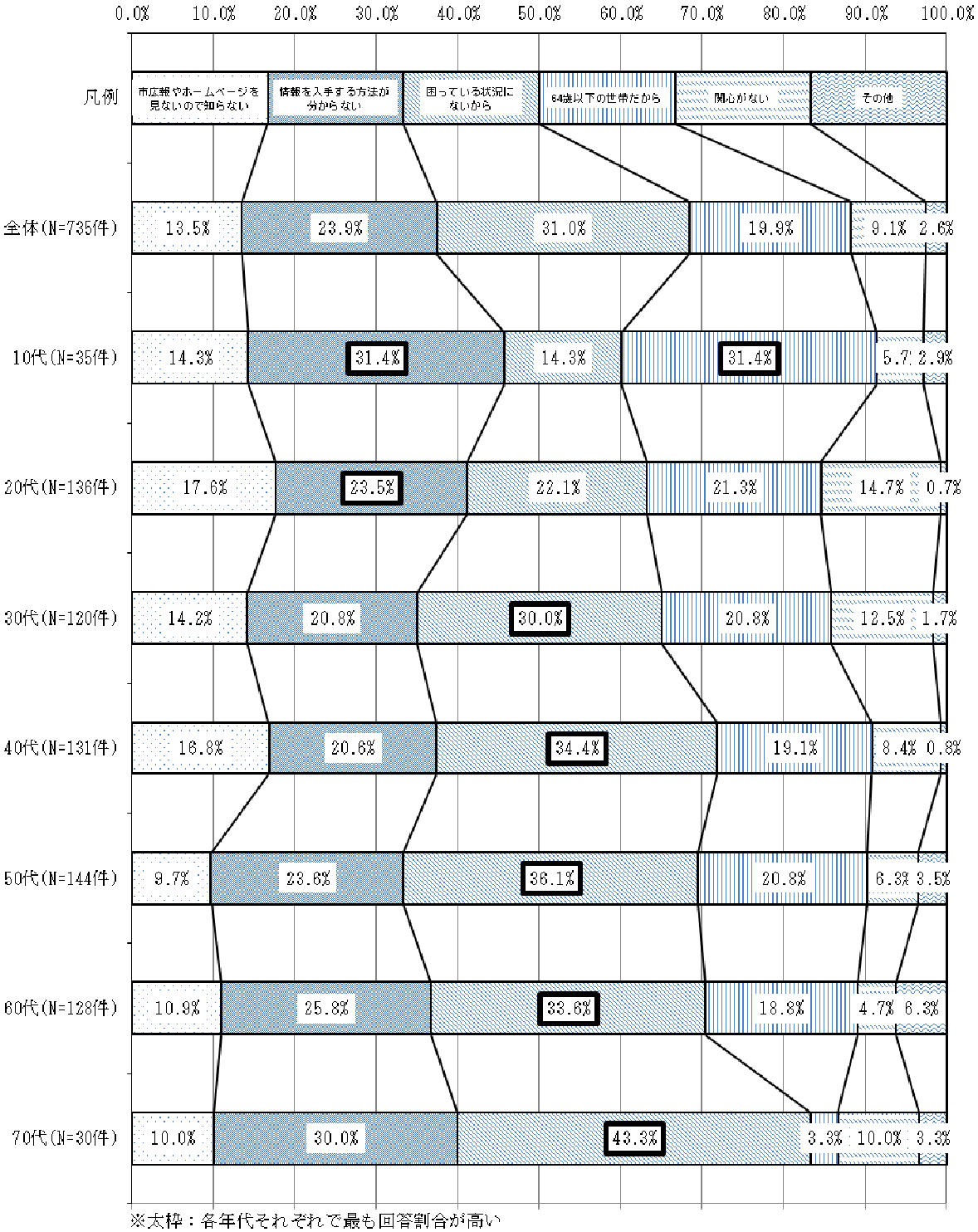


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○10 代、20 代において、「情報を入手する方法がわからない」の回答割合が、10 代 31.4%、20 代 23.5%と最も高くなっている。

○30 代から 70 代において、「困っている状況にないから」の回答割合が最も高くなっている。

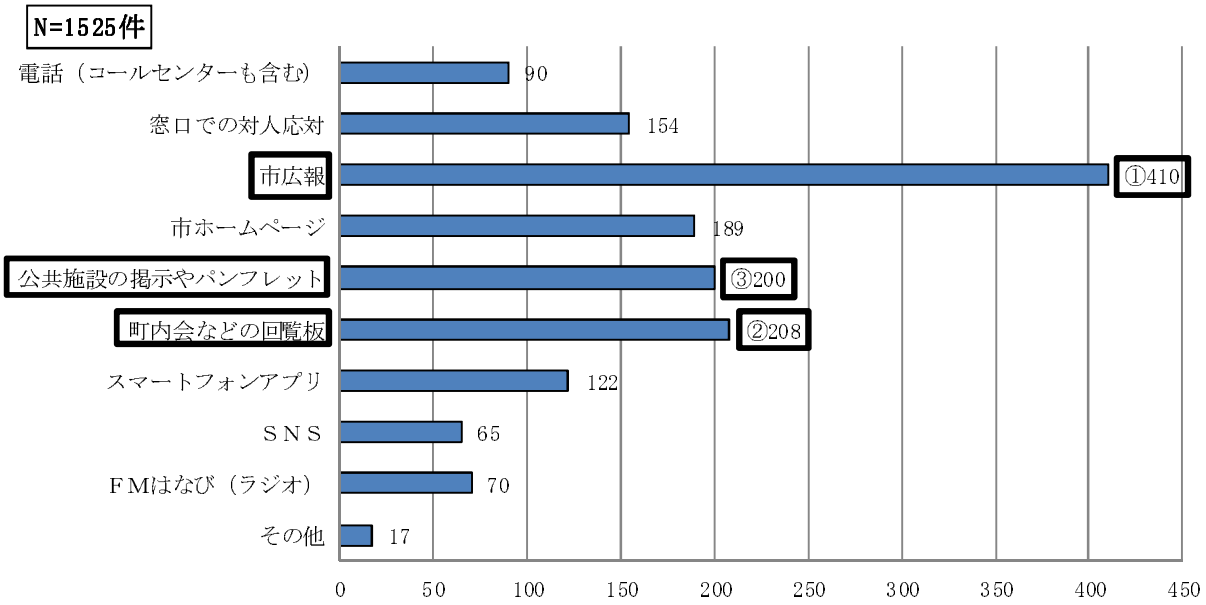


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問３　今後は制度やサービスについて、どのような手段を用いると情報を得やすいですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○市が実施している生活支援サービス、家族支援サービスに関する情報を得る手段について、「市広報」が 410 件と最も多く、次いで「町内会などの回覧板」が 208 件、「公共施設の掲示やパンフレット」が 200 件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

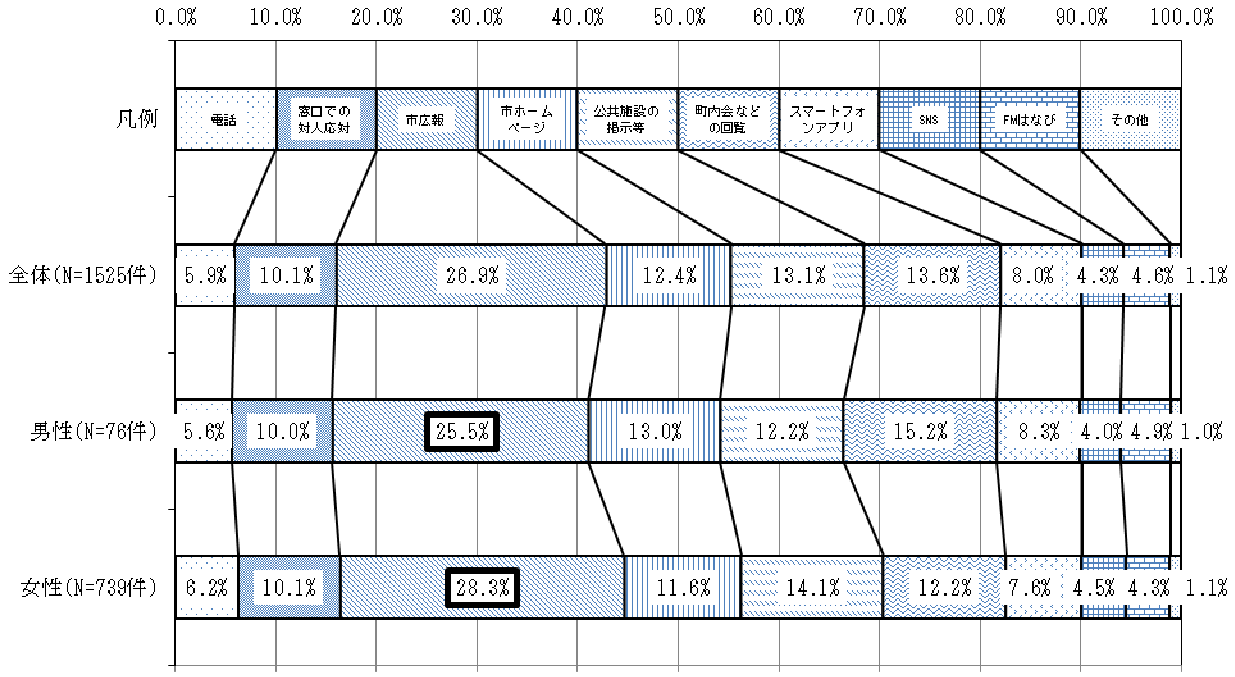
・職場を通じて。（男性／10 代／西仙北／正規社員・職員／独身）

・訪問、書面、電話等によって、個別に通知する。（女性／10 代／協和／学生／独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「市広報」、「町内会などの回覧板」が上位となっている。

○男性においては、「市ホームページ」が上位となっている。女性においては、「公共施設の掲示やパンフレット」が上位となっている。



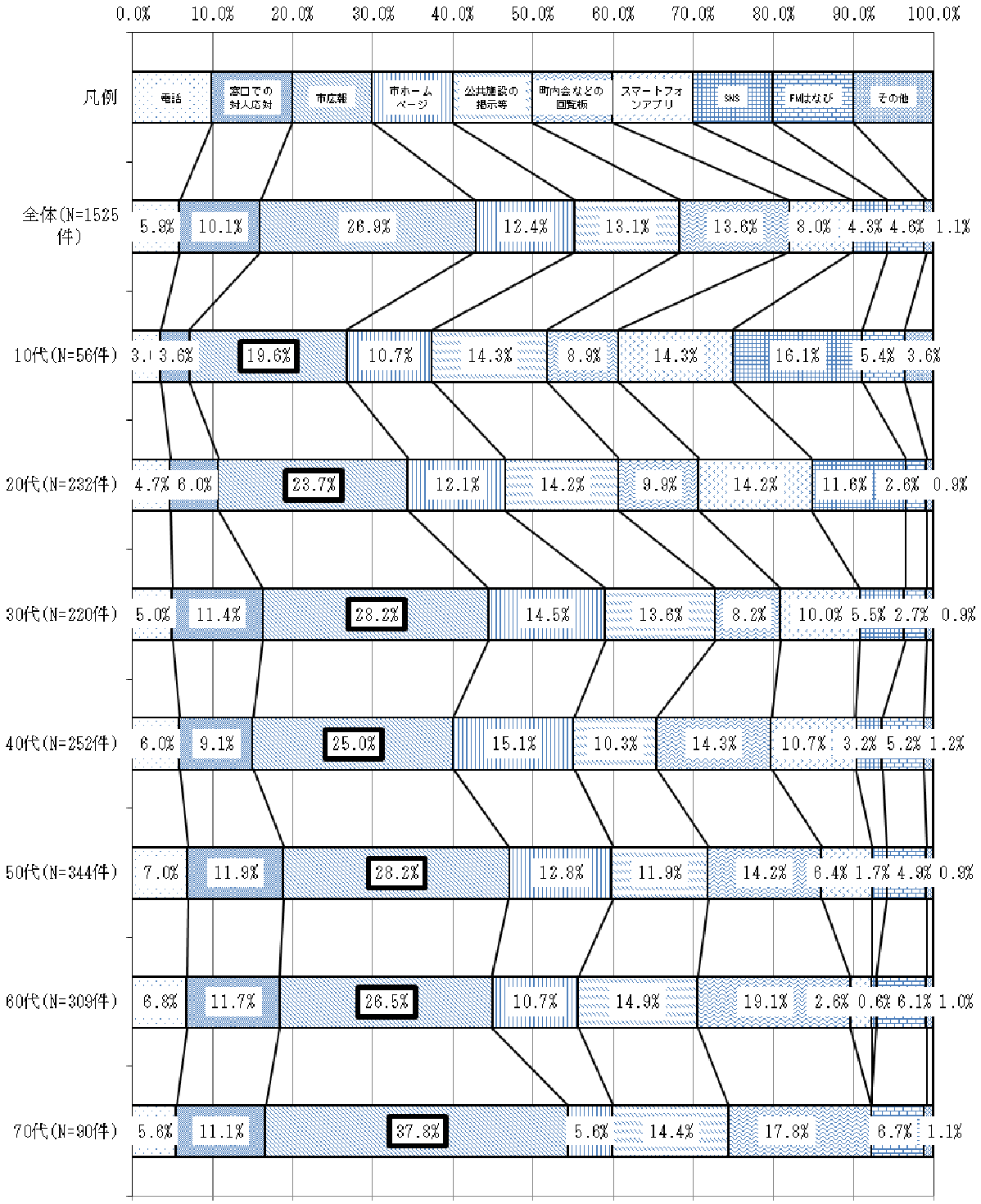
※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「市広報」の回答割合が最も高くなっている。

○10 代、20 代、30 代、60 代、70 代において、「公共施設の掲示やパンフレット」が上位となっている。

○40 代から 70 代において、「町内会などの回覧板」が上位となっている。

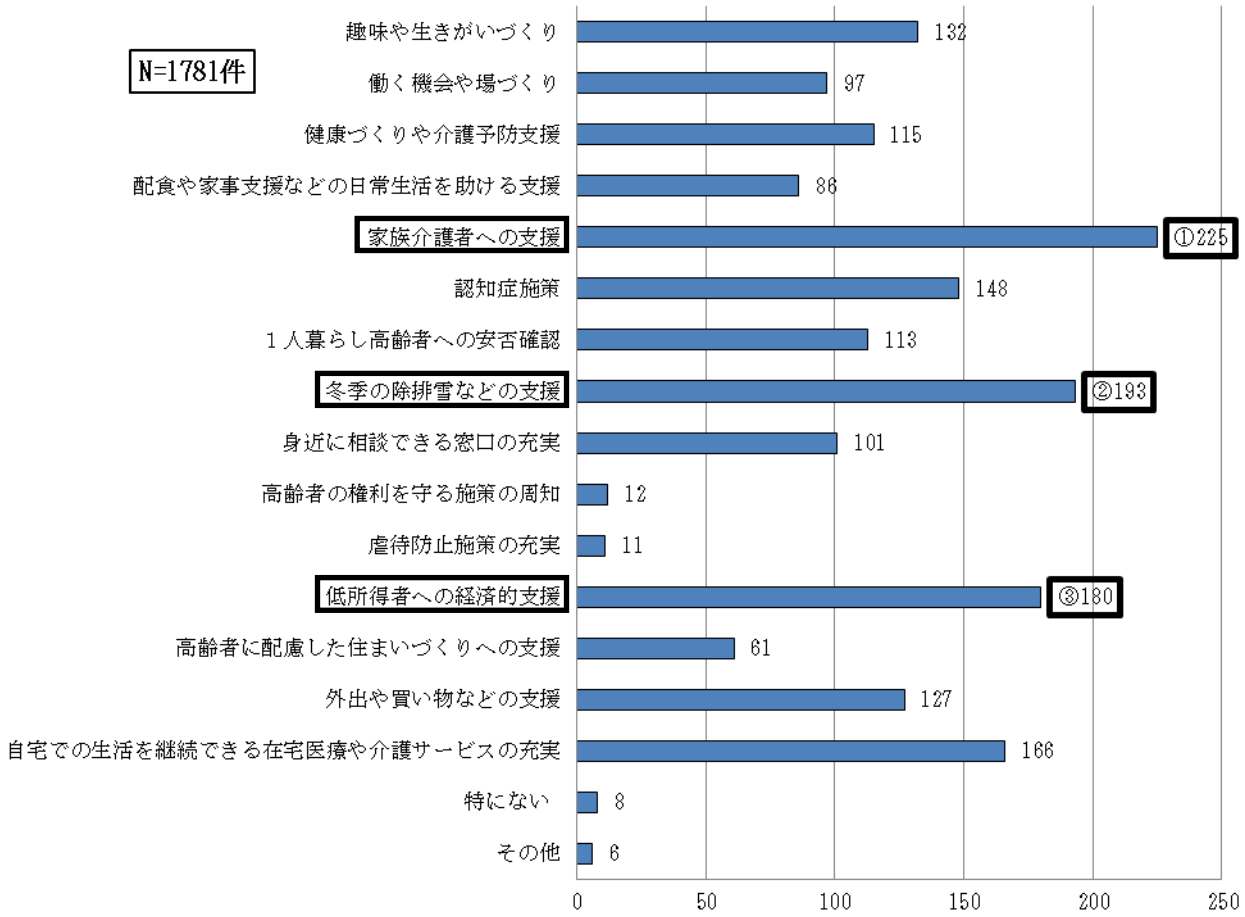


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問４　今後、より充実してほしい高齢者施策はどのようなものですか。該当する番号３つに〇印をつけてください。

【全体】

〇今後、より充実してほしい高齢者施策について、「家族介護者への支援」が 225 件と最も多く、次いで「冬季の除排雪などへの支援」が 193 件、「低所得者への経済的支援」が 180 件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・年金を上げる。（女性／20 代／南外／正規社員・職員／独身）

・中心市街地への移住支援。（男性／30 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・一人暮らしの人の病院送迎。（女性／60 代／西仙北／無職／既婚）

・料金のかからない支援。（女性／60 代／中仙／パート・アルバイト／独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「家族介護者への支援」、「冬季の除排雪などの支援」が上位となっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○10 代から 60 代において、「家族介護者への支援」が上位となっている。

○30 代から 50 代、70 代において、「冬季の除排雪などの支援」が上位となっている。

○20 代、40 代、60 代、70 代において、「低所得者への経済的支援」が上位となっている。

	有効回答数（N）	趣味や生きがいづくり	働く機会や場づくり	健康づくりや介護予防支援	配食や家事支援などの日常生活を助ける支援	家族介護者への支援	認知症施策	1人暮らし高齢者への安否確認	冬季の除排雪などの支援	身近に相談できる窓口の充実	高齢者の権利を守る施策の周知	虐待防止施策の充実	低所得者への経済的支援	高齢者に配慮した住まいづくりへの支援	外出や買い物などの支援	自宅での生活を継続できる在宅医療や介護サービスの充実	特にない	その他
全体	1781件	7.4%	5.4%	6.5%	4.8%	12.6%	8.3%	6.3%	10.8%	5.7%	0.7%	0.6%	10.1%	3.4%	7.1%	9.3%	0.4%	0.3%
《性別》																		
男性	853件	8.0%	7.0%	6.0%	4.7%	①13.7%	9.5%	6.7%	③10.0%	5.4%	0.7%	0.8%	②10.8%	3.2%	5.4%	7.4%	0.7%	0.4%
女性	889件	7.0%	4.0%	6.9%	5.1%	②11.7%	7.0%	6.1%	①11.9%	5.8%	0.7%	0.6%	9.6%	3.7%	8.5%	③10.9%	0.2%	0.3%
《年代別》																		
10代	66件	①12.1%	①12.1%	①12.1%	4.5%	①12.1%	3.0%	6.1%	10.6%	4.5%	0.0%	3.0%	7.6%	4.5%	3.0%	3.0%	1.5%	0.0%
20代	259件	①12.7%	3.1%	7.3%	2.7%	②11.6%	9.7%	6.9%	10.0%	4.6%	1.2%	0.4%	③11.2%	3.1%	7.7%	6.2%	0.8%	0.8%
30代	266件	4.5%	7.5%	3.8%	5.6%	①14.3%	③9.4%	6.8%	②12.4%	5.6%	0.0%	1.1%	8.6%	2.3%	8.3%	9.0%	0.4%	0.4%
40代	287件	7.7%	8.4%	6.6%	3.5%	②12.5%	8.4%	6.6%	①14.6%	4.2%	0.0%	0.0%	③8.7%	3.8%	7.7%	7.3%	0.0%	0.0%
50代	378件	6.9%	4.2%	5.6%	4.2%	①13.5%	③10.3%	5.8%	②11.1%	5.6%	0.5%	0.3%	9.3%	3.2%	9.0%	9.8%	0.5%	0.3%
60代	361件	5.0%	4.7%	7.5%	7.5%	①12.5%	6.9%	5.3%	7.5%	6.4%	1.4%	0.6%	①12.5%	4.7%	4.4%	①12.5%	0.3%	0.6%
70代	122件	9.0%	2.5%	6.6%	5.7%	9.8%	2.5%	9.0%	③11.5%	9.0%	1.6%	0.8%	①12.3%	1.6%	4.9%	①12.3%	0.8%	0.0%

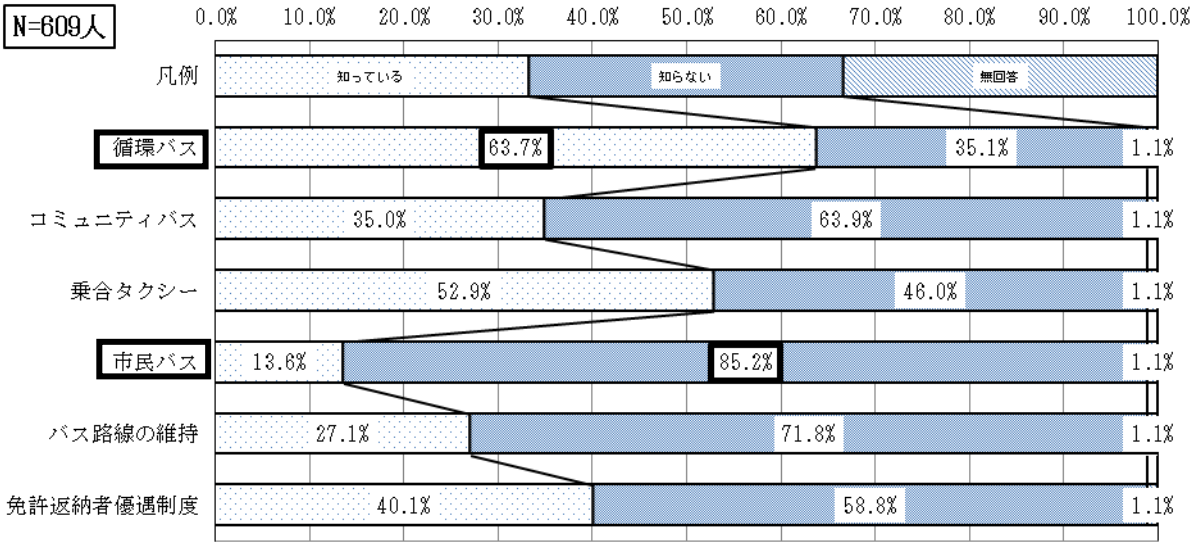
※着色部：各性別、各年代それぞれで回答割合が高い３項目

2.7 「地域交通対策事業」について

問１　市が実施している地域交通対策事業について、知っているものの番号に○印をつけてください。

【全体】

○市が実施している地域交通対策事業の認知度について、「循環バス」を「知っている」の回答割合が、63.7%と最も高く、「市民バス」を「知らない」の回答割合が85.2%と最も高くなっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「循環バス」を「知っている」の回答割合が、男性63.5%、女性64.6%と最も高く、「市民バス」を「知らない」の回答割合が、男性85.7%、女性84.8%と最も高くなっている。

○男性が女性より「バス路線の維持」を「知っている」の回答割合が高く、男性が33.6%で女性よりも12.4ポイント高くなっている。

《性別》		有効回答数（N）	知っている	知らない	無回答
循環バス	全体	609人	63.2%	34.9%	2.0%
	男性	301人	63.5%	35.2%	1.3%
	女性	297人	64.6%	34.7%	0.7%
コミュニティバス	全体	609人	34.7%	63.4%	2.0%
	男性	301人	33.9%	64.8%	1.3%
	女性	297人	36.4%	63.0%	0.7%
乗合タクシー	全体	609人	52.4%	45.6%	2.0%
	男性	301人	52.8%	45.8%	1.3%
	女性	297人	52.9%	46.5%	0.7%
市民バス	全体	609人	13.5%	84.5%	2.0%
	男性	301人	13.0%	85.7%	1.3%
	女性	297人	14.5%	84.8%	0.7%
バス路線の維持	全体	609人	26.9%	71.2%	2.0%
	男性	301人	33.6%	65.1%	1.3%
	女性	297人	21.2%	78.1%	0.7%
免許返納者優遇制度	全体	609人	39.7%	58.3%	2.0%
	男性	301人	43.5%	55.1%	1.3%
	女性	297人	36.0%	63.3%	0.7%

着色部：各性別それぞれで「知っている」割合が最も高い

下線部：各性別それぞれで「知らない」割合が最も高い

【年代別】

○10 代から 50 代において、「循環バス」を「知っている」の回答割合が最も高くなっている。

○60 代から 70 代において、「乗合タクシー」を「知っている」の回答割合が、60 代 63.0%、70 代 60.9%高くなっている。

○全年代において、「市民バス」を「知らない」の回答割合が高くなっている。

《年代別》		有効回答数（N）	知っている	知らない	無回答
循環バス	全体	609人	63.7%	35.1%	1.1%
	10代	23人	73.9%	26.1%	0.0%
	20代	87人	59.8%	40.2%	0.0%
	30代	91人	67.0%	30.8%	2.2%
	40代	94人	70.2%	28.7%	1.1%
	50代	129人	65.9%	34.1%	0.0%
	60代	127人	58.3%	39.4%	2.4%
	70代	46人	58.7%	41.3%	0.0%
コミュニティバス	全体	609人	35.0%	63.9%	1.1%
	10代	23人	30.4%	69.6%	0.0%
	20代	87人	32.2%	67.8%	0.0%
	30代	91人	28.6%	69.2%	2.2%
	40代	94人	39.4%	59.6%	1.1%
	50代	129人	40.3%	59.7%	0.0%
	60代	127人	32.3%	65.4%	2.4%
	70代	46人	39.1%	60.9%	0.0%
乗合タクシー	全体	609人	52.9%	46.0%	1.1%
	10代	23人	26.1%	73.9%	0.0%
	20代	87人	40.2%	59.8%	0.0%
	30代	91人	42.9%	54.9%	2.2%
	40代	94人	51.1%	47.9%	1.1%
	50代	129人	61.2%	38.8%	0.0%
	60代	127人	63.0%	34.6%	2.4%
	70代	46人	60.9%	39.1%	0.0%

着色部：各年代それぞれで「知っている」割合が最も高い

下線部：各年代それぞれで「知らない」割合が最も高い

※次のページに続く

《年代別》		有効回答数（N）	知っている	知らない	無回答
市民バス	全体	609人	13.6%	85.2%	1.1%
	10代	23人	13.0%	87.0%	0.0%
	20代	87人	13.8%	86.2%	0.0%
	30代	91人	6.6%	91.2%	2.2%
	40代	94人	8.5%	90.4%	1.1%
	50代	129人	16.3%	83.7%	0.0%
	60代	127人	16.5%	81.1%	2.4%
	70代	46人	23.9%	76.1%	0.0%
バス路線の維持	全体	609人	27.1%	71.8%	1.1%
	10代	23人	26.1%	73.9%	0.0%
	20代	87人	13.8%	86.2%	0.0%
	30代	91人	13.2%	84.6%	2.2%
	40代	94人	21.3%	77.7%	1.1%
	50代	129人	37.2%	62.8%	0.0%
	60代	127人	38.6%	59.1%	2.4%
	70代	46人	37.0%	63.0%	0.0%
免許返納者優遇制度	全体	609人	40.1%	58.8%	1.1%
	10代	23人	26.1%	73.9%	0.0%
	20代	87人	17.2%	82.8%	0.0%
	30代	91人	28.6%	69.2%	2.2%
	40代	94人	33.0%	66.0%	1.1%
	50代	129人	54.3%	45.7%	0.0%
	60代	127人	48.8%	48.8%	2.4%
	70代	46人	58.7%	41.3%	0.0%

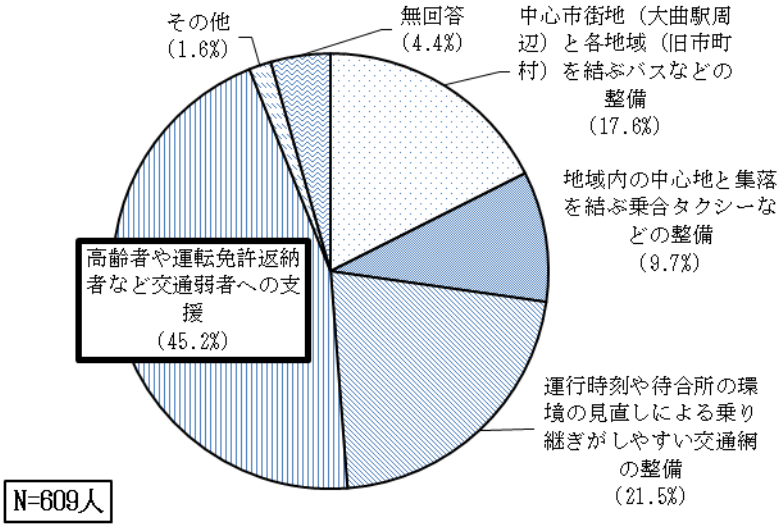
着色部：各年代それぞれで「知っている」割合が最も高い

下線部：各年代それぞれで「知らない」割合が最も高い

問２　市が力を入れるべきだと思う地域交通対策事業について、該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

○市が力を入れるべきだと思う地域交通対策事業について、「高齢者や運転免許返納者など交通弱者への支援」が 45.2%と最も回答割合が高く、次いで「運行時間や待合所の環境の見直しによる乗り継ぎがしやすい環境の整備」が 21.5%となっている、



◆「その他」意見（抜粋）

・冬場の道路交通事情の向上のために、自然エネルギーを活用してロードヒーティングできる環境の整備。（男性／20 代／南外／自営業主・家族従業者／独身）

・事業の PR。（男性／20 代／仙北／正規社員・職員／独身）

・上記の事業が可能となるように、人材を確保すべき。（女性／20 代／神岡／正規社員・職員／独身）

・子どもや家族が利用しやすくする。（男性／40 代／太田／正規社員・職員／既婚）

・市職員自らが利用する。（男性／50 代／大曲／正規社員・職員／独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「高齢者や運転免許返納者など交通弱者への支援」の回答割合が、男性 41.9%、女性 48.8%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○10 代を除く全年代において、「高齢者や運転免許返納者など交通弱者への支援」の回答割合が最も高くなっている。

○10 代において、「運行時間や待合所の環境の見直しによる乗り継ぎがしやすい環境の整備」の回答割合が 65.2%と最も高くなっている。

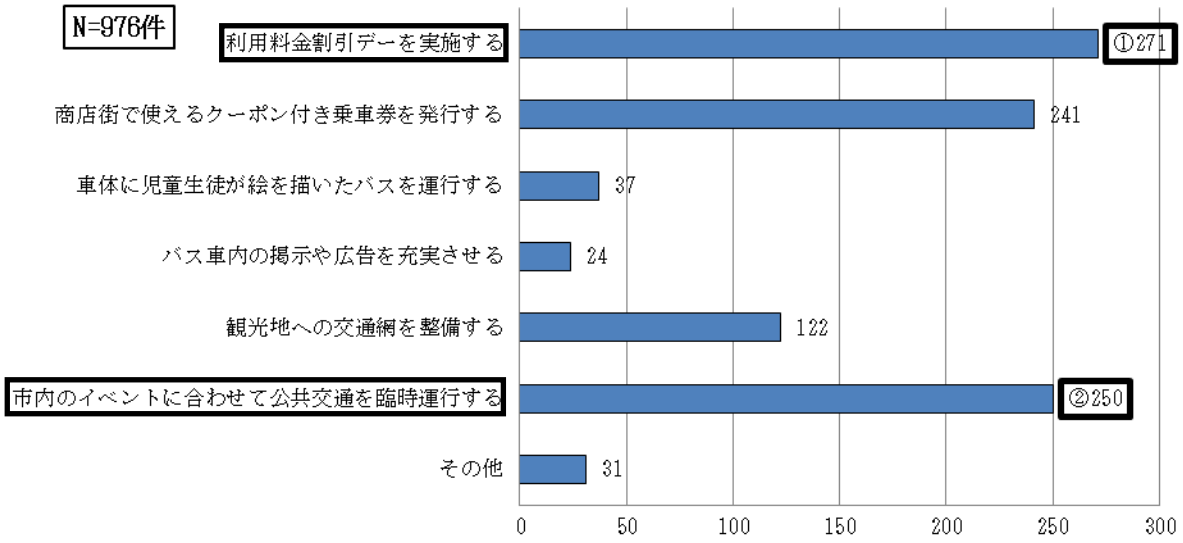
	有効回答数（N）	中心市街地（大曲駅周辺）と各地域（旧市町村）を結ぶバスなどの整備	地域内の中心地と集落を結ぶ乗合タクシーなどの整備	運行時刻や待合所の環境の見直しによる乗り継ぎがしやすい交通網の整備	高齢者や運転免許返納者など交通弱者への支援	その他	無回答
全体	609人	17.6%	9.7%	21.5%	45.2%	1.6%	4.4%
《性別》							
男性	301人	15.9%	11.0%	23.3%	41.9%	3.0%	5.0%
女性	297人	19.2%	8.1%	19.9%	48.8%	0.3%	3.7%
《年代別》							
10代	23人	13.0%	0.0%	65.2%	17.4%	4.3%	0.0%
20代	87人	28.7%	5.7%	23.0%	37.9%	3.4%	1.1%
30代	91人	14.3%	8.8%	30.8%	41.8%	1.1%	3.3%
40代	94人	23.4%	6.4%	22.3%	44.7%	1.1%	2.1%
50代	129人	15.5%	17.8%	16.3%	45.0%	1.6%	3.9%
60代	127人	13.4%	7.1%	14.2%	56.7%	1.6%	7.1%
70代	46人	10.9%	13.0%	10.9%	52.2%	0.0%	13.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

問３　市では、公共交通の魅力の向上に向けた利用促進施策を実施したいと考えています。より多くの方に公共交通を利用してもらうために、実施するべきだと思う施策はどれですか。該当する番号に最大２つまで○印をつけてください。

【全体】

○市が実施する公共交通の魅力の向上に向けた利用促進施策に対する要望について、「利用料金割引デーを実施する」が 271 件と最も回答数が多く、次いで「市内イベントに合わせて公共交通を臨時運行する」が 250 件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・市民が利用する頻度の高い施設や店舗だけを回るバス。
（男性／20 代／大曲／正規社員／職員／既婚）

・すべての路線の本数増加。（男性／30 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・冬期間の増便。（男性／30 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

・運転手をやさしい人にする。（男性／30 代／中仙／自営業主・家族従業者／独身）

・到着地を増やす。（女性／30 代／西仙北／正規社員・職員／既婚）

・バス料金を一定にする。（女性／40 代／大曲／パート・アルバイト／既婚）

・料金を安くする。（女性／40 代／大曲／専業主婦・主夫／既婚）

・学生の使用を中心に考える。（女性／40 代／南外／パート・アルバイト／既婚）

・路線図の明確化。（男性／50 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・家族と一緒に同乗すると、割引になるアプリの発行。（無回答）

【性別】

○男性において、「商店街で使えるクーポン付乗車券を発行する」の回答割合が 28.9%と最も高く、女性においては、「利用料金割引デーを実施する」の回答割合が 31.6%最も高くなっている。

○男女どちらにおいても、「市内イベントに合わせて公共交通を臨時運行する」が上位となっている。

【年代別】

○60 代を除く全年代において、「利用料金割引デーを実施する」が上位となっている。

○20 代、40 代から 70 代において、「商店街で使えるクーポン付乗車券を発行する」が上位となっている。

	有効回答数（N）	利用料金割引デーを実施する	商店街で使えるクーポン付き乗車券を発行する	車体に児童生徒が絵を描いたバスを運行する	バス車内の掲示や広告を充実させる	観光地への交通網を整備する	市内のイベントに合わせて公共交通を臨時運行する	その他
全体	976件	27.8%	24.7%	3.8%	2.5%	12.5%	25.6%	3.2%
《性別》								
男性	482件	24.1%	①28.9%	3.9%	2.5%	12.0%	②27.8%	3.7%
女性	481件	①31.6%	23.1%	3.7%	2.5%	12.9%	②23.7%	2.5%
《年代別》								
10代	40件	①27.5%	17.5%	7.5%	5.0%	17.5%	②22.5%	2.5%
20代	145件	①24.8%	②23.4%	3.4%	2.8%	17.2%	②23.4%	4.8%
30代	140件	②22.1%	20.7%	6.4%	0.7%	14.3%	①28.6%	7.1%
40代	155件	①31.0%	②25.8%	4.5%	3.2%	12.9%	19.4%	3.2%
50代	211件	①33.6%	②26.1%	2.4%	2.4%	9.0%	24.6%	1.9%
60代	197件	24.9%	②27.9%	2.0%	2.0%	11.2%	①30.5%	1.5%
70代	73件	②28.8%	21.9%	5.5%	4.1%	8.2%	①31.5%	0.0%

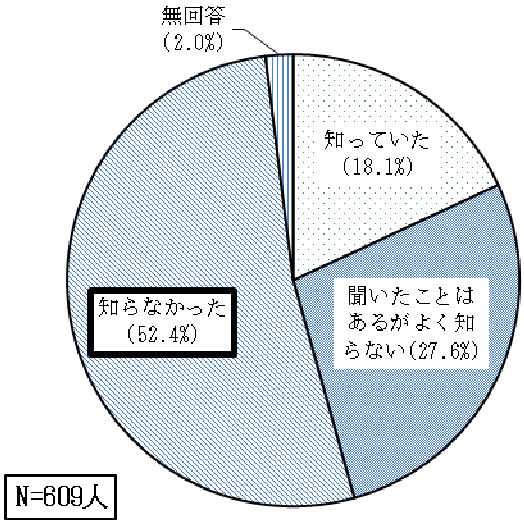
※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い２項目

2.8 「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」について

問１　市が「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」を実施していることを知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

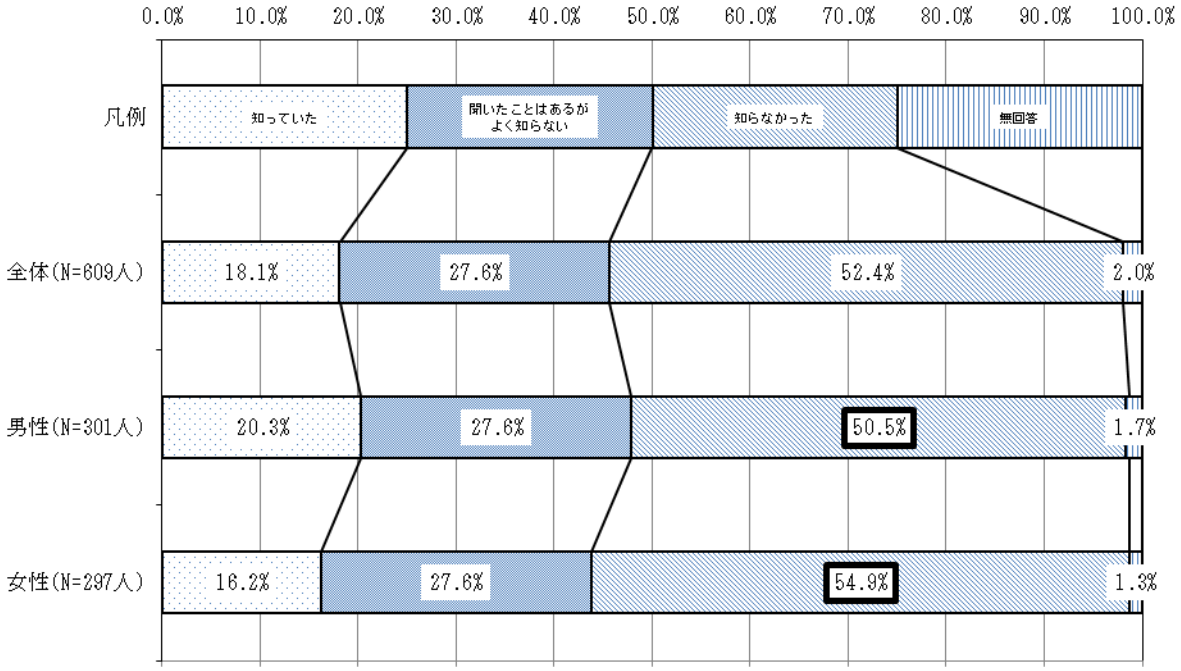
○地域提案型自治会等雪対策モデル事業の認知度について、「知らなかった」の回答割合が 52.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」が 27.6%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「知らなかった」の回答割合が、男性 50.5%、女性 54.9%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

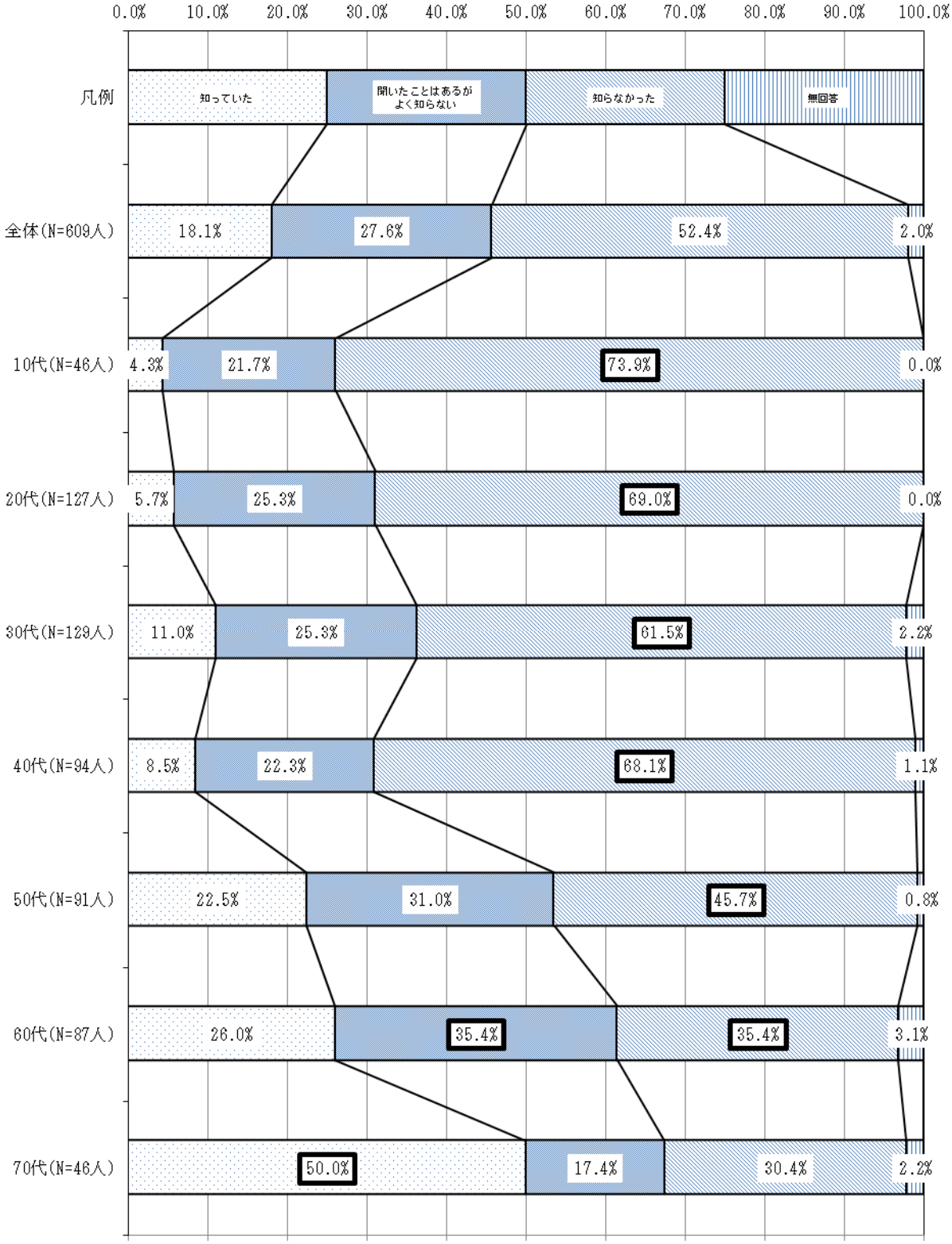


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○70 代を除く全年代において、「知らなかった」の回答割合が最も高くなっている。

○70 代において、「知っていた」の回答割合が 50.0%と最も高くなっている。

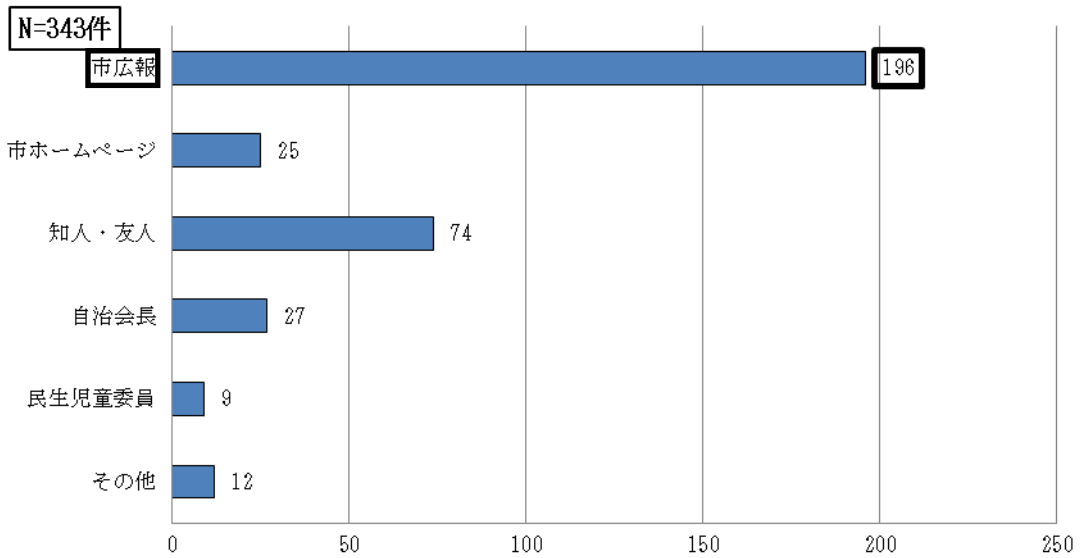


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問２　問１で「１」または「２」に〇印をつけた方にお聞きします。この事業をどのようにして知りましたか。該当する番号すべてに〇印をつけてください。

【全体】

〇地域提案型自治会等雪対策モデル事業をどのようにして知ったかについて、「市広報」が 196 件と最も回答数が多く、次いで「知人、友人」が 74 件となっている。



※問１で「知っていた」、「聞いたことはあるがよく知らない」と回答した方が選択

◆「その他」意見（抜粋）

・ニュースで見た。（女性／30 代／西仙北／正規社員・職員／独身）

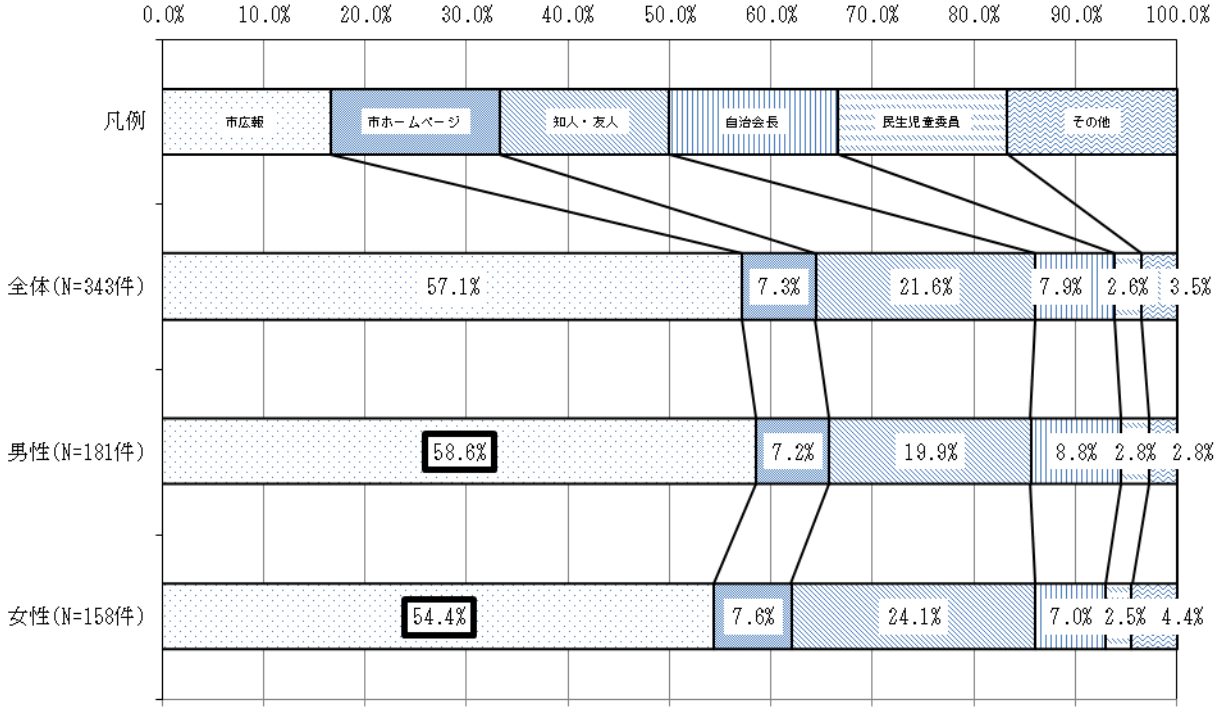
・町の支援員（相談員）から説明があった。（女性／40 代／太田／専業主婦・主夫／独身）

・仕事場で知った。（男性／60 代／大曲／派遣・契約社員／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「市広報」の回答割合が、男性 58.6%、女性 54.4%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

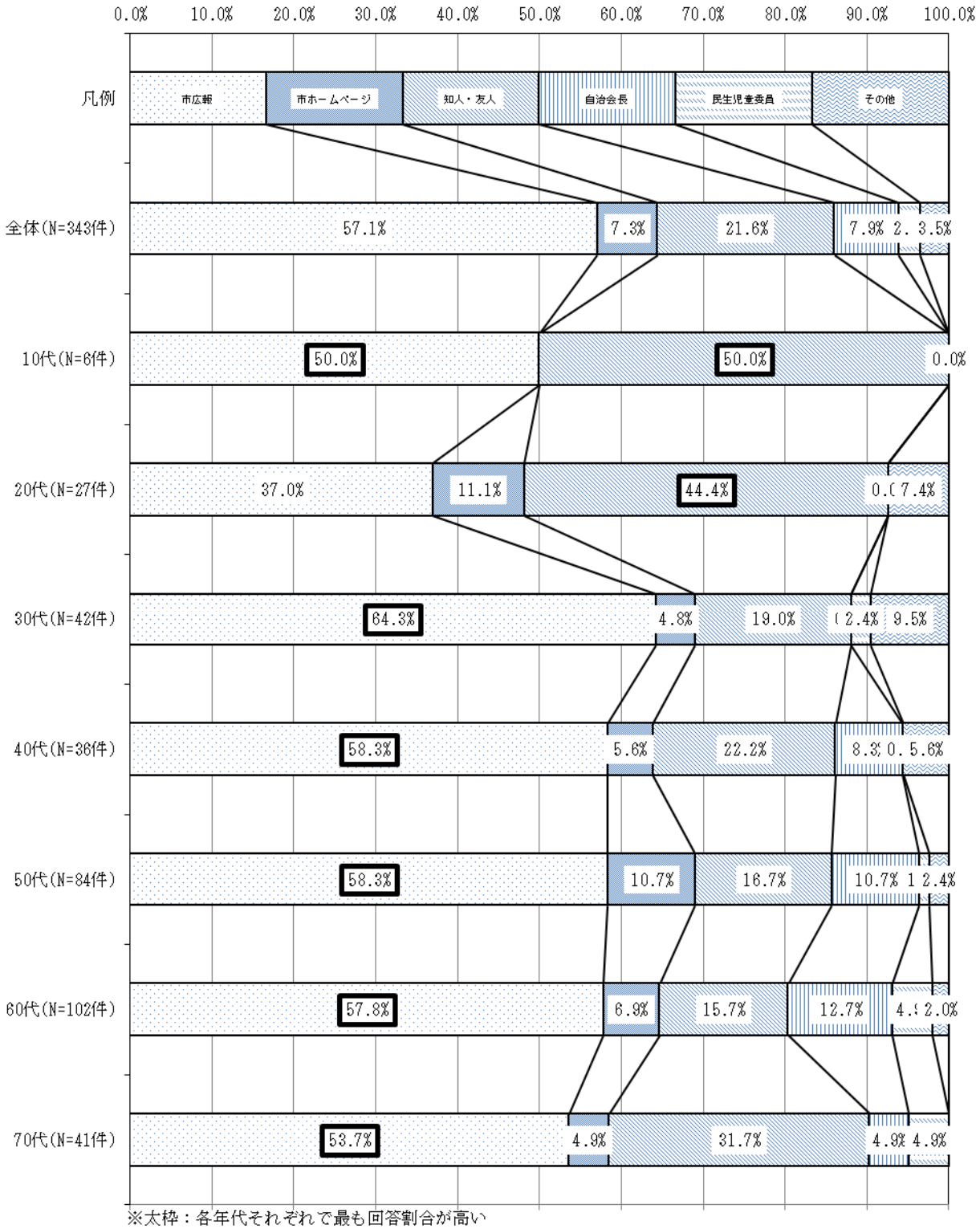


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○20 代を除く全年代において、「市広報」の回答割合が最も高くなっている。

○20 代において、「知人・友人」回答割合が 44.4%最も高くなっている。

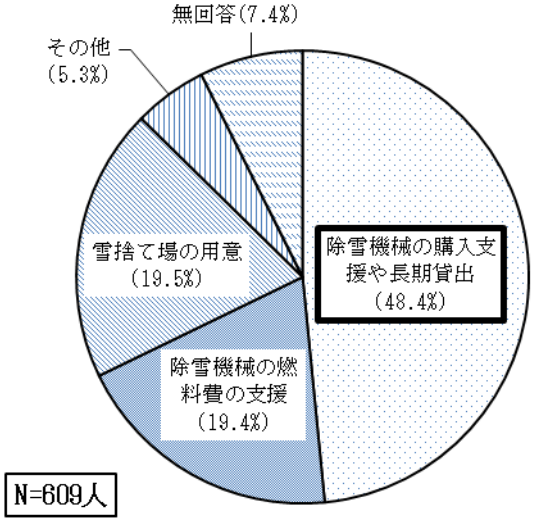


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問３　今後、この事業に加えて、新たに支援が必要だと思われるものは何ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

○今後、地域提案型自治会等雪対策モデル事業に加えて、新たに必要な支援に対する要望について、「除雪機械の購入支援や長期貸出」が 48.4％と最も回答割合が高く、次いで「雪捨て場の用意」が 19.5％となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・自然エネルギーを利用した、ロードヒーティングが出来る支援
（男性／20 代／南外／自営業主・家族従業者／独身）

・より消雪に特化した事業の充実。（女性／30 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・通学路は早めに除雪してほしい。（女性／30 代／西仙北／正規社員・職員／既婚）

・成果はあるのか疑問。（男性／50 代／太田／正規社員・職員／既婚）

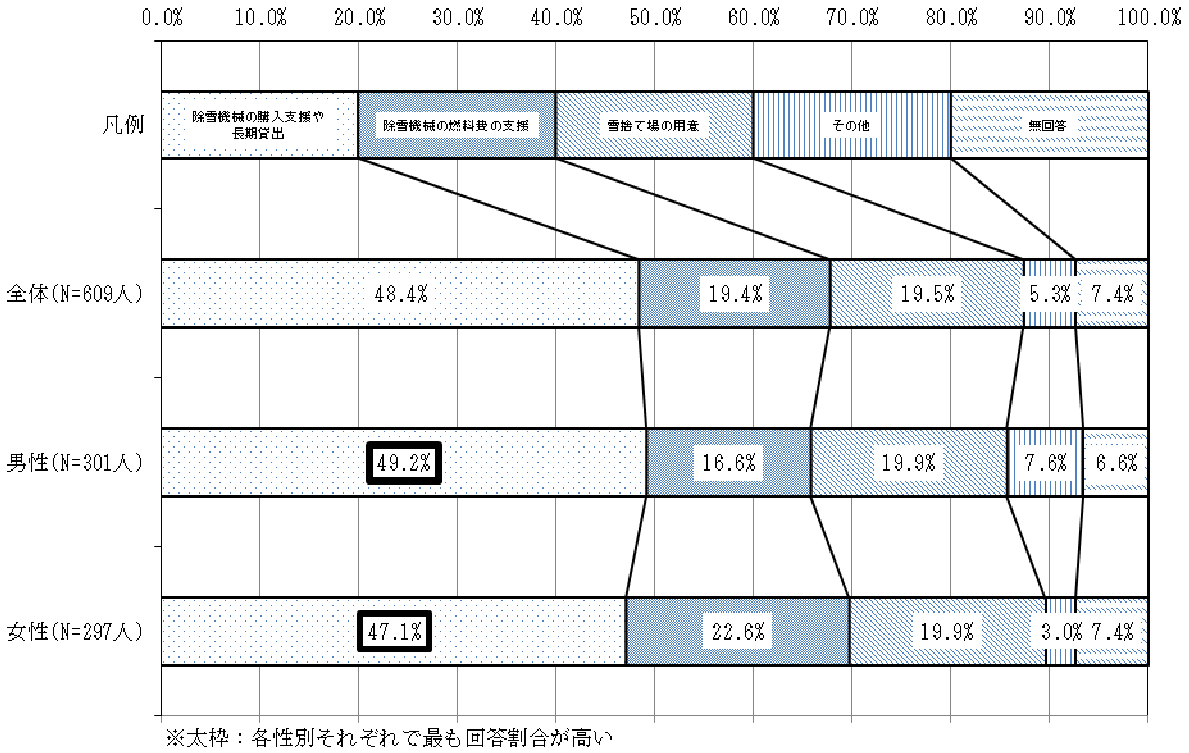
・時間指定なく排雪できる体制の整備。（男性／50 代／無回答／正規社員・職員／既婚）

・消雪設備支援金の増額。（男性／70 代／大曲／無職／独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「除雪機械の購入支援や長期貸出」の回答割合が、男性 49.2%、女性 47.1%と最も高くなっている。

○女性が男性より「除雪機械の燃料費の支援」の回答割合が高く、女性が 22.6%で男性よりも 6.0 ポイント高くなっている。

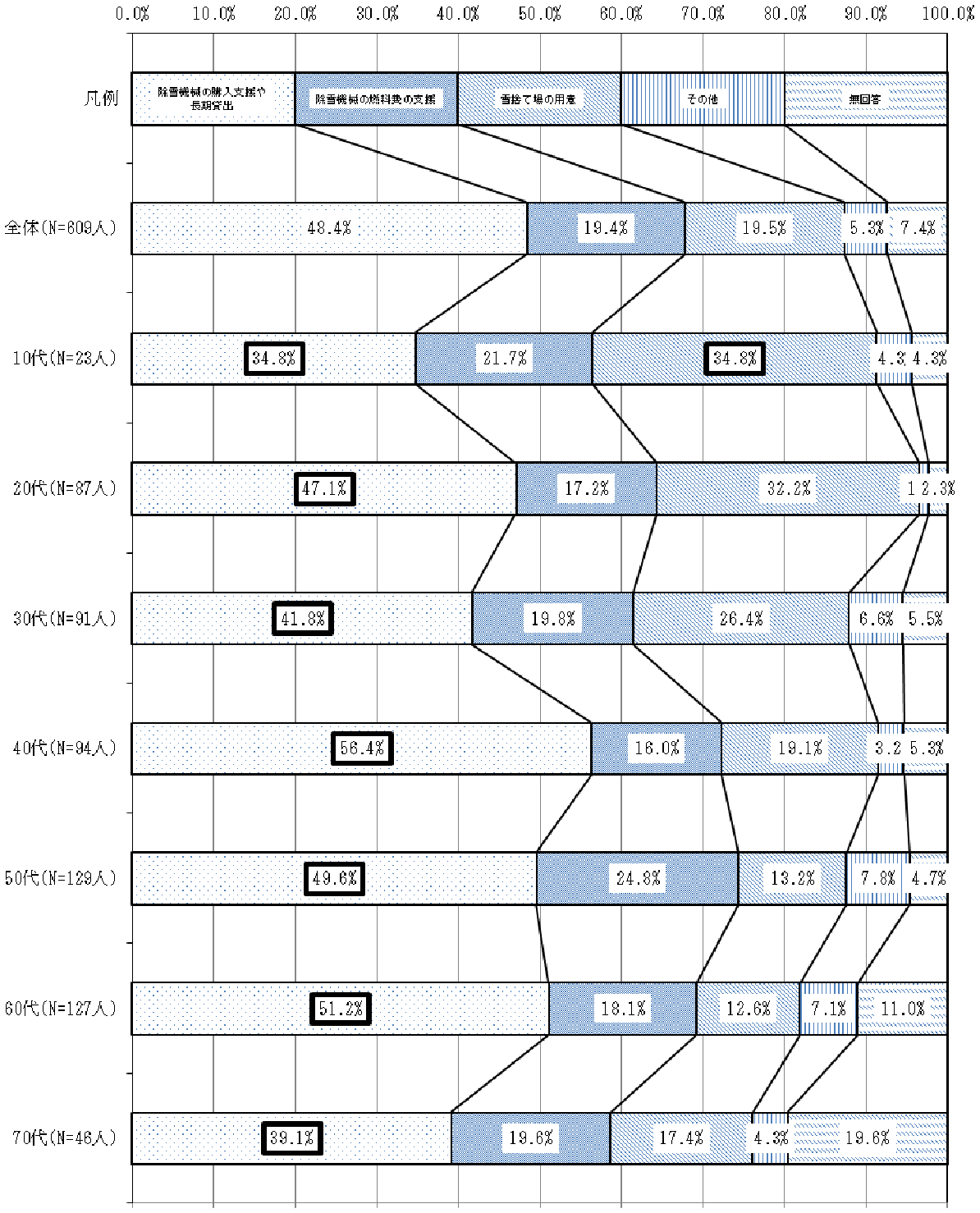


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「除雪機械の購入支援や長期貸出」の回答割合が最も高くなっている。

○10 代から 30 代において、「雪捨て場の用意」の回答割合が高くなっている。



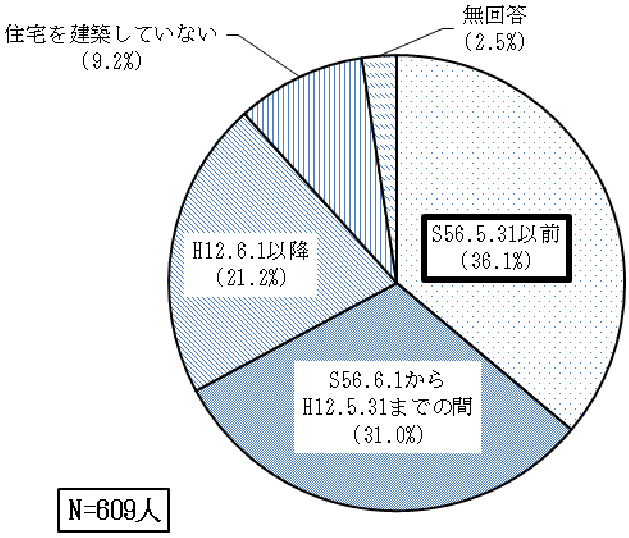
※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.9 「住宅リフォーム支援事業」について

問１　国では、昭和56年６月１日以降に建築された建物は耐震性があるとしています。しかし、平成12年６月に耐震基準に新たに３つの項目が追加されたことにより、昭和56年６月１日から平成12年５月31日までの間に建築された建物でも耐震基準を満たさない場合があります。あなたのお住まいの住宅はいつ建設された建物ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

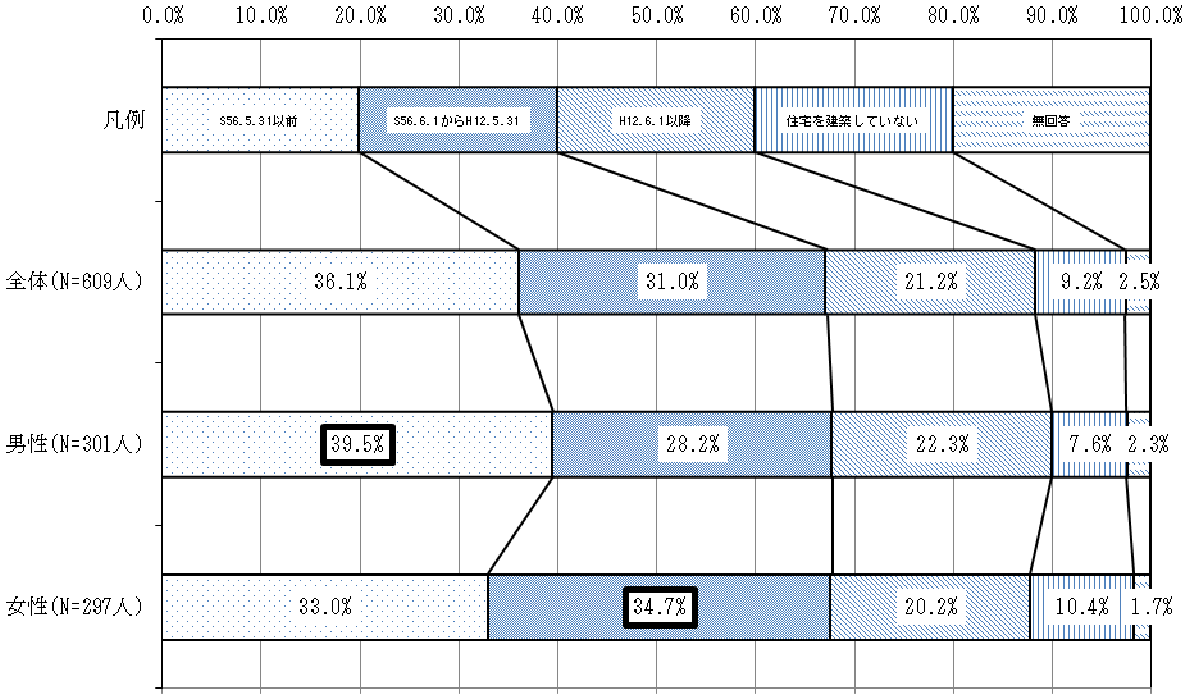
○住宅を建設した時期について、「昭和56年５月31日以前」が36.1%と最も回答割合が高く、次いで、「昭和56年６月１日から平成12年５月31日までの間」が31.0%となっている。



【性別】

○男性において、「昭和 56 年５月 31 日以前」の回答割合が、39.5％と最も高くなっている。

○女性において、「昭和 56 年６月１日から平成 12 年５月 31 日までの間」の回答割合が、34.7％と最も高くなっている。



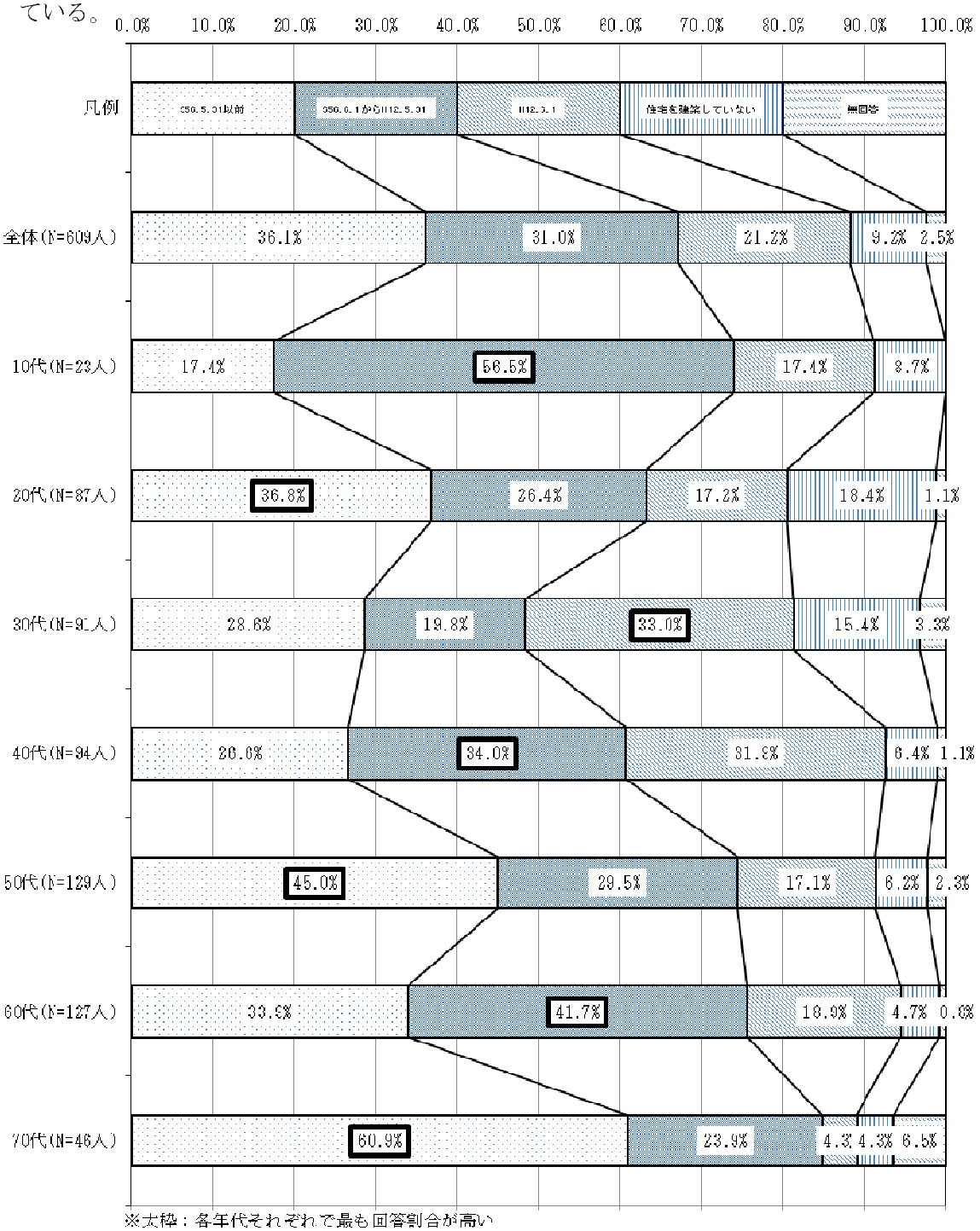
※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○10 代において、「昭和 56 年６月１日から平成 12 年５月 31 日までの間」の回答割合が 56.5%と他の年代に比べて高くなっている。

○70 代において、「昭和 56 年５月 31 日以前」の回答割合が 60.9%と他の年代に比べて高くなっている。

○30 代から 70 代において、年代が高くなるにつれて「平成 12 年６月１日以降」の回答割合が低くなっている。

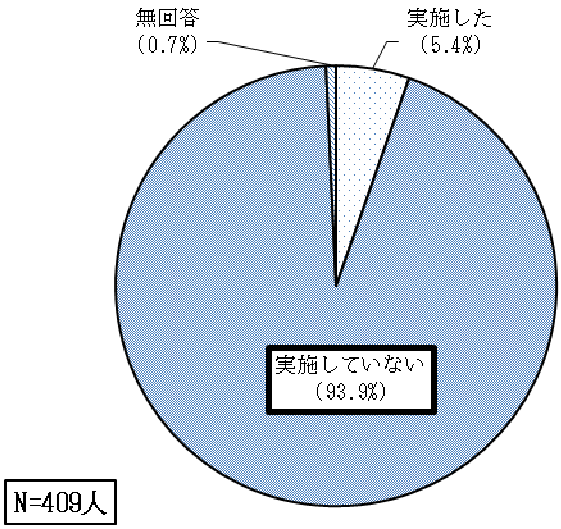


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問２　問１で「１」または「２」に○印をつけた方にお聞きします。あなたのお住まいの住宅は耐震診断または耐震改修を実施しましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

○住宅の耐震診断または耐震改修の実施状況について、「実施していない」が 93.9%と最も回答割合が高く、次いで「実施した」が 5.4%となっている。

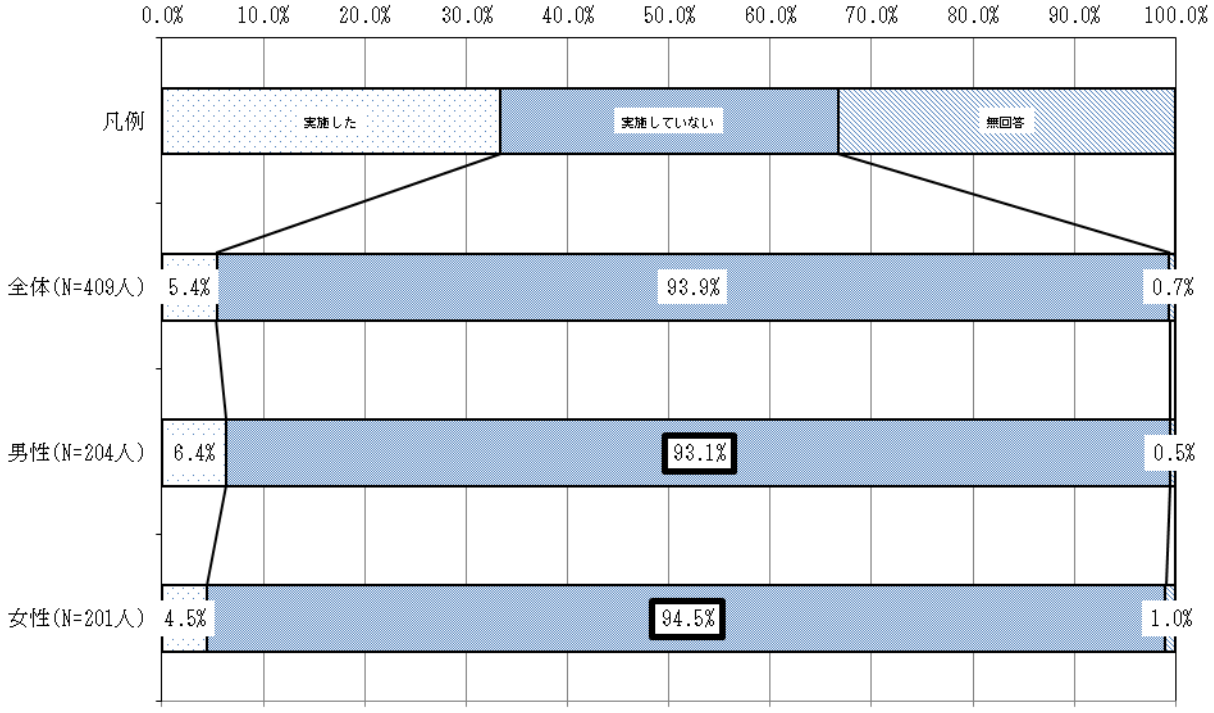


※耐震診断または耐震改修が必要な住宅に住んでいる方が選択

【性別】

○男女どちらにおいても、「実施していない」の回答割合が、男性93.1%、女性94.5%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

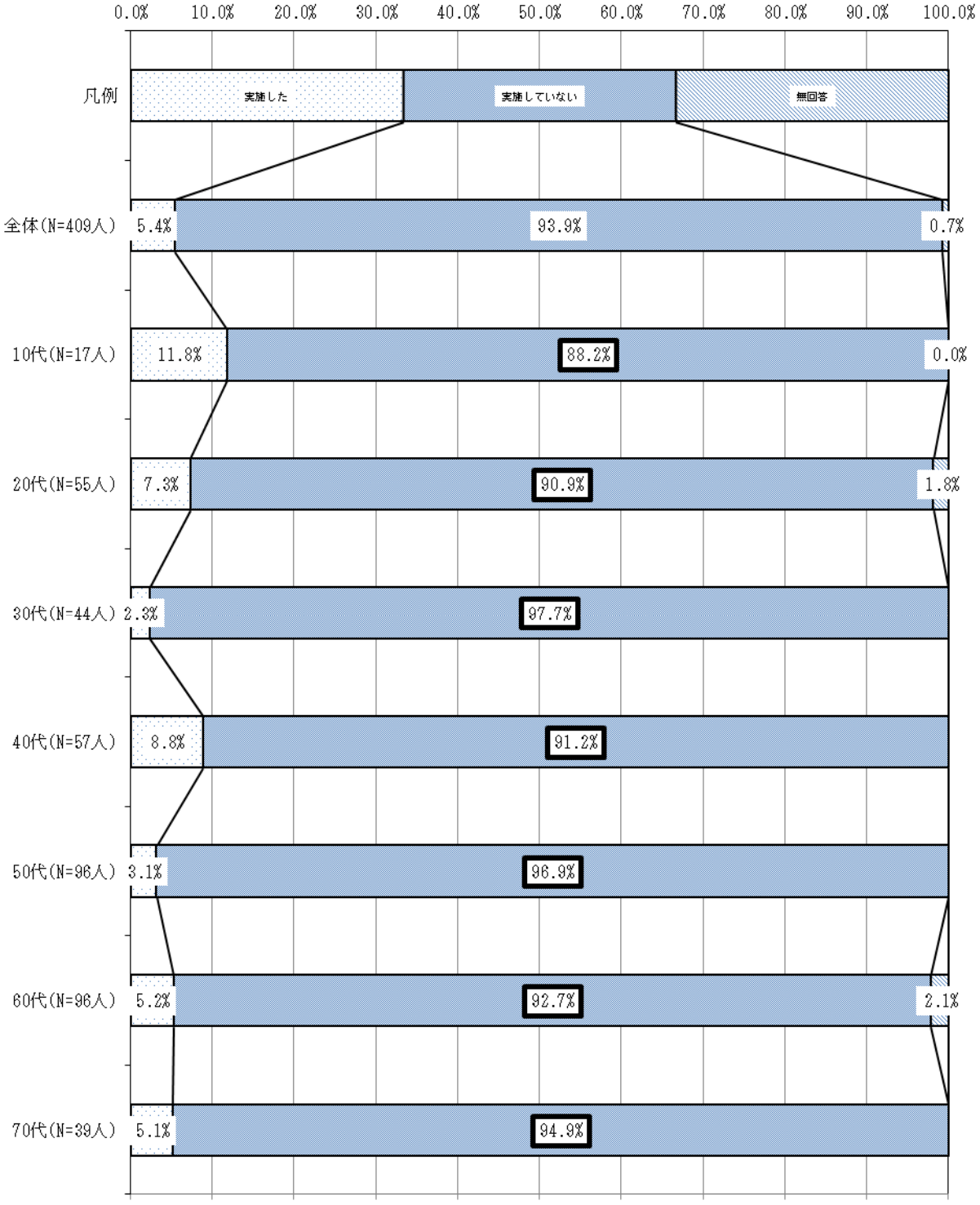


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「実施していない」の回答割合が最も高くなっている。

○全体的に、年代で大きな差は見られない。

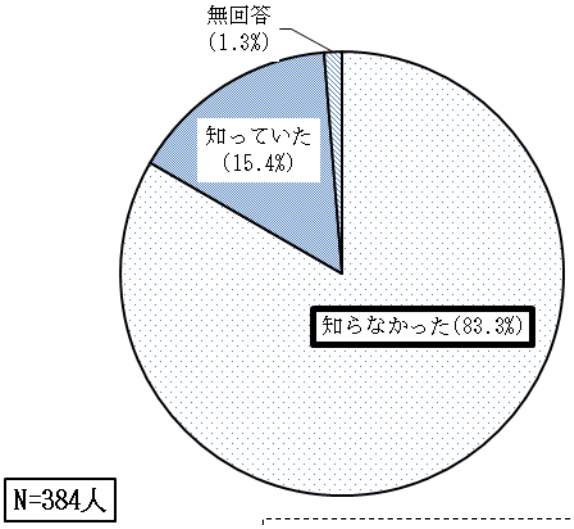


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問３　問２で「２」に○印をつけた方にお聞きします。市が実施している「住宅耐震化支援」について以前から知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

○市が実施している住宅耐震化支援の認知度について、「知らなかった」が83.3%と回答割合が最も高く、次いで「知っていた」が15.4%となっている。

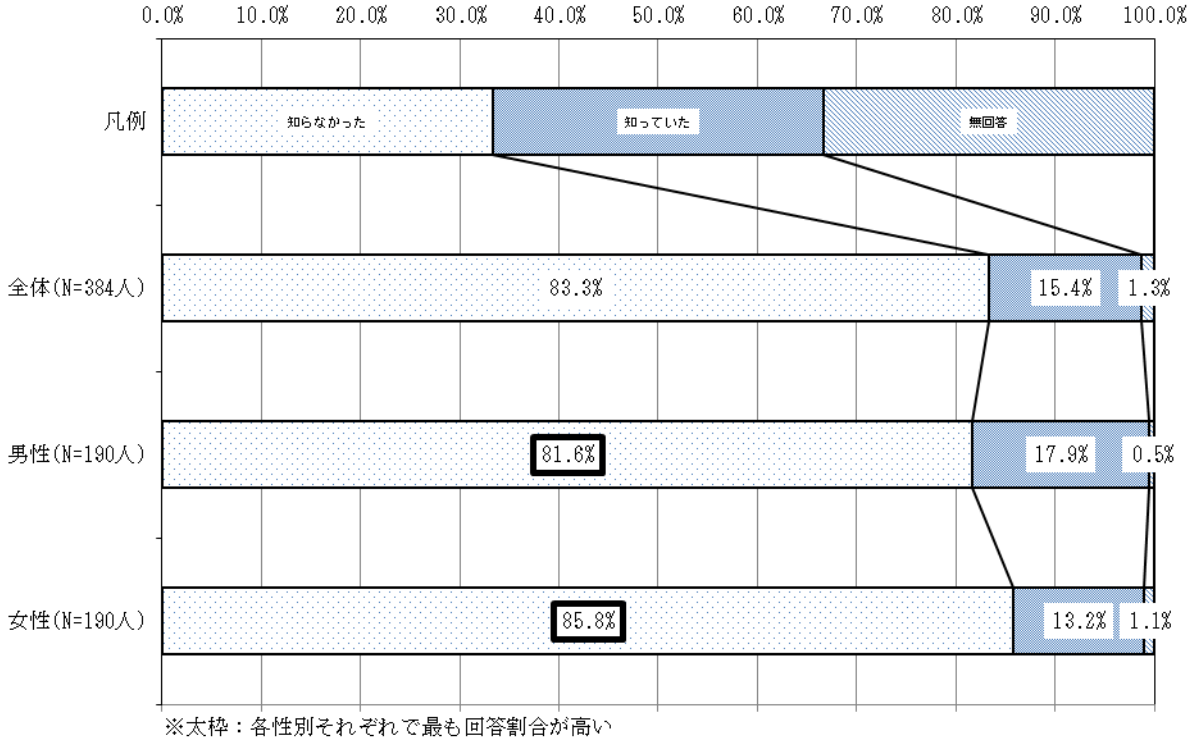


※耐震診断または耐震改修が必要な住宅に住んでおり、かつ、診断または改修をしていない方が選択

【性別】

○男女どちらにおいても、「知らなかった」の回答割合が、男性81.6%、女性85.8%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

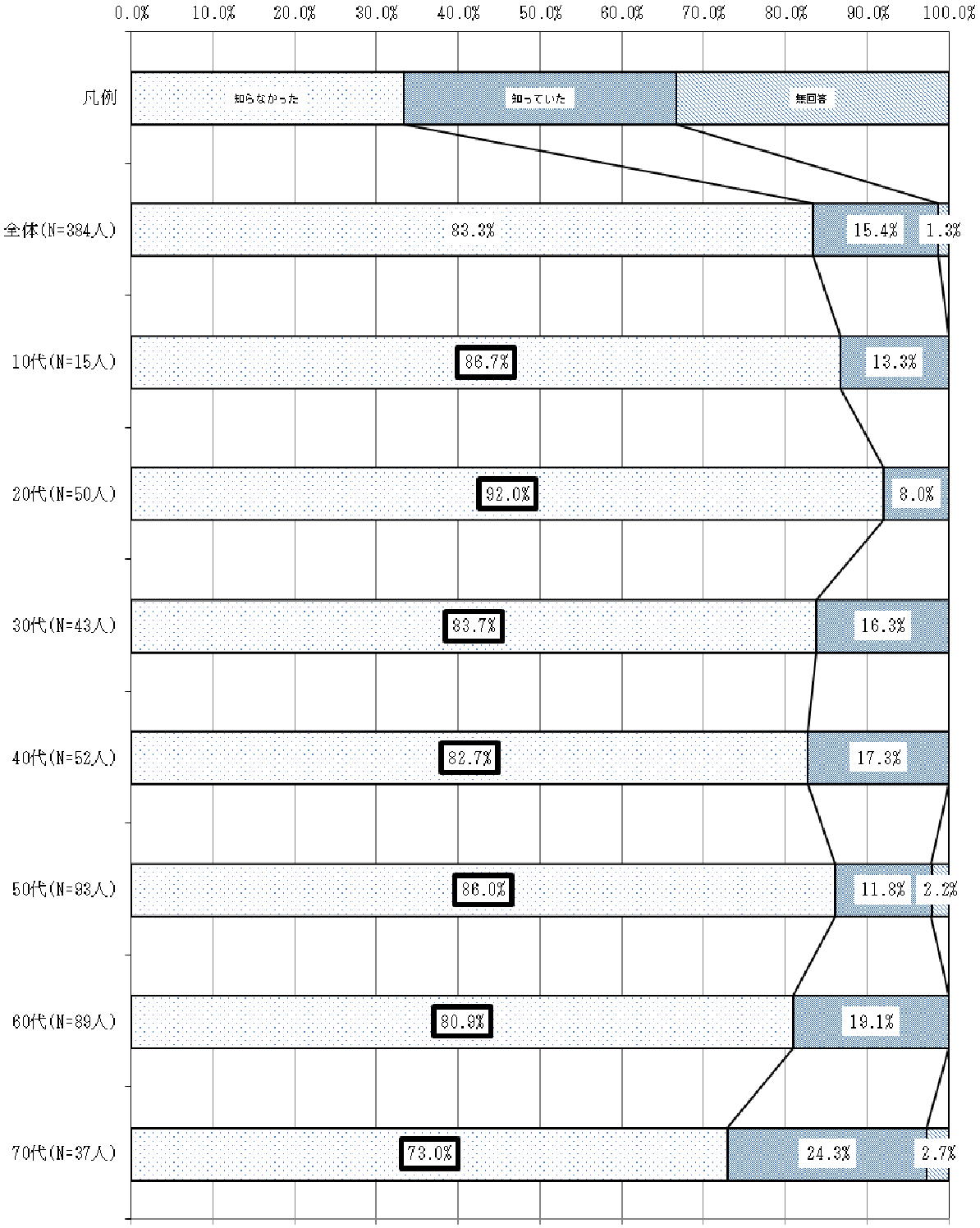


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「知らなかった」の回答割合が最も高くなっている。

○60 代、70 代において、「知っていた」の回答割合が、60 代 19.1％、70 代 24.3％と他の年代に比べて高くなっている。

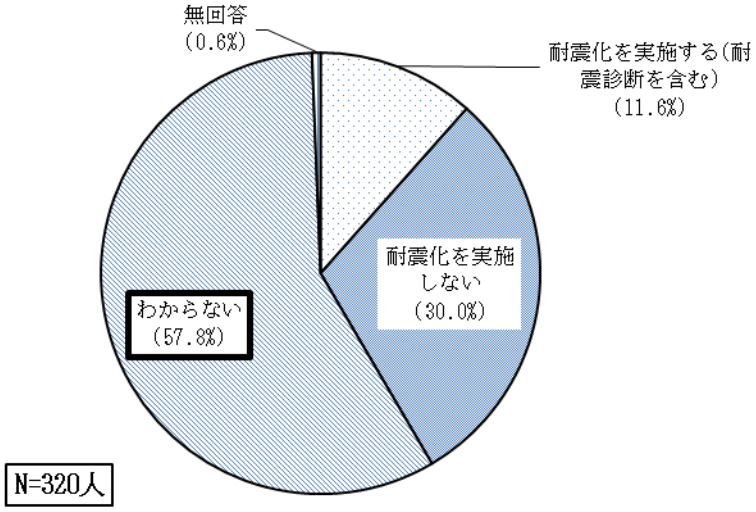


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問４　問３で「１」に○印をつけた方にお聞きします。今回のアンケートで市の住宅耐震化支援を知ったことで、今後、お住まいの住宅の耐震化をどのようにお考えですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

○今回のアンケートで市の住宅耐震化支援を知ったことによる、今後の住宅の耐震化に対する考えについて、「わからない」が 57.8％と回答割合が最も高く、次いで「耐震化は実施しない」が 30.0％となっている。

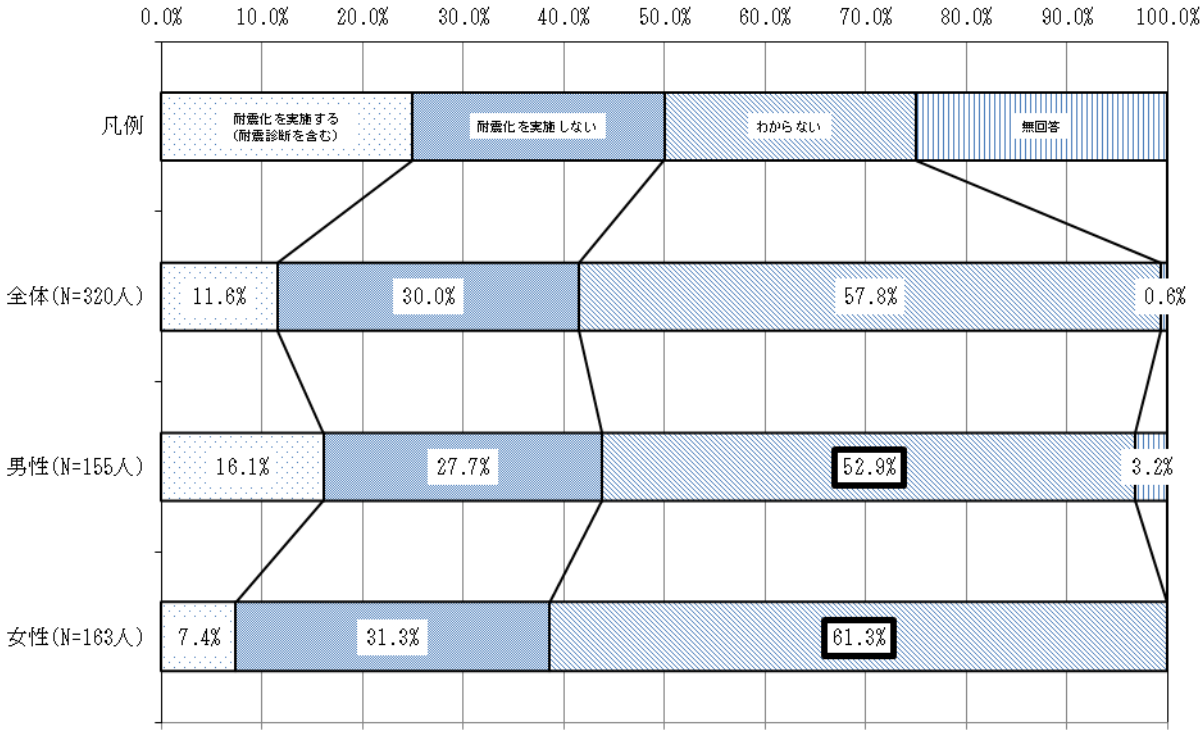


※耐震診断または耐震改修が必要な住宅に住んでおり、なおかつ、診断または改修を実施していない方の中で、今回の調査により市が実施する支援事業を初めて知った方が選択

【性別】

○男女どちらにおいても、「わからない」の回答割合が、男性 52.9%、61.3%と最も高くなっている。

○男性が女性より「耐震化を実施する（耐震診断を含む）」の回答割合が高く、男性が 16.1%で女性の 7.4%より、8.7 ポイント高くなっている。

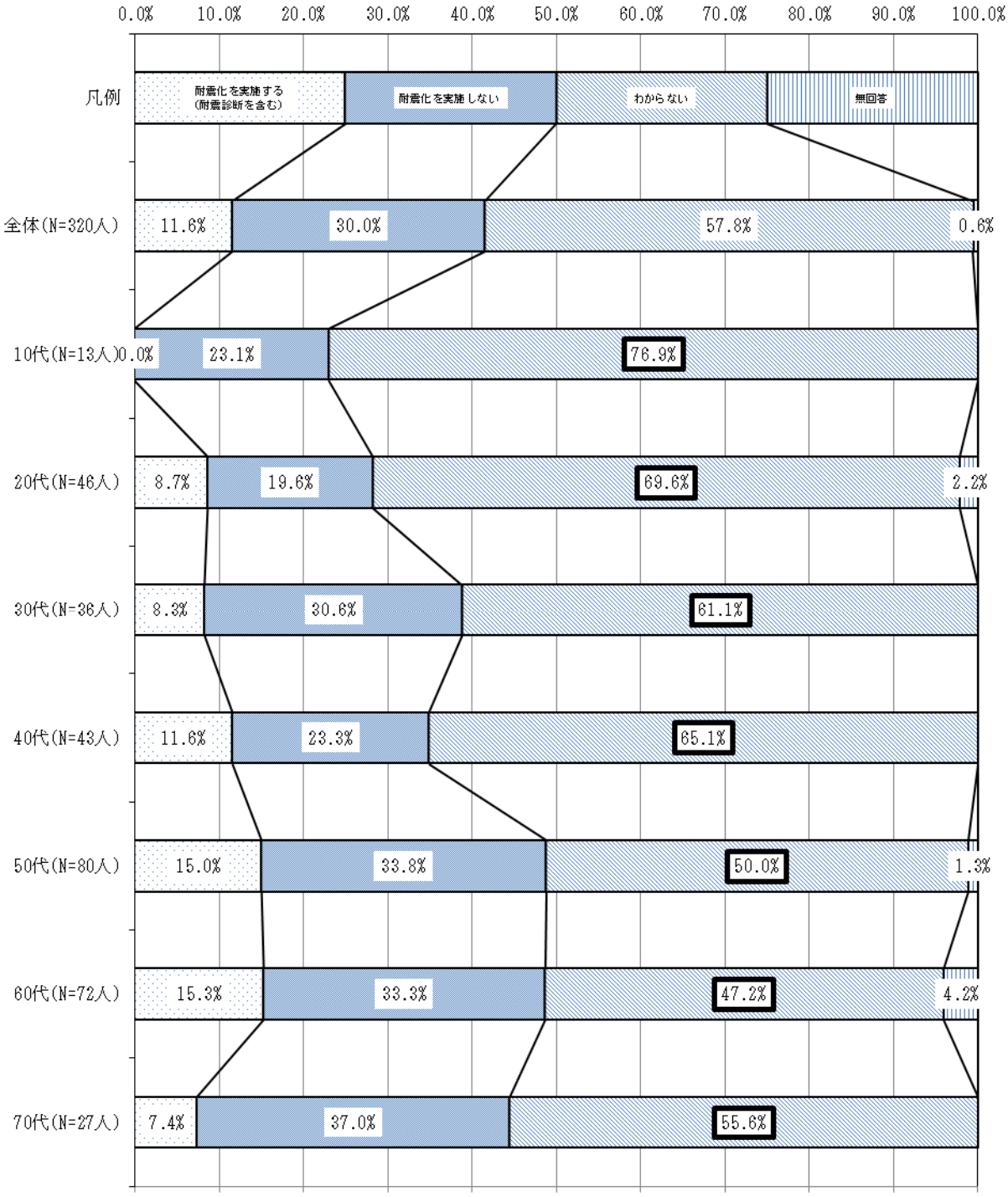


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「わからない」の回答割合が最も高くなっている。

○30 代、50 代から 70 代において、「耐震化を実施しない」の回答割合が他の年代に比べて高く、30.0％以上となっている。

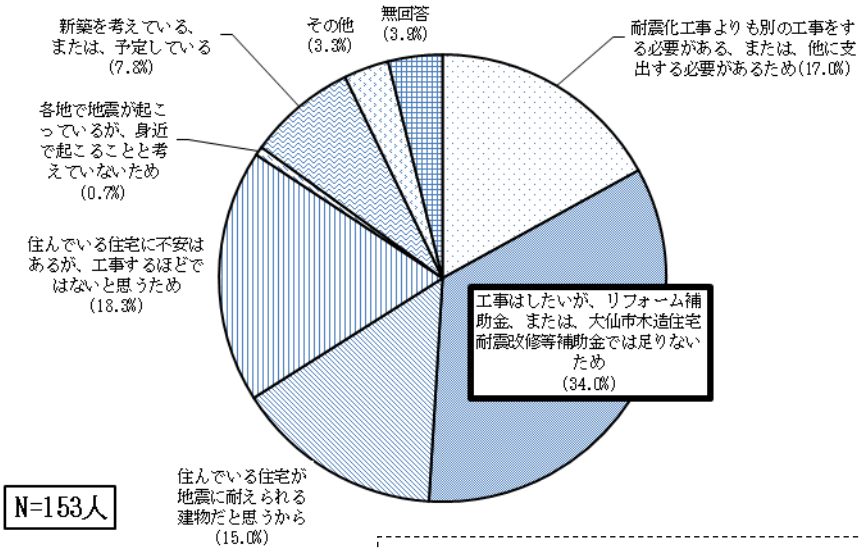


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問５　問３で「２」、問４で「２」に○印をつけた方にお聞きします。あなたのお住まいの住宅を耐震化しない理由は何ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

○耐震診断または耐震改修を実施しない理由について、「工事はしたいが、リフォーム補助金、または、大仙市木造住宅耐震改修等補助金では足りないため」が 34.0%と最も回答割合が高く、次いで「住んでいる住宅に不安はあるが、工事するほどではないと思うため」が 18.3%となっている。



※耐震診断または耐震改修が必要な住宅に住んでおり、かつ診断、改修を実施していない方の中で、①市が実施する支援事業を知っていた方と、②支援事業を初めて知ったが耐震化を実施しない方が回答

【性別】

○男女どちらにおいても、「工事はしたいが、リフォーム補助金、または、大仙市木造住宅耐震改修等補助金では足りないため」の回答割合が、男性33.8%、女性34.2%と最も高くなっている。

○男性が女性より「住んでいる住宅が地震に耐えられる建物だと思うから」の回答割合が高く、男性が19.5%で女性よりも9.0%高くなっている。

【年代別】

○全年代において、「工事はしたいが、リフォーム補助金、または、大仙市木造住宅耐震改修等補助金では足りないため」の回答割合が最も高くなっている。

○40代、70代において、「住んでいる住宅に不安はあるが、工事するほどではないと思うため」が、40代26.3%、70代31.6%と他の年代に比べて高くなっている。

	有効回答数（N）	耐震化工事よりも別の工事をする必要がある、または、他に支出する必要があるため	工事はしたいが、リフォーム補助金、または、大仙市木造住宅耐震改修等補助金では足りないため	住んでいる住宅が地震に耐えられる建物だと思うから	住んでいる住宅に不安はあるが、工事するほどではないと思うため	各地で地震が起こっているが、身近で起こることと考えていないため	新築を考えている、または、予定している	その他	無回答
全体	153人	17.0%	34.0%	15.0%	18.3%	0.7%	7.8%	3.3%	3.9%
《性別》									
男性	77人	15.6%	33.8%	19.5%	16.9%	1.3%	6.5%	2.6%	3.9%
女性	76人	18.4%	34.2%	10.5%	19.7%	0.0%	9.2%	3.9%	3.9%
《年代別》									
10代	5人	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%
20代	13人	15.4%	38.5%	7.7%	7.7%	0.0%	23.1%	0.0%	7.7%
30代	18人	33.3%	38.9%	5.6%	11.1%	5.6%	5.6%	0.0%	0.0%
40代	19人	10.5%	36.8%	15.8%	26.3%	0.0%	5.3%	5.3%	0.0%
50代	38人	23.7%	26.3%	18.4%	15.8%	0.0%	10.5%	0.0%	5.3%
60代	41人	9.8%	39.0%	14.6%	19.5%	0.0%	4.9%	7.3%	4.9%
70代	19人	10.5%	31.6%	21.1%	31.6%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%

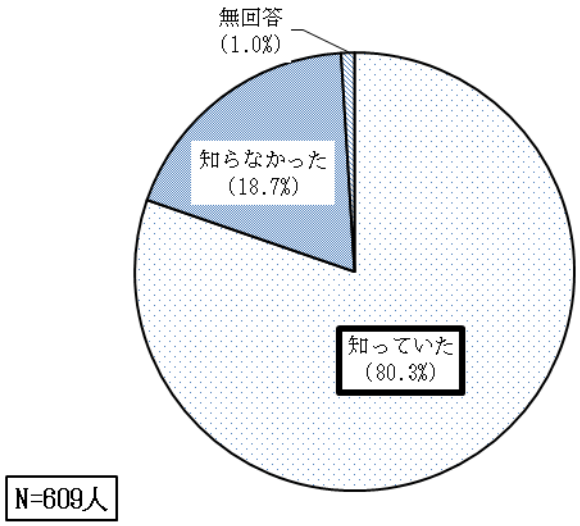
※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.10 「コミュニティＦＭ関連事業」について

問１　ＦＭはなびを知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

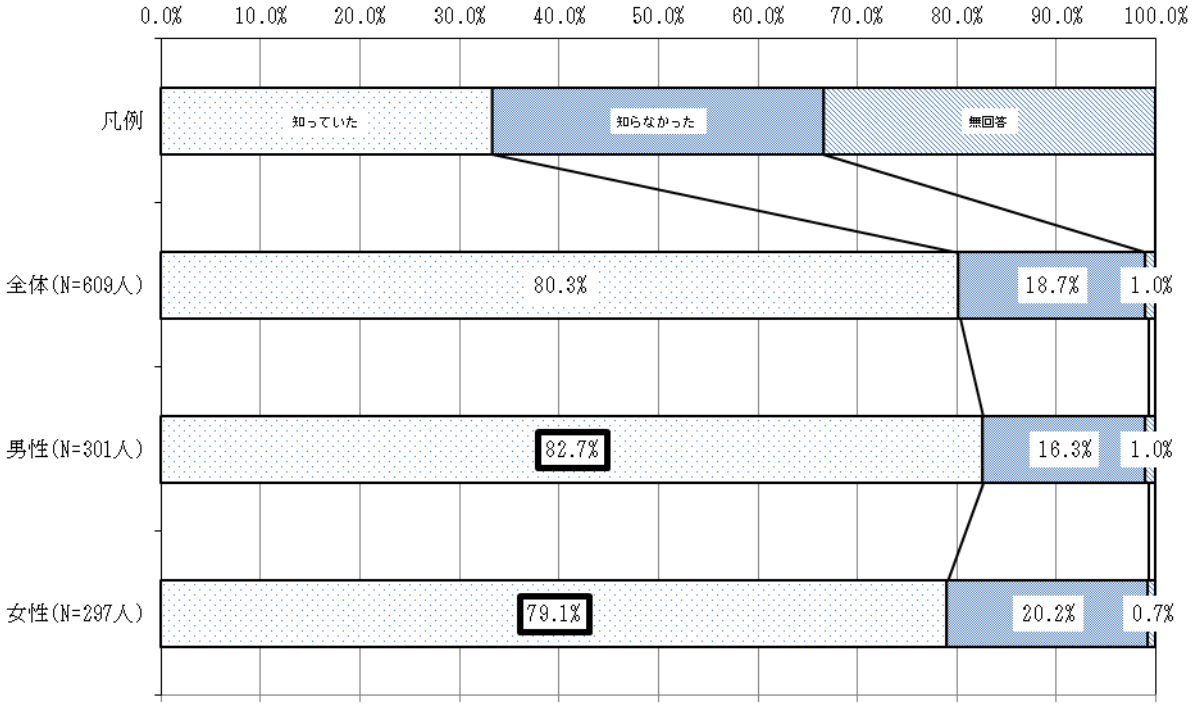
○ＦＭはなびの認知度について、「知っていた」が 80.3%と最も回答割合が高く、次いで「知らなかった」が 18.7%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「知っていた」の回答割合が、男性 82.7%、女性 79.1%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

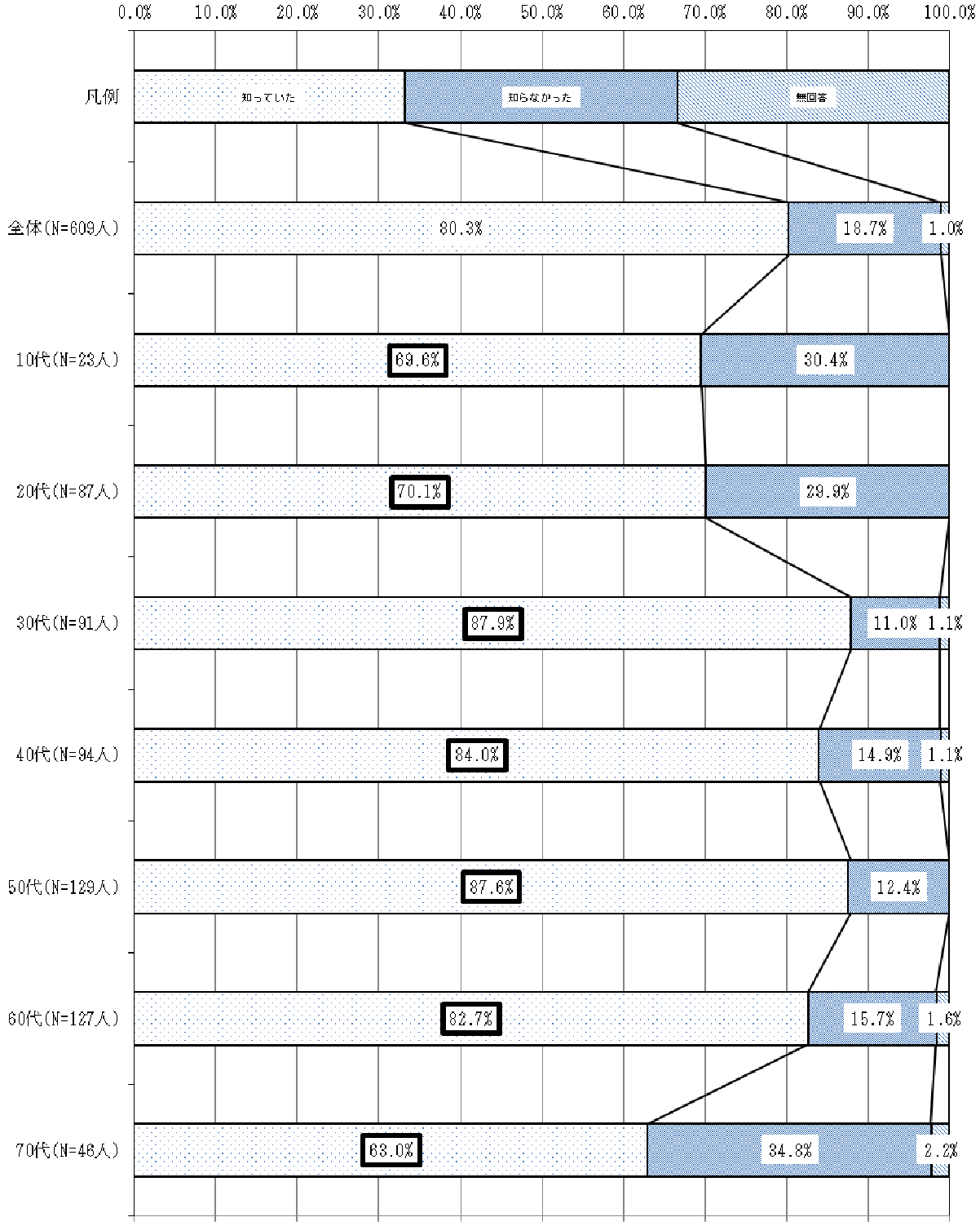


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「知っていた」の回答割合が最も高くなっている。

○30 代から 60 代において、「知っていた」の回答割合が、30 代 87.9%、40 代 84.0%、50 代 87.6%、60 代 82.7%と他の年代に比べて高くなっている。

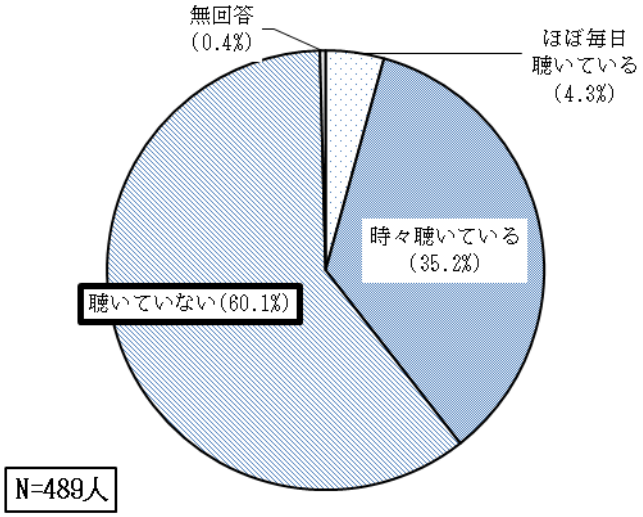


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問２　問１で「１」に○印をつけた方にお聞きします。ＦＭはなびをどの程度聴いていますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

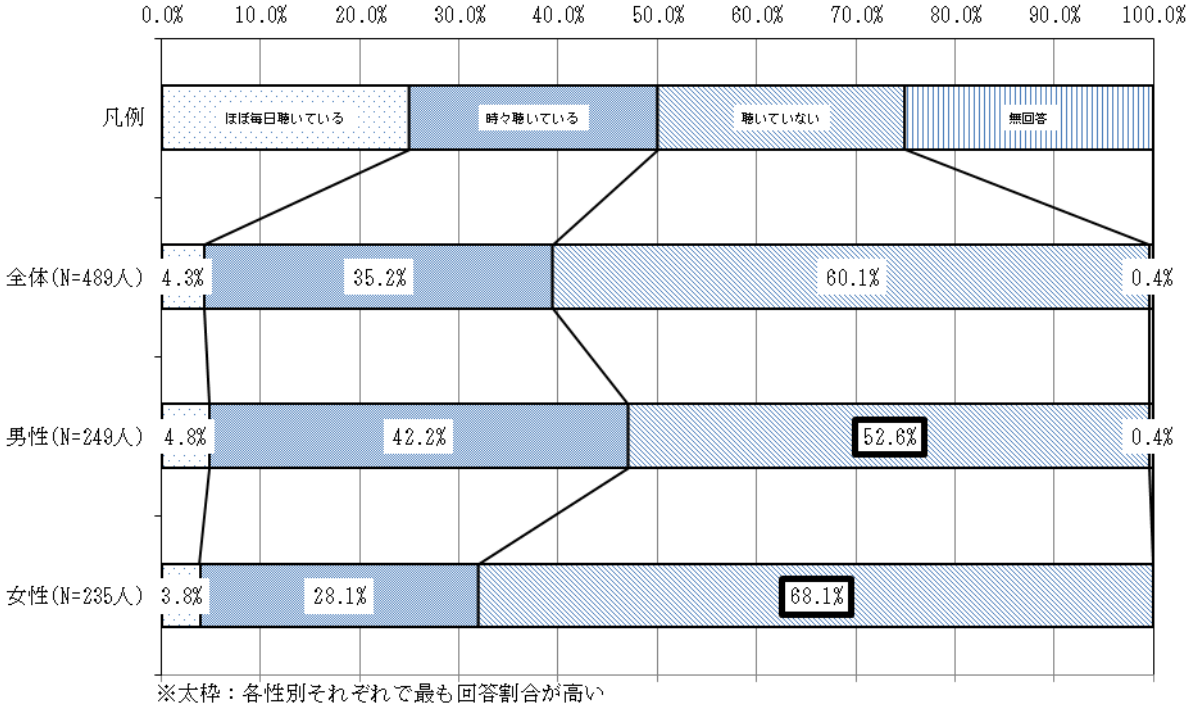
【全体】

○ＦＭはなびの聴取頻度について、「聞いていない」が 60.1％と最も回答割合が高く、次いで「時々聴いている」が 35.2％となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「聴いていない」の回答割合が、男性52.6%、女性68.1%と最も高くなっている。



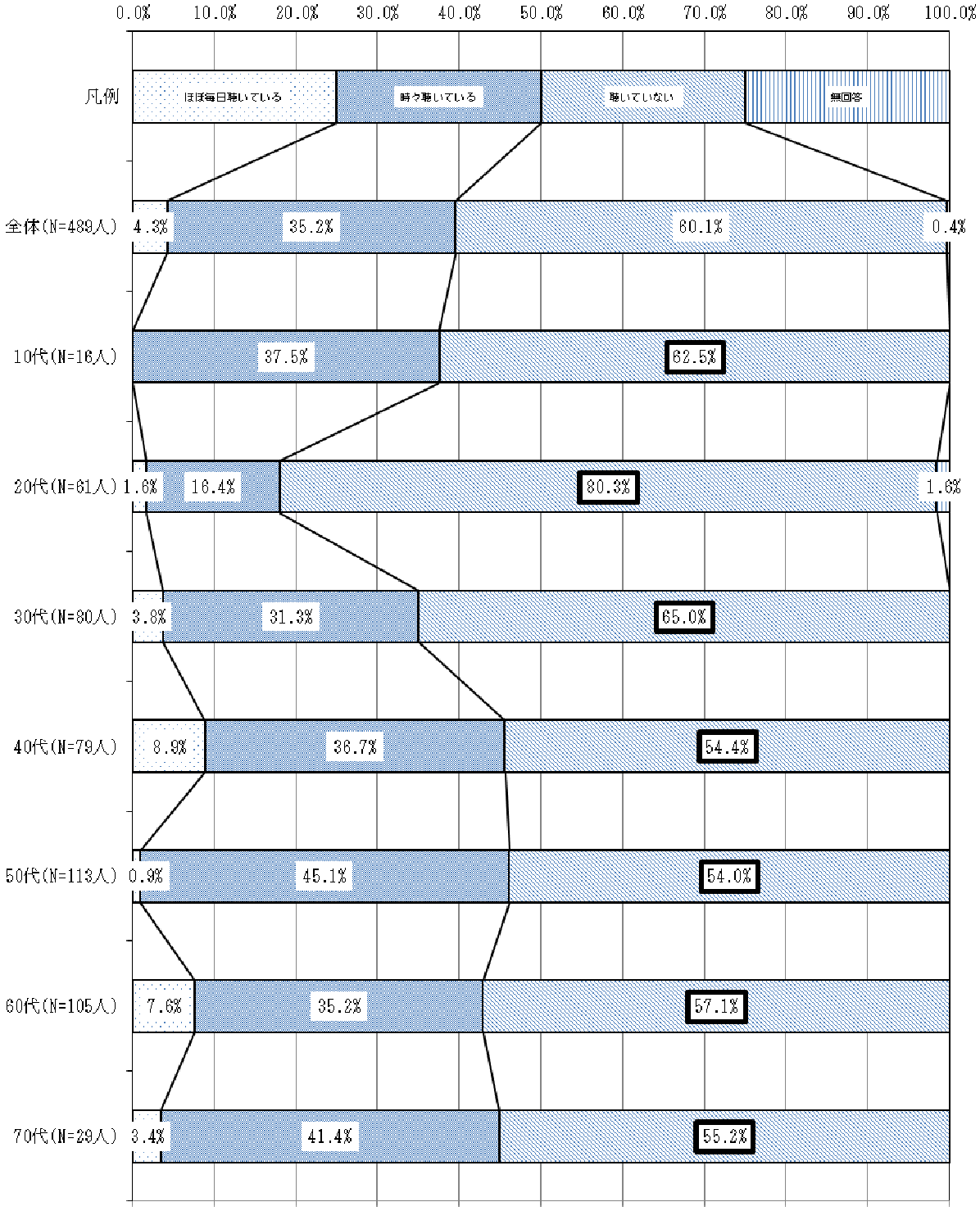
※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「聴いていない」の回答割合が最も高くなっている。

○20 代において、「聴いていない」が 80.3%と他の年代に比べて回答割合が高くなっている。

○50 代、70 代において、「時々聴いている」の回答割合が、50 代 45.1%、70 代 41.4%と他の年代に比べて高くなっている。

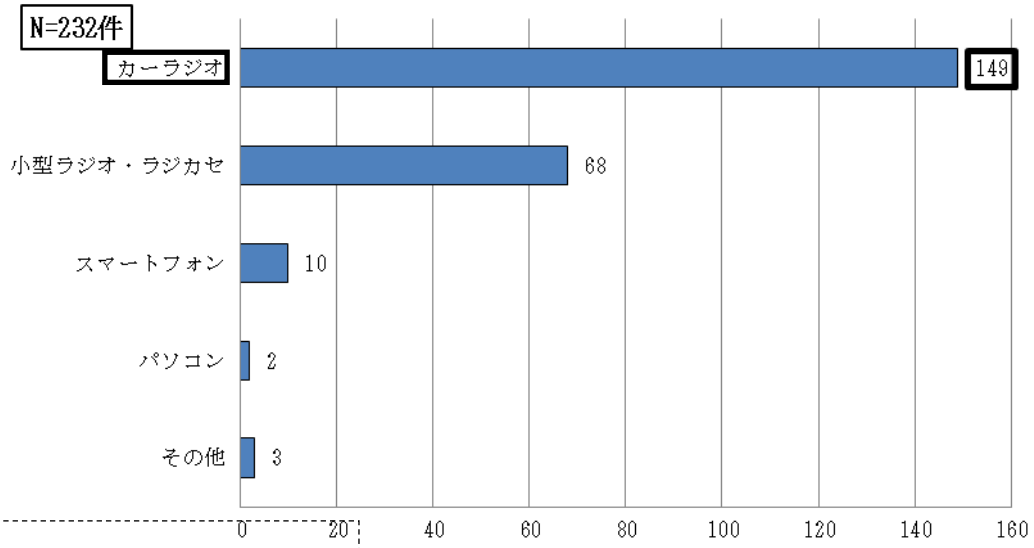


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問３　ＦＭはなびをどの機器で聴いていますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○ＦＭはなびを聴く際に使用する機器について、「カーラジオ」が 149 件と最も回答数が多く、次いで「小型ラジオ・ラジカセ」が 68 件となっている。



※ＦＭはなびを聴いている方のみ回答

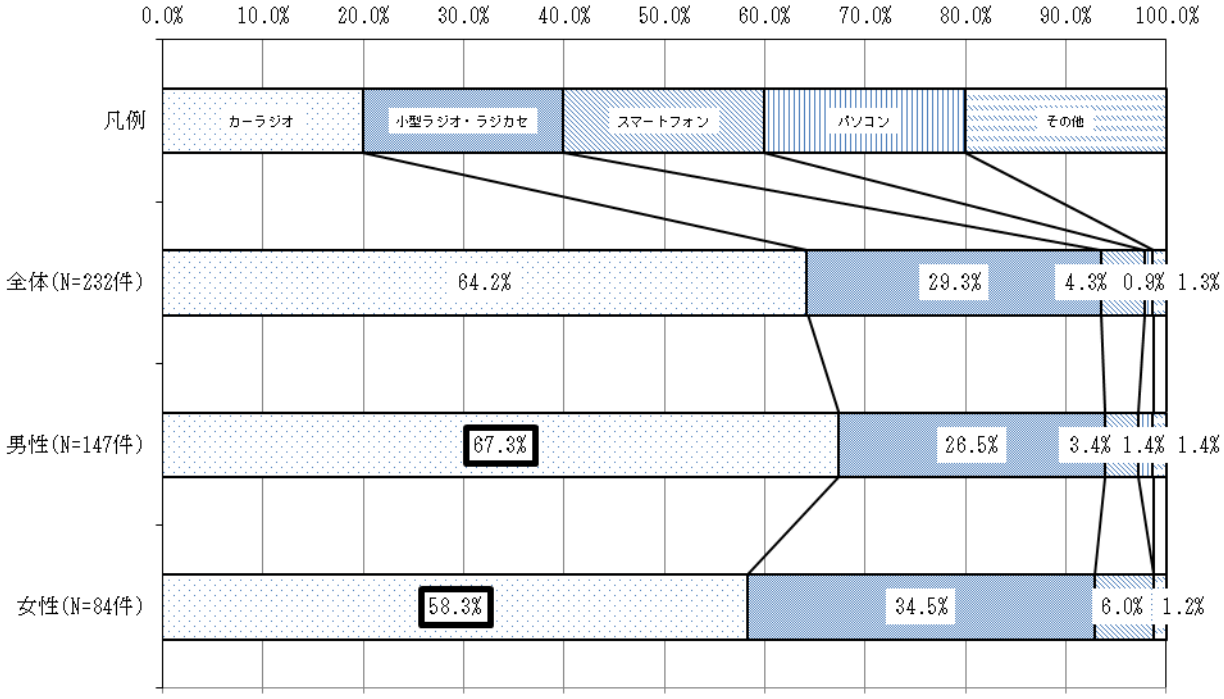
◆「その他」意見（抜粋）

・音楽プレーヤー。（男性／10 代／大曲／無職／独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「カーラジオ」の回答割合が、男性67.3%、女性58.3%と最も高くなっている。

○「カーラジオ」は女性より男性の回答割合が高いが、「小型ラジオ・ラジカセ」は男性より女性の回答割合が高い。

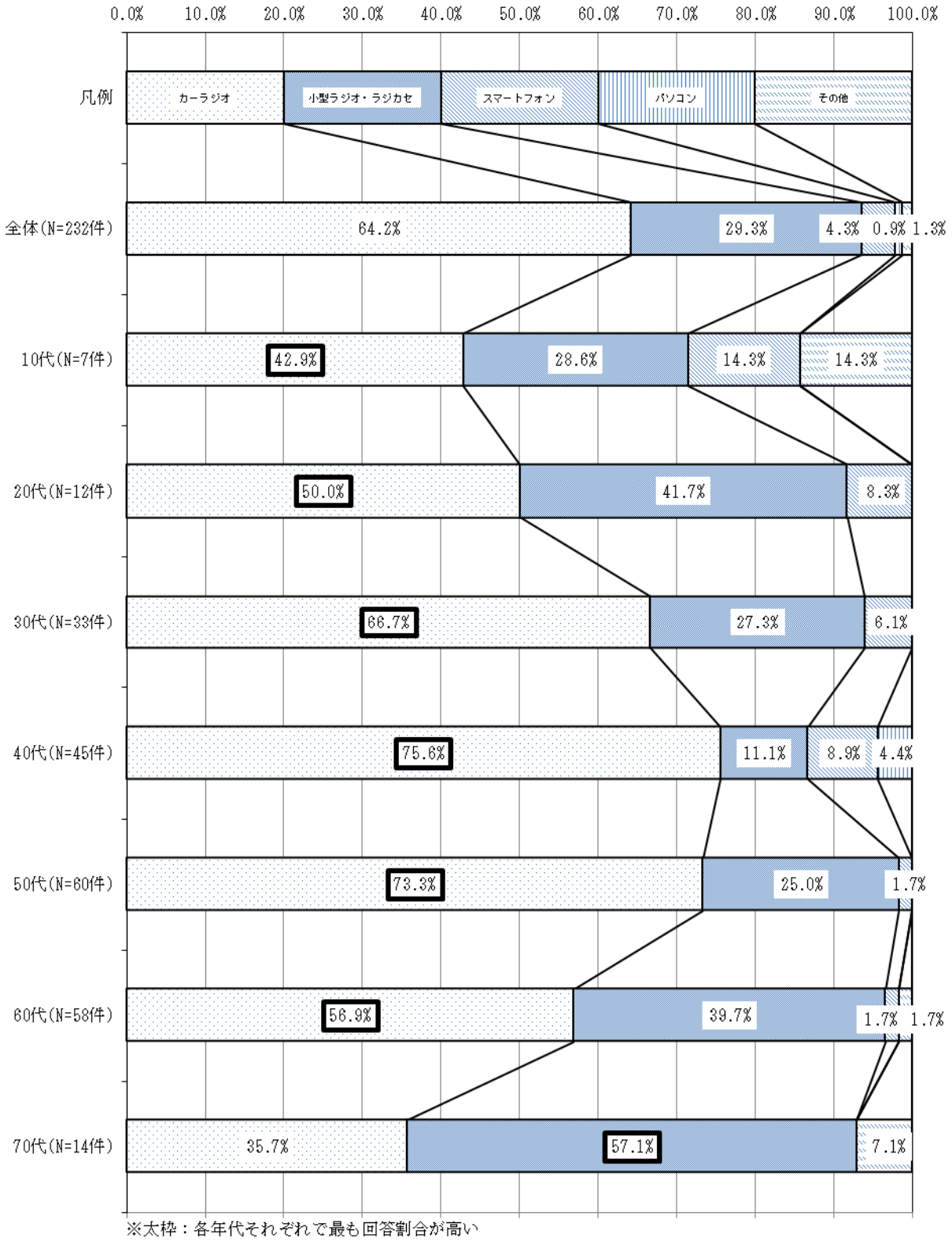


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○70 代を除く全年代において、「カーラジオ」の回答割合が最も高くなっている。

○70 代において、「小型ラジオ・ラジカセ」の回答割合が 57.1%と最も高くなっている。

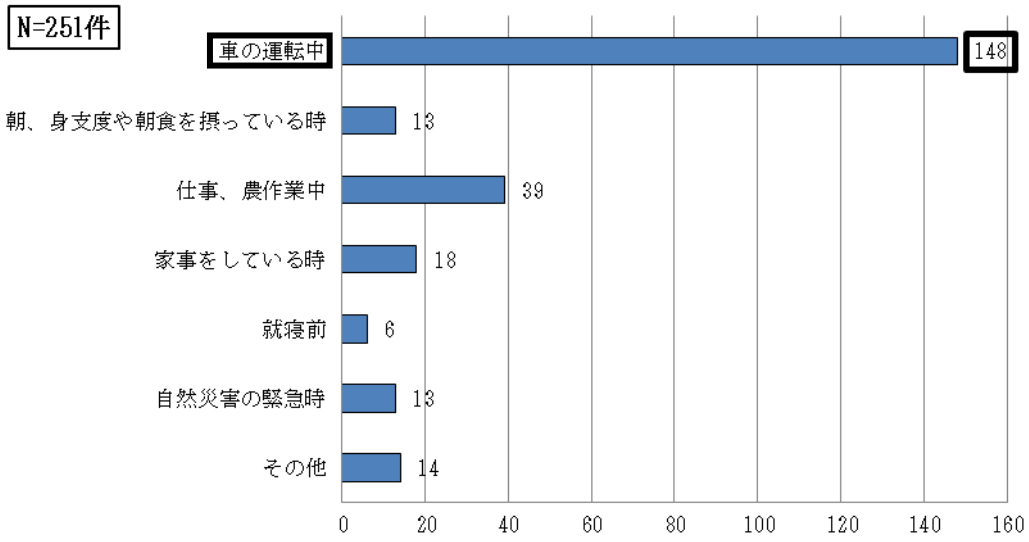


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問４　ＦＭはなびをどのような時に聴いていますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○ＦＭはなびを聴く際の状況について、「車の運転中」が 148 件と最も回答数が多く、次いで「仕事・農作業中」が 39 件となっている。



※ＦＭはなびを聴いている方のみ回答

◆「その他」意見（抜粋）

・暇な時（男性／10 代／大曲／無職／独身）

・昼食の時。（男性／20 代／南外／自営業主・家族従業者／独身）

・大曲の花火の時。（男性／30 代／大曲／派遣・契約社員／既婚）

・子どもや知り合いが出る時。（女性／30 代／大曲／パート・アルバイト／既婚）

・決まっていない。（男性／40 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

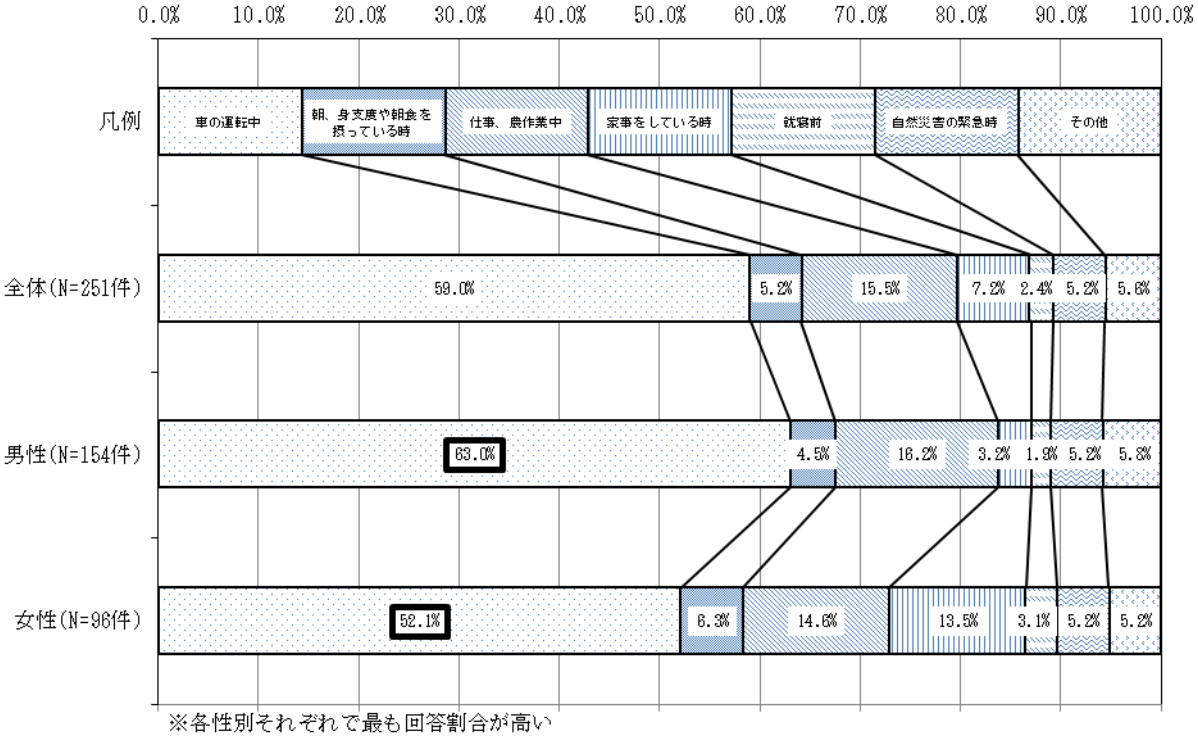
・入院中。（女性／50 代／大曲／パート・アルバイト／独身）

・趣味の時間。（女性／60 代／中仙／専業主婦／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「車の運転中」の回答割合が、男性 63.0%、女性 52.1%と最も高くなっている。

○女性は男性より「家事をしている時」の回答割合が高く、女性が 13.5%で男性よりも 10.3 ポイント高くなっている。

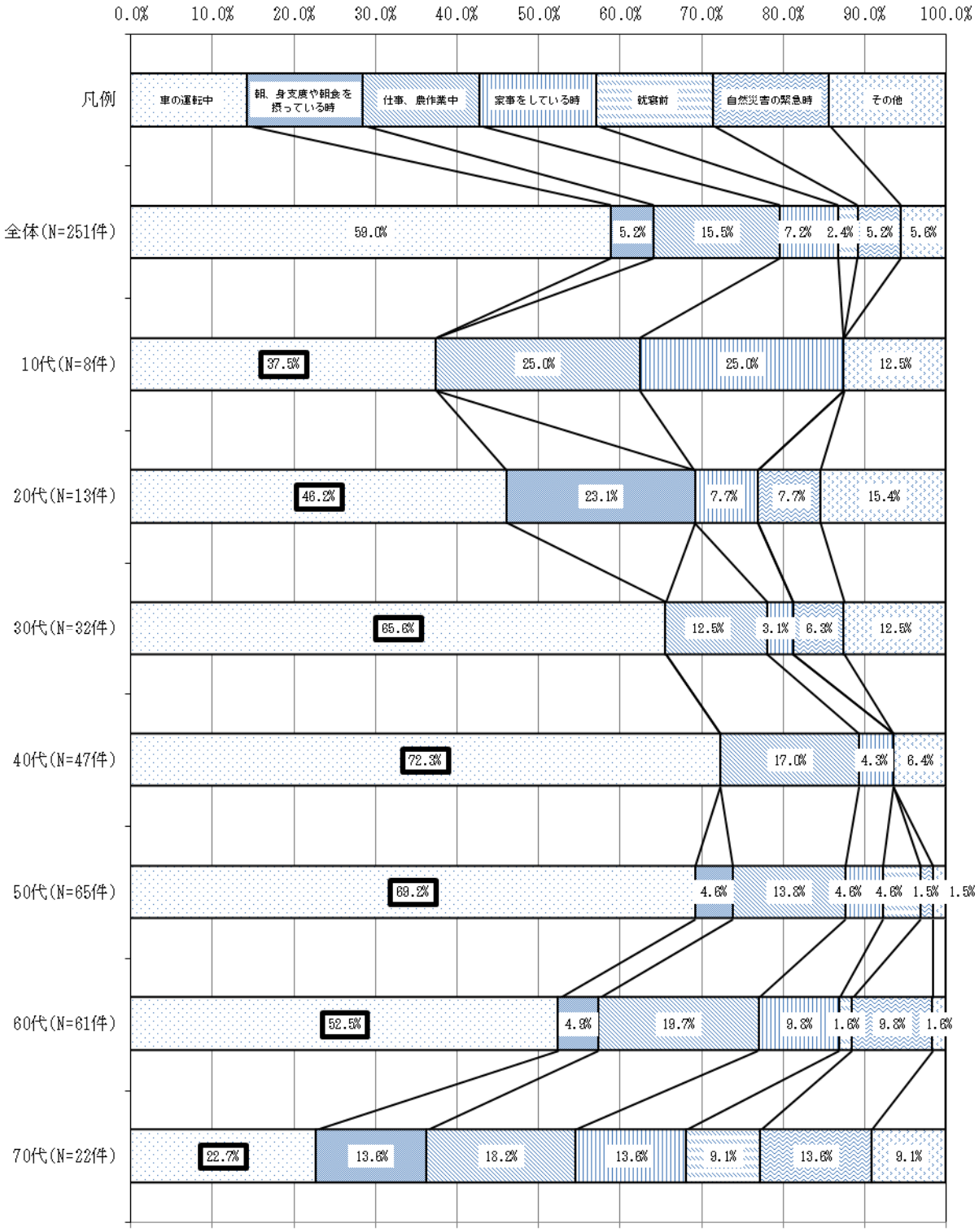


※各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「車の運転中」の回答割合が最も高くなっている。

○30 代から 50 代において、「車の運転中」の回答割合が、30 代 65.6%、40 代 72.3%、50 代 69.2%と他の年代に比べて高くなっている。

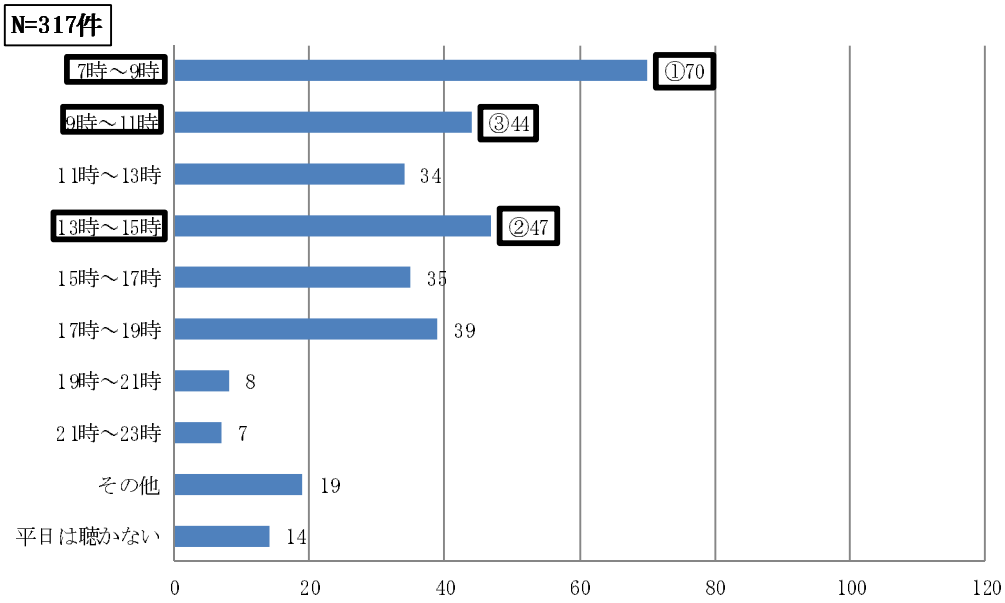


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問５　平日（月～金）のＦＭはなびをよく聴く時間帯はいつですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○平日のＦＭはなびを聴く時間帯について、「７時～９時」の回答数が 70 件と最も回答数が多く、次いで「13 時～15 時」が 47 件、「９時～11 時」が 44 件となっている。

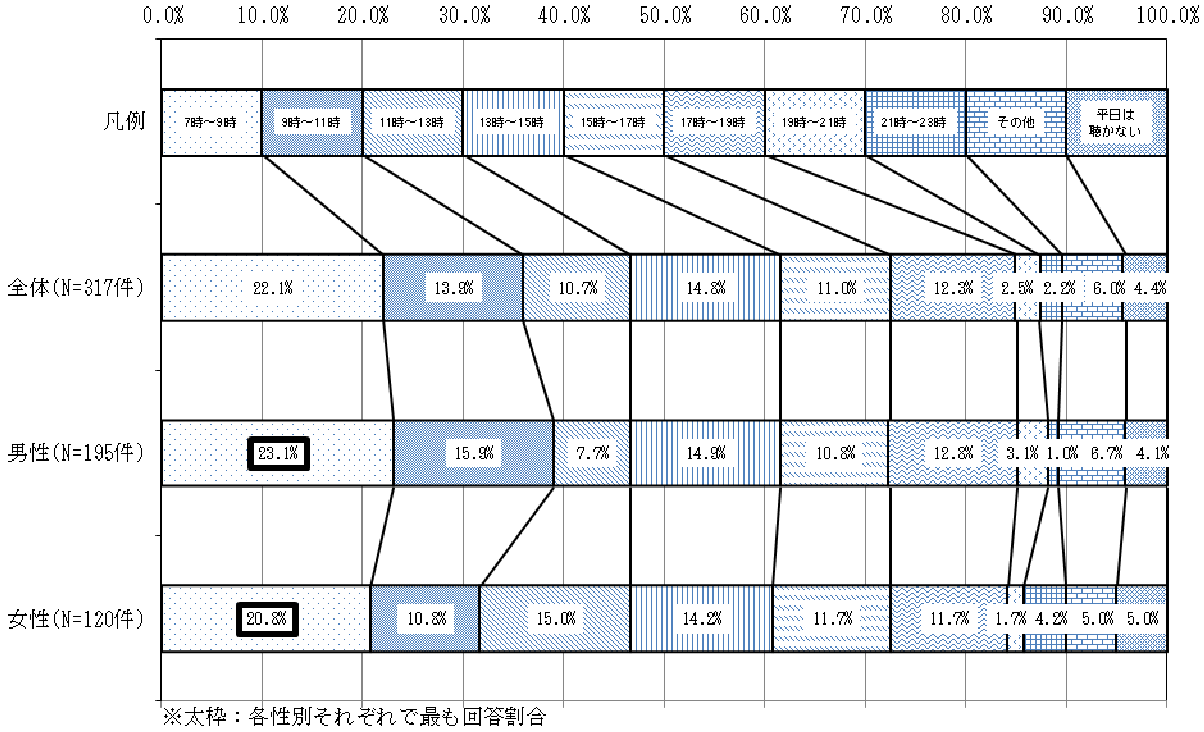


※ＦＭはなびを聴いている方のみ回答

【性別】

○男女どちらにおいても、「７時～９時」の回答割合が、男性 23.1%、女性 20.8%と最も高くなっている。

○男性は「７時～11 時（「７時から９時」と「９時から 11 時」を合算）」の回答割合が 39.0%と女性より 7.4 ポイント高く、女性は男性より「11 時から 15 時（「11 時から 13 時」と「13 時から 15 時」を合算）」の回答割合が 29.2%と男性より 6.6 ポイント高くなっている。

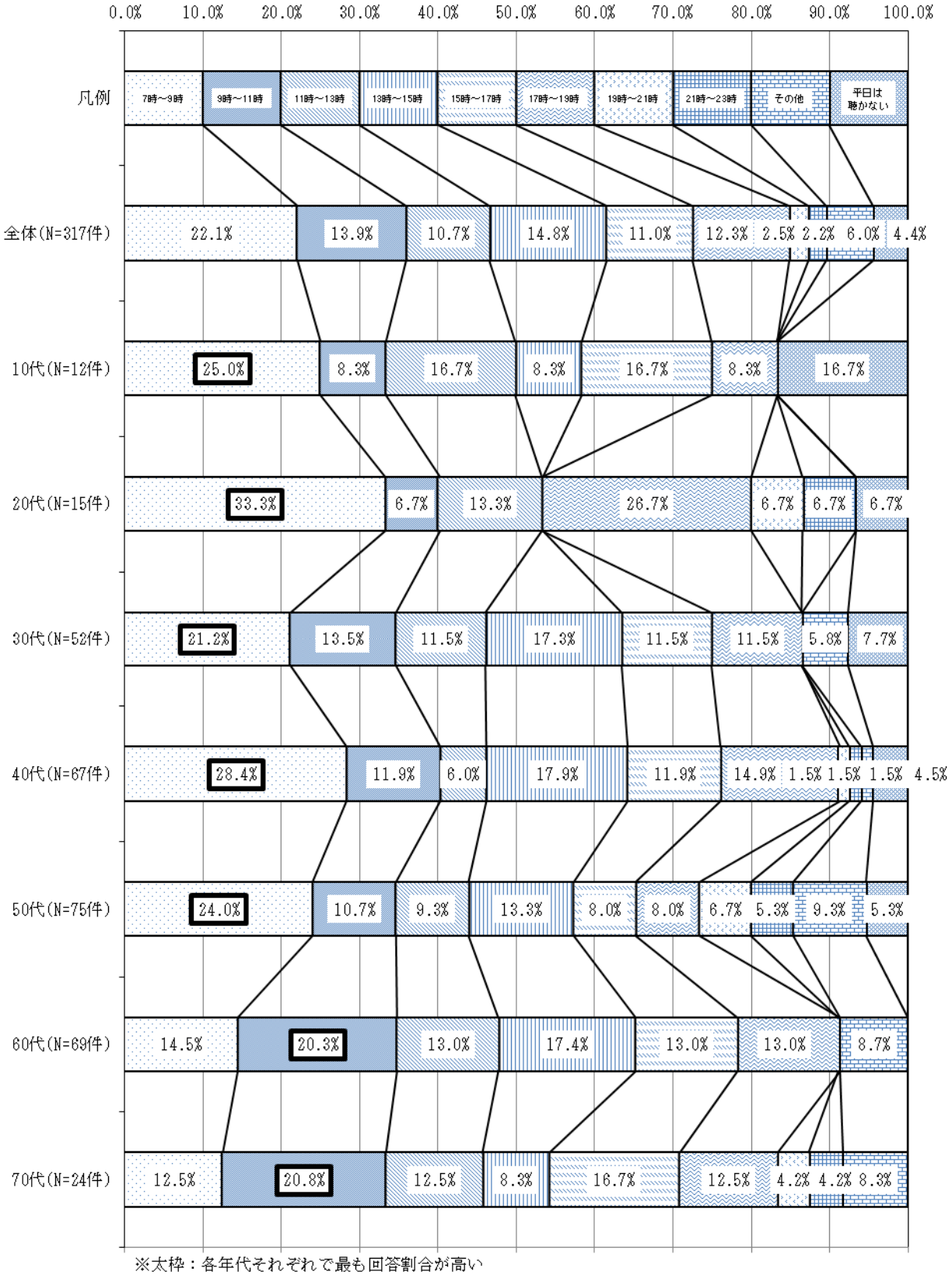


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合

【年代別】

○全年代において、「７時～９時」の回答割合が最も高くなっている。

○60 代、70 代において、「９時～11 時」の回答割合が、60 代 20.3%、70 代 20.8%と他の年代に比べて高くなっている。

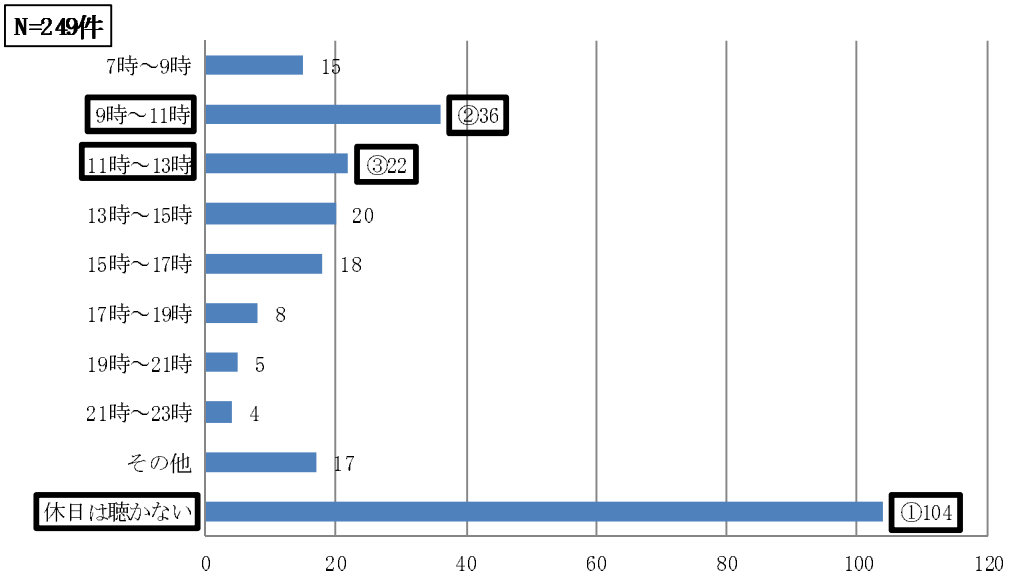


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問６　休日（土日）のＦＭはなびをよく聴く時間帯はいつですか。該当する番号すべてに〇印をつけてください。

【全体】

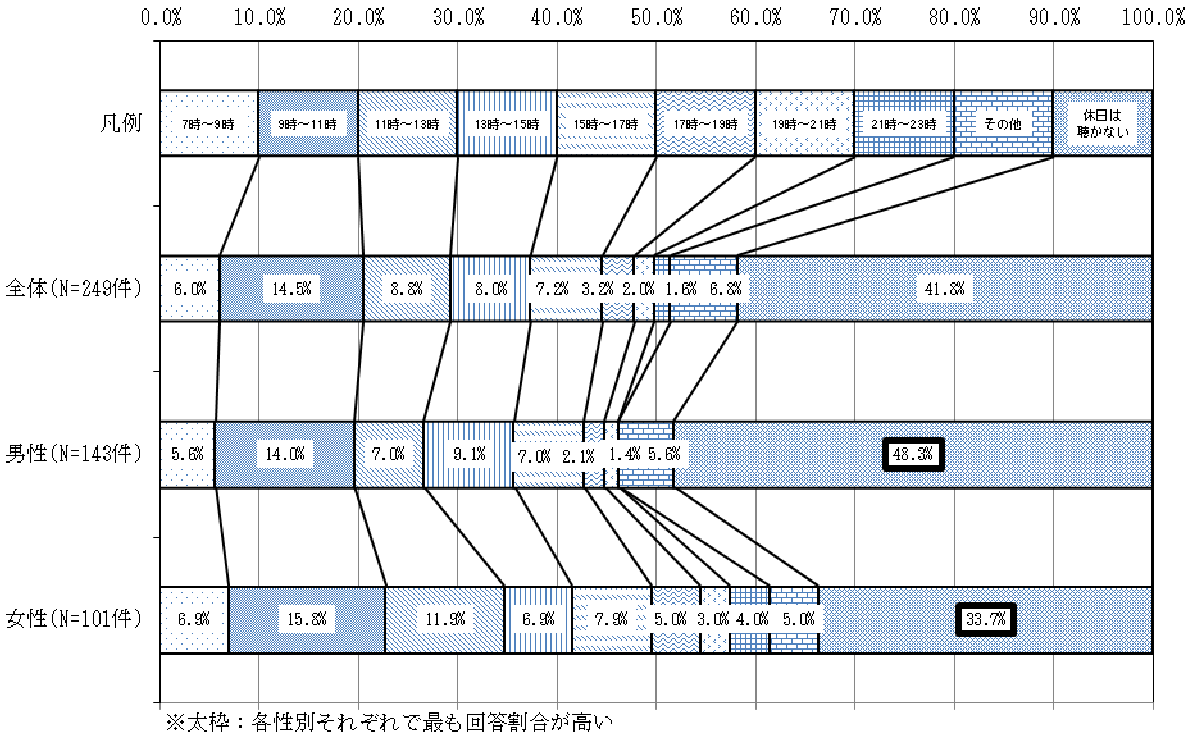
〇休日のＦＭはなびを聴く時間帯について、「休日は聴かない」の回答数が 104 件と最も回答数が多く、次いで「９時～11 時」が 36 件、「11 時～13 時」が 22 件となっている。



※ＦＭはなびを聴いている方のみ回答

【性別】

○男女どちらにおいても、「休日は聴かない」の回答割合が、男性 48.3%、女性 33.7%と最も高くなっている。

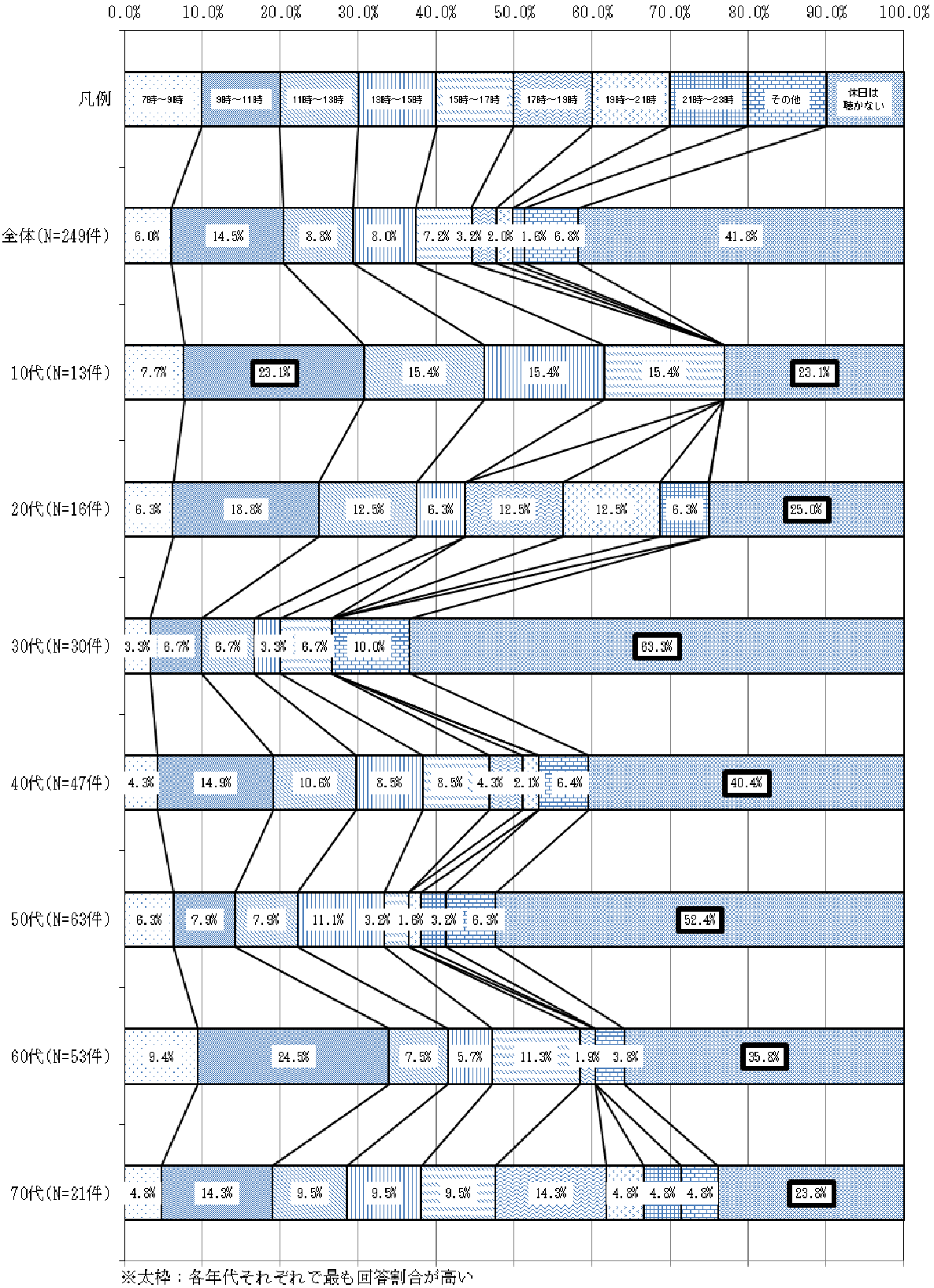


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「休日は聴かない」の回答割合が最も高くなっている。

○全年代において、「９時～11 時」の回答割合が上位となっている。

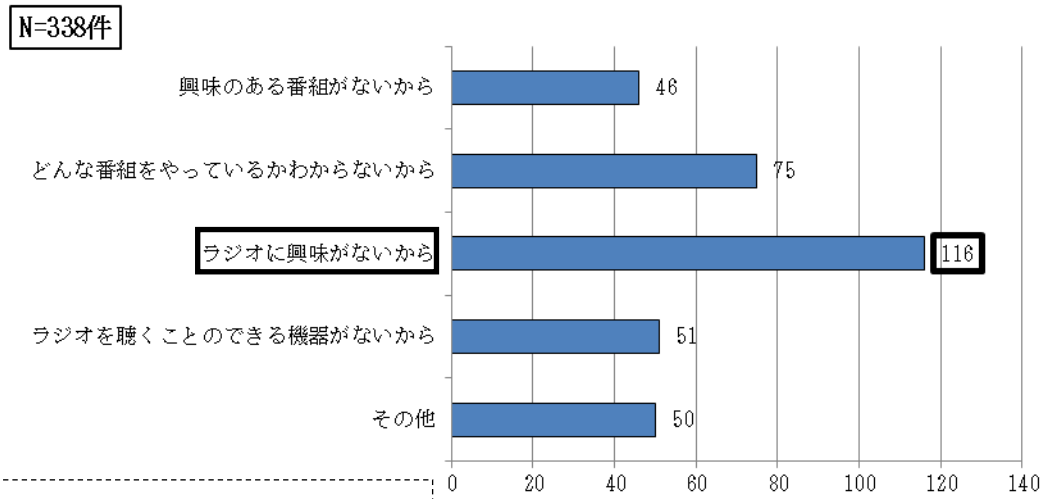


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問７　問２で「３」に○印をつけた方にお聞きします。聴かない理由は何ですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○ＦＭはなびを聴かない理由について、「ラジオに興味がないから」が 116 件と最も回答数が多く、次いで「どんな番組をやっているかわからないから」が 75 件となっている。



※ＦＭはなびを聴いていない方のみ回答

◆「その他」意見（抜粋）

・大仙市外で仕事をしているから。（男性／20 代／大曲／正規社員・職員／独身）

・スマホで聞きたいが、データを消費するから。（男性／30 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

・聴く時間が無いから。（男性／30 代／西仙北／正規社員・職員／既婚）

・テレビを見ているから。（男性／30 代／中仙／自営業主・家族従業者／独身）

・聴く機会がないから。（女性／30 代／大曲／派遣・契約社員／既婚）

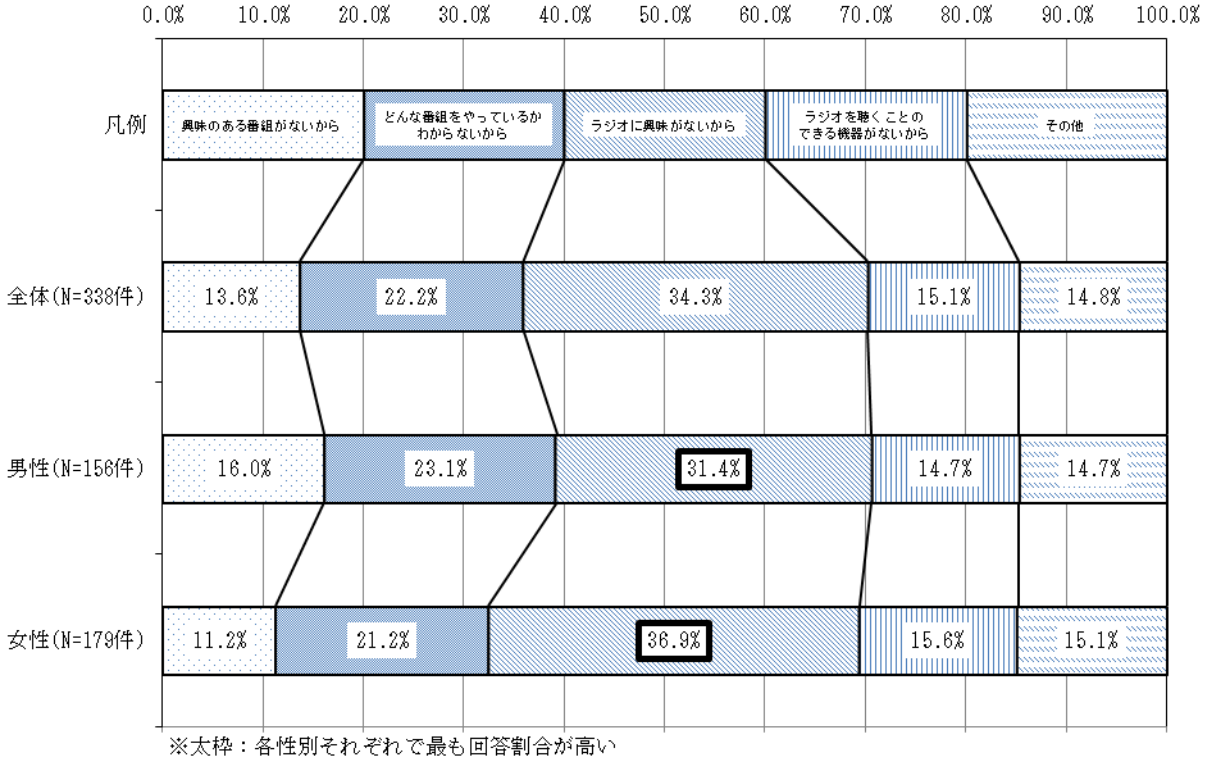
・他局を聴いているから。（女性／30 代／大曲／パート・アルバイト／独身）

・電波環境が悪いから。（女性／40 代／南外／パート・アルバイト／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「ラジオに興味がない」の回答割合が、男性31.4%、女性36.9%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

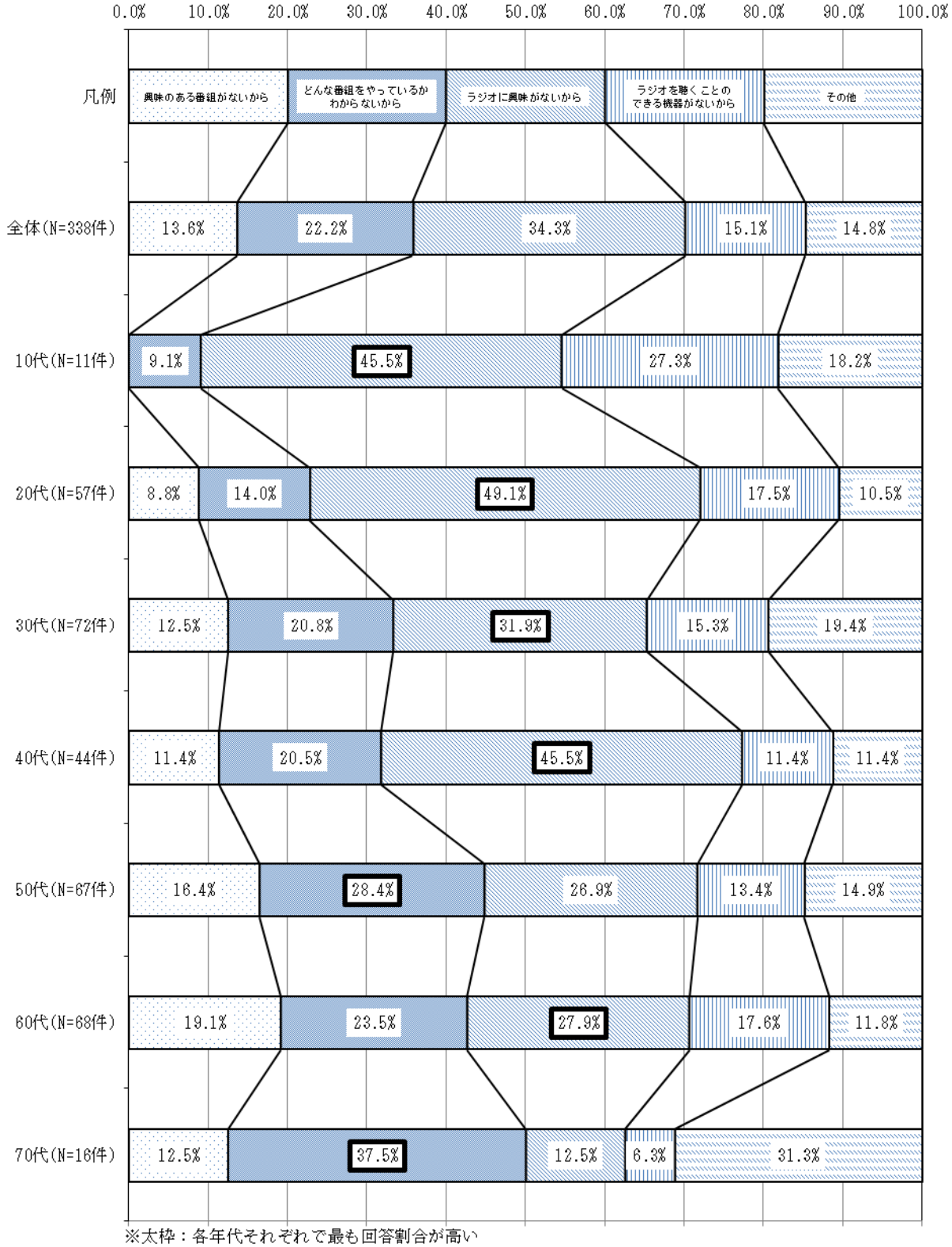


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○50 代、70 代を除く全年代において、「ラジオに興味がないから」の回答割合が最も高くなっている。

○50、70 代において、「どんな番組をやっているかわからないから」の回答割合が、50 代 28.4%、70 代 37.5%と最も高くなっている。



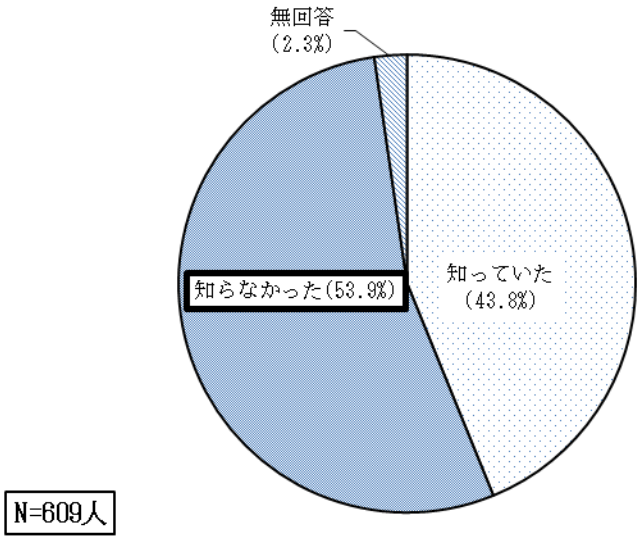
※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.11 「学校生活支援事業」について

問１　学校生活を送る上で、様々な支援や配慮が必要な児童生徒に対して、「学校生活支援員等」を配置していることを知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

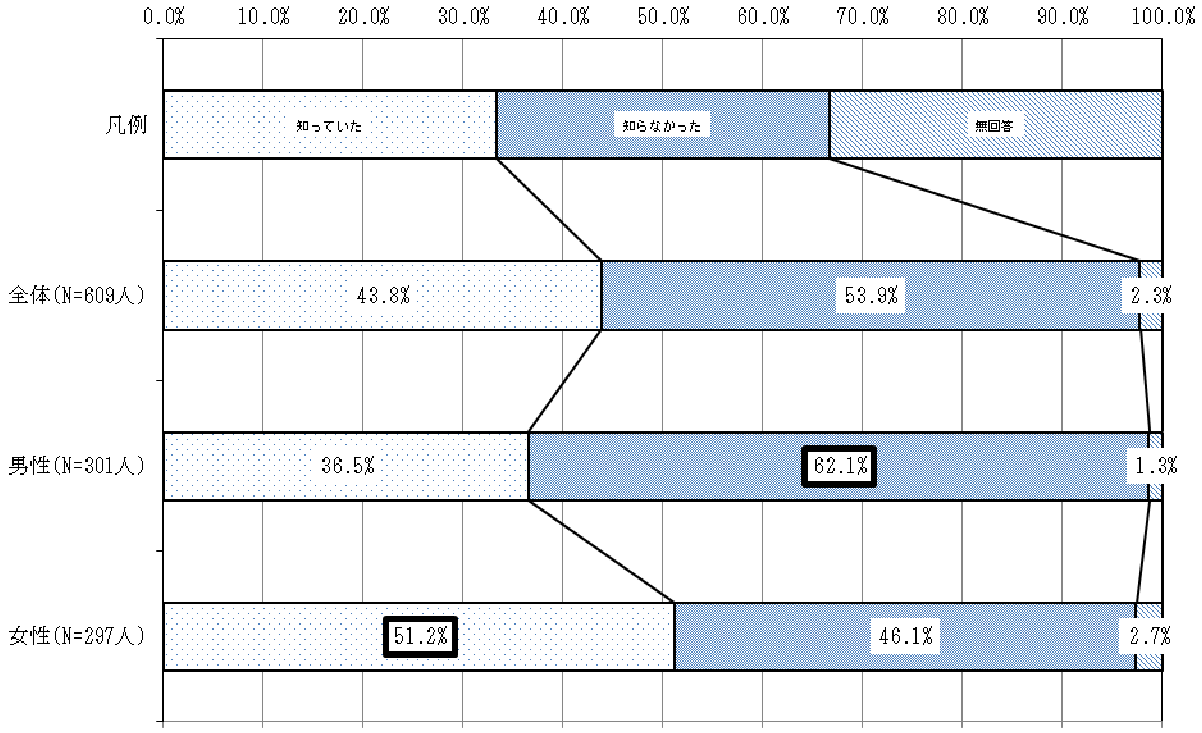
○学校生活支援員等を配置していることに対する認知度について、「知らなかった」が 53.9%と最も回答割合が高く、次いで「知っていた」が 43.8%となっている。



【性別】

○女性は男性より「知っている」の回答割合が高く、女性が 51.2%で男性よりも 14.7 ポイント高い。

○男性は女性より「知らない」の回答割合が高く、男性が 62.1%で女性よりも 16.0 ポイント高い。

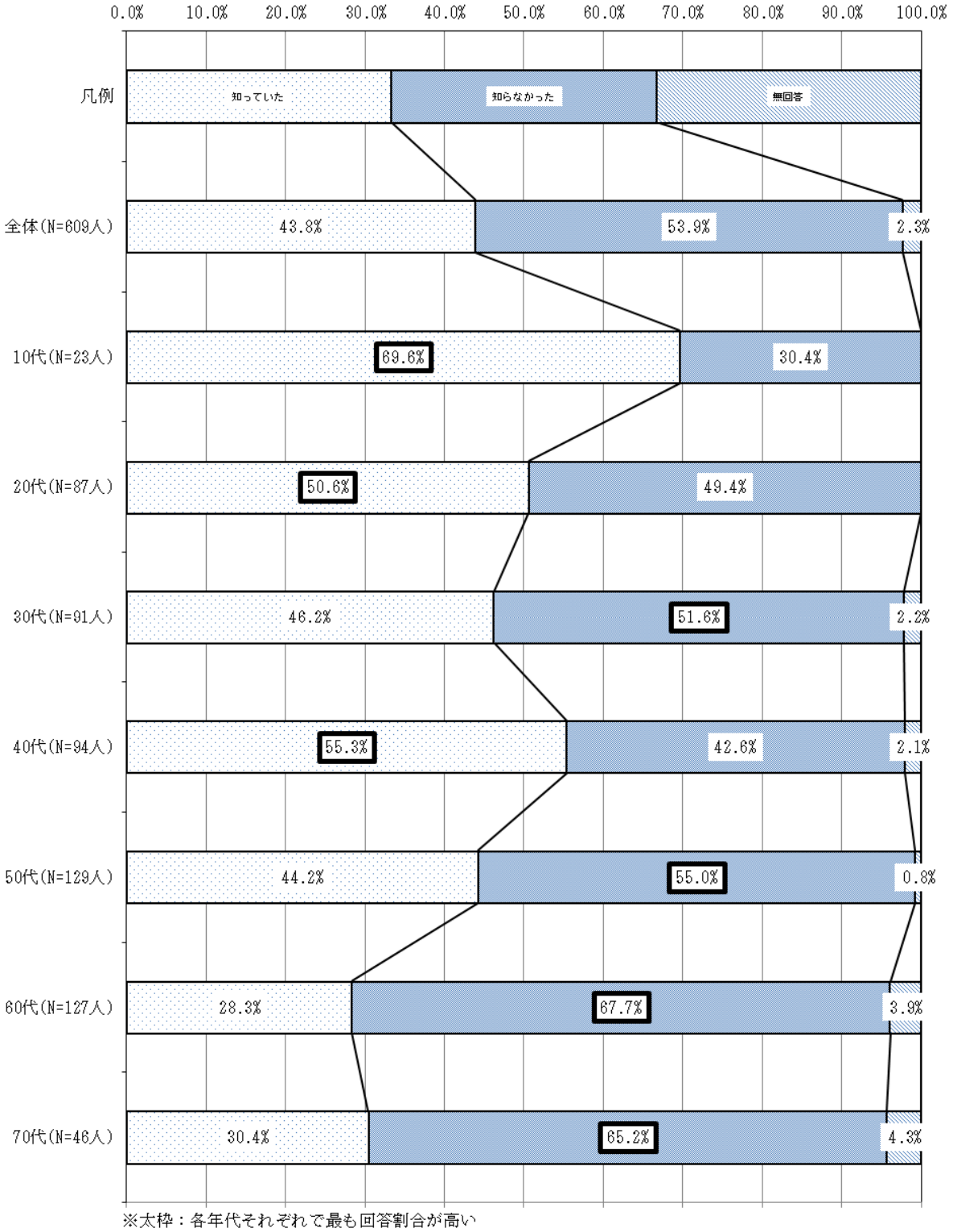


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○10 代、20 代、40 代において、「知っている」の回答割合が、10 代 69.6%、20 代 50.6%、40 代 55.3%と最も高くなっている。

○30 代、50 代から 70 代において、「知らなかった」の回答割合が、30 代 51.6%、50 代 55.0%、60 代 67.7%、70 代 65.2%と最も高くなっている。

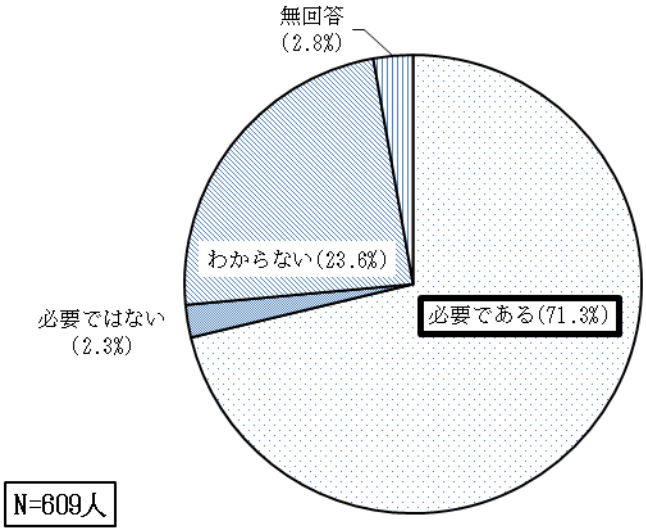


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問２　学校生活において、学校生活支援員等を配置して様々な支援や配慮を行うことは必要だと思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

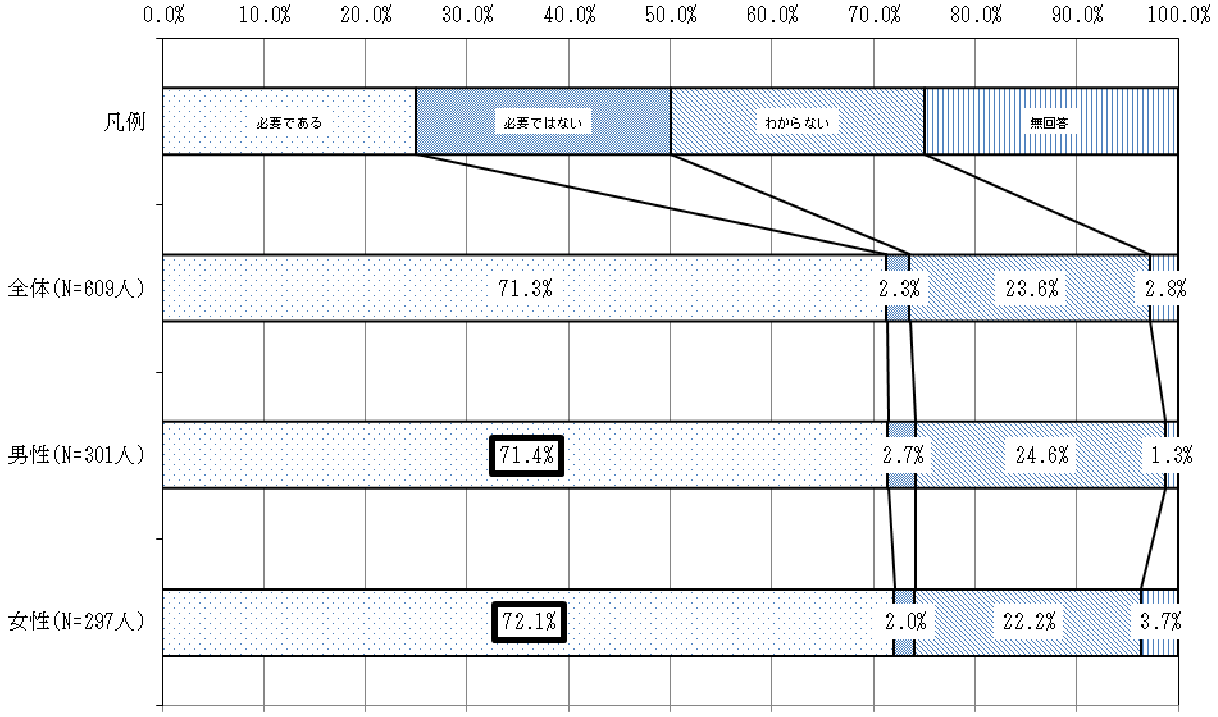
○学校生活支援員等を配置することの必要性について、「必要である」が 71.3%と最も回答割合が高く、次いで「わからない」が 23.6%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「必要である」の回答割合が、男性 71.4%、女性 72.1%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

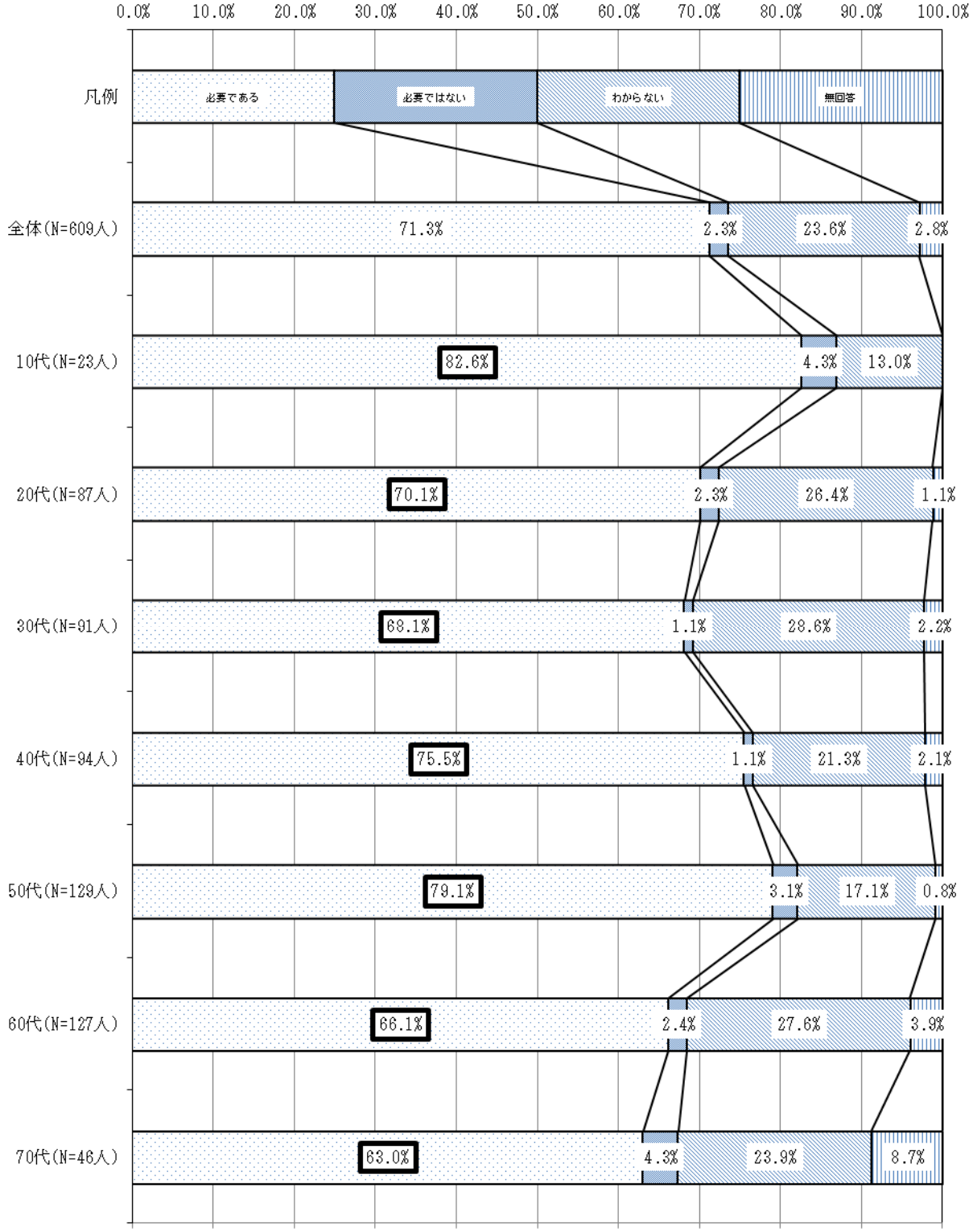


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「必要である」の回答割合が最も高くなっている。

○10 代、50 代において、「必要である」の回答割合が、10 代 82.6％、50 代 79.1％と他の年代に比べて高くなっている。

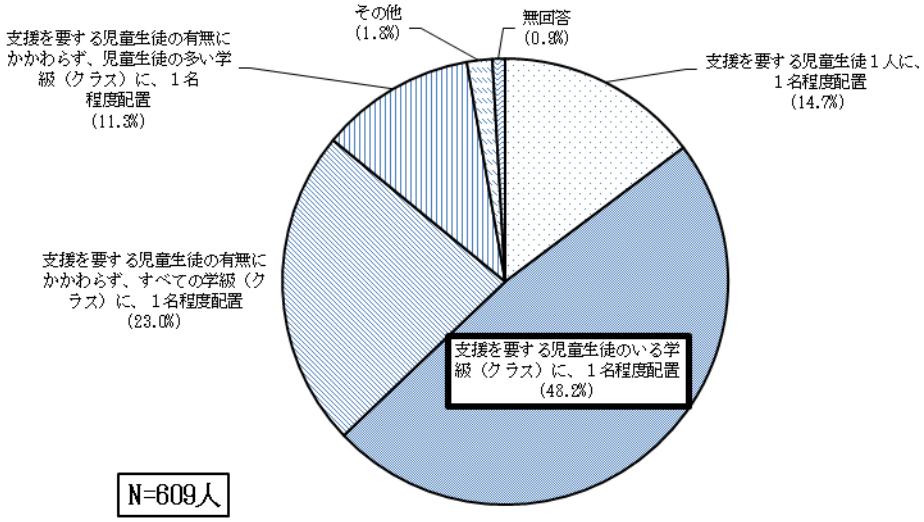


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問３　問２で「１」に〇印をつけた方にお聞きします。現在、30 人程度の学級（クラス）で１人から２人ほど、支援が必要な児童生徒がいると言われていますが、どのように学校生活支援員等を配置することが望ましいと思いますか。該当する番号１つに〇印をつけてください。

【全体】

〇学校生活支援員等の配置方法について、「支援を要する児童生徒のいる学級（クラス）に１名程度配置」が 48.2％と最も回答割合が高く、次いで「支援を要する児童生徒の有無にかかわらず、すべての学級（クラス）に、１名程度配置」が 23.0％となっている。



※学校生活支援員等の配置が必要と回答した方のみ選択

◆「その他」意見（抜粋）

・すべての学級に１名程度ずつ配置し、さらに月に一度面談すべき。
（女性／10 代／大曲／正規社員・職員／独身）

・児童が本当に必要とする支援員の人選が必要。（男性／50 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・個人のニーズに合ったきめ細かい支援。（女性／50 代／大曲／専業主婦／既婚）

・大人の心のケアの方が重要ではないか。（女性／60 代／西仙北／自営業主・家族従業者／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「支援を要する児童生徒のいる学級（クラス）に１名程度配置」の回答割合が、男性 53.5%、女性 43.7%と最も高くなっている。

○男性は女性より「支援を要する児童生徒のいる学級（クラス）に１名程度配置」の回答割合が高く、男性が 53.5%で女性よりも 9.8 ポイント高くなっている。

【年代別】

○全年代において、「支援を要する児童生徒のいる学級（クラス）に１名程度配置」の回答割合が最も高くなっている。

○10 代から 40 代において、「支援を要する児童生徒１人に、１名程度配置」の回答割合が 50 代から 70 代と比べて高くなっている。

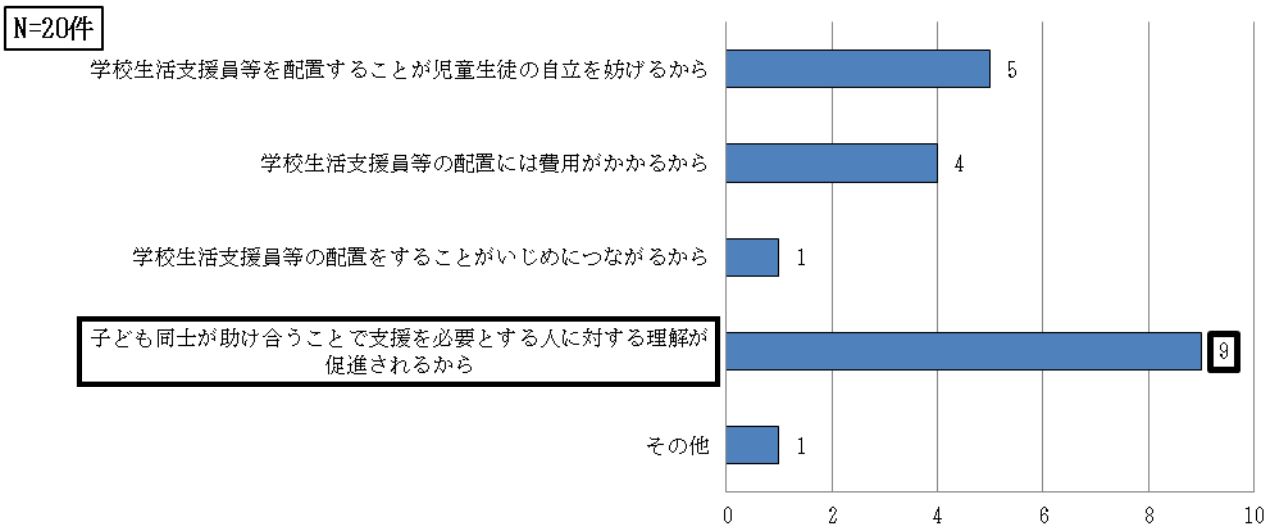
	有効回答数（N）	支援を要する児童生徒１人に、１名程度配置	支援を要する児童生徒のいる学級（クラス）に、１名程度配置	支援を要する児童生徒の有無にかかわらず、すべての学級（クラス）に、１名程度配置	支援を要する児童生徒の有無にかかわらず、児童生徒の多い学級（クラス）に、１名程度配置	その他	無回答
全体	434人	14.7%	48.2%	23.0%	11.3%	1.8%	0.9%
《性別》							
男性	215人	13.5%	53.5%	20.5%	10.7%	0.5%	1.4%
女性	214人	15.5%	43.7%	25.8%	11.7%	3.3%	0.0%
《年代別》							
10代	19人	21.1%	42.1%	21.1%	5.3%	5.3%	5.3%
20代	61人	16.4%	52.5%	24.6%	6.6%	0.0%	0.0%
30代	62人	19.4%	43.5%	27.4%	6.5%	1.6%	1.6%
40代	71人	22.5%	46.5%	18.3%	9.9%	2.8%	0.0%
50代	102人	9.8%	52.0%	18.6%	15.7%	2.9%	1.0%
60代	84人	8.3%	48.8%	28.6%	13.1%	1.2%	0.0%
70代	29人	10.3%	44.8%	24.1%	17.2%	0.0%	3.4%

※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

問４　問２で「２」に〇印をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号すべてに〇印をつけてください。

【全体】

〇学校生活支援員等の配置が必要ではない理由について、「子ども同士が助け合うことで支援を必要とする人に対する理解が促進されるから」が９件と最も回答数が多く、次いで「学校生活支援員等を配置することが児童生徒の自立を妨げるから」が５件となっている。



※学校生活支援員等の配置が必要でないと回答した方のみ選択

【性別】

〇有効回答数が少ないため、性別分析を実施しない。

【年代別】

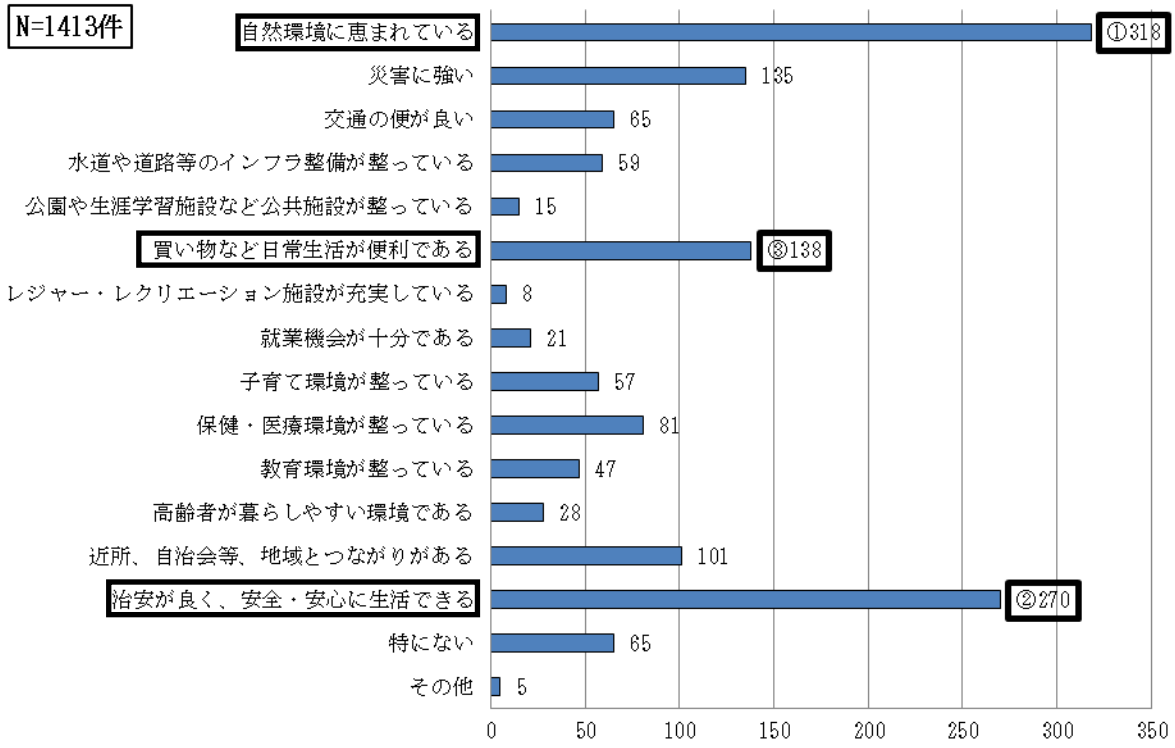
〇有効回答数が少ないため、年代別を実施しない。

2.12 「移住・定住への支援事業」について

問１　市の暮らしやすい点として、該当する番号３つまで○印をつけてください。

【全体】

○市の暮らしやすい点について、「自然環境に恵まれている」が 318 件と回答数が最も多く、次いで、「治安が良く、安全・安心に生活できる」が 270 件、「買い物など日常生活が便利である」が 138 件となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「自然環境に恵まれている」、「買い物など日常生活が便利である」、「治安が良く、安全・安心に生活できる」が上位となっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「自然環境に恵まれている」、「治安が良く、安全・安心に生活できる」が上位となっている。

○40 代、50 代を除く全年代において、「災害に強い」が上位となっている。

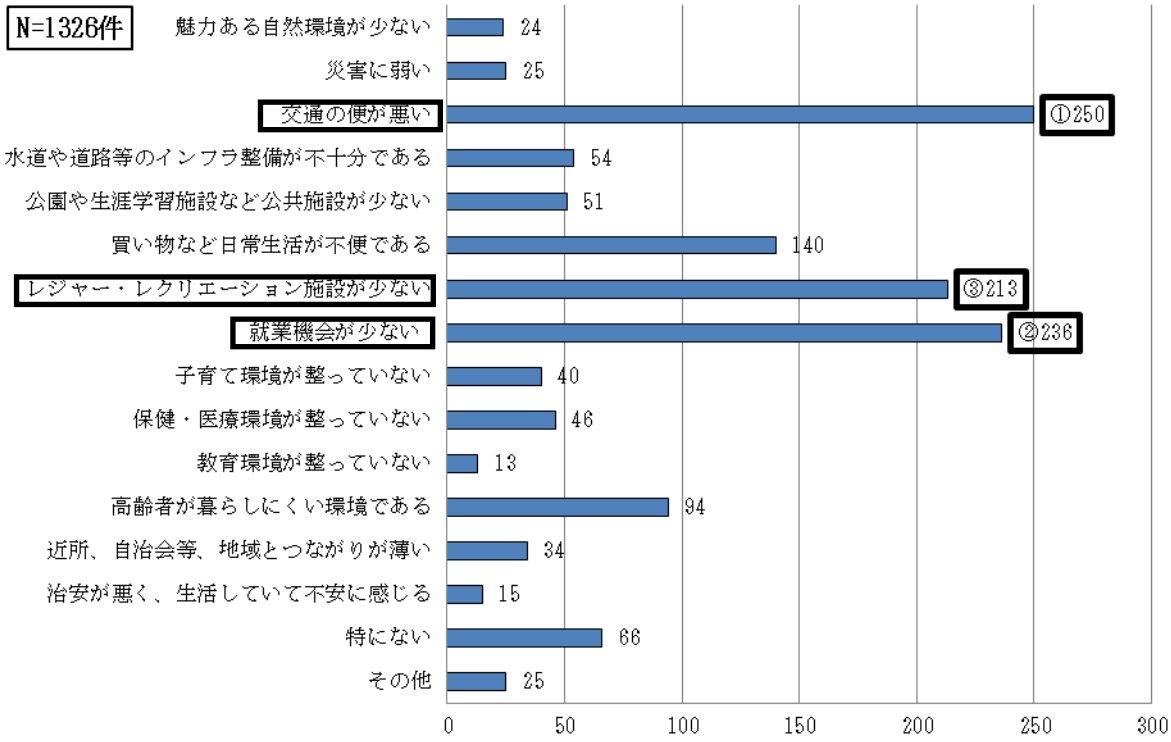
	有効回答数（N）	自然環境に恵まれている	災害に強い	交通の便が良い	水道や道路等のインフラ整備が整っている	公園や生涯学習施設など公共施設が整っている	買い物など日常生活が便利である	レジャー・レクリエーション施設が充実している	就業機会が十分である	子育て環境が整っている	保健・医療環境が整っている	教育環境が整っている	高齢者が暮らしやすい環境である	近所、自治会等、地域とつながりがある	治安が良く、安全・安心に生活できる	特にない	その他
全体	1413件	22.5%	9.6%	4.6%	4.2%	1.1%	9.8%	0.6%	1.5%	4.0%	5.7%	3.3%	2.0%	7.1%	19.1%	4.6%	0.4%
《性別》																	
男性	685件	①23.6%	8.6%	4.4%	4.4%	0.9%	③8.8%	0.6%	1.8%	3.1%	5.5%	3.9%	2.2%	7.6%	②19.4%	5.0%	0.3%
女性	707件	①21.2%	10.6%	5.0%	4.0%	1.1%	③10.7%	0.6%	1.3%	5.0%	5.9%	2.8%	1.8%	6.6%	②18.5%	4.4%	0.4%
《年代別》																	
10代	52件	①26.9%	③11.5%	7.7%	5.8%	0.0%	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	5.8%	3.8%	1.9%	5.8%	②21.2%	3.8%	0.0%
20代	214件	②19.2%	③7.9%	4.7%	5.6%	1.9%	③7.9%	1.9%	2.3%	3.3%	6.1%	4.2%	1.4%	7.5%	①21.5%	4.2%	0.5%
30代	192件	①20.3%	③12.5%	4.2%	2.6%	0.5%	10.4%	0.0%	1.0%	6.3%	6.3%	3.1%	0.5%	4.2%	②19.8%	8.3%	0.0%
40代	217件	①24.4%	7.8%	5.5%	1.8%	1.8%	③8.3%	0.9%	0.5%	6.5%	6.5%	4.6%	2.8%	4.1%	②19.4%	5.1%	0.0%
50代	297件	①22.9%	8.4%	4.7%	4.4%	0.0%	③10.8%	0.3%	2.4%	3.4%	4.7%	3.0%	1.7%	8.8%	②20.2%	3.7%	0.7%
60代	311件	①22.2%	③11.3%	4.8%	5.8%	0.6%	12.2%	0.0%	1.9%	2.6%	4.5%	1.9%	2.3%	8.7%	②17.0%	3.5%	0.6%
70代	108件	①25.9%	③9.3%	1.9%	2.8%	2.8%	7.4%	0.9%	0.0%	4.6%	③9.3%	4.6%	4.6%	③9.3%	②13.0%	3.7%	0.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで回答割合が高い３項目

問２　市の暮らしにくい点として、該当する番号３つまで○印をつけてください。

【全体】

○市の暮らしにくい点について、「交通の便が悪い」が 250 件と回答数が最も多く、次いで、「就業機会が少ない」が 236 件、「レジャー・レクリエーション施設が少ない」が 213 件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

- 施設のきめ細かい維持管理が出来ていない。（男性／30 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 地域間の交流が干渉的。（男性／30 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- 経済力が弱い。（男性／30 代／神岡／自営業／家族従業者／既婚）
- 市全体が変わろうとしていない。個性がない。（男性／40 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 迷惑な市民がいる。（女性／50 代／南外／専業主婦／既婚）
- 旧大曲市だけにお金が回っている。（男性／50 代／太田／正規社員・職員／既婚）
- 給与水準が低すぎる。（男性／60 代／中仙／正規社員・職員／独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「交通の便が悪い」、「レジャー・レクリエーション施設が少ない」、「就業機会が少ない」が上位となっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「交通の便が悪い」、「レジャー・レクリエーション施設が少ない」、「就業機会が少ない」が上位となっている。

○全体的に、年代で大きな差は見られない。

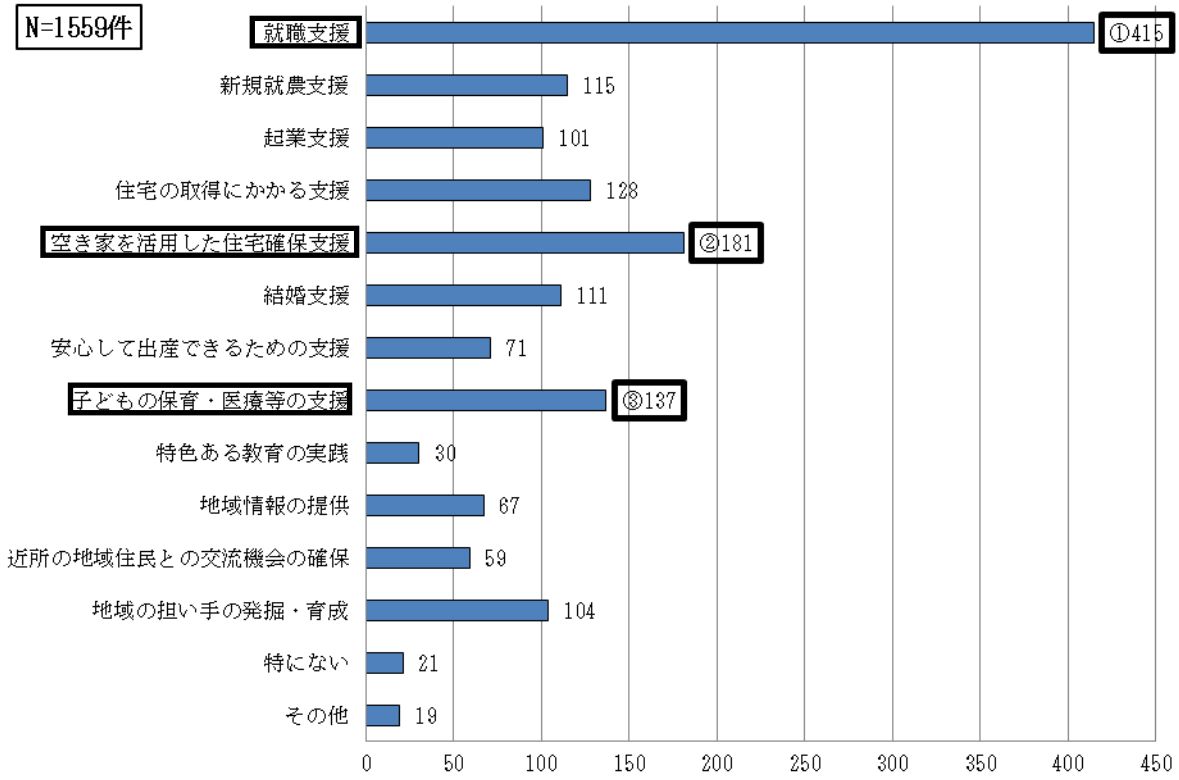
	有効回答数（N）	魅力ある自然環境が少ない	災害に弱い	交通の便が悪い	水道や道路等のインフラ整備が不十分である	公園や生涯学習施設など公共施設が少ない	買い物など日常生活が不便である	レジャー・レクリエーション施設が少ない	就業機会が少ない	子育て環境が整っていない	子育て環境が整っていない	保健・医療環境が整っていない	教育環境が整っていない	高齢者が暮らしにくい環境である	近所、自治会等、地域とつながりが薄い	特にない	その他
全体	1328件	1.8%	1.9%	18.9%	4.1%	3.8%	10.8%	16.1%	17.8%	3.0%	3.5%	1.0%	7.1%	2.8%	1.1%	5.0%	1.9%
《性別》																	
男性	652件	1.4%	1.7%	②17.3%	4.9%	2.8%	10.1%	③16.9%	①18.9%	2.8%	3.5%	1.2%	6.9%	2.8%	0.9%	5.7%	2.5%
女性	657件	2.1%	1.8%	①20.4%	3.2%	5.2%	10.8%	③15.7%	②16.7%	3.2%	3.3%	0.8%	7.3%	2.4%	1.2%	4.4%	1.4%
《年代別》																	
10代	56件	0.0%	0.0%	①23.2%	1.8%	1.8%	16.1%	③21.4%	①23.2%	1.8%	1.8%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%
20代	186件	1.1%	0.0%	①21.0%	1.6%	4.8%	12.9%	②18.3%	③16.1%	2.7%	3.8%	1.1%	2.2%	2.2%	2.7%	4.8%	4.8%
30代	201件	1.5%	2.0%	②15.9%	5.5%	5.0%	6.0%	①22.4%	③14.4%	4.0%	5.5%	1.0%	3.5%	4.5%	0.5%	6.0%	2.5%
40代	209件	1.4%	2.4%	②17.7%	2.9%	2.9%	9.6%	③17.2%	①21.1%	3.8%	1.9%	1.4%	9.6%	1.9%	1.0%	4.3%	1.0%
50代	280件	1.4%	1.1%	②18.9%	7.1%	3.2%	10.7%	③14.6%	①19.6%	1.4%	3.9%	0.7%	8.2%	1.8%	1.1%	4.6%	1.4%
60代	280件	3.6%	3.6%	①18.9%	3.2%	5.0%	11.4%	③11.4%	②16.8%	3.9%	2.5%	1.1%	8.6%	2.5%	1.1%	5.0%	1.4%
70代	95件	1.1%	1.1%	①21.1%	3.2%	2.1%	10.5%	③12.6%	②15.8%	2.1%	4.2%	1.1%	10.5%	5.3%	0.0%	8.4%	1.1%

※着色部：各性別、各年代それぞれで回答割合が高い３項目

問３　地域における人口減少や若者の流出、空き家の増加、担い手不足などの現状や課題を踏まえ、移住者の呼び込みや定住を促すための支援について、重要度が高いと思う取り組みは何ですか。該当する番号に最大３つまで○印をつけてください。

【全体】

○移住者の呼び込みや定住を促すための支援に対する要望について、「就職支援」が 415 件と最も回答数が多く、次いで「空き家を活用した住宅確保支援」が 181 件、「子どもの保育・医療等の支援」が 137 件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

・企業誘致。（男性／20 代／大曲／学生／独身）

・空き家リノベーションオフィス化。（男性／30 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・スポーツ・レジャー施設の充実。（男性／30 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

・高齢者の移住政策。（男性／40 代／神岡／正規社員・職員／既婚）

・産業振興を絡めた移住提案。（男性／50 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

・地域住民の昔ながらの価値観や排他的な思想の排除。（女性／50 代／南外／専業主婦／既婚）

・市の活性化。（女性／60 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

・活用できない空き家の撤去作業。（女性／60 代／協和／無職／既婚）

・広い間取りの集合住宅の設置。（女性／70 代／大曲／無職／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「就職支援」、「空き家を活用した住宅確保支援」、「子どもの保育・医療等の支援」が上位となっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「就職支援」の回答割合が最も高くなっている。

○10 代を除く全年代において、「空き家を活用した住宅確保支援」が上位となっている。

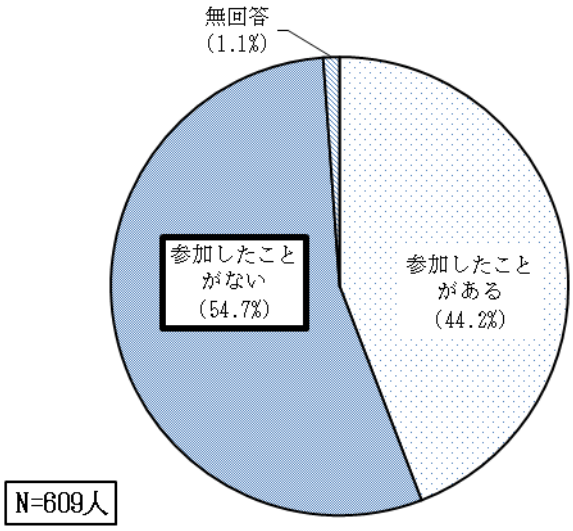
	有効回答数（N）	就職支援	新規就農支援	起業支援	住宅の取得にかかる支援	空き家を活用した住宅確保支援	結婚支援	安心して出産できるための支援	子どもの保育・医療等の支援	特色ある教育の実践	地域情報の提供	近所の地域住民との交流機会の確保	地域の担い手の発掘・育成	特にない	その他
全体	1559件	26.6%	7.4%	6.5%	8.2%	11.6%	7.1%	4.6%	8.8%	1.9%	4.3%	3.8%	6.7%	1.3%	1.2%
《性別》															
男性	780件	①27.2%	7.9%	7.7%	7.7%	②10.1%	8.6%	3.5%	③8.7%	1.4%	4.4%	4.0%	6.3%	1.2%	1.4%
女性	757件	①26.3%	7.0%	5.2%	③8.7%	②12.7%	5.8%	5.4%	③8.7%	2.5%	4.2%	3.7%	7.3%	1.5%	1.1%
《年代別》															
10代	59件	①27.1%	5.1%	5.1%	6.8%	8.5%	②13.6%	3.4%	③11.9%	3.4%	5.1%	0.0%	8.5%	1.7%	0.0%
20代	228件	①27.6%	5.7%	6.1%	②11.0%	③9.2%	6.1%	7.0%	8.8%	2.6%	3.5%	3.5%	5.3%	0.9%	2.6%
30代	238件	①25.2%	5.0%	5.9%	9.7%	②12.6%	4.2%	7.6%	③12.2%	1.7%	4.2%	2.1%	6.7%	1.7%	1.3%
40代	243件	①28.8%	②10.7%	9.5%	7.8%	②10.7%	6.2%	2.9%	9.9%	3.3%	3.3%	1.2%	4.5%	0.4%	0.8%
50代	328件	①28.7%	7.0%	6.4%	③8.5%	②11.3%	7.9%	1.5%	8.2%	1.8%	4.0%	4.3%	7.3%	1.8%	1.2%
60代	328件	①24.7%	③8.8%	5.5%	5.8%	②13.1%	7.9%	5.5%	6.4%	0.9%	4.9%	5.5%	8.5%	1.5%	0.9%
70代	110件	①23.6%	8.2%	5.5%	7.3%	②11.8%	③10.0%	1.8%	5.5%	0.9%	7.3%	10.0%	6.4%	0.9%	0.9%

※着色部：各性別、各年代それぞれで回答割合が高い３項目

問４　定住を促進するためには、多世代が集い交流できる機会の確保や、地域の中で多世代が集い交流し、支え合い助け合いを進めることにより、地域の中でつながりを強めることが必要です。あなたは、ここ１年間仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」に参加しましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

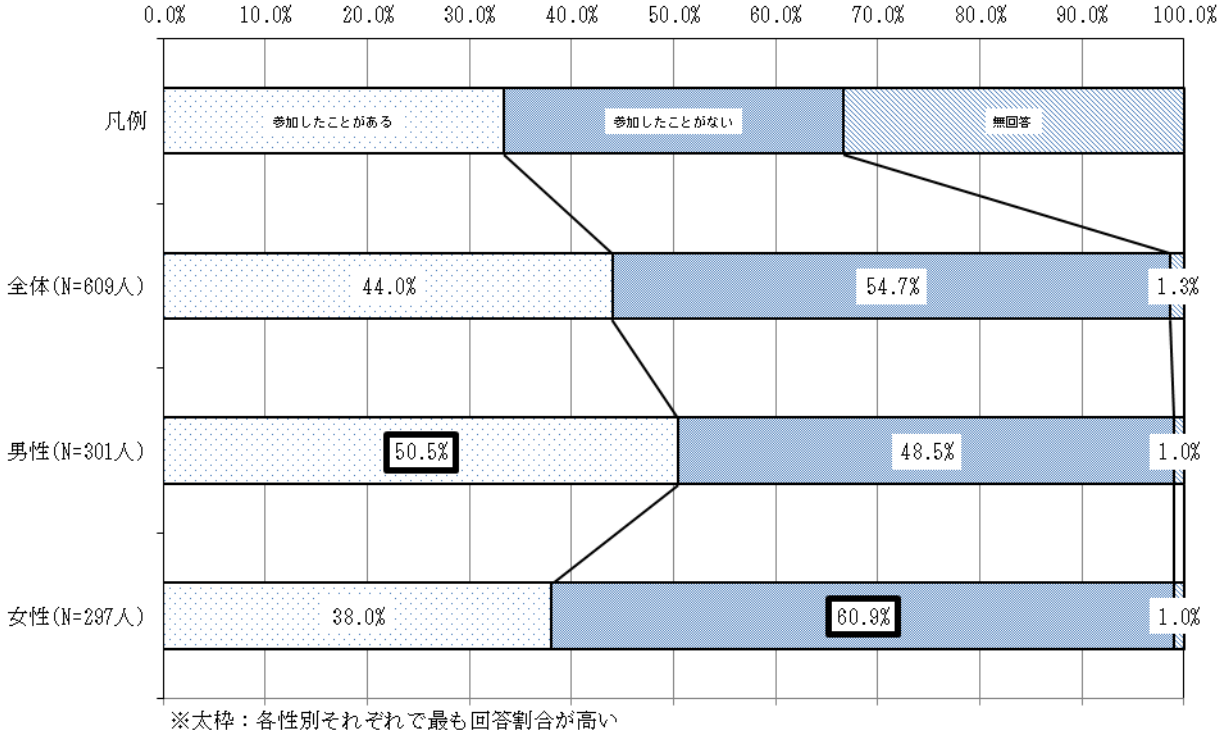
○ここ１年間仕事以外の何らかの社会活動・地域活動への参加の有無について、「参加したことがない」が 54.7%と最も回答割合が高く、次いで「参加したことがある」が 44.2%となっている。



【性別】

○男性において、「参加したことがある」の回答割合が高く、女性においては「参加したことがない」の回答割合が高くなっている。

○男性は女性より「参加したことがある」の回答割合が高く，男性が 50.5％で女性よりも 12.5 ポイント高くなっている。



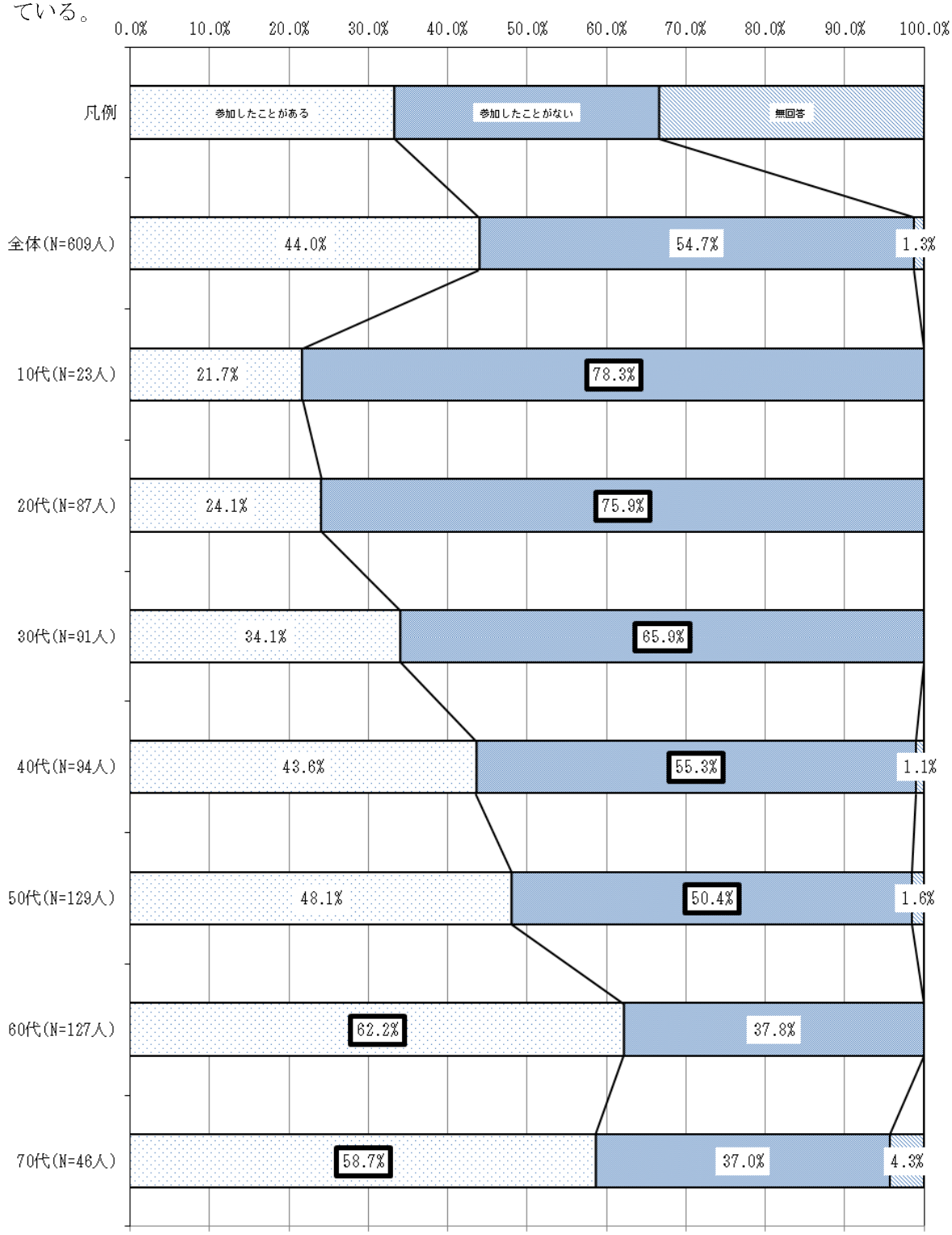
※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○10 代から 50 代において、「参加したことがない」の回答割合が最も高くなっている。

○60 代、70 代において、「参加したことがある」の回答割合が、60 代 62.2%、70 代 58.7%と最も高くなっている。

○10 代から 60 代において、年代が高くなるにつれて、「参加したことがある」の回答割合が高くなっている。

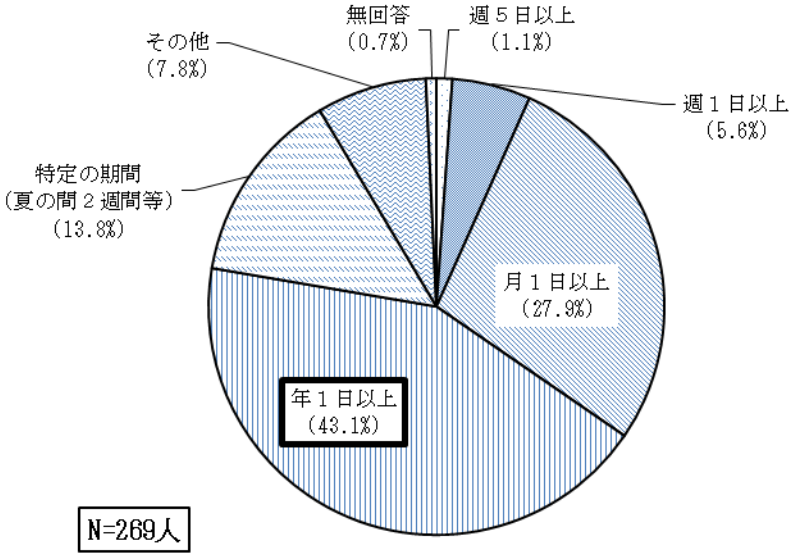


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問５　問４で「１」に○をつけた方にお聞きします。「社会活動・地域活動」に取り組んだ頻度はどの程度ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

○社会活動・地域活動に取り組んだ頻度について、「年１日以上」が 43.1%と最も回答割合が最も高く、次いで「月１日以上」が 27.9%となっている。



※ここ１年間で社会活動・地域活動に参加した方のみ回答

◆「その他」意見（抜粋）

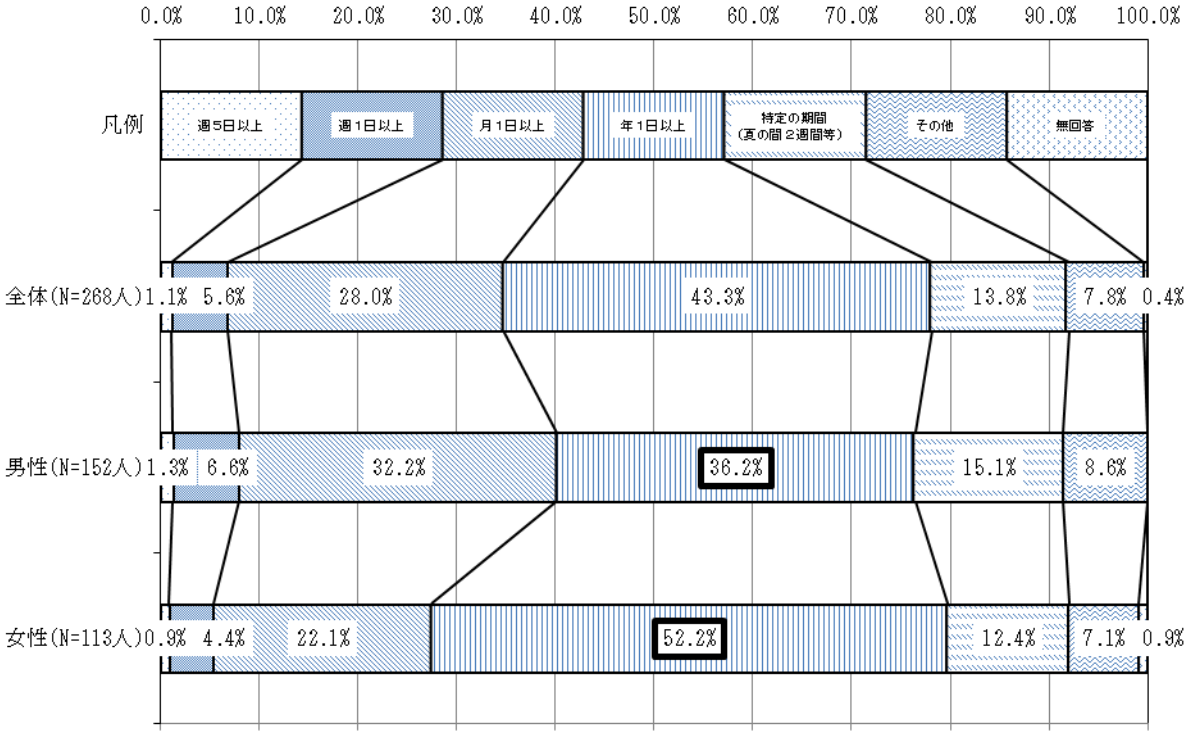
・不定期。（男性／40 代／大曲／その他／既婚）

・行事がある時。（男性／50 代／大曲／正規社員・職員／独身）

・要請があった時。（女性／50 代／協和／パート・アルバイト／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「年１日以上」の回答割合が、男性 36.2%、女性 52.2%と最も高くなっている。

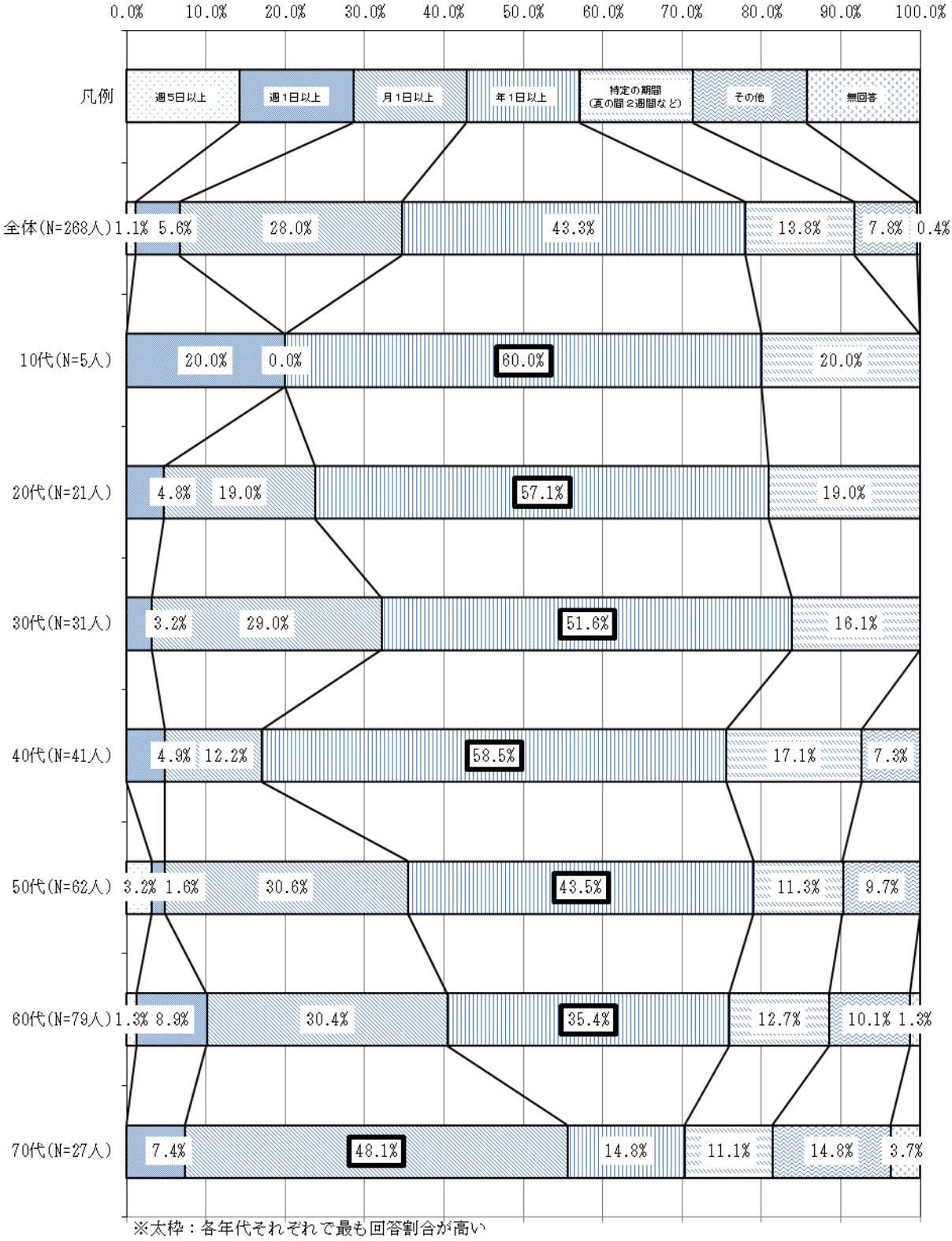


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○70 代を除く全年代において、「年１日以上」の回答割合が最も高くなっている。

○70 代において、「週 1 日以上」の回答割合が 48.1%と最も高くなっている。

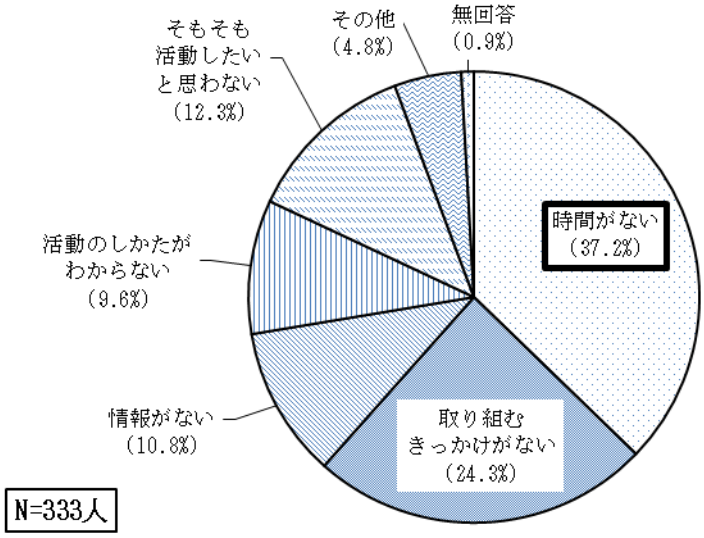


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問６　問４で「２」に○をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

【全体】

○社会活動・地域活動に参加したことがない理由について、「時間がない」が 37.2%と最も回答割合が高く、次いで「取り組むきっかけがない」が 24.3%となっている。



※ここ１年間で社会活動・地域活動に参加していない方のみ回答

◆「その他」意見（抜粋）

・休日は休みたい。（女性／20 代／西仙北／正規社員・職員／独身）

・人と話すのが苦手。（男性／30 代／太田／派遣・契約社員／既婚）

・妊婦のため。（女性／30 代／西仙北／正規社員・職員／既婚）

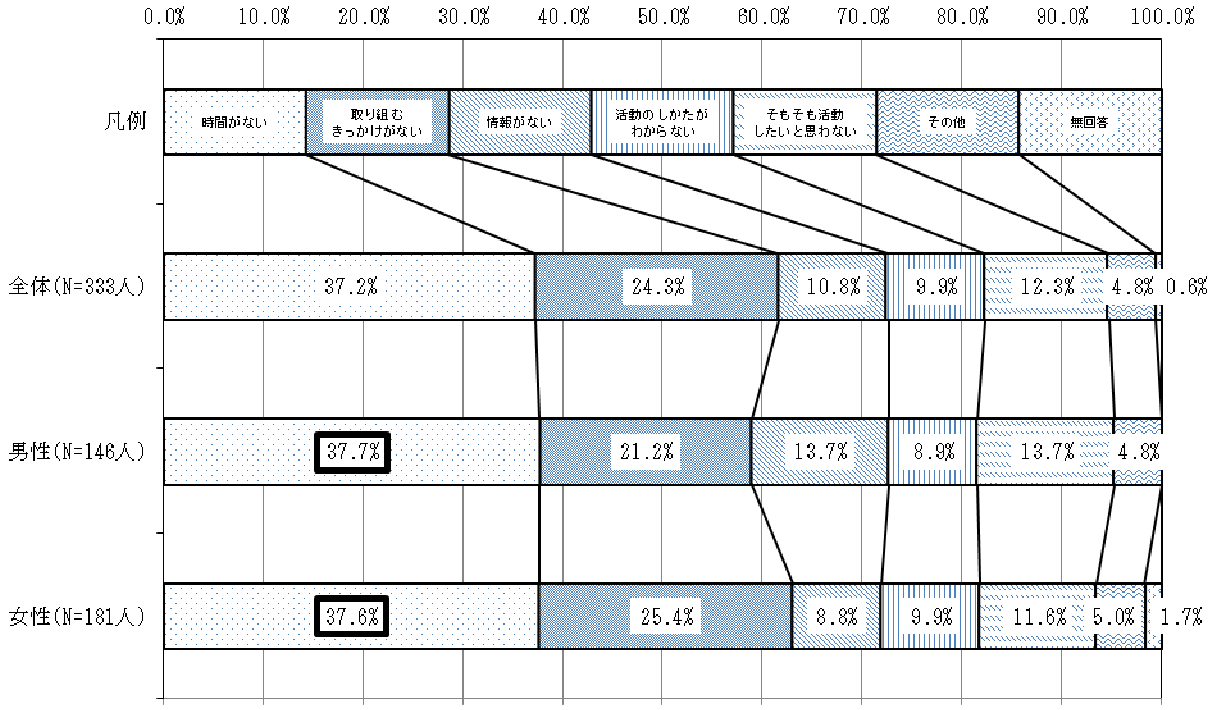
・障害者のため。（男性／50 代／大曲／無職／既婚）

・病気のため。（女性／50 代／大曲／専業主婦／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「時間がない」の回答割合が、男性 37.7%、女性 37.6%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

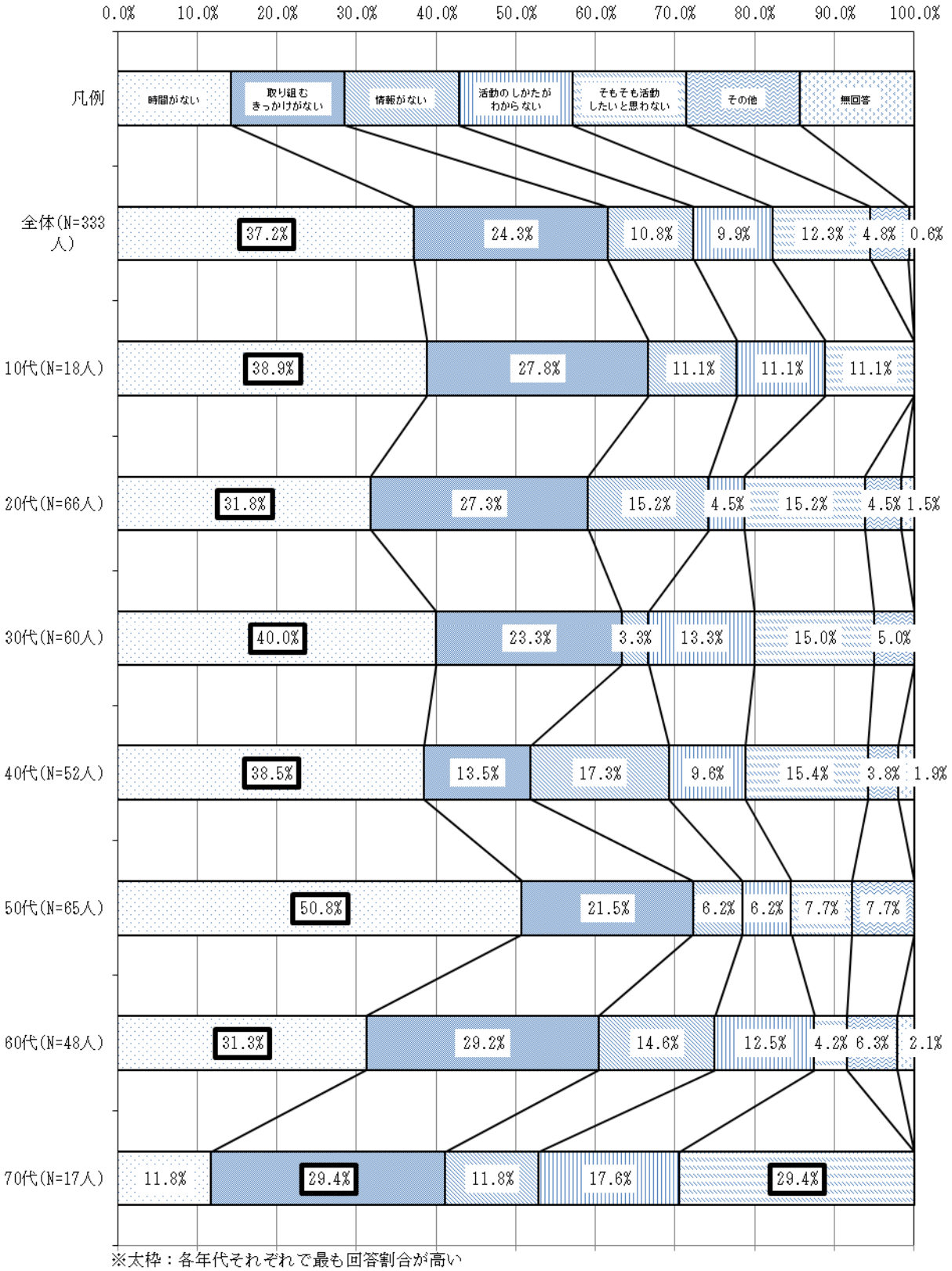


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○70 代を除く全年代において、「時間がない」の回答割合が最も高くなっている。

○70 代において、「取り組むきっかけがない」、「そもそも参加したいと思わない」の回答割合がそれぞれ、29.4%と他の年代に比べて高くなっている。



※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問７　移住者を増加させるために、ＰＲした方が良いことや、取り組んでほしいことがありましたら記入欄に自由にお書きください

ＰＲした方が良いこと

- 特産品。（男性／10 代／大曲／正規社員・職員／独身）
- 生活圏が広くないので便利。（男性／20 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 人と人とのあたたかいつながり。（女性／40 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 育児、教育に対しての環境の良さ。（女性／40 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 自然豊かな環境で、ゆっくりと老後も生活出来ること。（女性／40 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 交通の便が良い。（男性／50 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 情報が充実している。（男性／50 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 美味しい食材。（男性／50 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 他から来た人を受け入れる人柄の良さ。（男性／60 代／南外／無職／既婚）
- 花火が見られること。（男性／60 代／南外／無職／既婚）
- 自然環境。（男性／60 代／太田／自営業主・家族従業者／既婚）

取り組んでほしいこと

- 現在住んでいる人が、外へ移住しないための取り組み。
（男性／10 代／西仙北／正規社員・職員／独身）
- 市内の就職できる所をピックアップしたものを情報として分かりやすく伝えてほしいということ。
（男性／10 代／西仙北／学生／独身）
- 遊べる施設を１つ作って欲しい。（男性／10 代／西仙北／学生／独身）
- もっと若者が喜ぶような施設を作ってほしい。（女性／10 代／大曲／学生／独身）
- 交通の便（電車の本数・道路）を増やしてほしい。（女性／10 代／大曲／学生／独身）
- 飲食店の充実。（男性／20 代／太田／正規社員・職員／独身）
- 自分は移住者を呼びこんで人口を増加させるよりも、元々住んでいる人達が岩手のオガールプラザのような施設や、オガールプロジェクトのような計画などの実施によって活力を取り戻し、自然に増える方がよいと考えているが、移住者を増加させるために PR した方が良いことは、その地域に住むとどういった良い点があるかといったことを説明した方がよいと思う。
（男性／20 代／南外／自営業主・家族従業者／独身）
- 人口減・高齢化に歯止めをかけるための「移住・定住への支援」であるならば、特に若者の移住者を呼び込むべきである。もともと市内に住んでいる若者の流出を減らすためにも、若者にとって魅力のあるまちづくりをして欲しい。例えば、若者を対象にしたイベントの企画や、若者が利用しやすい施設の設置などが考えられる。現状、市内は秋田市と比較して若者の居場所が少ないと思う。イオンは遠いし、居酒屋やカラオケ店は怖そうな人が多く、友達を誘って行かないと怖い。初めて大仙市に来た人からすれば、マイナスの印象になる。他の地域から移住するなら、その土地の人と仲良くなりたいと思うだろうが、今の大仙市では、特に若者と交流を持つことが難しいように思う。この点を改善するべき。（男性／20 代／大曲／学生／独身）
- 移住者を増加させる以前に若者の流出を防ぐのが先だと考える。若者が流れ出て行く魅力の無い場所に移住者が来てくれない。（男性／20 代／中仙／正規社員・職員／独身）

- 農業の魅力を発信して、フォロー体制を整える。（男性／20 代／西仙北／パート・アルバイト／独身）
- 農業以外の基幹産業を育ててほしい。（女性／20 代／南外／正規社員・職員／独身）
- 花火大会等を他県にアピールし、それに伴う観光業の支援。
（女性／20 代／西仙北／正規社員・職員／独身）
- 若者のやりたいようにやらせる。（女性／20 代／神岡／正規社員・職員／独身）
- 県外の高齢者を秋田県に移住させて、高齢者が住む街にする。レジャー施設等の場所を増すなど、もっと楽しいイベントを作って欲しい。大曲の花火が有名になりすぎて、迷惑している地元住民もいる。地元住民の花火を見る場所を確保し、地元住民からはお金を取ることはやめた方が良い。ただでさえ、秋田（大曲）は就職先が少なく、働きたくても働く先が無い人が多いので。
（女性／20 代／大曲 パート／アルバイト／既婚）
- 実際に移住した人の感想は良いところも悪いところも公開する。
（女性／20 代／西仙北／学生／独身）
- 少子化を打破するためには若者を地域に留まらせることが必要です。就職難で県外に就職する人が多いなら、より就職しやすく生活しやすい環境を整えるべきです。高齢者福祉を中心として考える前に高齢者を支える若者に対する福祉を充実させたらよいと考えますので、まず就職支援の強化を行ってほしいです。（女性／20 代／仙北／学生／独身）
- 移住者を増加させる以前に、若者に秋田を担ってくれるような支援が必要。
（女性／20 代／太田／派遣・契約社員／独身）

- 移住希望者の心配している点は、金銭面、就業、居住場所だと思う。中途半端な移住、定住支援ではなく、大胆な移住支援を望む。（男性／30 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 移住者を増やすより、現在住んでいる世帯が、今後も何世代にもわたって長く定住し、家族が増えていくことを考えた取り組みがあれば、この先、人口が増えるのでは。
（男性／30 代／大曲／派遣・契約社員／既婚）
- ①体育館を増やす（空きがない）。
②河川敷を整備する（花火で荒らされ、スポーツができない）。
③車で利用できる公園を旧大曲市内に整備する。
④スポーツ・レジャーを楽しむ施設を増やす。（男性／30 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- 移住者同士が交流する機会の創出と、その様子を使って郊外へＰＲを行う。
（男性／30 代／神岡／自営業主・家族従業者／既婚）
- ①地元から県外へ出て、何年か後に帰ってきたら得をする。
②大仙市で結婚する、住むなら花火でお祝いする。
③大仙市に住む時に、消雪等の整備補助をする。
（男性／30 代／仙北／自営業主・家族従業者／既婚）
- レジャー施設、賃金を東京都レベルに上げること。若者をひきつける場所、話題がないので取り組んで欲しい。秋田は現状維持を大事にし過ぎで、何も変わらない。向上心を持って欲しい。
（男性／30 代／仙北／正規社員・職員／既婚）
- 他県では「○○県民の日」という日が年に１度あり、その日は各施設（レジャー、レクリエーション施設）が無料で利用できると聞いた。「秋田県民の日」というものがあるらしいが、他県より知られておらず、魅力も感じられない。大仙市で「大仙市民の日」のようなものを作り、大仙市市民が大仙市内で楽しめる、得をする、出かけたくなる、住み続けたくなるような施策を検討したらどうか。
（女性／30 代／大曲／派遣・契約社員／既婚）

- 市には大学や大企業がありません。若者、働きざかりの若年者が暮らしていく理由がないまちです。ぜひ、大学、大企業の誘致をお願いします。そうすれば活気がでます。

（女性／30 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

- 空き家を移住したい人のために提供したら良いと思う。リフォーム補助なども補助したら良い。若い人はホームページを見て決めることが多いので、市のホームページだけでなく、移住希望の人が見るサイトなどにＰＲしたほうが良いと思う。（女性／30 代／大曲／正規社員・職員／独身）
- 大仙市の良さを知ってもらう体験ツアー。（女性／30 代／西仙北／派遣・契約社員／既婚）
- 辺り一面、見渡す限り田んぼばかりの風景にする。

（女性／30 代／太田／パート・アルバイト／独身）

- ①せっかくの「大曲の花火」という大きなＰＲ材料があるのだから在住者への花火大会での桟敷席を優先するなど、一部が盛り上がるのではなく、街全体が動ける、動きたくなるような考え方をするべきだと思う。ブランド力だけが先行し、県外からの客主体になってしまっている。
  ②空き家を活用し、格安で住んでもらえるような取り組みをすべき。
  ③高齢者向け、子育て世帯向けの支援ばかりではなく、子どものいない家庭もあるのだから、それぞれの家庭向けに合う細かい支援をすべき。
  ③田舎くさい街を変える。（男性／40 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- パンフレットやホームページだけの一方的なアピールではなく、顔と顔を合わせて伝える機会を増やすことで興味を持ってくれる方々が増えると思う。例えば、月１でもいいので、週末１～２泊で旅行を兼ねたプチ移住を何組かに体験してもらうことで統計がとれ、良いＰＲの方法が見つかると思う。待っているだけではなく、行動に移すことで、先への進み方が分かると思う。

（男性／40 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

- 限られた市財政の中で、既存の施設やシステムを最大限に活用し、バランスの良い市政を行ってほしい。（男性／40 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 都会で暮らしてきた富裕層を対象としたケア・タウンの整備。「タウン」であるので 5000 戸ぐらいは必要。工業団地の未使用地を利用。（男性／40 代／神岡／正規社員・職員／既婚）
- 新卒者の就職先が少ないため、県外等に流出している。魅力ある大手企業の誘致などが必要だと思う。

（男性／40 代／太田／正規社員・職員／既婚）

- 企業の誘致。農業以外で収入がなければ生活ができない。当然、結婚は無理、子どもを作って生活などできない。（男性／40 代／太田／パート・アルバイト／独身）
- 移住者それぞれの希望を十分相談できる体制が必要。（男性／40 代／太田／正規社員・職員／既婚）
- フィンランドのように、子育ての充実・ワンストップサービス、出産から教育、医療の無料化。

（女性／40 代／大曲／専業主婦・主夫／既婚）

- 成人式で県外在住者向けに、就職支援など具体的な支援策を説明し、呼びかける。

（女性／40 代／大曲／無職／既婚）

- 移住者を増加、定住させるには、まず、市民（高卒者や若者）を市外に出さないことだと思う。雇用、賃金などの充実を図る。子育てや教育など大仙市独自の子育て支援があっても良いと思う。

（女性／40 代／大曲／派遣・契約社／ 既婚）

- 都会的な距離感「付かず、離れず」で深入りしないけれど、仲間のような付き合いができれば若い人達も来るのではないか。年配者（リタイア組）はやはり、日常の買い物や医療機関への足が年と共に問題になるので、朝昼晩のバスによる接続は非常に重要である。

（女性／40 代／協和／専業主婦／既婚）

- とにかく就労場所・機会の拡大をしないと、どんどん県外流出してしまうので、仕事、賃金を充実して欲しい。そうでないとPRできないと思う。大曲市内だけ整備して、他地域はどんどん過疎化してしまう。利便性だけを考えず、地域にあるものを有効活用することを推進した方が良い。
（女性／40代／南外／パート・アルバイト／既婚）
- ①公民館、公的施設（廃校、給食センター跡地等）を利用した産業振興。
②人・まち・しごと・地方創生の時代変化へ順応した戦略・戦法の立て直し。
（男性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 他県で同じような条件の市でどのような施策をしているのか、出来る限り情報を集め、大仙市が取り組めるものがあれば実行してみる。（男性／50代／大曲／無職／既婚）
- 子育て環境・医療・介護の充実。（男性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ①市内企業の積極的なＰＲ。
②魅力ある企業の誘致。（男性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 仕事場の確保。空き家のリフォーム。（男性／50代／中仙／正規社員・職員／既婚）
- ①大仙市への移住のしやすさを理解してもらう。
②地域生活を押しつけない教育。（男性／50代／南外／正規社員・職員／既婚）
- 地産品の販路開拓。特産品の開拓。（男性／50代／仙北／正規社員・職員／既婚）
- ①住みやすさランキングで１位を獲ったことがあるはずの大曲（大仙市）をまた獲得すること。そのために取り組むことは全てが情報としてアピールできる。
②花火は回数が多ければいいものではない。回数増やして飽きられたイベントは数知れない。
③除雪、排雪について１日１回、しかも日中のみでは共働き世帯は何もできない。夕方、夜間も使えるよう機会を増やすこと、流雪溝稼働時間等を長く利用できるようにすること。スマホ等にその情報を流せないかも検討を願う。（男性／50代／無回答／正規社員・職員／既婚）
- 移住する人のためのPRも大切だが、受け入れる側の体制や考え方を改善することの方が大切だと感じる。（女性／50代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- おしゃれなまちづくり、駅前商店の充実、散歩しながら立ち寄れるお店や公衆トイレの設備。
（女性／50代／大曲／専業主婦／既婚）
- 地域おこし協力隊など、都会から移住する人々にはプラスになる条件が整い始めているのは良いことだと思うが、今現在この土地で頑張り、何かを始めようとしている若い人にとっても、もっと大々的に支援するべきだと思う。そのような人々の集まるコミュニティの場や、出店、ＰＲできる場所の提供がもっとあるべきだと思う。そして、何よりも定住を望むのならば、今ここに住んでいる人たちがこの土地の歴史や成り立ちをもう一度知り、心からここが素晴らしい場所であるという誇りを持てるための根本的な活動をしていく必要がある。五城目町のように、昔から伝わる行事を見直し、そこに新しいアイディアを取り込んで、相乗効果を生んでいるようなまちをお手本とするべき。
（女性／50代／協和／自営業主・家族従業者／既婚）
- 地域住民の標準語への理解を深めることと、教育機関での標準語の使用を行わないと何を話しているか理解できない不平等が生じ、成績に影響する。生徒も言葉が理解できず「いじめ」に移行するケースがある。移住者には、「言葉の支援」が必要だと考える。「都会者」「他地域から来た者」との区別をする意識を取り消す取り組みが必要。田舎根性がある限り移住者が入ってきても、定住はできない可能性は極めて高い。都会と地方の賃金差・待遇差を補充する、地域住民の賃金を都会に合わせる努力をしないと移住者自体は来ないと思う。（女性／50代／南外／専業主婦・主夫／既婚）
- 福島の被災者の方への働きかけ、就職、子育て支援、住宅の提供など、また、農業者の高齢化により空いている土地、住宅等の貸付などを行い、一定期間（収入を得られるまで）援助をして定着させるなど、市を挙げて呼び込むことが大事だと思う。「花火のまちで暮らしてみませんか」をＰＲするべき。（男性／60代／大曲／派遣・契約社員／既婚）

- 移住者や新規就農者は、その後の人生をかけて来るのだから、自分の身内以上の対応を以て接して欲しい。支援事業を立ち上げるのは良いが、対応する職員個々の対応の悪さや怠慢、指導員の差別、いじめ等があっては絶対いけません。強固な体制の下で行ってもらいたい。

（男性／60 代／神岡／自営業主・家族従業者／既婚）

- ①克雪対策による住みやすい環境を整える。
  ②高齢者の住みやすい対策を講じること。（男性／60 代／南外／無職／既婚）
- 春先から秋の終わりにかけての期間、東京近辺の退職者に田舎暮らしを提供する。温泉の近くに、仮設の小さい家、または空き家等で田舎村を創る。家庭菜園を近くに作って提供する。山で竹の子や山菜を採ったり、川に行って魚を捕ったりして暮らしてもらう。子どもや孫が安否確認を兼ねて遊びにくるかもしれない。永住につながる可能性もある。料金は格安にして、食糧は自分で準備してもらう。これにより、人、物、お金が動く。（男性／60 代／太田／自営業主・家族従業者／既婚）
- ①地域おこしに興味がある他県の若い人を呼び込めるようにすること。
  ②大曲地域での住民の活動を増やす。（女性／60 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- 転勤族の方からのアンケート調査の実施。（女性／60 代／大曲／パート・アルバイト／既婚）
- 安心して生活できる収入を得られる仕事があることと、子育て環境が整うこと。

（女性／60 代／大曲／パート・アルバイト／既婚）

- ①マスコミの力は大きいので、成功イベントをＴＶで放送する。
  ②コンパクトシティが売りなので、高齢化する地域の人々を早くから中央近くに移住させることで、コスト的にも、安心感も、良い効果となってくれるのでは。

（女性／60 代／大曲／パート・アルバイト／既婚）

- 空き家利用の田舎生活体験。（女性／60 代／中仙／パート・アルバイト／独身）
- 移住を希望している人が求める条件に合う環境を紹介し、お試し体験期間を作る。そして、実際に来て感じてもらい、意見を聞く。（女性／60 代／南外／正規社員・職員／既婚）
- ①広い間取りの集合住宅の設置。
  ②冬季の安全な道路網の確保。
  ③乳児および子どもたちの生活環境の整備と働く母親が安心して子育てできる生活環境の整備。

（女性／70 代／大曲／無職／既婚）

３．自由記述（分野別）

産業分野

- 企業誘致も大事だと思うが、専門学校や大学の設置も市の活性化に必要だと思う。県内には秋田市を除く市（大館、由利本荘、横手）にはあり、学生が集まれば、定住促進もしやすいし、中心街の店にも人が来るようになると思う。（男性／20 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 買い物一つするにも選択できないくらい店の数が少ない。商業施設、日々の暮らしが充実すれば定住する人も増えると思う。駅前の通りをアーケードにして、今、大曲にないショップや買い物をする所を増やせばいいと思う。（男性／40 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 給料が高い仕事の確保をお願いする。（男性／40 代／太田／パート・アルバイト／独身）
- 若い人がいないと活気は無くなります。高齢者ももちろん大事にしなければいけないが子育て支援、高校学費の支援、就職活動の支援等を強く希望する。実際、勤務中の職場での休暇の取りづらい環境,低賃金等が若い世代の離職、県外移住につながってしまうので、秋田県、大仙市は頑張らないといけない。問題が多くて大変だと思うが、今後もより良い政策を期待している。

（女性／40 代／大曲／正規社員・職員／既婚）

- 大仙市の特産品として麻を栽培すれば良いと思う。昔の花火は麻炭を使用していた、また、麻炭の花火は発色も良いと古い文献に記載されていた。麻の栽培で、農の拡大、花火の付加価値と構想は無限に広がる。大曲という地名の漢字は敗戦前には「大麻刈」だったそうだ。いずれにしても、麻を生活に取り入れていた地域だったことは間違いない。（女性／40 代／大曲／その他／既婚）
- 市外や県外からの観光客を増やすために、大曲駅からの定期観光バスが必要（例：大曲駅→花火資料館→酒蔵→道の駅→唐松神社→角館）。（女性／40 代／協和／専業主婦／既婚）
- 企業誘致に力を入れるべき。（男性／50 代／仙北／正規社員・職員／既婚）
- 今年は身の回りで移住してきた方が３人もおり、大曲も捨てたものじゃないと思った。しかし、20～30 代の若い人は地元に戻りたいが、仕事が無いという話が一番多い。大学卒業後に就ける職場の必要性が一番と考える。（女性／50 代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 昔と違い長男が跡を継ぐ時代ではなくなっている。農家がそれだけで生活できないのも事実。仕事を求めて都会に出て行けば、そこでの生活はなかなか思うようにはいかない。長続きするような誘致ができれば良いと思う。（女性／50 代／西仙北／自営業主・家族従業者／既婚）
- 市の活気が今ひとつ。市の整備、教育などは行き届いているが、市として核となるものがないように思える。姫路公園の整備、大曲の町の食、大曲の花火ではないか。花火の会場である河川公園は災害対策などまだまだ整える必要がある。（男性／60 代／大曲／その他／既婚）
- 先端技術を核とした地域開発により企業誘致。（男性／60 代／西仙北／無職／既婚）
- 雇用安定による収入確保が定住の最低条件である。（男性／60 代／協和／パート・アルバイト／既婚）
- 大仙市花火産業構想は旧大曲市の観光等を盛り込んだものであり、旧他町村とはかけ離れているため、あまり資金を投ずるのはどうかと思う。少子高齢化に伴い、若者の定住離れが多い。もっと地元で働ける場所、賃金の確保を市として検討するべき。（男性／60 代／太田／正規社員・職員／既婚）
- 「大曲の花火」として定着しているが、一部の地域のみの活性化。大仙市には各地域のお祭りや花火大会がある。各地域の花火大会にも力を入れてもらいたい。高齢化が進む中、大曲の花火会場に行きたくても行けない人が沢山いる。各地域の花火大会ならそういった人も楽しめる。今後、各地域の花火大会の宣伝や花火の本数にも力を入れて欲しい。（女性／60 代／中仙／専業主婦／既婚）
- 花火のまち大曲として大変結構だと思うが、一方で花火におんぶにだっこだとも思う。

（男性／70 代／大曲／無職／独身）

出会い・結婚・子育て分野

- 高校卒業してからすぐに出会いを求めるべき。（女性／10 代／大曲／正規社員・職員／独身）
- 低所得のため、出産や未来に不安があります。市でたくさん子どもが産まれるよう、対策してもらいたいです。（女性／30 代／仙北／パート・アルバイト／既婚）
- 人口減少を真剣に考えてもらいたい。子どもが成長したら大仙市に住みたいと言える環境、若い夫婦が安心して子どもをたくさん産める環境づくりをしてもらいたい。高齢者にかかるお金を削って、子ども達の成長に回してもらいたい。小学校を統合してもらいたい。（男性／60 代／太田／その他／既婚）
- 私たちの年代には仲人してくれる人がいて、独身でいる人はいなかった気がする。
（女性／60 代／太田／無職／既婚）
- 子どもが宝である。結婚・出産などで若い人が増えてくれると嬉しいと思う。
（男性／70 代／大曲／無職／既婚）

健康福祉分野

- 介護認定が無い高齢者が一時的に一人暮らしになった場合の支援、または、相談窓口などのような所があれば良いと思う。（女性／50 代／大曲／無職／独身）
- 高齢者の車での運転や自転車に乗る姿を見て、交通事故が無いよう願うばかりだ。
（男性／60 代／中仙／自営業主・家族従業者／独身）
- 年金から引かれるものを無くして欲しい。年金を二ヶ月に一回ではなく毎月支給にして欲しい。
（女性／70 代／大曲／無職／独身）
- 私は老人クラブに入会している。毎週行事があり、老後を楽しんでいる。
（女性／70 代／西仙北／無職／既婚）

都市基盤分野

- 大曲駅前のタクシー駐車スペースは 18 台も必要ではない。田舎ならではの子ども、大人の送迎で一般の車がたくさん待っているのに、駐車スペースが無い。（女性／20 代／大曲／専業主婦／既婚）
- 特に用事が無いときも立ち寄れるきれいな公園があれば良いと思う。気軽に舞台や音楽を楽しめるホールがあれば良いと思う。（男性／30 代／大曲／派遣・契約社員／既婚）
- 職業柄、リフォーム補助金の存在はとても大きく、利用している。お客様も知らないことが多く、こちらが提案すると大変喜ばれる。毎年金額が減っているが、これからも続けて欲しい。
（男性／30 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- 諏訪神社周辺の空き店舗・空き地を市営でも民間でもいいので、駐車場にして欲しい。
（女性／30 代／大曲／正規社員・職員／独身）
- 循環バスの運行に関して、もう少し遅い時間まで運行してほしいと思います。夕方の買い物の時など利用したい。１９時くらいまで。循環バス料金について、ワンコイン（１００円）の料金でお願いできたらいい。（女性／50 代／大曲／専業主婦／既婚）
- 通勤道路（県道）のセンターラインが消えていて、雨の夜は特に対向が難しく危険。ここ数年整備されていないし、外灯もない。（男性／50 代／西仙北／自営業主・家族従業者／既婚）
- 路地裏等、メイン道路以外の路面が悪く、歩行するにあたり危険に感じる場所が多い。
（女性／50 代／大曲／パート・アルバイト／独身）
- 毎年、区画整理完了地域（黒瀬町）で、道路上に排雪の雪山を残している。雪対策ができない区画整理事業では困る。（男性／60 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- 旧態依然とした街並みの改善。（女性／70 代／大曲／無職／既婚）

環境・安全分野

- 大曲循環バスをたまに利用している。車を運転できない老人や車を所有していない人にとって、大変便利で助かっている。ただ、時間帯にもよるが、1人も乗車していない時もある。大変助かる事業なので、もっと宣伝してもらいたい。（女性／20代／大曲／正規社員・職員／独身）
- もしもの災害に強い地域づくりをして欲しい。（男性／40代／南外／派遣・契約社員／既婚）
- 市では、率先して雪対策支援を行っており、大変心強く思っている。そこで、他県の豪雪地域における独自の雪対策を知り得たら参考になると思う（住民や地域の取り組み等）。

（男性／60代／協和／無職／既婚）

教育・スポーツ分野

- 県南に一つくらい人工芝のグランドがあってもいい。公共施設にフリーWi-Fiを整備して欲しい。

（男性／30代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

- 市全体の大きさからすると、大仙市は手厚くしてくれていると思う。テーマ11の問2で学校生活支援員は必要としたが、子どもに色々なことを体験してもらうことも大切だと思う。

（男性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚）

交流・行政運営分野

- こういうアンケートや地域の活動に積極的に参加して、地域の活性化につなげていきたい。

（男性／10代／大曲／正規社員・職員／独身）

- 地域がもっと活気づくこと願っている。（女性／10代／大曲／学生／独身）
- 県を復興させるには県外との協力、繋がりが必要不可欠である。（男性／20代／太田／学生／独身）
- アンケートも良いが、アンケートを出しても答えない人もいるので、市が市民を選抜してサミットのような機会を創り、市民に意見を言ってもらってはどうか。

（女性／20代／大曲／パート・アルバイト／既婚）

- 大仙市は災害が少ない。そして、犯罪のない街として都会や被災地から移住者が増えたらと思う。いじめの少ない、高齢者の過ごしやすい、待機児童の問題のない大仙市の良さを、住みよいまちづくりを頑張って欲しい。（女性／20代／協和／学生／独身）
- 行政の取り組みの浸透性が薄いように感じる。秋田県人は自分のことが大事と伺える。目に見えた策が必要。人は県外に出て、高齢者は増える、働く人がいない。もっと動いて欲しい。公務員だけが安定しているイメージが昔と変わらず強い。（男性／30代／仙北／正規社員・職員／既婚）
- 未使用となっている合併前の公共施設や統合により廃校となった学校などの再利用はまだまだたくさんできる。また、市役所の中には、スキルが高く、人間的にも優れた非正規雇用の職員がいると思う。「処遇」「待遇」の見直しなどを検討してはどうか。

（女性／40代／大曲／派遣・契約社員／既婚）

- 若い人が県外へ出るのは、大仙市に魅力を感じないからだと思う。もっと大仙市の施策や事業、魅力を小学生や中学生にも分かりやすくアピールすることが必要だと思う。

（男性／50代／太田／正規社員・職員／既婚）

- 限界町内にある現状を考えると、なかなか前向きな考えが出てこないが、退職して、自分がいかに市政への理解が不十分であったかを考えさせられた。まず、最低限、広報などで色々な市の施策を理解する中で、自分で出来ることは何なのかを考えたい。（男性／60代／大曲／無職／既婚）

その他

- 今回のアンケートにて初めて知った事業が多かったことに驚愕。果たして自分以外にどれ程の人が知っているだろうか。周知徹底するべき。知らずに損している人もいるはず。
（男性／20 代／中仙／正規社員・職員／独身）
- いつも大仙市民のために力を尽くしてくださってありがとうございます。これからもこのようなアンケートを毎年実施してくだされば幸いです。（男性／20 代／南外／自営業主・家族従業者／独身）
- ①すべての箇所の年間風速や日照時間、河川の水量等を調べて、風力発電や太陽光発電など、適地適電したらいい。
②すべての土地を市有地にして、失業者などを雇う条件で貸すようにしてほしい。
③すべての田畑や林道の基盤整備をしてほしい。
④健康食品にも使われる、ミドリムシの養殖を行ってほしい。
⑤すべての場所で、職場体験ができるようにしてほしい。
⑥市民一人一人に、果樹の苗木と育て方が書かれた紙をプレゼントして、少しでも食べ物に困らないようにしてほしい。
⑦すべての公共の場所を水洗トイレにして、なおかつ壁を天井までにしてほしい。
⑧市民が将来結婚して子供を育てても大丈夫と思えるような雇用や教育を実施してほしい。
⑨生まれた時から英語を習わせたい人は習わせるような特別な学校を作って、通常は外国の文化を習わせる程度にしてほしい。
⑩すべての市民が市議会議員になれるような教育と試験を受けさせて、試験に合格した人だけが、議員になれるようにしてほしい。
⑪すべての地域が国の補助金に頼らずに、自力で財源を確保できるようにしてほしい。
⑫市内で発電された電力を使って、道路のロードヒーティングや、消火栓の周りの融雪が出来るようにしてほしい。（男性／20 代／南外／自営業主・家族従業者／独身）
- このアンケートで知らないことを知る機会ができました。（女性／20 代／協和／正規社員・職員／独身）
- 長期的に見て、これから維持していくことが難しい自治体が増えていく状況において、特色と強みを持たないと残っていけないと考えるが、数十年後にどういった地域になっているかというビジョンが見えない。（男性／30 代／西仙北／自営業主・家族従業者／既婚）
- 十人十色と言うように、全員が同じ意見になることは無いと思うが、大仙市のために思い切った政策をどんどん行って欲しい。（男性／30 代／南外／正規社員・職員／既婚）
- 問題となる理由がたくさんあって、この中から一つ選ぶのは辛い。
（男性／30 代／仙北／自営業主・家族従業者／既婚）
- 真剣にアンケートに答えたので、活かしてもらえることを願う。
（女性／30 代／大曲／派遣・契約社員／既婚）
- 今回のアンケートで、自分が色々な制度を知らなすぎていると感じた。「こんな時は、こんな制度がある」と簡単に冊子にまとめられているといざという時に窓口に行けそうな気がします。
（女性／30 代／西仙北／その他／既婚）
- 県外から転入した時に「マル福」という言葉を使われて、何のことか分からず質問したら迷惑そうな顔をされた。母子手帳をもらいに行って「この後仕事がある」と言っているのに、保健師さんが自分の経験を語り 30 分以上かかった。子どもが少ないのに健診等の待ち時間が長い。書けばキリがないが、一つずつ改善して欲しい。（女性／30 代／仙北／専業主婦／既婚）
- 市広報に毎月目を通すが、自分の生活に関係のある事業しか目に入ってこないので、知らない事業が多かった。今回のアンケートは費用もかかっていると思うが、どれだけ効果があるか疑問に思う。実際にその事業を利用している方の生の声を聞いた方がいいのではないか。（女性／40 代／大曲／無職／既婚）
- 窓口対応が悪い。窓口にいるなら態度をもっと良くしてもらいたい。
（女性／40 代／中仙／専業主婦／既婚）

- 若者がたくさん集まってくるようなまちづくり（大学など）。高齢者より、認知症の方などが安心して暮らせるまちづくりを望む。（女性／50代／大曲／専業主婦／既婚）
- このアンケートがなければ、市の施策をほとんど知らないままだった。
（女性／50代／西仙北／派遣・契約社員／既婚）
- ①市の職員一人一人が大仙市の観光大使になってPRすること。
②日常行政担当者として市民目線で改善していく努力すること。（窓口で１回に済まされない事が多く仕事の中身を知らなすぎる。詳しい人に聞いてでも対応してほしい。県と市の通知等関連した文書を単純化してほしい。）（男性／60代／南外／無職／既婚）
- アンケートはもっと内容を絞って簡単にした方が良い。時間が無い人は記入して投函まで至らない。
（女性／60代／中仙／パート・アルバイト／独身）
- 今私は66歳だが、市から仕事をもらい、毎日がとても楽しい。ただ、21歳の孫が都会に行ってしまった時はとても悲しかった。でも、いつかは必ず戻って来ることを楽しみに頑張っている。こんな素晴らしい市はどこにもありません。ＦＭはなびは毎日聴いている。
（女性／60代／中仙／パート・アルバイト／既婚）
- 多くの公共事業が大曲周辺を中心に行われているような気がする。中心地から離れている協和はおいてけぼりにされている。統合して以来、活気が無くなり廃れていく一方に感じる。もう少し目を向けてもらいたい。（女性／60代／協和／無職／既婚）
- 高齢者だけにとても難しく感じながらアンケートに参加させて頂きました。少子高齢化、空き家に関する問題、すべての問題が良い方向に進み解決してくれることを願っています。
（女性／60代／南外／無職／既婚）
- 今回のようなアンケートは大切だと思います。集計した結果を有効に活用して、より良い大仙市をつくって欲しいと思う。（男性／70代／大曲／無職／既婚）

４．分析結果・今後の取組（テーマ別）

4.1 「雇用や就労のための支援事業」について　　経済産業部企業商工課

■分析対象

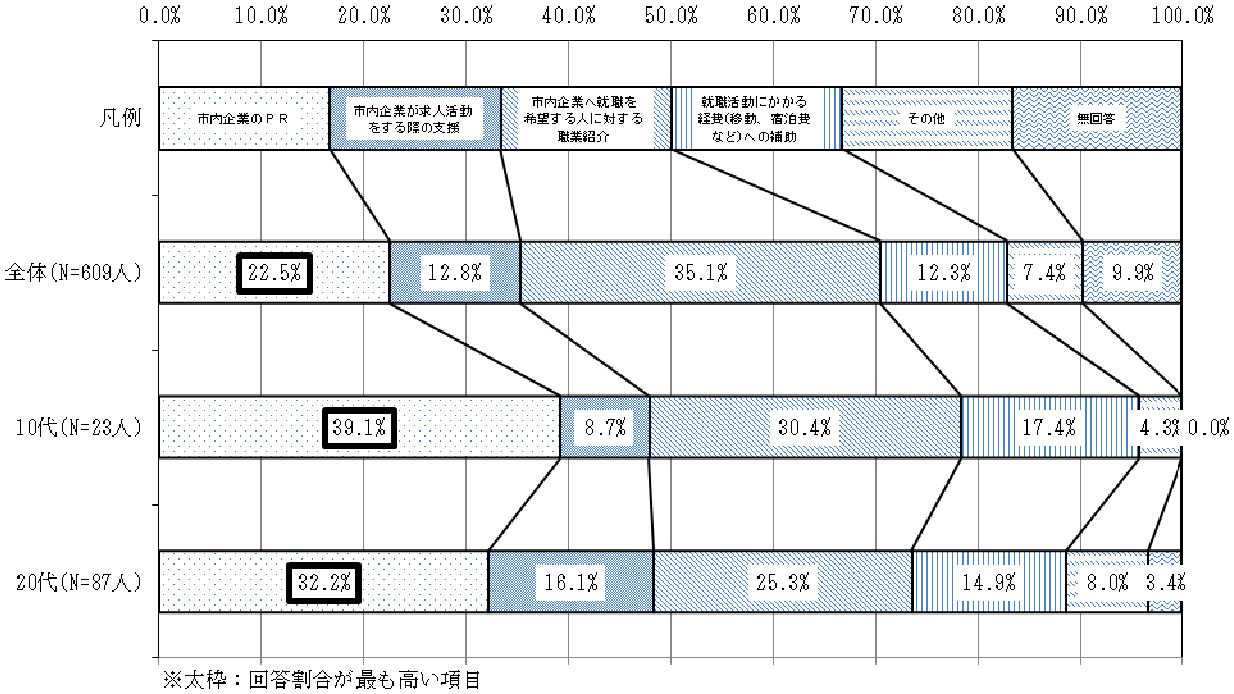
生産年齢人口が少子化等の影響により減少しているなかで、若い年代の地元就職の向上と高い離職率の改善が求められていることから、その年代が求める取組を検討するため、市内企業への就職を促進するための取組と早期離職を予防するための取組について回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

若い年代の市内就職を促進するため、10 代から 20 代に注目して分析する。

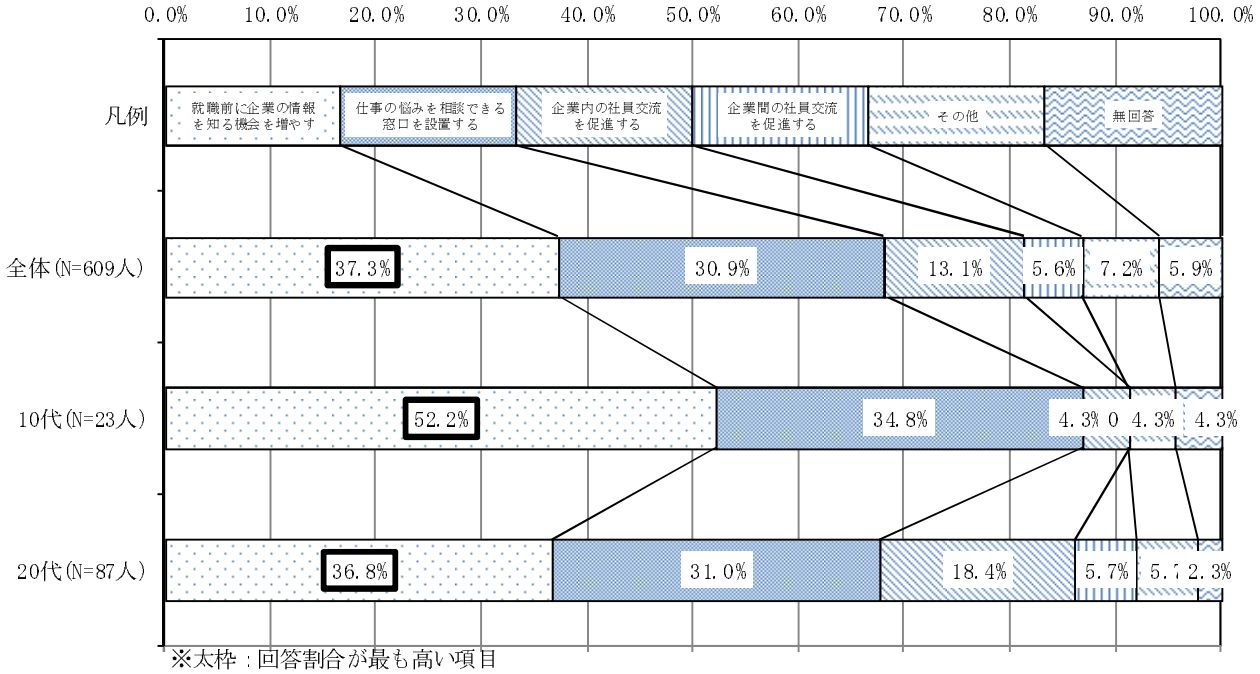
■分析対象設問・結果

問３　現在、地元の高校を卒業する人の約 30%が就職、約 70%が進学等となっています。また、就職者のうち約 30%が県外へ就職しています。市では、進学等により県外へ転出した人の市内就職を促進したいと思いますが、あなたはどのような取組が必要だと思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。



※太枠：回答割合が最も高い項目

問４　現在、秋田県の新規学卒者の就職後３年以内の離職率は、高校、短大等で約 40%、大学で約 35%となっています。早期離職を予防するために、あなたはどのような取組が必要だと思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。



※太枠：回答割合が最も高い項目

■分析結果

①　問３の結果から、市内企業への就職を促進するための取組について、10 代、20 代では「市内企業のＰＲ」が最も回答割合が高くなっていることから、若い年代にとっては、市内企業の情報が不足していると考えられる。

②　問４の結果から、早期離職を予防するための取組について、10 代、20 代では「就職前に企業の情報を知る機会を増やす」の回答割合が最も高く、特に 10 代では過半数を占めていることから、就職前の印象と就職後の実態の違いが早期離職の要因の一つになっていると考えられる。

　また、次に「仕事の悩みを相談できる窓口を設置する」の回答割合が高かったことから、仕事に関する悩み等を相談できる環境が求められているが、十分に整備されていないと考えられる。

■今後の取組

①　問３に関する分析結果から、若い年代が市内企業の情報を詳しく知ることで、市内就職の増加が期待できると考えられることから、市内の高校生及び県外に転出した若い世代に、市内企業の情報を詳しく伝える方法等を検討していく。

②　問４に関する分析結果から、早期離職の予防についても市内企業の情報提供が求められていることから、①と同様に進める。

　合わせて、専門窓口の設置など、仕事に関する悩み等を相談できる環境の整備を検討していく。

4.2 「農業の担い手支援事業」について　　農林部農業振興課

■分析対象

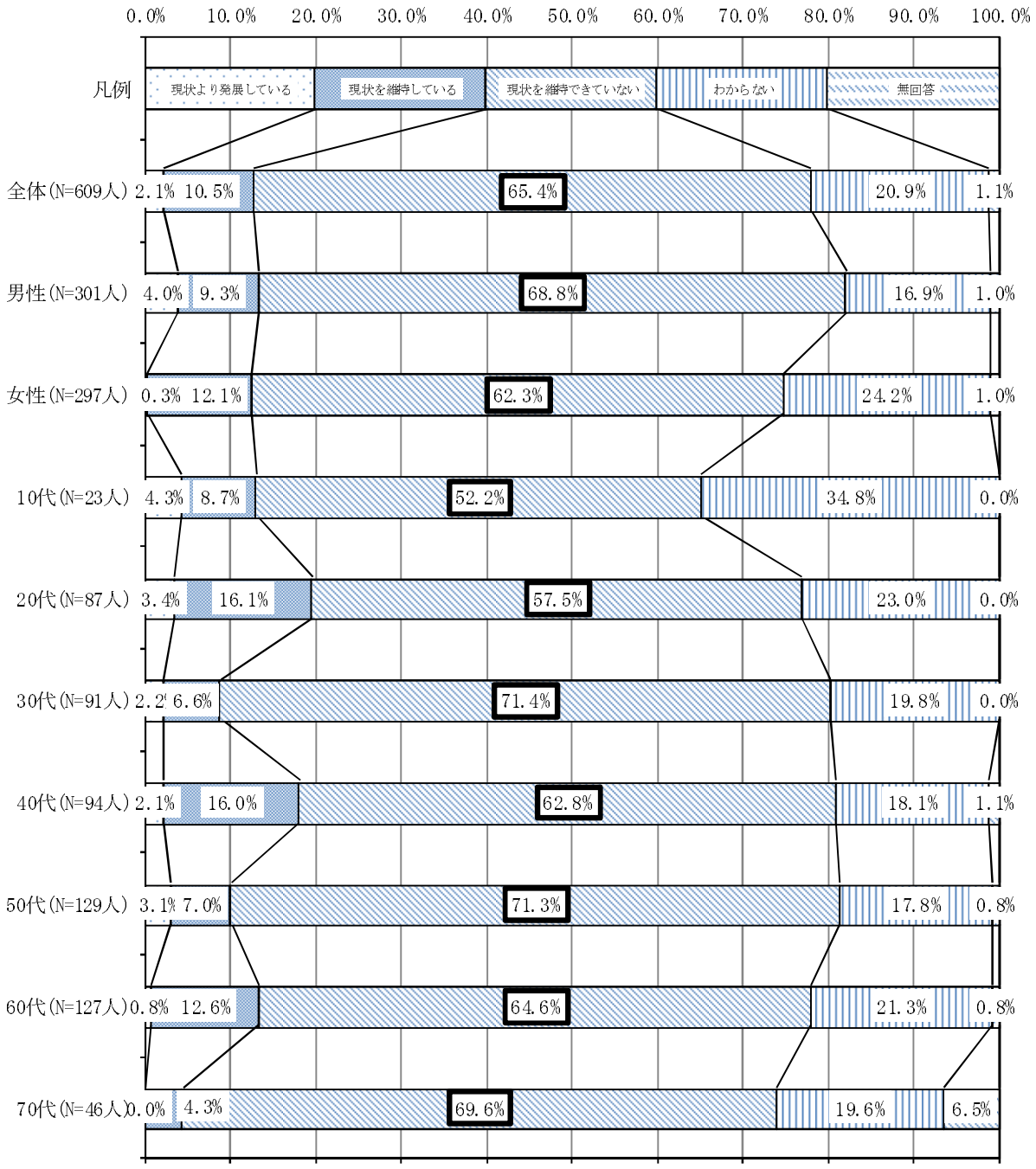
農業従事者の高齢化や後継者不足が進むなか、将来にわたる多様な担い手の確保、育成が重要な課題であることから、担い手づくりを進める新規就農者研修施設の今後の指導、運営方針を検討するため、全設問に関する回答者を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

全体、性別、年代別で総合的に分析する。

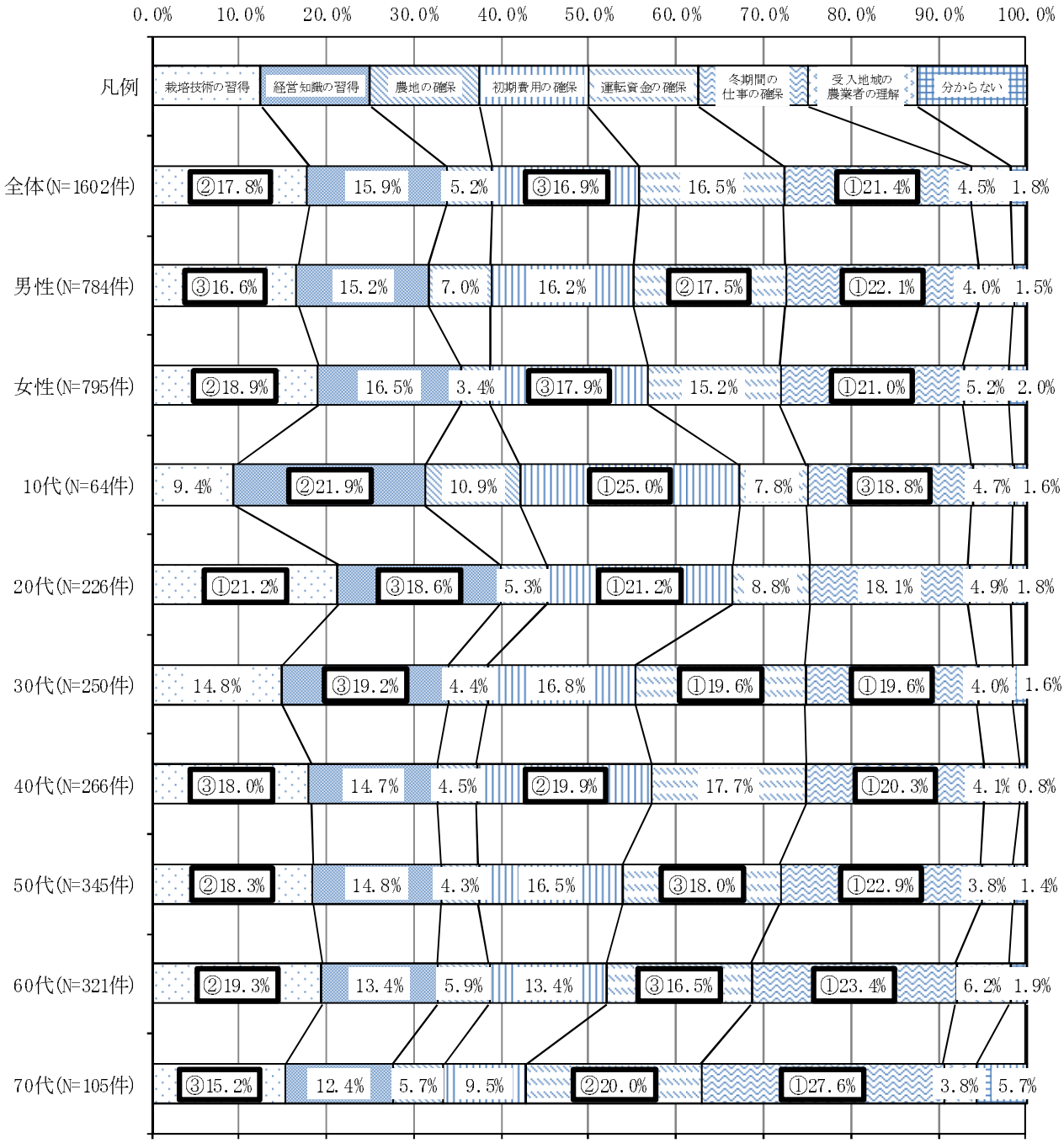
■分析対象設問・結果

問１　あなたの地域の農業は、10年後どのようになっていると思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。



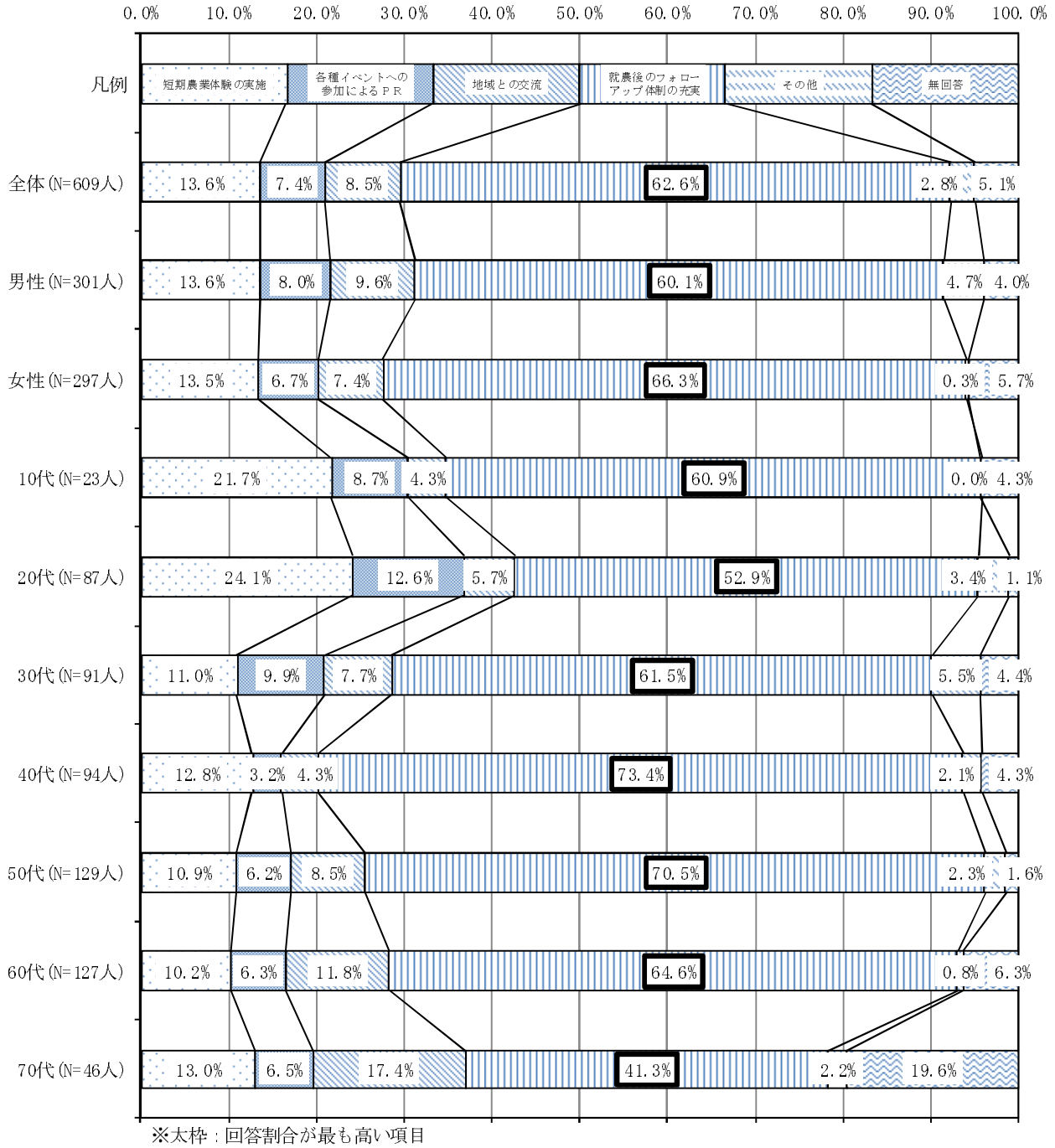
※太枠：回答割合が最も高い項目

問２　もしあなたがこれから農業を始めるとした場合、特に課題と思われることは何だと思いますか。該当する番号に最大３つまで○印をつけてください。



※太枠：回答割合が高い上位３項目

問３　今後さらに新規就農者を確保するために、新規就農者研修施設で取り組むべきことは何だと思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。



※太枠：回答割合が最も高い項目

■分析結果

①　問１の結果から、市の今後の農業について、全体、性別、年代別でも「現状を維持できていない」の回答割合が過半数以上と高い結果となっており、市の今後の農業について消極的な印象が持たれていることがわかる。

②　問２の結果から、農業を始める際の課題について男女別では全体的に大きな差は見られないが、年代別に見ると、10 代、20 代の若い年代では「経営知識の取得」や「初期投資の確保」の回答割合が高いが、他の年代では「冬期間の仕事の確保」への回答割合が高くなっており、全体、性別でも高い回答割合となっていることから、「冬期間の仕事の確保」が就農への大きな障害となっていると考えられる。

③　問３の結果から、新規就農者研修施設で取り組むべきこととして、全体、性別、年代別でも「就農後のフォローアップ体制の充実」の回答割合が最も高く、研修終了後の支援体制の充実が求められているほか、10 代、20 代の若い年代では「短期農業体験の実施」の回答割合が他の年代に比べて高くなっている。

■今後の取組

①　問２に関する分析結果から、本市の農業経営及び就農に対する最大の課題として、「冬期間の収入確保」であることは明らかである。このことを踏まえ、周年営農に向けた施設園芸栽培及び６次産業化への取組に対する支援を充実させるほか、新規就農者研修施設での研修内容についても周年栽培の技術習得に向けた研修内容を充実させるなど、冬期間の収入確保につながる取組を推進する。

②　問３に関する分析結果から、経営技術面、営農資金面及び農地面での諸課題に対する相談体制の整備、研修修了生及び研修生との情報交換等の機会創出など、就農後のフォローアップ体制の充実について検討するほか、若い世代で回答割合の高い「短期農業体験」についても実施を検討する。

4.3 「大仙市花火産業構想」について　　経済産業部観光交流課

■分析対象

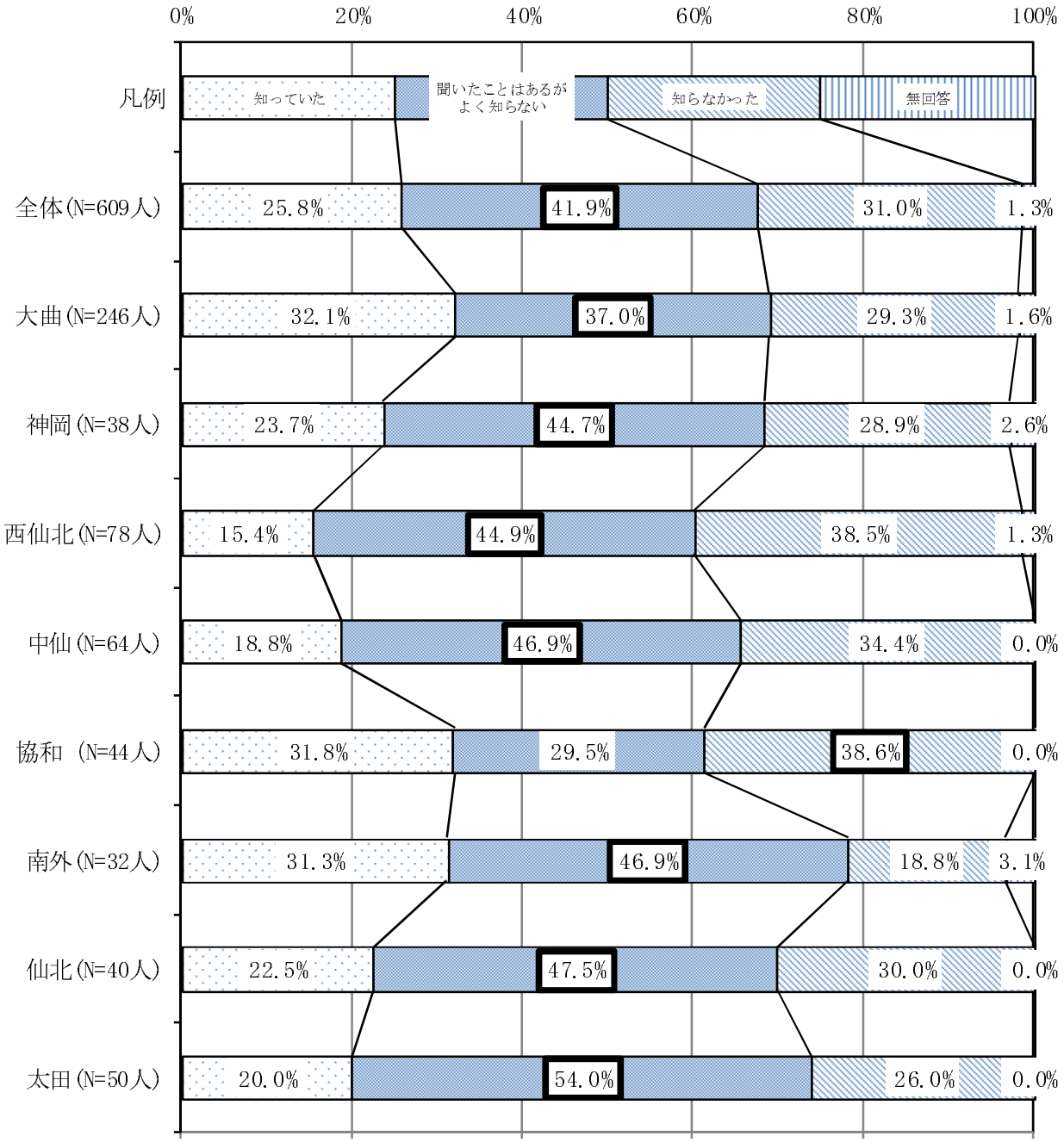
「花火産業構想」及びそれに関連する事業に対する市民の方の考えを把握した上で、各関連事業の優先度や新規事業・継続事業等を検討するため、「花火産業構想」の認知度や地域への効果について回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

市が進めている花火関連の取組に対する地域間の考えの違いを把握するため、地域別に分析する。

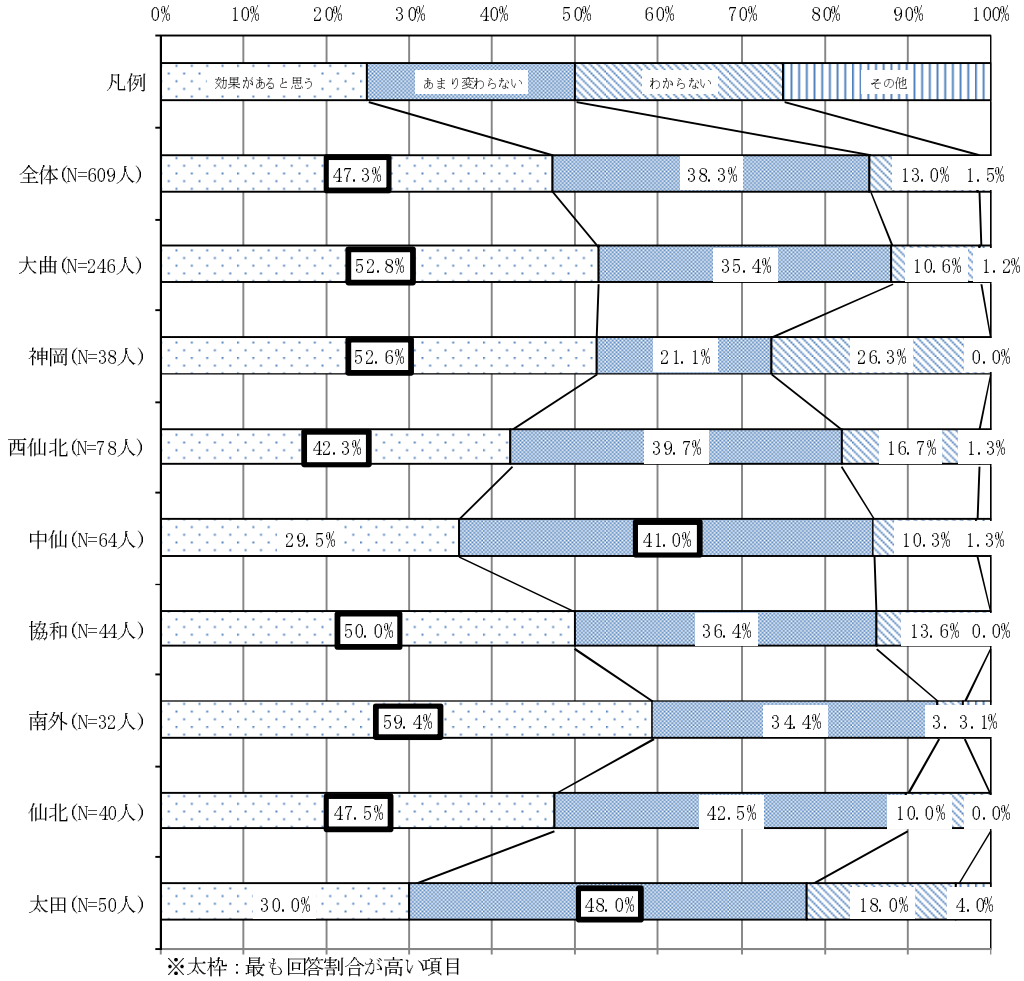
■分析対象設問・結果

問１　市の「花火産業構想」を知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

問２　市を「花火のまち」として発信し、花火で地域活性化を図っていくことについて、効果があると思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

問４　問２で「２（あまり変わらない）」に○印をつけた方にお聞きします。あまり変わらないと思う理由は何ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

	有効回答数（N）	花火以外に活用すべき地域資源がある	花火イベントは短期間のため経済効果が小さい	花火以外の産業への波及効果が小さい	花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない	その他	無回答
全体	233人	4.7%	21.5%	21.9%	46.4%	3.0%	2.6%
《地域別》							
大曲	87人	6.9%	26.4%	33.3%	27.6%	3.4%	2.3%
神岡	8人	0.0%	12.5%	50.0%	37.5%	0.0%	0.0%
西仙北	31人	0.0%	25.8%	16.1%	51.6%	6.5%	0.0%
中仙	32人	3.1%	15.6%	12.5%	59.4%	3.1%	6.3%
協和	16人	0.0%	12.5%	0.0%	87.5%	0.0%	0.0%
南外	11人	0.0%	9.1%	27.3%	63.6%	0.0%	0.0%
仙北	17人	5.9%	29.4%	11.8%	41.2%	5.9%	5.9%
太田	24人	12.5%	16.7%	12.5%	54.2%	0.0%	4.2%

※着色部：最も回答割合が高い項目

■分析結果

① 問１の結果から、大曲、南外地域においては「知っていた」の回答割合が比較的高く、一方、西仙北、中仙地域においては特に低くなっている。また、協和地域においては、「知っていた」の回答割合も高いが「知らなかった」の回答割合も高くなっている。

② 問２の結果から、大曲、神岡、西仙北、協和、南外、仙北地域においては「効果があると思う」の回答割合が高くなっている。一方で、中仙、太田地域では「あまり変わらない」の回答割合が高くなっている。

③ 問３の結果から、西仙北、中仙、協和、南外、仙北、太田地域で「花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない」の回答割合が高く、特に協和地域で高くなっている。また、神岡地域では「花火以外の産業への波及効果が小さい」の回答割合が高く、大曲、中仙、仙北、太田地域では「花火以外に活用すべき地域資源がある」の回答が見られる。

■今後の取組

① 「花火産業構想」の認知度については、地域により偏りがあるものの、「聞いたことがあるがよく知らない」の回答を含め全体で約７割が知っていると答えており、平成 28 年度に実施したスマートフォン用アプリ「大仙市花火カメラ」、「ビジュアルアイデンティティ」を活用しながら、取組を認知いただくようＰＲの強化を図っていく。

② 同構想は、全国花火競技大会「大曲の花火」のブランド力を最大限活かし、工業をはじめ観光、商業、農業など様々な産業分野の振興により、地域経済の活性化を図ろうとするものであるが、その実現には中長期的な取組が必要であることから、市全域に効果が波及するよう、計画した事業を確実に実施していくとともに内容の改善、充実を図っていく。

③ また、観光分野では、各地域で開催されている花火大会への支援を継続し、レベルアップを図りながら、大曲の花火との連携により花火のまちとして積極的にＰＲするとともに、花火を核とした新たな観光ルートの構築、通年型観光商品の開発のほか、農商工団体等との連携による花火ブランドを活用した商品、特産品の開発、販売促進に取り組んでいるところであり、今後も滞在型観光やインバウンド観光を意識しつつ、大仙市ならではの観光を推進していく。

4.4 「むすび・サポート事業」について　　企画部男女共同参画推進室

■分析対象

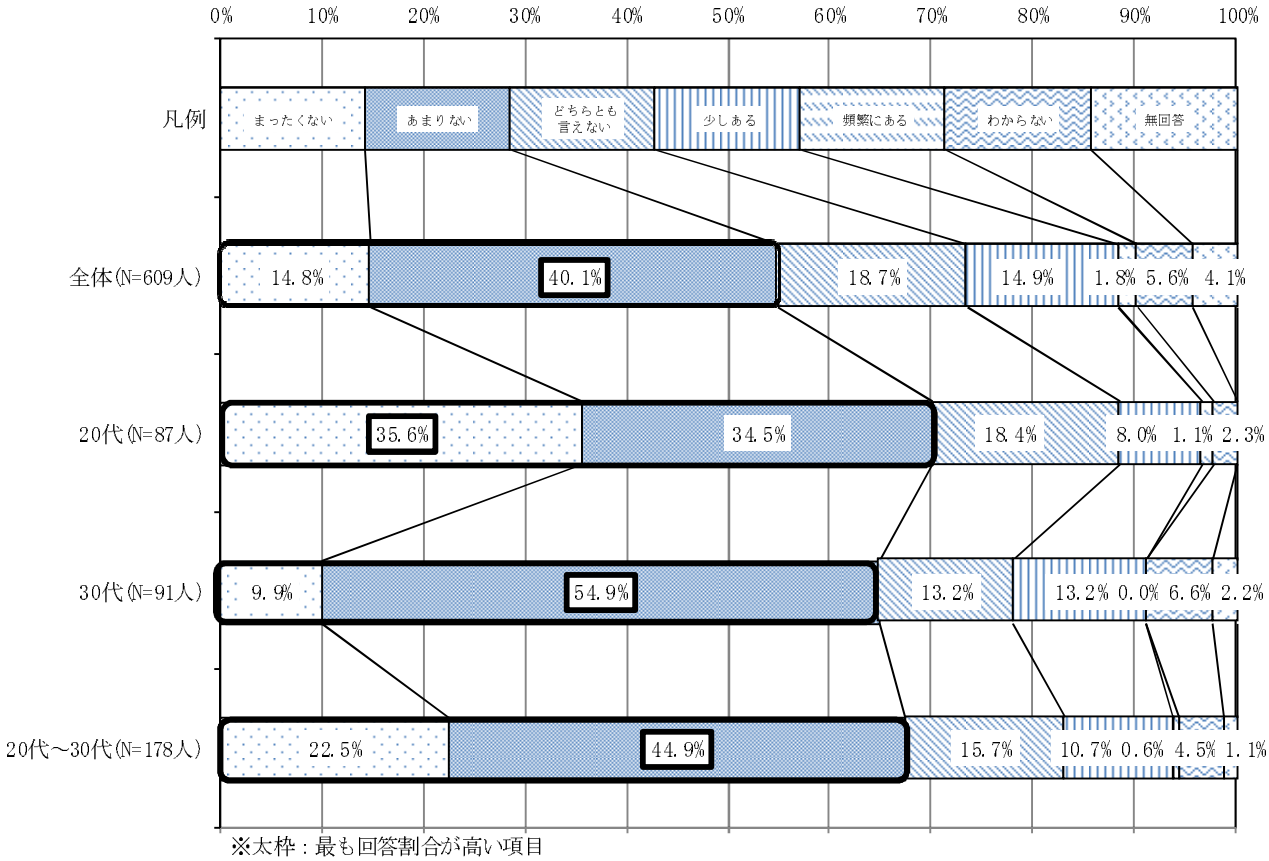
新たに効果的な事業の展開を検討するにあたり、当事者ニーズを取り入れた事業を検討するため、将来の結婚相手となるような方と出会う機会が「まったくない」、「あまりない」と回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

少子化対策の一環として本事業を実施していることから、20 代から 30 代に注目して分析する。

■分析対象設問・結果

問１　普段の生活の中で将来の結婚相手となるような方と出会う機会はありますか。該当する番号１つに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

問２　問１で「１（まったくない）」、「２（あまりない）」に○印をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

	有効回答数（N）	職場など、周囲に独身の異性が少ない（外的要因）	仕事が忙しく、異性と出会いを求めるための時間がない（外的要因）	独身の男女が交流できる場所がない（外的要因）	家族や同性の友人との付き合いを優先している（内的要因）	異性との出会いを求めるために行動することが面倒である（内的要因）	その他	無回答
全体	334人	24.9%	17.1%	27.8%	9.6%	15.0%	2.7%	3.0%
《年代別》								
20代	61人	①24.6%	②19.7%	③18.0%	14.8%	16.4%	4.9%	1.6%
30代	59人	①28.8%	16.9%	②22.0%	6.8%	③20.3%	3.4%	1.7%
20代～30代	120人	①26.7%	③18.3%	②20.0%	10.8%	③18.3%	4.2%	1.7%

※着色部：回答割合が高い上位３項目

■分析結果

①　問１の結果から、将来の結婚相手となるような方と出会う機会が「まったくない」、「あまりない」を合計した回答割合は、20代では70.1%、30代では64.8%という結果となり、20代と30代を合計した回答割合は67.4%となった。

②　問２の結果から、出会う機会が「まったくない」、「あまりない」の理由として、20代と30代を合わせた回答割合では、「職場など、周囲に独身の異性が少ない」が26.7%と最も高く、次いで「独身の男女が交流できる場所がない」が20.0%となった。

③　20代と30代を合計した回答割合において、外的要因によるグループ（「職場など、周囲に独身の異性が少ない」、「仕事が忙しく、異性と出会いを求めるための時間がない」、「独身の男女が交流できる場所がない」のいずれかを選択した方）は全体の65.0%、個人の事由など内的要因によるグループ（「家族や同姓の友人との付き合いを優先している」、「異性との出会いを求めるために行動することは面倒である」のいずれかを選択した方）は全体の29.1%となっている。

■今後の取組

①　分析結果から、20代と30代において、出会いを求めているが、外的要因により出会う機会が少ないと考えている方が多いことを踏まえ、これらの項目について対策を検討していく。

②　「独身の男女が交流できる場所がない」については、市で実施している出会いイベントの開催回数の見直しや、休日、夜間など参加しやすい日時での開催、飲食やスポーツ、芸術などテーマを絞った内容を検討するなど、出会いを求める方が参加しやすくなるような事業を実施する。

③　「職場など、周囲に独身の異性が少ない」、「仕事が忙しく、異性と出会いを求める時間がない」については、仕事が忙しく、プライベートな時間が取りづらくなっていると考えられることから、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の実現に向けて、希望に応じた働き方が出来るよう企業向けの研修や、企業内の未婚者に出会いイベントの情報を提供し、参加を呼び掛けてもらうなど、企業と連携した取組を検討していく。

4.5 「地域子育て支援拠点事業」について　　健康福祉部子ども支援課

■分析対象

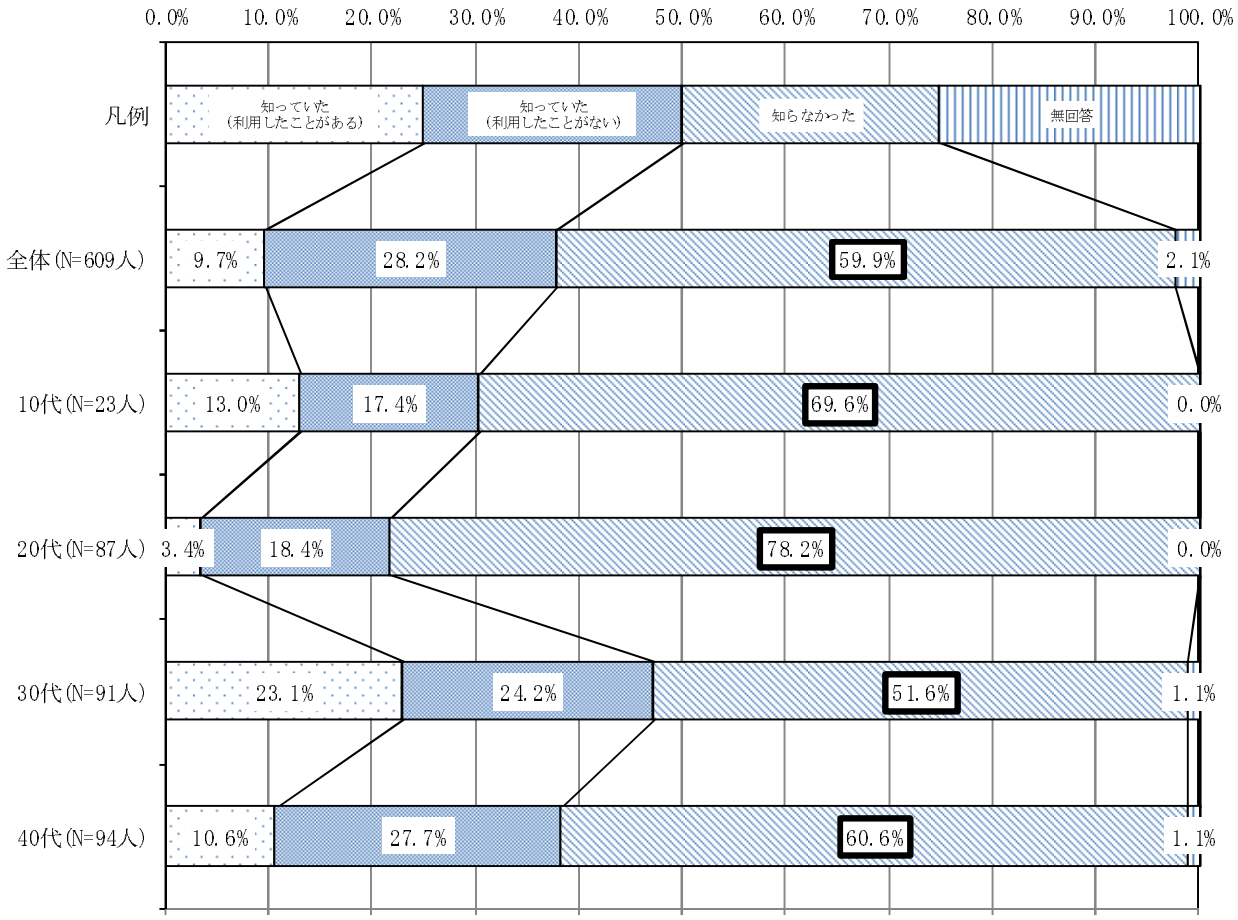
今後の新たなサービスの提供と効率的な情報提供の方法等について検討するため、地域子育て支援拠点施設の認知度、拡充が期待されるサービスと、必要とされる情報や情報提供の方法について回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

次世代と現役の子育て世代である 10 代から 40 代に注目して分析する。

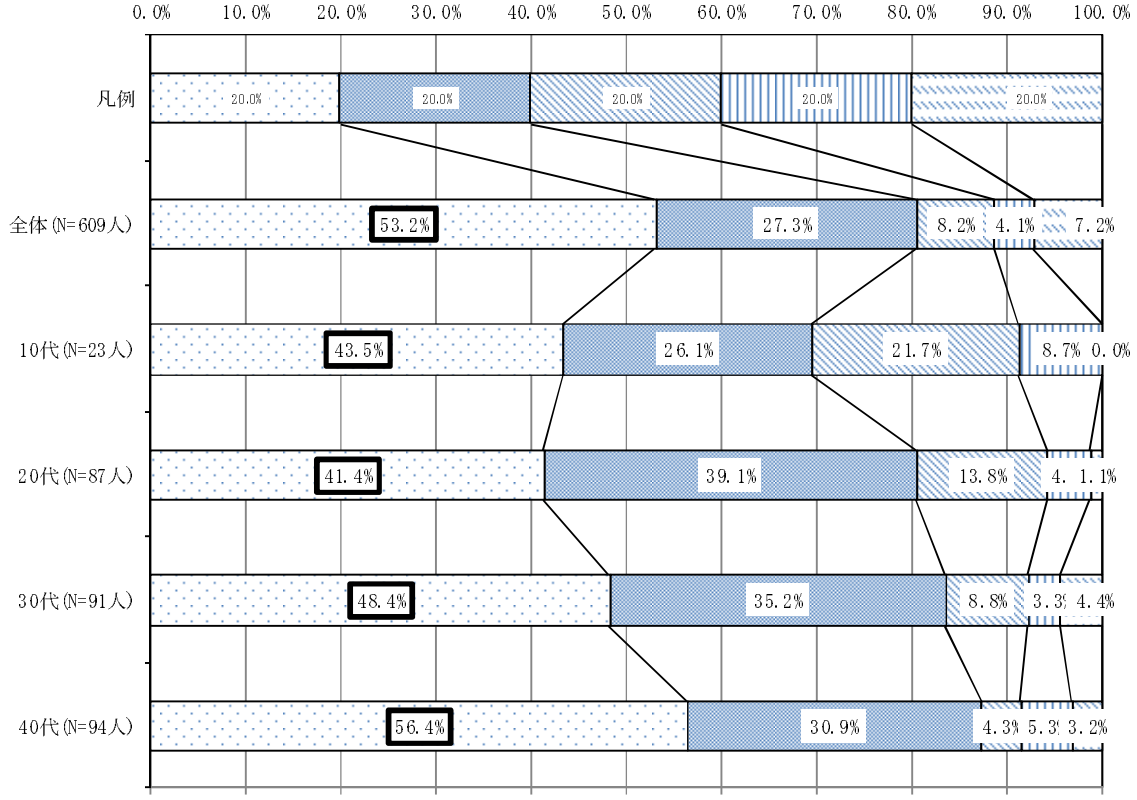
■分析対象設問・結果

問１　あなた（またはあなたのご家族）は地域子育て支援拠点施設が開所していることを知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。



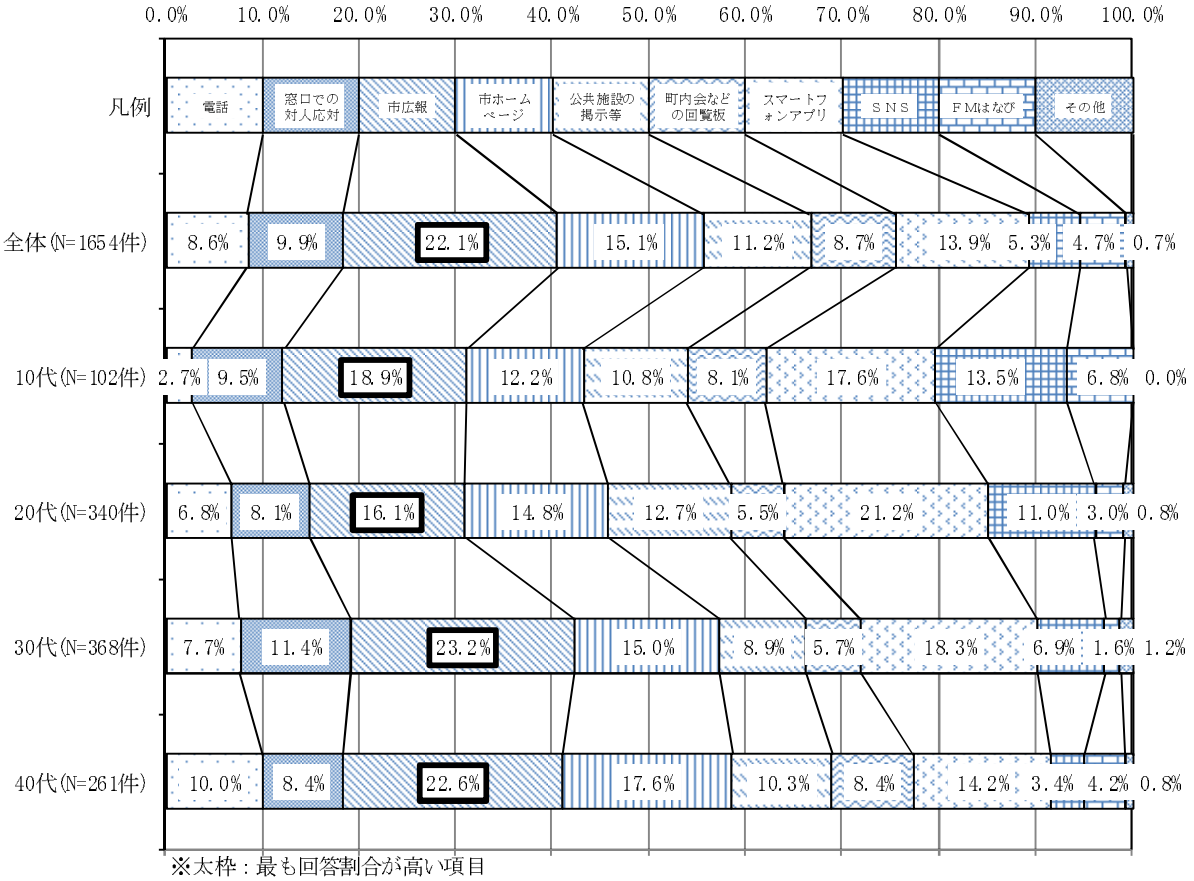
※太枠：最も回答割合が高い項目

問３　地域子育て支援拠点施設でサービスを拡充する場合、必要だと思うものはどれですか。該当する番号１つに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

問５　地域子育て支援拠点施設やその他、子育てに関する情報について、どのような手段を用いると情報を得やすいですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

■分析結果

① 問１の結果から、地域子育て支援拠点施設の認知度について、「知らなかった」の回答割合が全体で 59.9%、年代別に見ると 10 代 69.6%、20 代 78.2%、30 代 51.6%、40 代 60.6%となり、全体的に認知度は低く、特に将来の子育て世代である若年層の認知度が低くなっている。

② 問３の結果から、地域子育て支援拠点施設で拡充が期待されるサービスについて、「子育て情報のワンストップサービス窓口の設置」の回答割合が全体で 53.9%と最も高く、全ての年代においても最も高くなっており、特に 10 代では 69.6%と他の年代より高くなっている。

③ 問５の結果から、地域子育て支援拠点施設やその他、子育てに関する情報を得る手段について、「市広報」の回答割合が全体で 22.1%と最も高く、各年代においても高くなっている。また、10 代から 30 代においては、「スマートフォンアプリ」や「ＳＮＳ」の回答割合も高くなっている。

■今後の取組

① 地域子育て支援拠点施設の認知度が低いことから、認知度の向上を第一の目標とする。取組としては、情報媒体として最も期待されている「市広報」を活用し、現在は毎月行っているイベント情報の掲載に留まっているものを、今後は子育て情報の特集やイベントの様子等も記事として掲載することを検討する。

② 拡充する必要性が最も高い結果となった「ワンストップサービス」については、国が進める子ども・子育て支援新制度のメニューに「利用者支援事業」がある。この事業は、地域子育て支援拠点施設や保健センターなどにおいて、専門の支援員が子育て家庭の個別ニーズを把握し、適切な施設の紹介や必要とする支援が受けられるよう支援する事業である。

現在、市では本事業の実施に向けて専門支援員の養成を行っているが、ワンストップサービスに対する要望が高かったことを踏まえ、事業化のスピードアップを図る。

③ 10 代から 30 代においては、スマートフォンアプリやＳＮＳ等のインターネット媒体を活用した情報提供が望まれていることから、これまでの「市広報」や「子育てハンドブック」などの紙媒体に加え、インターネット媒体を活用した情報提供を検討する。

4.6 「高齢者生活支援サービス事業」について　健康福祉部地域包括支援センター

■分析対象

サービスを必要とする高齢者や支える家族に対する効率的な情報提供の方法について検討するため、制度やサービスに関する認知度及び情報を得る手段について回答した方を分析対象とする。

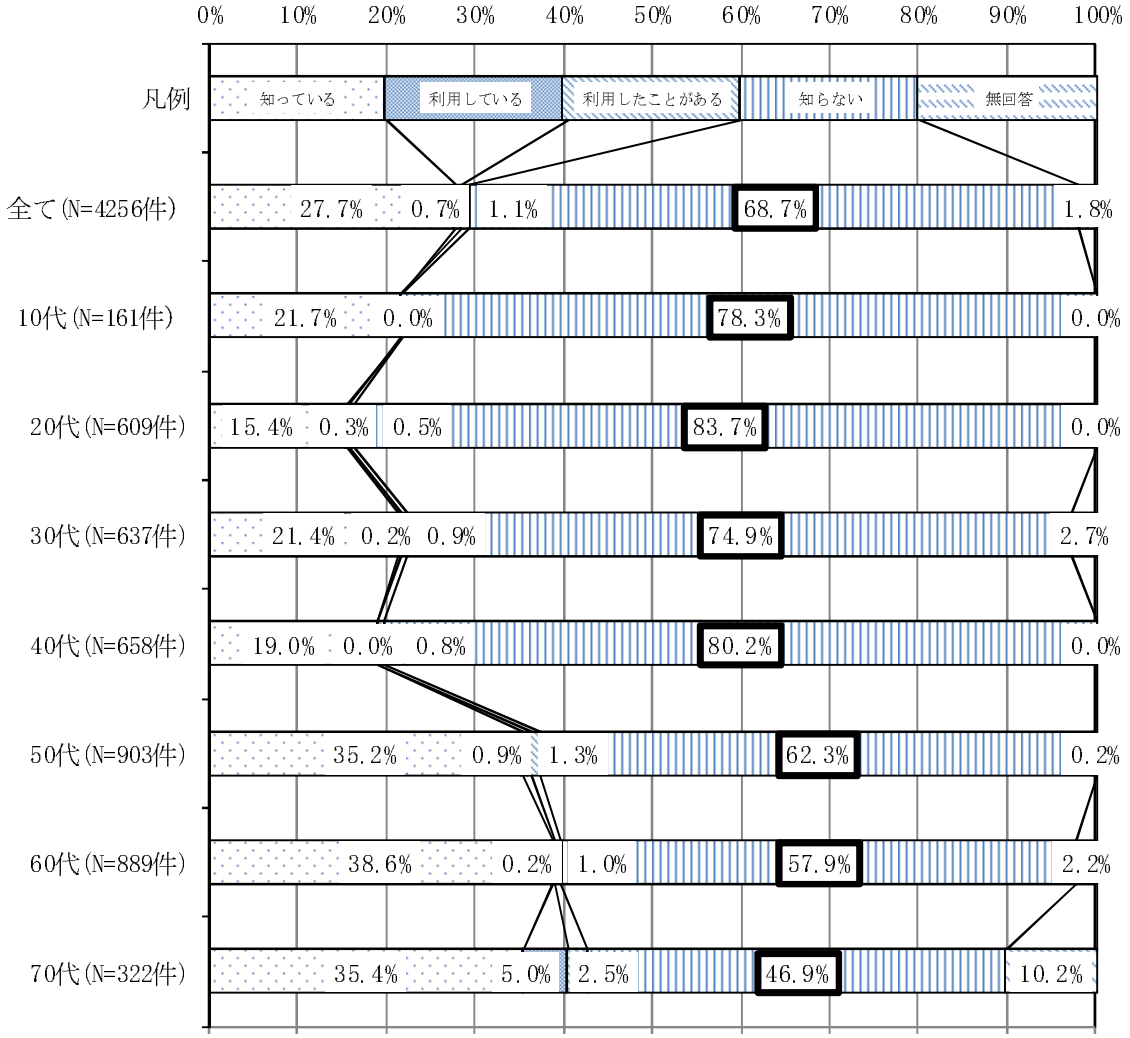
■メインターゲット（対象年代等）

年代別の介護との関わりを踏まえ、全年代に注目して分析する。

○介護との関わり【年代別】
- 10 代～20 代：祖父母を介護する親の関わりを見ている世代・高齢社会の将来を担う世代
- 30 代～40 代：子育てと介護のダブルケア世代
- 50 代～60 代：親の介護に関わる世代
- 70 代以上　：自分自身に関わる介護世代

■分析対象設問・結果

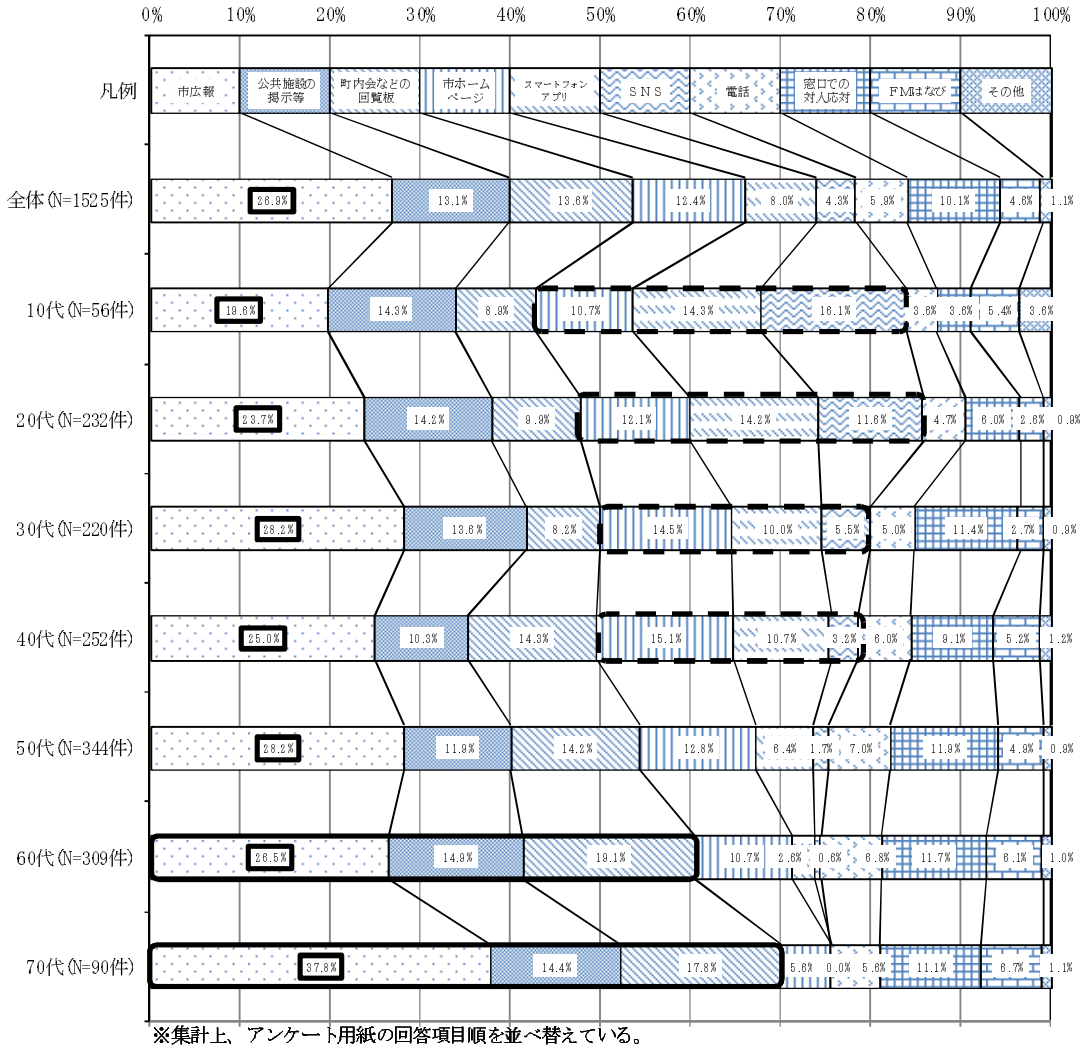
問１　市で実施している次の生活支援サービス、家族介護支援サービスの中で、内容を知っているものには「１」、利用しているものには「２」、利用したことがあるものには「３」、知らないものには「４」に○印をつけてください。



※年代別に７種類の生活支援サービス、高齢者生活支援サービス（軽度生活援助利用券交付、ふれあい安心電話、家族介護用品支給券交付、家族介護慰労金支給、はり・きゅう・マッサージ施術券交付、温泉ふれあい入浴サービス券交付、配食サービス）を１つにまとめている

※太枠：最も回答割合が高い項目

問３　今後は制度やサービスについて、どのような手段を用いると情報を得やすいですか。該当する番号１つに○印をつけてください。



※集計上、アンケート用紙の回答項目順を並べ替えている。
※太枠：最も順等割合が高い項目

■分析結果

①　問１の結果から、市が実施している生活支援サービス、家族介護サービスの認知度について、「知らなかった」の回答割合は全体で 68.7%なっている。年代別に見ると 10 代 78.3%、20 代 83.7%、30 代 74.9%、40 代 80.2%と高く、50 代 62.3%、60 代 57.9%、70 代 46.9%と順に低くなっている。親の介護に関わってくる 50 代から、高齢者生活支援サービス事業が身近になっていることがわかる。

②　問３の結果から、情報を得る手段として全体で「市広報」が 26.9%と最も回答割合が高く、年代別においても、すべての年代で最も高くなった。

③　10 項目のうち、「市ホームページ」、「スマートフォンアプリ」、「ＳＮＳ」のネットワーク関連の情報媒体を一つのグループとして合計すると、全体で 24.7%となった。年代別に見ると、10 代 41.1%、20 代 37.9%、30 代 30.0%、40 代 29.0%、50 代 20.9%、60 代 13.9%、70 代 5.6%となり、10 代から 40 代においては、各年代の「市広報」の回答割合よりも高くなっていることから、その年代のネットワーク関連の情報媒体に対する要望が高くなっていることがわかる。特に、10 代から 20 代においては、「スマートフォンアプリ」と「ＳＮＳ」の回答割合が高く、30 代から 40 代においては、「市ホームページ」の回答割合が高くなっている。

④　一方、60 代以上においては、「市広報」及び「公共施設の掲示物」、「町内会などの回覧板」の紙媒体を活用した情報提供の手段を合わせると 60%から 70%となり、他の年代に比べて高くなっている。

■今後の取組

① 分析結果から、制度やサービスの認知度の向上に向け、情報を得る手段について、広報などの紙媒体とネットワーク関連の媒体を活用した年代別の取組（②～⑤）を検討する。

② 10代から20代においては、「スマートフォンアプリ」、「ＳＮＳ」の要望が高かったことから、それらを活用することにより、今必要としない情報であっても、知りたいときにいつでも情報を引き出せるシステムの構築を検討する。特に、「ＳＮＳ」は、市からの発信だけでなく、情報交換の場や井戸端会議のような生の声を聞ける場として必要になってくることから、市に関わる「ＳＮＳ」を一ヵ所に集めるなどの環境整備も併せて検討する。

③ 30代から40代においては、子育てと介護のダブルケアとなる可能性があり、より適切な情報を迅速に提供する必要がある。情報を得る手段としては、ネットワーク関連の媒体の中でも「市ホームページ」の要望が高くなっていることから、利用者にとって見やすく、分かりやすい工夫を検討する。また、「市ホームページ」の利用により、各種サービスの申請などにおいて時間の短縮が図られることから、「市ホームページ」の利用促進をあわせて行う。

④ 50代から60代については、親の介護に関わる世代であり、介護情報や手続きに関して最も知りたい年代となる。情報を得る手段に対する要望としては「市広報」が最も高く、また、60代において、「町内会などの回覧板」及び「公共施設の掲示等」の要望が他の年代と比較して非常に高くなっている。このことから、「市広報」の活用と併せて、パンフレットやポスターを活用した情報提供について、見る人にとって分かりやすい工夫と提供する機会、ポスターを掲示する場所などを検討する。

⑤ 70代においては、介護が配偶者と自分自身に関わる世代となる。介護情報は、地域や自宅で安心して過ごしたいと思っている世代には特に重要である。情報を得る手段として、「市広報」に対する要望が他の年代より10％も高いことから、制度やサービスについて広く知ってもらうために、「市広報」を利用した、分かりやすい内容の工夫と掲載する回数、タイミングを検討する。

4.7 「地域交通対策事業」について　企画部まちづくり課

■分析対象

現在、高齢ドライバーによる交通事故が社会問題となっており、市においても対策を検討する必要があることから、免許返納者優遇制度の認知度について回答した方を分析対象とする。

また、公共交通の魅力の向上に向けた、利用を促進するための新たな取組を検討するため、今後実施するべきだと思う利用促進施策について回答した方も分析対象とする。

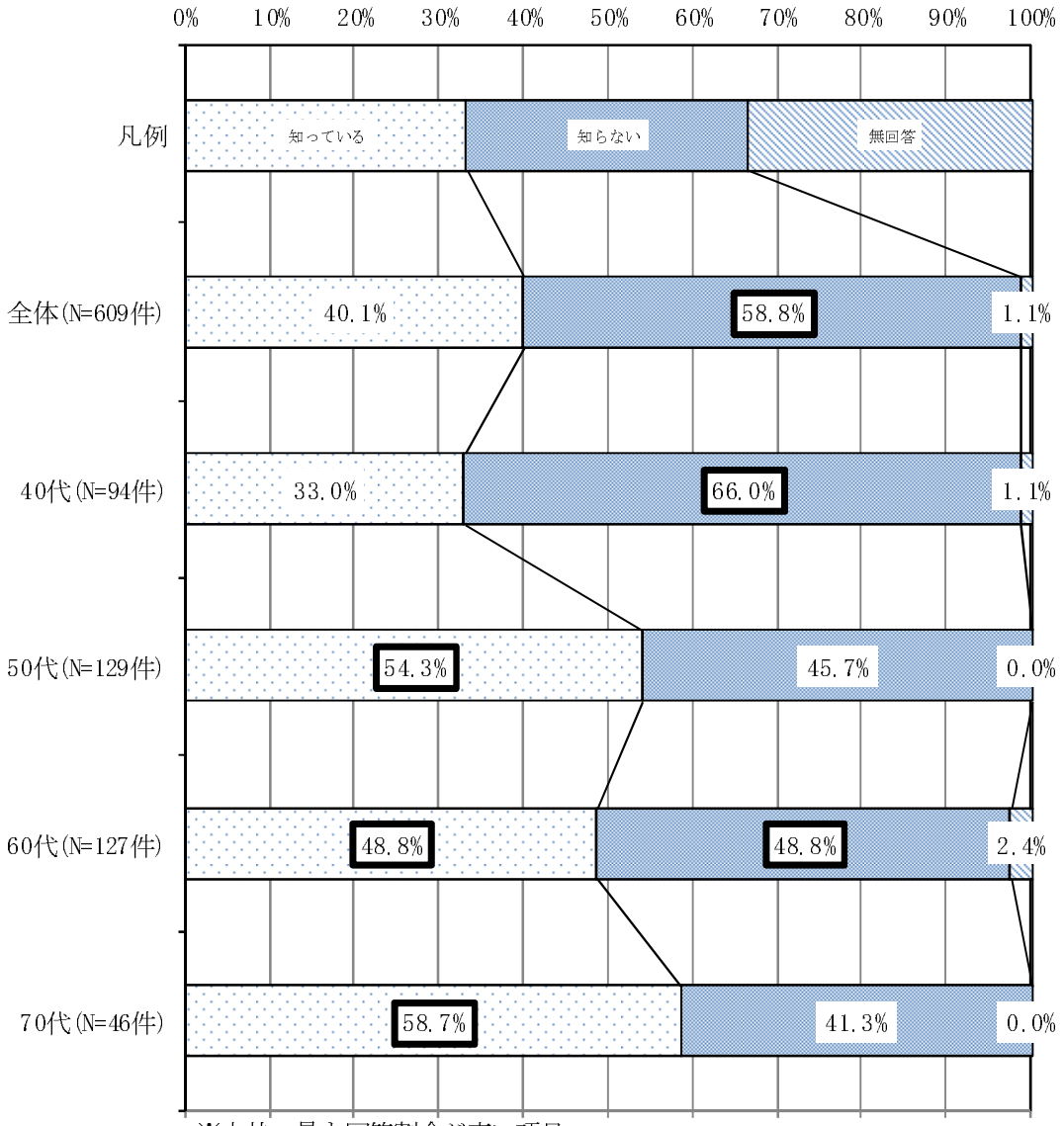
■メインターゲット（対象年代等）

前者の分析対象においては、運転免許の自主返納を検討する必要がある高齢者を親に持つ 40 代から 50 代と運転免許の自主返納が自分自身に関わる 60 代から 70 代に注目して分析する。

後者の分析対象においては、全体、年代別で総合的に分析する。

■分析対象設問・結果

問１　市が実施している交通対策事業（免許返納者優遇制度）について、知っているものの番号に○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

問３　市では、公共交通の魅力向上に向けた利用促進施策を実施したいと考えています。より多くの方に公共交通を利用してもらうために、実施すべきだと思う施策はどれですか。該当する番号に最大２つまで○印をつけてください。

	有効回答数（N）	利用料金割引デーを実施する	商店街で使えるクーポン付き乗車券を発行する	車体に児童生徒が絵を描いたバスを運行する	バス車内の掲示や広告を充実させる	観光地への交通網を整備する	市内のイベントに合わせて公共交通を臨時運行する	その他
全体	976件	27.8%	24.7%	3.8%	2.5%	12.5%	25.6%	3.2%
《年代別》								
10代	40件	①27.5%	17.5%	7.5%	5.0%	17.5%	②22.5%	2.5%
20代	145件	①24.8%	②23.4%	3.4%	2.8%	17.2%	②23.4%	4.8%
30代	140件	②22.1%	20.7%	6.4%	0.7%	14.3%	①28.6%	7.1%
40代	155件	①31.0%	②25.8%	4.5%	3.2%	12.9%	19.4%	3.2%
50代	211件	①33.6%	②26.1%	2.4%	2.4%	9.0%	24.6%	1.9%
60代	197件	24.9%	②27.9%	2.0%	2.0%	11.2%	①30.5%	1.5%
70代	73件	②28.8%	21.9%	5.5%	4.1%	8.2%	①31.5%	0.0%

※着色部：回答割合が高い上位２項目

■分析結果

① 問１の結果から、「免許返納者優遇制度」の認知度について、年代が高い方が比較的認知度が高くなっているが、運転免許の自主返納が自分自身に関わってくる60代から70代においては、約40％以上の方が知らないと回答していることから、制度の周知が十分に図られていないと考えられる。

② 問３の結果から、今後実施するべき利用促進施策について、全体では「利用料金割引デーを実施する」の回答割合が27.8％と最も多く、次いで「市内のイベントに合わせて公共交通を臨時運行する」が25.6％となっている。年代別に見ても、この２項目の回答割合が高くなっている。このことから、利用者の負担軽減とイベントの開催等による一時的な需要に応じた臨時運行に対する要望の高さが伺える。

■今後の取組

① 問１に関する分析結果から、「免許返納者優遇制度」の認知度の向上を図るため、市広報やコミュニティＦＭ等により定期的に制度の情報を発信するとともに、敬老会など高齢者が集まる機会を活用した説明会の開催や、高齢者に分かりやすいチラシの作成などにより、周知の強化を図っていく。

② 問３に関する分析結果から、市内イベントに合わせた公共交通の臨時運行と合わせ、利用料金割引デーの実施について検討する。第一段階として、運行の目的となるイベントに関する来訪時間や滞在時間など基本的な情報の把握が必要となることから、イベント参加者に対するアンケート調査などを実施し、その上で運行の是非及び内容等を検討する。

4.8 「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」について　企画部まちづくり課

■分析対象

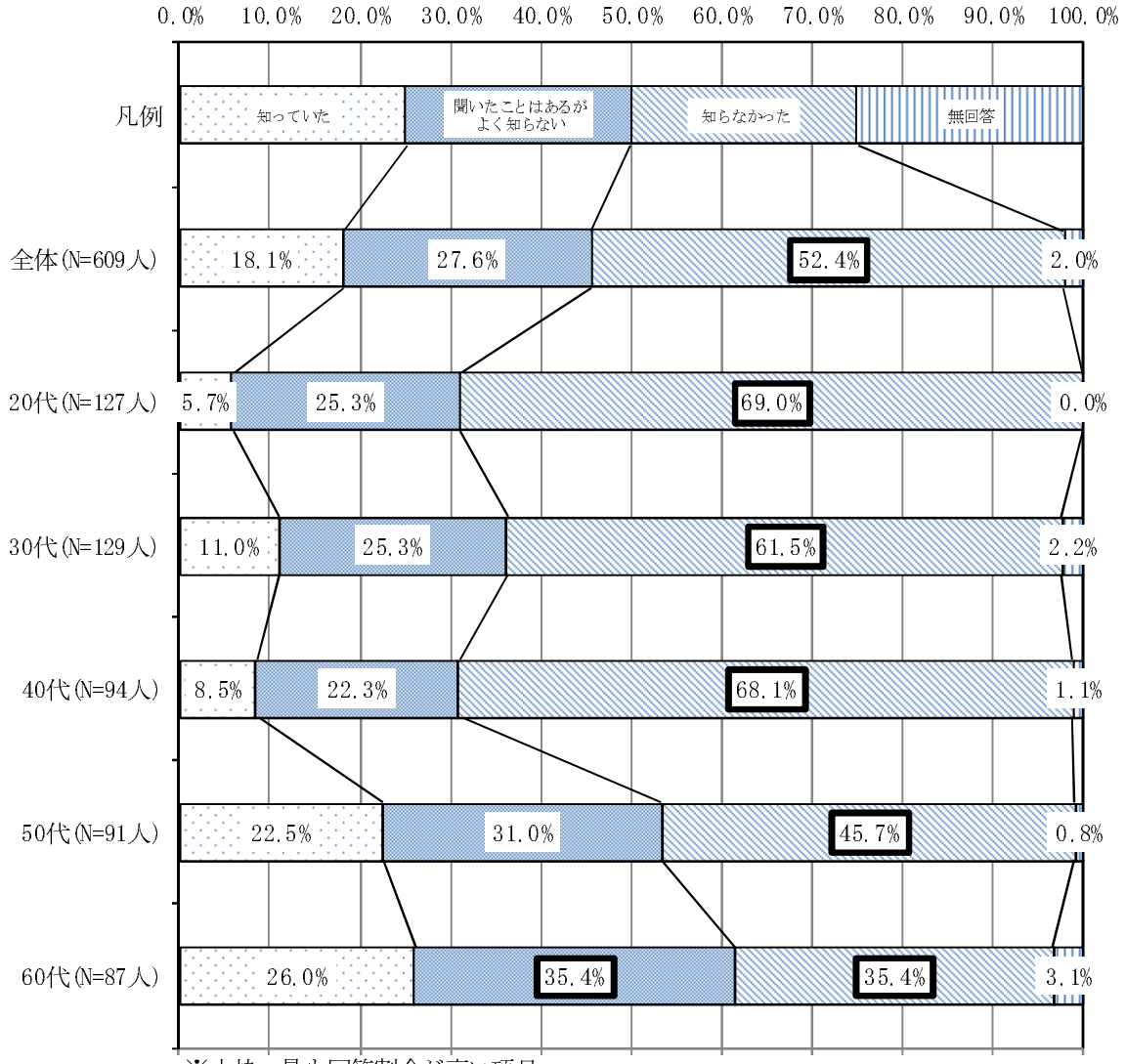
当事業を平成 29 年度から本格実施するにあたり、事業活用のさらなる拡大に向けた認知度の向上及び内容の理解を促進するための取組を検討するため、事業の認知度及び情報を得る手段について回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

身近な地域が抱える雪の課題に対し、自分たちの判断と創意工夫により自主的に取り組む自治会や任意組織に対して活動を支援する事業であるが、その中で除雪作業を担うことが期待される 20 代から 60 代に注目して分析する。

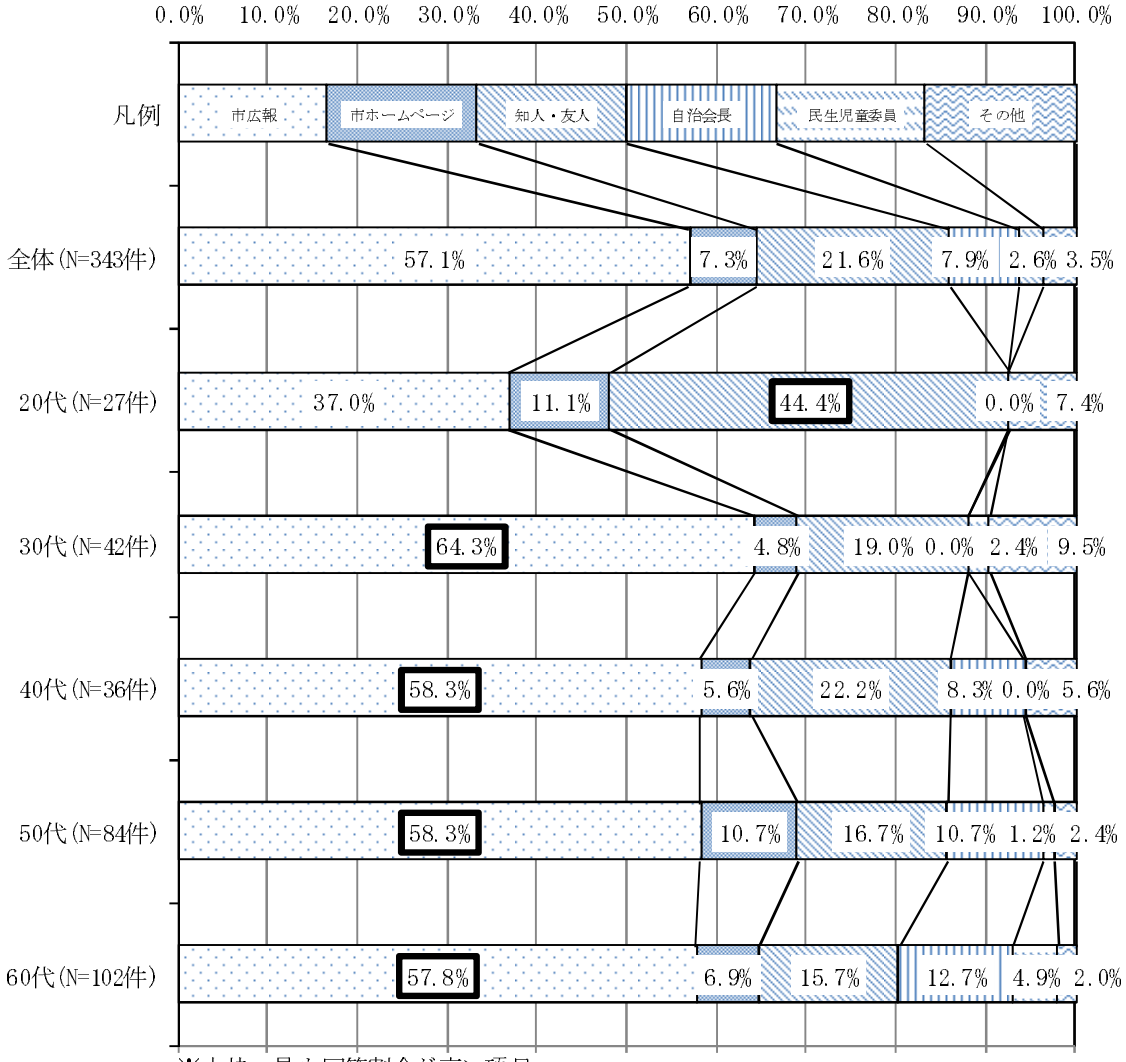
■分析対象設問・結果

問１　市が「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」を実施していることを知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

問２　問１で「１（知っていた）」または「２（聞いたことはあるがよく知らない）」に○印をつけた方にお聞きします。この事業をどのようにして知りましたか。該当する番号すべてに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

■分析結果

① 問１の結果から、20 代から 40 代の若い年代において、「知らなかった」の回答割合が他の年代に比べて非常に高く約 60%から 70%となっており、当事業の周知が十分に図られていないと考えられる。また、50 代から 60 代においては、「知らなかった」の回答割合は他の年代に比べて低くなっているが、「聞いたことはあるがよく知らない」の回答割合が約 30%となっており、内容の理解が十分にされていないと考えられる。

② 問２の結果から、当事業を知った手段として「市広報」の回答割合が 20 代を除く全ての年代で最も高く、全体の過半数以上を占めている。また、本事業の周知については、自治会長にパンフレットの送付や説明会などを通じ事業の紹介を行ってきたが、「自治会長」の回答割合は全ての年代において低くなっている。

■今後の取組

① 分析結果から、制度やサービスの認知度の向上に向けて、内容の理解を含めた周知の方法について、年代別の取組（②～③）を検討する。

② 若い年代である 20 代から 40 代においては、本事業の認知度が低くなっているが、本事業を活用して除雪作業を行うにあたり、実際に作業を行う若い年代の参画が必要になってくる。

そのため、本事業を知った手段として最も回答割合が高かった「市広報」に加え、コミュニティＦＭ等による周知回数を増やすことや、市ホームページに制度をわかりやすく掲載すること、過去の事例を紹介することなどにより、若い年代に興味・関心を持ってもらい、地域に目を向けてもらえるよう周知と事業への理解促進を図る。

③ 50 代から 60 代においては、本事業の内容を十分に理解していないと考えられる「聞いたことはあるがよく知らない」と回答した割合が 30％を越えているが、本事業を活用するにあたり、この年代が自治会や任意組織の中心となりやすいと考えられることから、内容の理解に向けた取組が必要となる。

そのため、これまでより理解しやすいようパンフレットを改訂し、その上で、座談会や説明会を希望する自治会等に対して順次対応できるよう体制を整備する。また、説明する内容については、事業の内容に加え、これまでの事例をモデルケースとして紹介するなど、事業内容の更なる周知に努める。

4.9 「住宅リフォーム支援事業」について　建設部建築住宅課

■分析対象

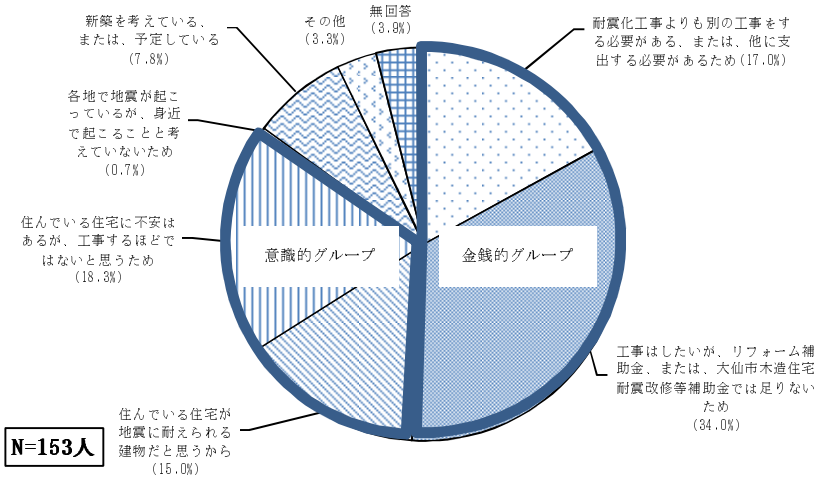
本市の耐震化率は、平成27年度末で66%となっており、同年度の全国平均82%を大きく下回っていることから、今後の耐震化を促進するための取組を検討するため、耐震改修が必要となる可能性のある平成12年5月31日以前に建築された建物に居住し、耐震診断、又は耐震改修を行ったことがない方で、なおかつ耐震化を実施しないと回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

全体、年代別で総合的に分析する。

■分析対象設問・結果

問５　問３で「２」、問４で「２」に○印をつけた方（平成12年５月31日以前に建設された建物に居住し、耐震診断、又は耐震改修を行ったことがない方で、なおかつ耐震化を実施しないと回答した方）にお聞きします。あなたの住まいの住宅を耐震化しない理由は何ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。



■分析結果

① 問５の結果から、全体において金銭的な理由で耐震化をしないグループ（以下「金銭的グループ」という。）は、過半数を占める51.0%となっており、優先すべき支出に対する考え方や工事に対する経費工面での難しさが伺える。

② 耐震化の必要性を感じていないグループ（以下「意識的グループ」という。）は、３人に１人にあたる34.0%となっており、耐震化に対する意識の醸成が十分に図られていないことがわかる。

■今後の取組

① 現在、市では、大仙市木造住宅耐震改修等補助金と住宅リフォーム支援事業により耐震化を進めており、双方とも補助率、補助額等において県内でトップレベルの充実した内容となっているが、金銭的グループの割合が高かったことから、今後は、申請状況を注視しながら、必要に応じて補助額等の見直しを検討していく。

また、耐震化の必要性を感じていない意識的グループが全体の 34.0％と高かったことから、制度見直しの検討に加え、市民の耐震化についての意識改革が必要であると考える。耐震化について意識改革を図ることは、「耐震化工事よりも他の工事や支出がある」と回答した方の耐震化工事に対する優先順位が変わることに繋がる可能性がある。

耐震化率が高い都道府県の状況を見ると、耐震改修だけでなく、耐震診断を実施している割合が高いとの調査結果がある。費用負担の大きい耐震改修にいきなり目を向けることは難しいことから、市民の耐震化についての意識改革として、比較的安価にできる耐震診断の実施を推進する。

③ 具体的には、耐震診断に対する支援について、平成 28 年度までの内容（補助率３分の２、補助上限額３万円）を大幅に見直し、平成 29 年度より、建築面積、図面の有無に関わらず、個人の負担を１万円の定額として残額を市が全額負担する改正とするほか、市民自身が耐震診断業者を選定しなくても、市が委託する専門機関から診断士を派遣することで市民の負担軽減を図るなど、耐震診断を受けやすい環境を整備する。

④ 耐震化促進に向けて、市の広報やホームページに耐震化に関する情報を掲載するほか、秋の稔りフェアなど多くの市民が集まるイベントで展示会を開催するなど、耐震化に対する意識の高揚を図る。

4.10 「コミュニティＦＭ関連事業」について　企画部総合政策課

■分析対象

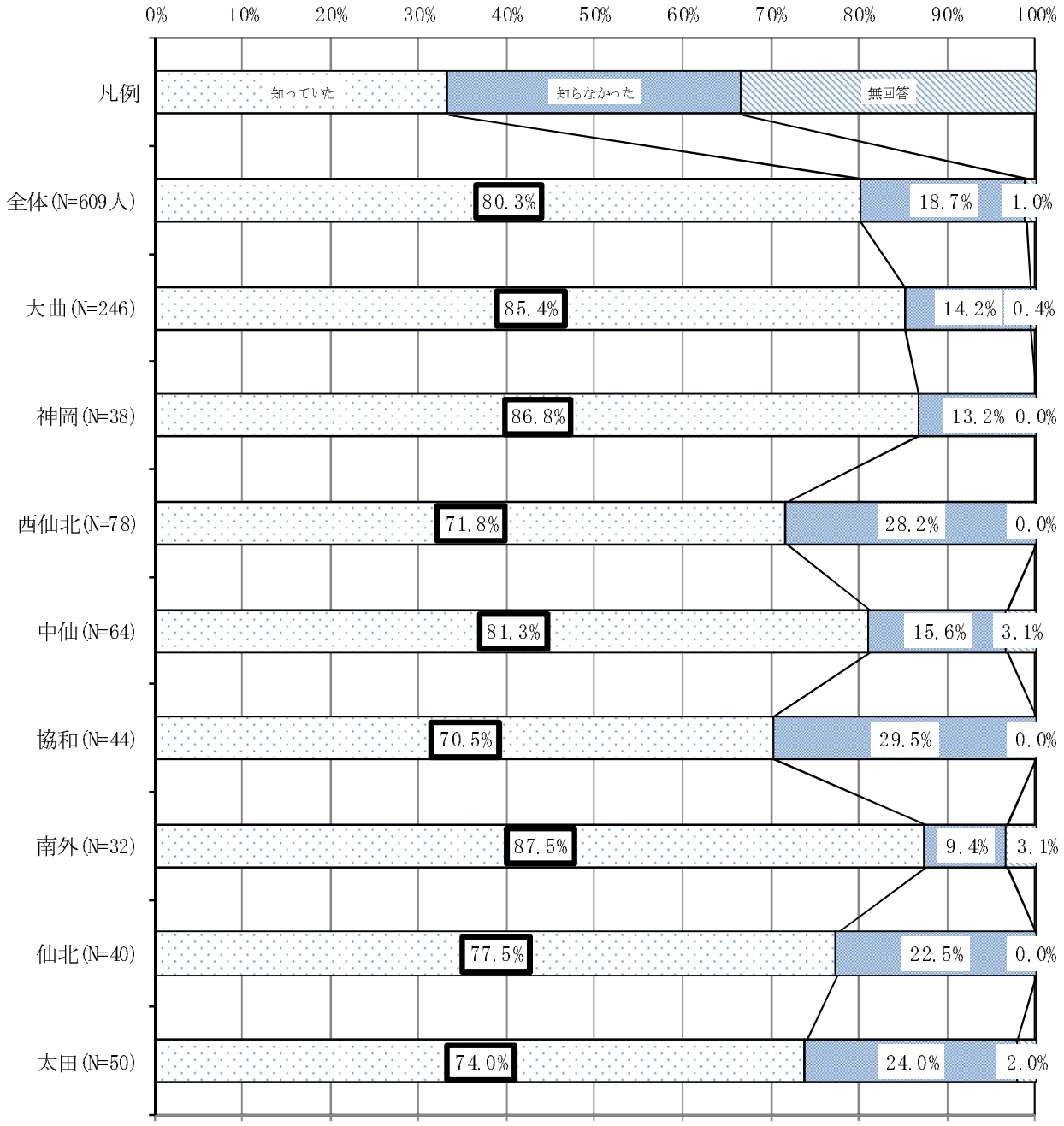
コミュニティＦＭ「ＦＭはなび」は、地域の賑わいの発信と創出、そして災害発生時に行政からの災害に関する情報を正確かつ迅速に発信するという役割を担っている。その役割を十分に果たすためには、まずは「ＦＭはなび」を知ってもらうことが必要であり、認知度の低い地域については、重点的に認知度の向上を図る必要があるため、「ＦＭはなび」の認知度について分析対象とする。また、災害発生時における情報発信源としての役割を果たすため、「ＦＭはなび」を聴く機会についても併せて分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

全体、地域別で総合的に分析する。

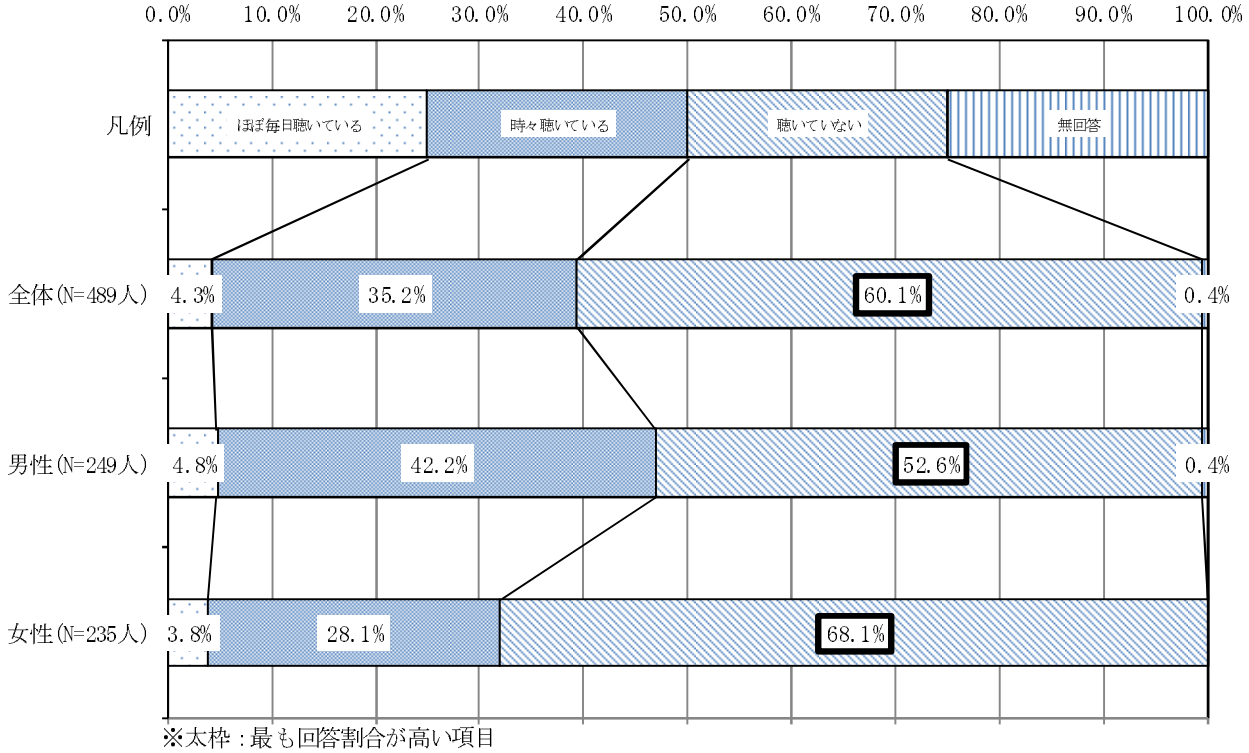
■分析対象設問・結果

問１　ＦＭはなびを知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。



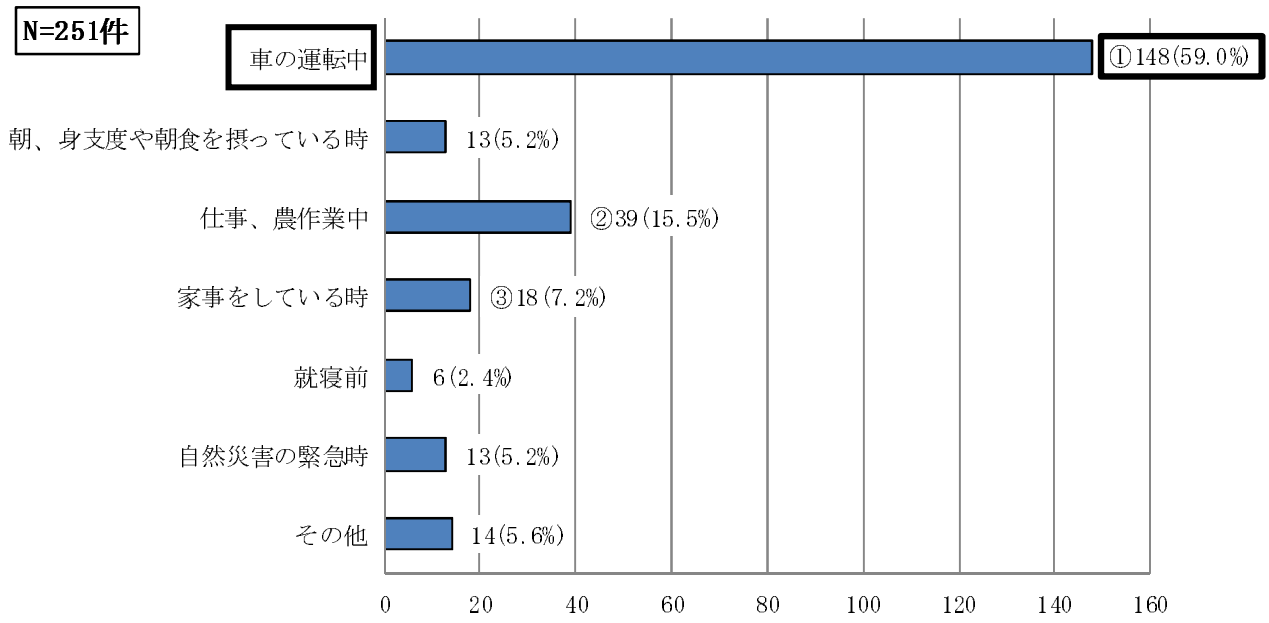
※太枠：最も回答割合が高い項目

問２　問い１で「１」に〇印をつけた方にお聞きします。ＦＭはなびをどの程度聞いていますか。該当する番号１つに〇印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

問４　ＦＭはなびを聴いている方にお聞きします。ＦＭはなびをどのような時に聴いていますか。該当する番号すべてに〇印をつけてください。



■分析結果

① 問１の結果から、全体では「知っていた」の回答割合は80.3%と高い結果となった。地域別では、「知らなかった」の回答割合が協和地域で29.5%と最も高く、南外地域で9.4%と最も低くなっており、全体では認知度は高いが、地域別では認知度に差がある状況となっている。

② 問２の結果から、ＦＭはなびを知っているが「聴いていない」と回答した人の割合は60.1%と、ＦＭはなびの認知度と聴取率に大きな差が生じていることから、地域住民が興味を持つような放送内容（番組）になっていないことや、具体的な放送内容（番組）が認知されていないことなどが考えられる。

③ 問４の結果から、ＦＭはなびを聴く機会について「自然災害の緊急時」の回答割合が5.2%と低くなっており、これまで河川の氾濫時等災害時の放送を行ったことを考えると、災害時に「ＦＭはなび」から情報を入手できるということが、大多数の市民に認知されていないと考えられる。

■今後の取組

① これまでは、ＦＭはなびの運営主体であるＴＭＯ大曲と協力しながら「ＦＭはなび」という放送局自体のＰＲに努めてきたが、今後は、これに加えて認知度の低い地域でのＰＲ方法を再検討するなど地域差の解消に努めるとともに、ＴＭＯ大曲に対する情報提供を強化し、放送内容（番組）の充実を図る。また、聴取のきっかけとなるよう、これまでＴＭＯ大曲が行ってきたホームページやフリーペーパーでの番組表提供に加え、市として広報を活用し番組の特集記事を定期掲載するなど、放送内容の周知に務める。

② すべての市民が、迅速かつ適切な避難行動を行うことができるよう、災害時に有用な情報伝達手段であるラジオ、及び災害発生時の放送局としての役割の周知を図るため、災害発生時に「ＦＭはなび」からどのような情報を発信してきたか、災害発生時に「ＦＭはなび」からどのような情報を入手できるか、また、東日本大震災をはじめとする大規模災害時に、ラジオというメディアが果たしてきた役割などについてＰＲを行う。

4.11 「学校生活支援事業」について　　教育指導部教育指導課

■分析対象

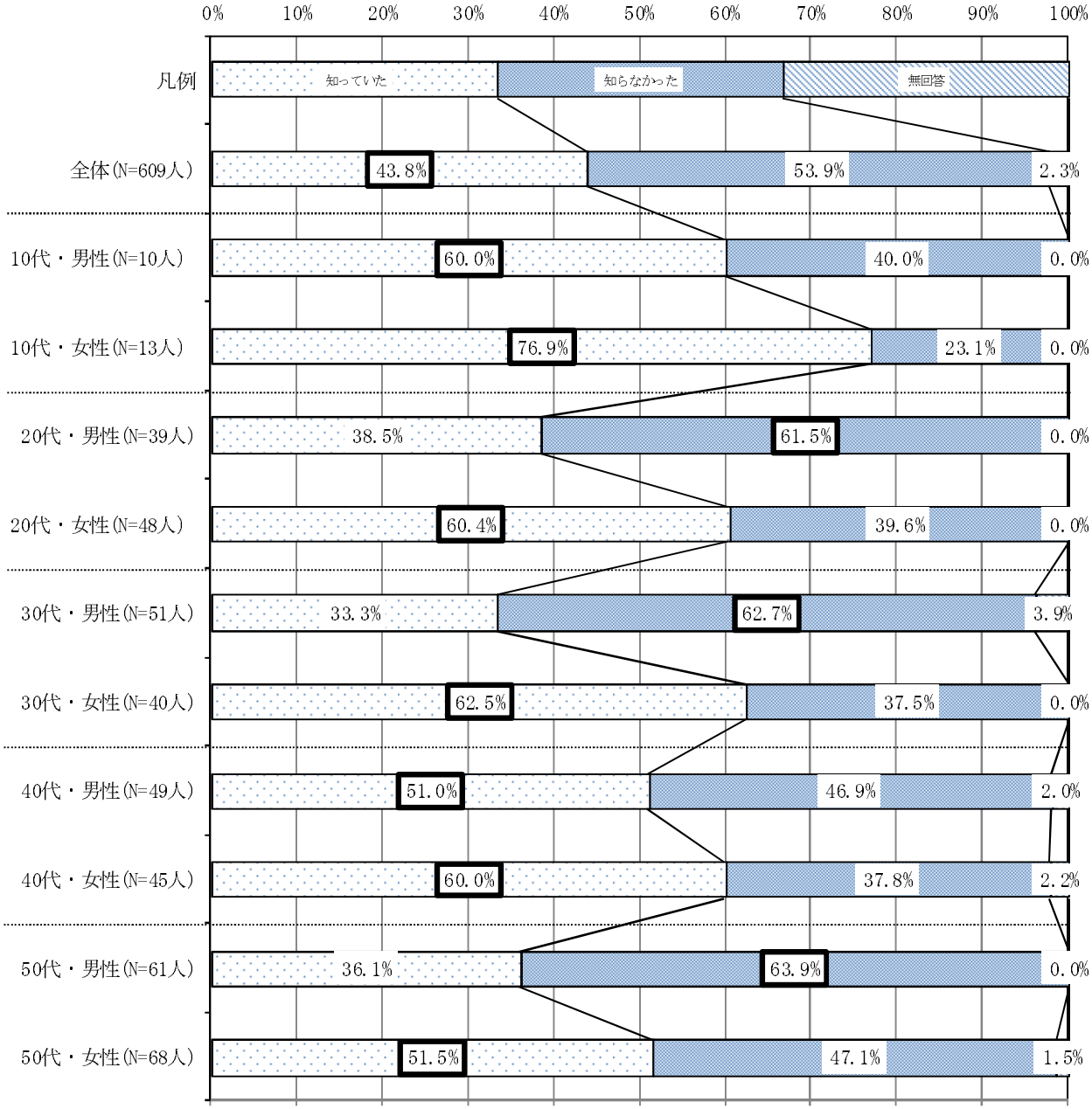
支援を必要としている児童生徒数が年々増加するなか、市内のすべての児童生徒が意欲を持って学習に取り組むことができるよう、さらに効果的な支援を検討するため、学校生活支援員を配置していることについて、「知らなかった」と回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

将来及び現在の子育て世代である 10 代から 50 代に注目し、性別をクロスさせた集計結果を中心に分析する。

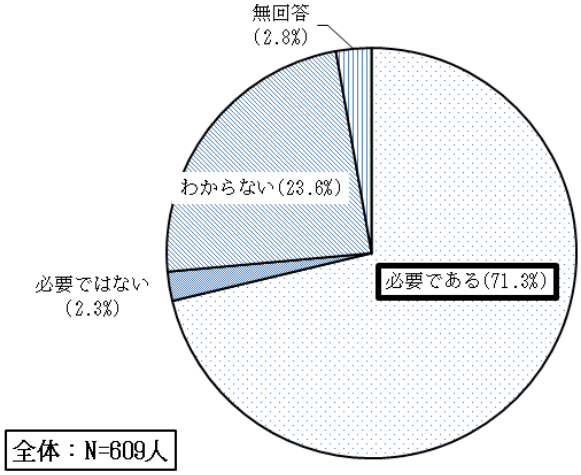
■分析対象設問・結果

問１　学校生活を送る上で、様々な支援や配慮が必要な児童生徒に対して、「学校生活支援員等」を知っていましたか。該当する番号一つに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

問２　学校生活において、学校生活支援員等を配置して様々な支援や配慮を行うことは必要だと思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。



■分析結果

① 問１の結果から、10 代の男性、女性ともに「知っていた」の回答割合が 60%を越えており、他の年代と比べて高くなっている。

② 10 代から 50 代全ての年代において、女性よりも男性の方が「知らなかった」の回答割合が高くなっており、特に、20 代、30 代、50 代男性において 60%を越えている。

③ 問２の結果から、「学校生活支援員等」を配置し支援等を行うことについて、「必要である」の回答割合が 71.3%と非常に高くなっている。

■今後の取組

① 学校生活支援員等の配置が必要であると回答した方が非常に多かったことから、学校生活支援員等の必要性については理解されているものと考えられる。障がいのある子を持つ保護者のみならず、全ての保護者の認知度を高めていくことは、大仙市の「子育ての安心度・信頼度」を高めていくことに繋がると考えられる。

10 代の認知度の高さは、小学校時代に学校生活支援員等の存在を実際に知っている世代であるためと考えられ、今後も学校生活支援の事業を続けていくことで、経年的に市民全体の認知度は高まると考えられるが、全体的に認知度が低い現在 20 代以上の認知度を高めるための取組（②～④）を検討する。

② 市の特別支援専門検査員、アドバイザー等が、各園、各学校等を訪問する際に、学校生活支援員等の存在や役割を説明する。

③ 保護者会等の集まりにおいて、学校生活支援員等の存在や成果について園や学校側から保護者に説明する機会を創出するとともに、口頭説明のみならず、紙面での紹介、説明を進めることで家庭での話題にしていただくなど、特に認知度の低い男性への周知を図り、認知度を高めていく。

④ 市のホームページや広報に学校生活支援員等の存在や役割、成果等について掲載し、周知を図る。

4.12 「移住・定住への支援事業」について　企画部まちづくり課

■分析対象

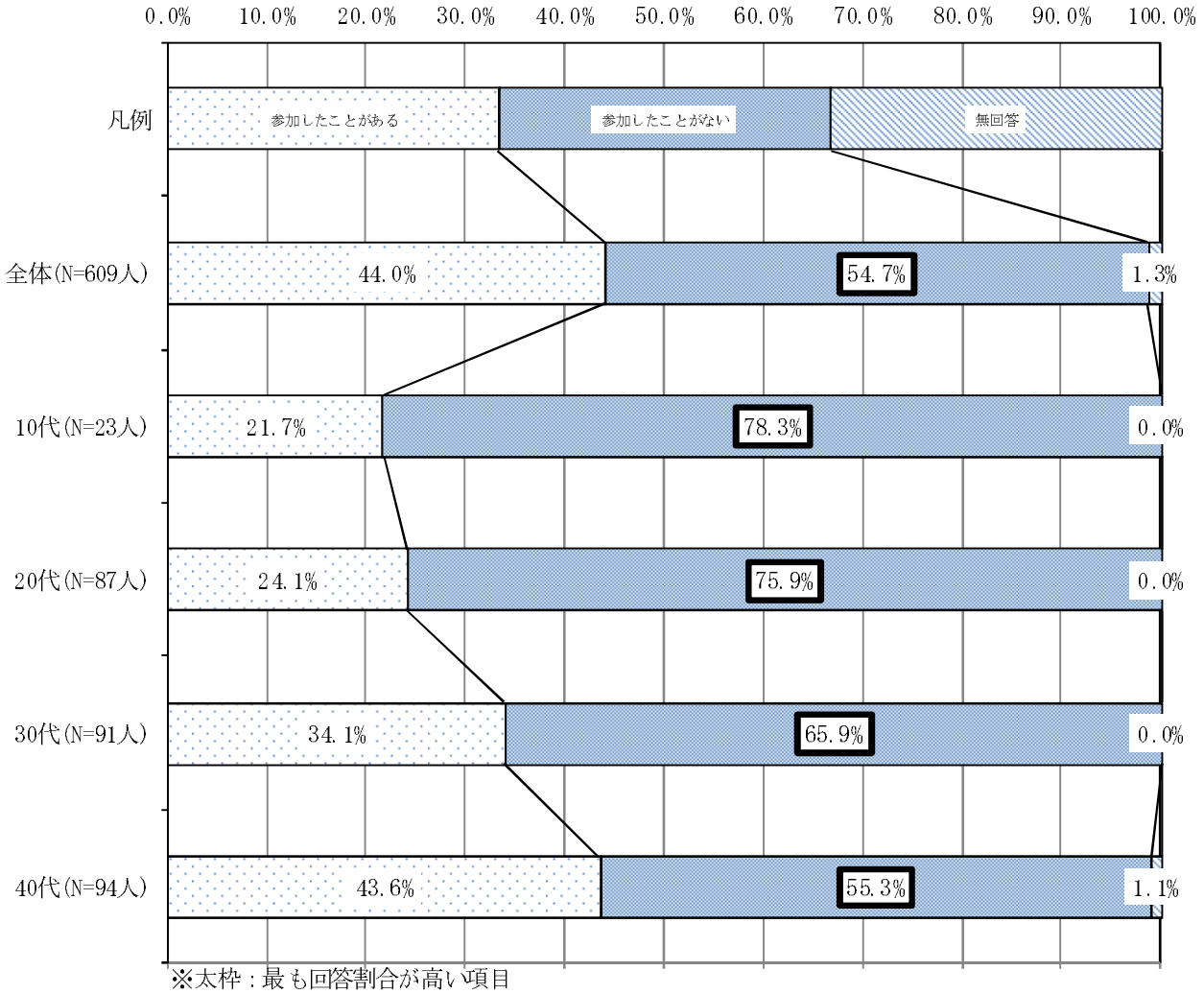
定住の促進に向けて、多世代が集い交流し、支え合い助け合いを促進する取組を検討するため、ここ１年間で仕事以外の何らかの社会活動・地域活動に「参加したことがない」と回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

これから地域活動のリーダー役として積極的な活動が求められる 10 代から 40 代の若い世代に注目して分析する。

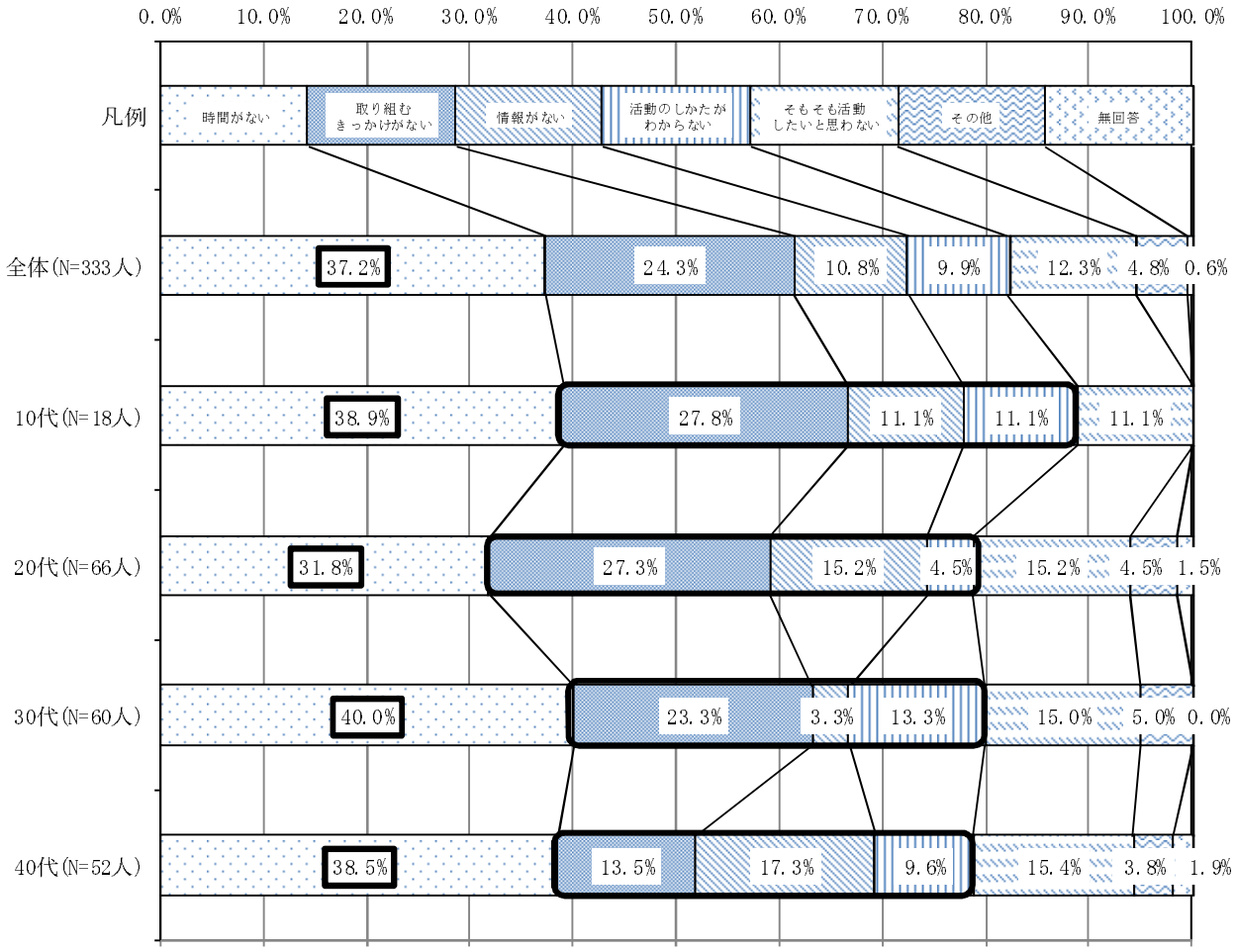
■分析対象設問・結果

問４　定住を促進するためには、多世代が集い交流することができる機会の確保や、地域の中で多世代が集い交流し、支え合い助け合いを進めることにより、地域の中でつながりを強めることが必要です。あなたは、ここ１年間仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」に参加しましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

問６　問４で「２（参加したことがない）」に○印をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

■分析結果

①　問４の結果から、10 代から 20 代の 75%以上が「社会活動・地域活動」に「参加したことがない」と回答している。また、30 代、40 代と年代が高くなるにつれて「参加したことがない」の回答割合は低くなるものの、40 代でも全体の過半数を占める 55.3%の方が、「参加したことがない」と回答をしている。

②　問６の結果から、ここ１年間仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」に参加したことがないと回答した方の中で、活動への関わり方がわからないため参加していないと考えられる「取り組むきっかけがない」、「情報がない」、「活動のしかたがわからない」のいずれかを選択した方は、10 代から 20 代で過半数を占める約５割、30 代から 40 代で約４割となっている。

■今後の取組

①　参加したことがある割合が少ない 10 代から 40 代において、活動への関わり方がわからず参加していない方が多いことから、参加するきっかけづくりに関する取組を検討する。

②　同じ年代の仲間が「社会活動・地域活動」へ参加していることが、活動に参加するきっかけとして重要な要素であることから、現在実施している次世代地域リーダー育成セミナーを通じ、今後、地域のリーダー役となって活躍する若い世代の人材を育成するとともに、若いリーダーが活動を積極的に行える環境づくりをサポートするなど、リーダーと同世代や、更に若い世代が活動に参加しやすい環境の整備を進める。

４．資料【平成 28 年度「市民による個別事業評価」調査票】

平成28年度市民による個別事業評価

日頃から市政の推進に対し、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

市ではこれまで、市政運営を効果的かつ効率的に行うため、「市民による市政評価」を実施し、評価結果を施策等に反映するよう努めてまいりました。

今年４月に実施した「市政評価」では、市政全体における分野別の「満足度」と「重要度」、及び「今後さらに推進すべき取組」について調査しました。

今回新たに実施する「市民による個別事業評価」では、市で実施している事業等に関する「評価・要望」を調査し、来年度以降の施策に活用させていただきます。

皆様には大変お手数をおかけいたしますが、本調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いします。

平成 28 年 12 月
大仙市長　栗 林 次 美

≪ご記入にあたって≫

このアンケートは、18 歳以上の市民の方々の中から、1,000 名を性別・年齢層・地域を考慮しながら無作為に選び、調査票をお送りしています。

★回答は、このアンケート調査表に直接お書きください。

★回答方法は、該当する項目等を選び、あてはまるところ（番号）に「○」印をつけてください。

★ご自身に直接関係がない事業もありますが、可能な限りすべての設問にお答えください。

★ご記入いただいた回答は、すべて統計処理いたしますので、個人に関する情報が明らかになることはありません。

★ご記入にあたっては、黒の筆記用具をご使用願います。

≪アンケート用紙の返送について≫

★ご記入いただいたアンケート用紙は、平成 29 年１月６日（金）までに同封の返信用封筒に入れてご投函ください（切手は不要です）。

★アンケート用紙や返信用封筒にお名前をご記入いただく必要はありません。

≪問い合わせ先≫

大仙市役所　企画部総合政策課
電話：0187-63-1111（内線 275）　FAX：0187-63-1119
E-mail：sougou@city.daisen.akita.jp

テーマ１：「雇用や就労のための支援事業」について

【事業概要】
◆市では、地元企業に対する雇用支援を通じ、積極的な新規雇用を促進しています。また、若者などが地元に定着するために、地元企業の紹介や各種就労支援も行っています。

問１　市が実施している雇用・就労施策について、知っているものの番号に○印をつけてください。

施策名	内　容
１．　雇用助成金制度	市民の方を新規で雇用した事業所に対して助成金を交付しています。
２．　若者求職者資格取得補助金制度	求職者、非正規雇用労働者が就職に役立つ資格を取得したとき、その経費の一部を補助しています。
３．　県南地区職場研修	県南地区の高校３年生および県立大曲技術専門校２年生を対象とし、夏休み期間中に県南地区の職場研修を実施しています。
４．　仙北地域新規高卒者企業説明会	県南地区の高校生を対象とした、地元企業の説明会を実施しています。
５．　大仙市企業インターンシップ事業	インターンシップの引き受け可能な市内企業を県内の大学に紹介しています。
６．　若者就職応援講座	若者の求職者を対象に、就職に役立つ講座を開催しています。

問２　市が実施する雇用・就労施策に関する情報をどこで知りましたか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

１．　市広報　　**２．　市ホームページ**　　**３．　ポスター・チラシ**
４．　知人・友人　　**５．　見たこと、聞いたことがない**　　**６．　その他（　　）**

問３　現在、地元の高校を卒業する人の約 30%が就職、約 70%が進学等となっています。また、就職者のうち約 30%が県外へ就職しています。
　市では、進学等により県外へ転出した人の市内企業への就職を促進したいと考えていますが、あなたはどのような取組が必要だと思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

１．　市内企業のPR
２．　市内企業が求人活動をする際の支援
３．　市内企業へ就職を希望する人に対する職業紹介
４．　就職活動にかかる経費（移動費、宿泊費など）への補助
５．　その他（　　）

問４　現在、秋田県の新規学卒者の就職後３年以内の離職率は、高校、短大等で約 40%、大学で約 35%となっています。
　早期離職を予防するために、あなたはどのような取組が必要だと思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1. **就職前に企業の情報を知る機会を増やす**
2. **仕事の悩みを相談できる窓口を設置する**
3. **企業内の社員交流を促進する**
4. **企業間の社員交流を促進する**
5. **その他（　　）**

問５　現在、市内の有効求人倍率は１倍を超えており、一部の業種によっては２倍以上（求職者１人に対して仕事が２つある状態）となっています。
　あなたは、現在市内の雇用・就労に関してどのような問題があると思いますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1. **企業の人手不足**
2. **就職が難しい**
3. **市内に自分の働きたい仕事がない**
4. **賃金が安い**
5. **労働環境が悪い企業が多い**
6. **その他（　　）**

テーマ２：「農業の担い手支援事業」について

【事業概要】

◆市の基幹産業である農業の維持と発展のためには、新規就農者をはじめ農業の担い手の確保と育成が重要です。

◆市では、市内２ヵ所の「新規就農者研修施設」において、就農希望者を対象に栽培技術や就農に必要な知識に関する研修、経営指導などを行い、担い手の確保と育成を推進しています。

【新規就農者研修施設概要】

施設	対象	期間	その他
東部新規就農者研修施設（太田地域横沢）	市内在住の50歳以下の方で、研修後に市内で農業を営む方	1年間（最大2年）	研修奨励金の支給制度があります。（毎月）
西部新規就農者研修施設（西仙北地域強首）			

問１　あなたの地域の農業は、10 年後どのようになっていると思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1. **現状より発展している**
2. **現状を維持している**
3. **現状を維持できていない**
4. **わからない**

問２　もしあなたがこれから農業を始めるとした場合、特に課題と思われることは何だと思いますか。該当する番号に最大３つまで○印をつけてください。

1．**栽培技術の習得**　2．**経営知識の習得**　3．**農地の確保**
4．**初期費用の確保**　5．**運転資金の確保**　6．**冬期間の仕事の確保**
7．**受入地域の農業者の理解**　8．**分からない**

問３　今後さらに新規就農者を確保するために、新規就農者研修施設で取り組むべきことは何だと思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1．**短期農業体験の実施**　2．**各種イベントへの参加によるPR**
3．**地域との交流**　4．**就農後のフォローアップ体制の充実**
5．**その他（　　）**

テーマ３：「大仙市花火産業構想」について

【事業概要】
◆市では、全国花火競技大会「大曲の花火」のブランド力を活かした観光、商業、農業など様々な分野にまたがる産業振興方策を示した「大仙市花火産業構想」を平成 26 年３月に策定し、地域経済の活性化に取り組んでいます。

問１　市の「花火産業構想」を知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1．**知っていた**　2．**聞いたことはあるがよく知らない**　3．**知らなかった**

問２　市を「花火のまち」として発信し、花火で地域活性化を図っていくことについて、効果があると思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1．**効果があると思う→問3へ**　2．**あまり変わらない→問4へ**　3．**わからない→質問終了**

問３　問２で「１」に○印をつけた方にお聞きします。花火で地域活性化を図るとした場合、必要だと思う取組はどれですか。該当する番号に最大３つまで○印をつけてください。

1．**花火に関する資料を生涯学習に活用し、郷土愛を醸成する**
2．**花火資料の展示施設を、観光コースの一部として活用する**
3．**街の景観に花火をイメージさせるデザインを取り入れる**
4．**花火の仕事に興味を持てるような教育を充実させる**
5．**大学などと連携し、新しい花火製造の技術を研究する**
6．**花火会社の生産量と雇用を増やし、産業として育成する**
7．**観光、飲食、特産品販売など、花火の周辺産業を育成する**
8．**全国花火競技大会「大曲の花火」をさらに充実させる**
9．**全国花火競技大会「大曲の花火」以外で各地域の花火イベントを充実させる**
10．**その他（　　）**

問４　問２で「２」に○印をつけた方にお聞きします。あまり変わらないと思う理由は何ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1. **花火以外に活用すべき地域資源がある**
2. **花火イベントは短期間のため経済効果が小さい**
3. **花火以外の産業への波及効果が小さい**
4. **花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない**
5. **その他（　　）**

テーマ４：「むすび・サポート事業」について

【事業概要】

◆市では、少子化対策の一環として、「大仙結婚を支援する会」による定期的な結婚応援相談会や、「『ドンと恋』街コンプロジェクト」による大規模なまちなか婚活イベントなどを通じて、市民や市民団体との協働により、婚姻数の増加を図っています。

※以下の設問の回答について、すでに結婚されている方は結婚される前の生活を思い出してお答えください。

問１　普段の生活の中で、将来の結婚相手となるような方と出会う機会はありますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1. **まったくない**
2. **あまりない**
3. **どちらとも言えない**
4. **少しある**
5. **頻繁にある**
6. **わからない**

※「１」または「２」と回答した方は問２、問３へ
※「３～６」のいずれかを回答した方は問３へ

問２　問１で「１」または「２」に○印をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1. **職場など、周囲に独身の異性が少ない**
2. **仕事が忙しく、異性と出会いを求めるための時間がない**
3. **独身の男女が交流できる場所がない**
4. **家族や同性の友人との付き合いを優先している**
5. **異性との出会いを求めるために行動することが面倒である**
6. **その他（　　）**

問３　市が行う結婚支援について、具体的にどのような支援が良いと思いますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1. **出会いの場づくり等、独身者同士の交流支援→問4へ**
2. **交際、結婚などのノウハウを学ぶことができる講座の開催→問5へ**
3. **専門相談員による出会いの仲介サポート**
4. **祝い金や記念品などの結婚祝いの贈呈**
5. **企業が行う独身社員への結婚支援活動の取組推奨**

※選択肢は次のページにもあります。

6. 結婚は個人の意志によるものであるため、支援は必要ない
7. その他（　　）

問４　問３で「１」に○印をつけた方にお聞きします。具体的にどのような出会いの場なら参加したいと思いますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1. 飲食を中心とした交流イベント
2. テニス、サイクリングなどスポーツを通じた交流イベント
3. コンサートやアートなど文化・芸術を通じた交流イベント
4. 陶芸体験などものづくりを通じた交流イベント
5. 料理を通じた交流イベント
6. 農業体験を通じた交流イベント
7. その他（　　）

問５　問３で「２」に○印をつけた方にお聞きします。具体的にどのような講座に参加したいと思いますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1. 異性とうまく会話するための話し方・コミュニケーション講座
2. 異性に良い印象を与えるための服装やメイク等のセンスアップ講座
3. 将来設計を考えるための貯蓄等のお金に関する講座
4. 仕事と子育ての両立に関する講座
5. 結婚、出産、育児などのライフプラン講座
6. 相手への配慮や生き方など、内面を磨く意識改革講座
7. 結婚相手を見つけるための「はじめの一歩」に関する講座
8. 親と子どもを対象とした結婚講座
9. その他（　　）

テーマ５：「地域子育て支援拠点施設」について

【事業概要】

◆市では、市内３ヵ所（大曲、中仙、西仙北）に地域子育て支援拠点施設を開所し、主に家庭で子育てをしている親子の交流や育児の不安・悩みの相談が気軽にできる場の提供、子育てに関する講習を実施しています。また、現施設には子育てアドバイザーが常駐しています。

【地域子育て支援拠点施設】

施設名	まるこのひろば	うさちゃんひろば	つなっこひろば
開設年度	平成21年8月	平成24年6月	平成25年6月
開設場所	大花都市再生住宅（大曲）	中仙市民会館ドンパル	西仙北中央公民館
開設時間	9時～17時	10時～16時	10時～16時
開設日	週6日（水曜日を除く）	週4日（水～土曜日）	週4日（水～土曜日）

問１　あなた（またはあなたのご家族）は地域子育て支援拠点施設を開所していることを知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1．知っていた（利用したことがある）　2．知っていた（利用したことがない）
3．知らなかった

問２　地域子育て支援拠点施設は市内３ヵ所（大曲、中仙、西仙北）に開所していますが、同様の施設はさらに必要ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。また、「３」を選ばれた方は、希望する地域に○印をつけてください。

1．全地域（旧市町村）に設置するべき　2．3ヵ所で十分
3．次の地域に設置するべき（　神岡・協和・南外・仙北・太田　）（地域選択は複数選択可）
4．その他（　　）

問３　地域子育て支援拠点施設でサービスを拡充する場合、必要だと思うものはどれですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1．子育て情報のワンストップサービス窓口の設置
（生まれたばかりの子どもの育児や健康相談、保育園へ入園、発達の相談など、従来複数の窓口で行っていた相談を一ヵ所で行うコンシェルジュ（総合案内人）を配置）
2．出前子育てひろばの開設
（地区の集会所などへ子育てアドバイザーが出向き、1日限定の子育て広場を開設）
3．施設を利用した有料一時託児
4．その他（　　）

問４　地域子育て支援拠点施設でどのような情報が欲しいですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1．市内外の子育てイベントの情報　2．保育園や児童クラブなど子育て施設の情報
3．保育園や児童クラブの空き情報　4．子連れで利用できるお店・遊園地などの情報
5．市内外の子育てサークルの情報　6．子どもの健康に関する情報
7．子どもの発達に関する情報　8．子どもの貧困に関する情報
9．その他（　　）

問５　地域子育て支援拠点施設やその他、子育てに関する情報について、どのような手段を用いると情報を得やすいですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1．電話（コールセンターも含む）　2．窓口での対人応対　3．市広報
4．市ホームページ　5．公共施設の掲示やパンフレット
6．町内会などの回覧板　7．スマートフォンアプリ　8．SNS
9．FMはなび（ラジオ）　10．その他（　　）

問６　市では、子育て世帯への経済的支援として、福祉医療費助成事業（マル福）を行っています。市が行っている福祉医療費助成事業（マル福）では、秋田県の基準を拡大し、中学校修了までの子どもの医療費自己負担分全額を助成しています。
　あなたはこの福祉医療費助成事業に満足していますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1．満足　　2．やや満足　　3．どちらとも言えない
4．やや不満　　5．不満　　6．この事業を知らない

テーマ６：「高齢者生活支援サービス事業」について

【事業概要】
◆65 歳以上の高齢者数や単身世帯数が増加傾向にある中、日常生活での福祉サービスに対する要望は多様化しています。
◆市では、高齢者やその家族が自立した生活の継続と生活の質の確保ができるよう、多様な福祉サービスを提供し、総合的な保健福祉を推進しています。

問１　市で実施している次の生活支援サービス、家族介護支援サービスの中で、内容を知っているものには「１」、利用しているものには「２」、利用したことがあるものには「３」、知らないものには「４」に○印をつけてください。

市で実施している事業	知っている	利用している	利用したことがある	知らない
1．　軽度生活援助利用券交付 高齢者等が日常生活に必要な支援を受けられる利用券を交付しています。	1	2	3	4
2．　ふれあい安心電話 高齢者等へ緊急時対応のための緊急通報装置を貸与しています。	1	2	3	4
3．　家族介護用品支給券交付 要介護4以上の高齢者等を在宅で介護する市民税非課税世帯等に介護用品を購入できる券を発行しています。	1	2	3	4
4．　家族介護慰労金支給 要介護4以上の高齢者等を在宅で介護する市民税非課税世帯に慰労金を支給しています。	1	2	3	4

市で実施している事業	知っている	利用している	利用したことがある	知らない
5. はり・きゅう・マッサージ施術券交付 70歳以上の高齢者へ施術1回につき800円の助成券交付しています。	1	2	3	4
6. 温泉ふれあい入浴サービス券交付 70歳以上の高齢者等へ入浴料の半額又は無料券を交付しています。	1	2	3	4
7. 配食サービス 65歳以上の調理困難な高齢者等へ配食と共に安否確認しています。	1	2	3	4

問２　問１で「４」というお答えがあった方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1. **市広報やホームページを見ないので知らない**
2. **情報を入手する方法がわからない**
3. **困っている状況にないから**
4. **64 歳以下の世帯だから**
5. **関心がない**
6. **その他（　　）**

問３　今後は制度やサービスについて、どのような手段を用いると情報を得やすいですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1. **電話（コールセンターも含む）**
2. **窓口での対人応対**
3. **市広報**
4. **市ホームページ**
5. **公共施設の掲示やパンフレット**
6. **町内会などの回覧板**
7. **スマートフォンアプリ**
8. **SNS**
9. **FMはなび（ラジオ）**
10. **その他（　　）**

問４　今後、より充実してほしい高齢者施策はどのようなものですか。該当する番号３つに○印をつけてください。

1. **趣味や生きがいづくり**
2. **働く機会や場づくり**
3. **健康づくりや介護予防支援**
4. **配食や家事支援などの日常生活を助ける支援**
5. **家族介護者への支援**
6. **認知症施策**
7. **１人暮らし高齢者への安否確認**
8. **冬季の除排雪などの支援**
9. **身近に相談できる窓口の充実**
10. **高齢者の権利を守る施策の周知**
11. **虐待防止施策の充実**
12. **低所得者への経済的支援**
13. **高齢者に配慮した住まいづくりへの支援**
14. **外出や買い物などの支援**
15. **自宅での生活を継続できる在宅医療や介護サービスの充実**
16. **特にない**
17. **その他（　　）**

テーマ７ :「地域交通対策事業」について

【事業概要】
◆市では、路線バスの維持をはじめ、これに連結する各地域の実情に沿った交通システム（コミュニティバスや乗合タクシーなど）を市が運行することで、生活環境に対応した住民の移動手段の確保、及び市民生活の利便性の更なる向上を図っています。

問１　市が実施している地域交通対策事業について、知っているものの番号に○印をつけてください。

事　業	内　容	地　域
1.　循環バス	市が実施するバスで、中心市街地内を、定時・定路線で運行しています。中心市街地活性化を支える役割があります。	大曲
2.　コミュニティバス	市が実施するバスで、定時・定路線で運行しています。大仙市内の各地域拠点を結ぶ役割があります。	大曲、神岡、西仙北、南外、仙北、太田
3.　乗合タクシー	タクシー車両を用い、予約制で、路線バスのように定時・定路線（一部区域型）で運行を行っています。事前登録が必要です。	全域
4.　市民バス	市が庁用車を使って定時・定路線（一部予約制）の運行を行っています。	西仙北、南外
5.　バス路線の維持	バス会社へ補助金を交付し、市管内の路線バス運行を維持しています。	全域
6.　免許返納者優遇制度	運転免許を返納をした方に、市の公共交通システムの利用料金及び路線バスの運賃が割引となる回数券を交付しています。	全域

問２　市が力を入れるべきだと思う地域交通対策事業について、該当する番号１つに○印をつけてください。

1. **中心市街地（大曲駅周辺）と各地域（旧市町村）を結ぶバスなどの整備**
2. **地域内の中心地と集落を結ぶ乗合タクシーなどの整備**
3. **運行時刻や待合所の環境の見直しによる乗り継ぎがしやすい交通網の整備**
4. **高齢者や運転免許返納者など交通弱者への支援**
5. **その他（　　）**

問３　市では、公共交通の魅力の向上に向けた利用促進施策を実施したいと考えています。より多くの方に公共交通を利用してもらうために、実施するべきだと思う施策はどれですか。該当する番号に最大２つまで○印をつけてください。

1. **利用料金割引デーを実施する**
2. **商店街で使えるクーポン付き乗車券を発行する**

※選択肢は次のページにもあります。

3. 車体に児童生徒が絵を描いたバスを運行する
4. バス車内の掲示や広告を充実させる
5. 観光地への交通網を整備する
6. 市内のイベントに合わせて公共交通を臨時運行する
7. その他（　　）

テーマ８：「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」について

【事業概要】

◆市では、高齢者世帯等の雪下ろしや間口除雪、地域の生活道路の除雪をはじめ、地域が抱える雪に関連する課題に取り組む自治会等に対して、助成金を交付し活動を支援しています。

○事業対象団体

①自治会　②自主防災組織

③次の要件を満たす任意団体

・実施区域の世帯が概ね５戸以上。

・実施区域が属するすべての自治会の同意を得ていること。

・実施区域に住所を有する方が構成員の半数以上を占めていること。

○助成金の額の算出

事業名	対象	交付金額（年間）
①高齢者等世帯住宅間口通路除雪事業	間口通路除雪を行う高齢者等世帯	１戸当たり8,000円
②高齢者等世帯住宅屋根の雪下ろし事業	雪下ろしを行う高齢者等世帯	１戸当たり21,000円
③道路除雪事業	これまで市が除雪していた道路	延長1メートル当たり640円
④一斉除排雪事業	②か③の事業を実施する場合に限ります	１団体当たり50,000円
⑤スタートアップ事業	初年度：準備経費(スコップ等の購入)と保険料として（次年度以降は保険料のみ）	初年度：一括50,000円 次年度以降：上限10,000円

問１　市が「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」を実施していることを知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1. 知っていた→問2、問3へ
2. 聞いたことはあるがよく知らない→問2、問3へ
3. 知らなかった→問3へ

問２　問１で「１」または「２」に○印をつけた方にお聞きします。この事業をどのようにして知りましたか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1. 市広報　　2. 市ホームページ　　3. 知人・友人
4. 自治会長　　5. 民生児童委員　　6. その他（　　）

問３　今後、この事業に加えて、新たに支援が必要だと思われるものは何ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1.　除雪機械の購入支援や長期貸出　　**2.　除雪機械の燃料費の支援**
3.　雪捨て場の用意　　**4.　その他（　　）**

テーマ９：「住宅リフォーム支援事業」について

【事業概要】
◆市では、住宅リフォーム（排水設備接続、省エネ対策、バリアフリー化）、克雪対策工事、耐震化工事、及び子育て世帯（３子以上）改修工事を行う者に対し、補助金を交付し、居住環境の向上を推進しています。

【市の住宅耐震化支援】

事業	内容	補助金額
大仙市リフォーム支援事業	（耐震化工事の場合） **平成12年5月31日以前**に建てられた木造住宅を地震に強い住宅に改修する工事を行う者に補助金を交付	○対象工事費の15%で上限が30万円
大仙市木造住宅耐震改修等補助金	**昭和56年5月31日以前**に建てられた木造住宅の耐震診断を行うか、耐震診断及び耐震改修を行う者に補助金を交付 ※大仙市リフォーム支援事業との併用可能	○耐震診断：耐震診断費の3分の2で上限が3万円 ○耐震改修：耐震改修工事費の23%で上限が50万円

問１　国では、昭和 56 年６月１日以降に建築された建物は耐震性があるとしています。しかし、平成 12 年６月に耐震基準に新たに３つの項目が追加されたことにより、昭和 56 年６月１日から平成 12 年５月 31 日までの間に建築された建物でも耐震基準を満たさない場合があります。
　あなたのお住まいの住宅はいつ建設された建物ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1.　昭和 56 年5月 31 日以前　　**2.　昭和 56 年6月1日から平成 12 年5月 31 日までの間**
3.　平成 12 年6月1日以降→質問終了　　**4.　住宅を建築していない→質問終了**

問２　問１で「１」または「２」に○印をつけた方にお聞きします。あなたのお住まいの住宅は耐震診断または耐震改修を実施しましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1.　実施した→質問終了　　**2.　実施していない**

問３　問２で「２」に○印をつけた方にお聞きします。市が実施している「住宅耐震化支援」について以前から知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1.　知らなかった→問4へ　　**2.　知っていた→問5へ**

問４　問３で「１」に○印をつけた方にお聞きします。今回のアンケートで市の住宅耐震化支援を知ったことで、今後、お住まいの住宅の耐震化をどのようにお考えですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

１．耐震化を実施する（耐震診断を含む）→質問終了　　２．耐震化を実施しない
３．わからない→質問終了

問５　問３で「２」、問４で「２」に○印をつけた方にお聞きします。あなたのお住まいの住宅を耐震化しない理由は何ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

１．耐震化工事よりも別の工事をする必要がある、または、他に支出する必要があるため
２．工事はしたいが、リフォーム補助金、または、大仙市木造住宅耐震改修等補助金では足りないため
３．住んでいる住宅が地震に耐えられる建物だと思うから
４．住んでいる住宅に不安はあるが、工事するほどではないと思うため
５．各地で地震が起こっているが、身近で起こることと考えていないため
６．新築を考えている、または、予定している
７．その他（　　）

テーマ１０：「コミュニティＦＭ関連事業」について

【事業概要】
◆平成 27 年８月８日に開局した大仙市コミュニティＦＭ局ＦＭはなび（運営会社：ＴＭＯ大曲）は、行政情報や防災情報、イベントの中継など、市民の生活に密着した情報を提供しています。
◆市では、放送エリアの拡大のための中継局整備や、ＦＭはなびが地域に密着した放送局としての役割を果たすことができるよう、情報提供や運営支援を行っています。

問１　ＦＭはなびを知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

１．知っていた　２．知らなかった→質問終了

問２　問１で「１」に○印をつけた方にお聞きします。ＦＭはなびをどの程度聴いていますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

１．ほぼ毎日聴いている　２．時々聴いている　３．聴いていない→問7へ

※以下問３～問６の質問については、問２で「１」または「２」に○印をつけた方のみお答えください。

問３　ＦＭはなびをどの機器で聴いていますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

１．カーラジオ　２．小型ラジオ・ラジカセ　３．スマートフォン
４．パソコン　５．その他（　　）

問４　ＦＭはなびをどのような時に聴いていますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1．車の運転中　　2．朝、身支度や朝食を摂っている時　　3．仕事、農作業中
4．家事をしている時　　5．就寝前　　6．自然災害の緊急時
7．その他（　　）

問５　平日（月～金）のＦＭはなびをよく聴く時間帯はいつですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1．7時～9時　　2．9時～11 時　　3．11 時～13 時　　4．13 時～15 時
5．15 時～17 時　　6．17 時～19 時　　7．19 時～21 時　　8．21 時～23 時
9．その他（　　）　　10．平日は聴かない

問６　休日（土日）のＦＭはなびをよく聴く時間帯はいつですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1．7時～9時　　2．9時～11 時　　3．11 時～13 時　　4．13 時～15 時
5．15 時～17 時　　6．17 時～19 時　　7．19 時～21 時　　8．21 時～23 時
9．その他（　　）　　10．休日は聴かない

問７　問２で「３」に○印をつけた方にお聞きします。聴かない理由は何ですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1．興味のある番組がないから　　2．どんな番組をやっているかわからないから
3．ラジオに興味がないから　　4．ラジオを聴くことのできる機器がないから
5．その他（　　）

笑顔花咲く、花咲きレディオ
FMはなび 87.3 MHz

モーニングだいせん！ 生放送
月～金 7:00 – 8:30

ＦＭはなびハッピーアワー♪ 生放送
月～金 17:00 – 18:30

花咲きレディオ 生放送
月～金 11:30 – 13:00

土曜ワイド♪
わが町わが村わがラジオ
土曜日 11:00 – 15:00

お茶っこたいむ
月～金 10:00 – 10:30

DAISEN DE NIGHT
～市民のひろば
月～金 21:00 – 21:30

行政情報番組　毎日がだいせん日和
月～金 8:30 – 9:00　土日 10:00 – 10:30

番組表や、このほかの番組については、ＦＭはなびホームページをご覧ください。
http://www.fmhanabi.com/

87.3 MHz はなさく FMはなび

ＦＭはなびアプリあります！

ＦＭはなびはスマートフォンやパソコンでも聴くことができます。
ＦＭはなびホームページ
(http://www.fmhanabi.com/method)
からアプリダウンロードサイトへアクセスできます。

http://www.fmhanabi.com/method

テーマ１１：「学校生活支援事業」について

【事業概要】

◆市では、児童生徒数は減少傾向にありますが、学校生活を送る上で、支援を必要とする児童生徒数は年々増えています。こうした中、市では支援員を配置することで、個々の実情に応じたきめ細やかな支援を行い、教育環境の充実を図っています。

◆現在、市内の小学校 20 校・中学校２校に学校生活支援員 55 名、日本語指導支援員２名、看護師１名を配置しています。また、教育アドバイザー１名が各学校を訪問し、支援方法の工夫や改善を指導しています。

問１　学校生活を送る上で、様々な支援や配慮が必要な児童生徒に対して、「学校生活支援員等」を配置していることを知っていましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1.　知っていた　　2.　知らなかった

問２　学校生活において、学校生活支援員等を配置して様々な支援や配慮を行うことは必要だと思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1.　必要である→問3へ　　2.　必要ではない→問4へ
3.　わからない→質問終了

問３　問２で「１」に○印をつけた方にお聞きします。現在、30 人程度の学級（クラス）で１人から２人ほど、支援が必要な児童生徒がいると言われていますが、どのように学校生活支援員等を配置することが望ましいと思いますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1.　支援を要する児童生徒1人に、1名程度配置
2.　支援を要する児童生徒のいる学級(クラス)に、1名程度配置
3.　支援を要する児童生徒の有無にかかわらず、すべての学級(クラス)に、1名程度配置
4.　支援を要する児童生徒の有無にかかわらず、児童生徒の多い学級(クラス)に、1名程度配置
5.　その他(　　)

問４　問２で「２」に○印をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1.　学校生活支援員等を配置することが児童生徒の自立を妨げるから
2.　学校生活支援員等の配置には費用がかかるから
3.　学校生活支援員等の配置をすることがいじめにつながるから
4.　子ども同士が助け合うことで支援を必要とする人に対する理解が促進されるから
5.　その他(　　)

テーマ１２：「移住・定住への支援事業」について

【事業概要】
◆市では、魅力あるまちづくりと移住・定住の促進を図るため、移住・定住に関する具体的な実施計画の策定と、移住・定住の促進に向けた体制の整備に取り組んでいます。

問１　市の暮らしやすい点として、該当する番号３つまで○印をつけてください。

1. 自然環境に恵まれている
2. 災害に強い
3. 交通の便が良い
4. 水道や道路等のインフラ整備が整っている
5. 公園や生涯学習施設など公共施設が整っている
6. 買い物など日常生活が便利である
7. レジャー･レクリエーション施設が充実している
8. 就業機会が十分である
9. 子育て環境が整っている
10. 保健･医療環境が整っている
11. 教育環境が整っている
12. 高齢者が暮らしやすい環境である
13. 近所、自治会等、地域とつながりがある
14. 治安が良く、安全･安心に生活できる
15. 特にない
16. その他（　　）

問２　市の暮らしにくい点として、該当する番号３つまで○印をつけてください。

1. 魅力ある自然環境が少ない
2. 災害に弱い
3. 交通の便が悪い
4. 水道や道路等のインフラ整備が不十分である
5. 公園や生涯学習施設など公共施設が少ない
6. 買い物など日常生活が不便である
7. レジャー･レクリエーション施設が少ない
8. 就業機会が少ない
9. 子育て環境が整っていない
10. 保健･医療環境が整っていない
11. 教育環境が整っていない
12. 高齢者が暮らしにくい環境である
13. 近所、自治会等、地域とつながりが薄い
14. 治安が悪く、生活していて不安に感じる
15. 特にない
16. その他（　　）

問３　地域における人口減少や若者の流出、空き家の増加、担い手不足などの現状や課題を踏まえ、移住者の呼び込みや定住を促すための支援について、重要度が高いと思う取組は何ですか。該当する番号に最大３つまで○印をつけてください。

1. 就職支援
2. 新規就農支援
3. 起業支援
4. 住宅の取得にかかる支援
5. 空き家を活用した住宅確保支援
6. 結婚支援
7. 安心して出産できるための支援
8. 子どもの保育･医療等の支援
9. 特色ある教育の実践
10. 地域情報の提供
11. 近所の地域住民との交流機会の確保
12. 地域の担い手の発掘･育成
13. 特にない
14. その他（　　）

問４　定住を促進するためには、多世代が集い交流できる機会の確保や、地域の中で多世代が集い交流し、支え合い助け合いを進めることにより、地域の中でつながりを強めることが必要です。

あなたは、ここ１年間仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」に参加しましたか。該当する番号１つに○印をつけてください。

《具体例》地域の公園の花壇の手入れ、河川のごみ拾い、子育て支援、まちづくりフェスティバル、祭り行事等保存への協力、団体の構成員としての活動など

１．参加したことがある→問5へ　　**２．参加したことがない→問6へ**

問５　問４で「１」に○をつけた方にお聞きします。「社会活動・地域活動」に取り組んだ頻度はどの程度ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

１．週5日以上　　**２．週1日程度**　　**３．月1日程度**
４．年1日程度　　**５．特定の期間（夏の間2週間など）**
６．その他（　　）

問６　問４で「２」に○をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号１つに○印をつけてください。

１．時間がない　　**２．取り組むきっかけがない**
３．情報がない　　**４．活動のしかたがわからない**
５．そもそも活動したいと思わない
６．その他（　　）

問７　移住者を増加させるために、ＰＲした方が良いことや、取り組んでほしいことがありましたら記入欄に自由にお書きください。

【記入欄】

■　あなた自身のことについてお伺いします。

問１　あなたの性別について、該当する番号１つに○印をつけてください。

1．男性　　2．女性

問２　あなたの年齢について、該当する番号１つに○印をつけてください。

1．10 代　　2．20 代　　3．30 代　　4．40 代
5．50 代　　6．60 代　　7．70 代　　8．80 代以上

問３　あなたの居住地域について、該当する番号１つに○印をつけてください。

1．大曲地域　　2．神岡地域　　3．西仙北地域　　4．中仙地域
5．協和地域　　6．南外地域　　7．仙北地域　　8．太田地域

問４　あなたの職業について、該当する番号１つに○印をつけてください。

1．学生　　2．正規社員･職員　　3．派遣･契約社員
4．自営業主･家族従業者　　5．パート･アルバイト　　6．専業主婦･主夫
7．無職　　8．その他（　　）

問５　あなたは現在、結婚されていますか。該当する番号１つに○印をつけてください。

1．独身　　2．既婚

■　自由意見

今回のアンケートの内容に関わらず、市政や今回のアンケート対するご意見・ご提案などがありましたら記入欄にお書きください。

【記入欄】

以上で、アンケートは終了です。ご協力、ありがとうございました。
アンケート用紙は、同封した返信用封筒に入れて、平成 29 年１月６日（金）まで投函してください。